

情報セキュリティ事故事例

参考：Security NEXT

2020 年 10 月

2020/10/26

受託研修事業の受講者メールアドレスが流出 - 中部大

中部大学は、受託する研修事業において受講者へメールを送信する際にミスがあり、受講者のメールアドレスが流出したことを明らかにした。

同大によれば、同大が「あいち・なごやエアロスペースコンソーシアム」より受託している航空機産業製造人材育成研修の受講者に対して、10 月 19 日 21 時半ごろ、第 2 回の研修についてメールで案内した際、送信ミスが発生したもの。

送信先のメールアドレスを誤って宛先に入力したため、受講者 233 人のメールアドレスが受信者間で閲覧できる状態となった。

送信後ミスに気が付き、送信から 7 分後に対象となる受講者に対して謝罪するメールを送信。誤送信したメールアドレスの削除を依頼した。また、今回の事態を受けて文部科学省へ報告を行っている。

2020/10/23

就職相談予約した学生情報が閲覧可能に - 九州大学

九州大学は、学生の個人情報含むファイルを誤ってウェブサイトに掲載し、外部から閲覧できる状態だったことを明らかにした。

同大によれば、10 月 9 日 9 時半ごろ、学生 44 人の氏名や学年、携帯電話番号、メールアドレスなどが記載されたファイルをウェブサイト上に誤って掲載したもの。

同大では就職相談員の氏名と空き状況が掲載されたファイルをサイト上に掲載し、就職相談の予約を受け付けているが、誤って予約済みだった学生情報を含むファイルを記載したという。

同月 10 日に就職相談の予約をしようとした学生から、個人情報に掲載されているとの指摘がメールであった。12 日 9 時ごろに同メールを確認し、個人情報に掲載されたファイルを削除した。

同大では、予約受付ファイルの掲載方法について見直しを実施。対象となる学生に対してメールを送信し、経緯を説明して謝罪。さらに電話による説明や謝罪も行っている。

2020/10/13

青学通販サイトに不正アクセス、クレカ情報会員情報流出 - 青山学院購買会

青山学院のオリジナルグッズなどを取り扱う「青山学院購買会通販サイト」が不正アクセスを受け、クレジットカード情報など顧客情報が外部に流出したことがわかった。

同サイトを運営するアイビー・シー・エスによれば、同サイトに対する不正アクセスにより、偽の決済フォームに入力されたクレジットカード情報が流出したほか、同サイトが保持する顧客の個人情報なども被害にあった可能性があるという。

具体的には、同サイトの決済アプリが改ざんされ、2019 年 6 月 25 日から 2020 年 5 月 12 日にかけて、同サイトの決済で利用されたクレジットカード情報が窃取され、クレジットカードの不正利用による被害も確認されているという。

顧客最大 519 人に関するクレジットカードの名義、番号、有効期限、セキュリティコードなどが被害に遭った可能性があり、決済に至っていない場合も、偽の決済フォームに情報を入力した場合、窃取されたおそれがある。

同社では、8 月 31 日に警察へ被害を申告し、個人情報保護委員会に報告。対象となる顧客に対しては、10 月 7 日より、メールを通じて事情の報告と謝罪を行っている。

2020 年 9 月

2020/09/11

「Emotet」感染で大量のなりすましメールが送信 - 理研香料

香料や消臭剤の製造、販売を手がける理研香料ホールディングスと理研香料工業は、マルウェア「Emotet」に感染し、同社を装ったなりすましメールが大量に送信されたことを明らかにした。

同社によれば、「Emotet」と見られるマルウェアに感染し、メールアドレスを不正に利用され、大量の「なりすましメール」が送信されたもの。送信された「なりすましメール」では、正規のメールに対する返信を偽装しており、過去にメールでやり取りした相手の氏名やメールアドレス、記載内容などが悪用されているという。

同社は「なりすましメール」について注意を喚起。添付ファイルを開封したり本文中のリンクをクリックせず、メールを削除するよう求めている。

2020/09/10

保護者の個人情報を利用、教員を懲戒処分 - 宮城県

宮城県教育委員会は、保護者の個人情報を私的に利用し、保護者に精神的苦痛を与えたとして、特別支援学校の教員を減給処分とした。

同県教委によれば、同教員は 2019 年 12 月 20 日ごろに児童の住所とその保護者の氏名、電話番号を私的な目的で校内サーバから入手。2020 年 1 月から 2 月にかけてこの保護者にショートメールを送り、繰り返しイベントに誘ったうえ、断った保護者に対して電話で再度誘うといった行為を行っていたという。

保護者が別の教職員に相談したことで問題が発覚。同委員会では今回の問題を受け、同教員に対し、9 月 8 日付けで減給 3 カ月とする懲戒処分を行った。

2020/09/08

案内メール誤送信でスクール参加者のメールアドレス流出 - 自然科学研究機構

自然科学研究機構は、イベントの開催を案内するメールを送信したところミスがあり、参加者のメールアドレスが流出したことを明らかにした。

同機構によれば、8月21日16時半ごろ、「第14回分子シミュレーションスクール」の参加登録者へ送信した案内メールにおいて送信ミスが発生したもの。送信先を誤って「CC」に設定したため、メールアドレス245件が受信者間で表示される状態となった。

同月24日、同機構の関係者からの指摘により誤送信が判明。同機構では対象者に謝罪するとともに、誤送信したメールの削除を依頼した。

2020/09/07

公開資料の非表示部分に個人情報、検索可能となり判明 - 同志社大

同志社大学は、教員応募者の個人情報を含むファイルを、誤って同大公式サイト上に掲載していたことを明らかにした。

同大によれば、文化情報学部で2020年度の教員を公募した際、応募用書類のなかに、過去に実施した教員公募の応募者35人の個人情報が含まれていたもの。

応募書類は表計算ファイルで同大の公式サイト上に掲載していたが、非表示となっているシートに個人情報が保存されており、再表示することで閲覧できる状態だった。氏名や住所、電話番号、性別、年齢、メールアドレス、本籍、最終学歴、学位、専攻分野などが含まれる。検索エンジンの検索結果に、応募者の個人情報が表示されるとの指摘が8月19日に寄せられ、問題が判明。5月20日から8月18日にかけて同ファイルに対し、342件のアクセスがあったという。またファイルへ直接アクセスしなくても、検索エンジンのインデックスから閲覧可能だった。

同大では検索エンジンに登録されていたことから、8月20日に検索エンジンの運営会社に対して削除を申請。その後、サイトに掲載していた応募書類が原因と判明し、8月23日にファイルを削除した。

今回の問題を受け、同大は応募書類にアクセスした342件のうち、連絡先を把握している教員公募の応募者155人に対し、保持している応募書類ファイルの削除を依頼。個人情報が流出した35人に経緯を説明、謝罪している。

情報セキュリティ事故事例

参考：Security NEXT

2020 年 8 月

2020/08/25

学生情報含む USB メモリを紛失、ファイルにはパスワード - 名古屋大

名古屋大学医学部の教員が、学生の個人情報が入った USB メモリを学外に持ち出し、紛失したことがわかった。

同大によれば、同教員が 8 月 7 日に USB メモリ 2 本をペンケースに入れて学外へ持ち出し、紛失したものの。

1 本の USB メモリには、学生 52 人の氏名、実習評価点数、実習評価が入っていた。またもう一方には学生 9 人の氏名と生年月日などが含まれる。いずれのファイルもパスワードが設定されているという。

同月 12 日に同教員がペンケースがないことに気づき、自宅や職場などを捜索したが見つからず、警察にも届けた。同校では対象となる学生に対し、説明と謝罪を行っている。

2020/08/17

オープンキャンパスの案内メールで送信ミス - 岡山科技専

岡山科学技術専門学校は、オープンキャンパスを案内するメールにおいて送信ミスがあり、送信先である関係者のメールアドレスが流出したことを明らかにした。

同校によれば、同校に資料請求を行ったり、イベントに参加した関係者に対して、オープンキャンパスを案内するメールを 8 月 3 日に送信したところ、送信ミスが発生したものの。

メールアドレス 839 件に対し、100 件ずつメールを送信したが、送信先を誤って宛先に設定したため、同報で送信された受信者間でメールアドレスが閲覧できる状態となった。

同校では、対象となる関係者にメールで謝罪。誤送信したメールの削除を依頼している。

2020/08/17

リモート授業で関係ない個人情報共有 - 諏訪東京理科大

諏訪東京理科大学は、教員がリモートによる授業を行った際、学生の個人情報が画面上に表示されたことを公表した。

同大によれば、8月7日に教員が担当科目の履修学生に対してリモート授業を行った際、授業とは関係ない学生1人の個人情報が共有されたもの。同授業を受講している学生から指摘があり判明した。

提示された情報は、学籍番号など学生1人のプライバシーに関わる基本情報としており、受講する学生約41人に対し、3分間程度提示されたという。

今回の事態を受け、同大では個人情報が提示された学生とその保証人に対し、説明と謝罪を行った。また、受講した学生に対し謝罪し、個人情報を不正利用することがないよう要請。

同大の教員に対して、授業で使用する資料の内容が適切であるか確認するとともに、リモート授業の画面共有時はパソコン上で開いているファイルが容易に共有されてしまうため、関係のない資料など閉じるなど対策を講じるよう求めた。

2020/08/11

メール誤送信でオープンキャンパス申込者のメアド流出 - 茨城キリスト教大

茨城キリスト教大学は、オープンキャンパス申込者へ送信した一部メールにおいて送信ミスがあり、メールアドレスが流出したことを明らかにした。

同大によれば、8月5日にオープンキャンパス「学びのセミナー」申込者へ送信した一部案内メールにおいて、送信先のメールアドレス302件を誤って「CC」に入力するミスがあったもの。受信者間でメールアドレスが閲覧できる状態となった。

同大では同月8日、対象となる申込者に対してメールを通じて謝罪。あわせて、誤って送信したメールの削除を依頼している。

情報セキュリティ事故事例

参考：Security NEXT

2020 年 7 月

2020/07/14

成績含む資料を学生に開示、匿名メールで指摘 - 名古屋市大

名古屋市立大学の教員が、学生の成績を含む資料を一部の学生に開示し、流出していたことがわかった。

同大によれば、7 月 3 日 12 時ごろ、総合生命理学部の教員が、同学部 3 年生の研究室配属に関する事前シミュレーション結果を示す資料について、一部の学生に閲覧と撮影を許可したという。資料には、一部の学生の成績（Grade Point Average）が含まれていた

。

同日 22 時ごろ、学年担任の教員に個人情報の流出を指摘する匿名のメールが届き、問題が判明した。

今回の問題を受けて、同大では翌 6 日に同学部 3 年生全員に対し、メールで個人情報の流出を報告して謝罪。さらに同月 8 日、10 日に説明会を開催して経緯の説明と謝罪を行った。資料の画像を保存していた学生には、データを削除したことを確認したとしている。

2020/07/13

メール送信ミスで入試事前審査の合否情報が流出 - 神戸大

神戸大学は、大学院における推薦入試事前審査の合否結果を申請者へメールで通知した際、誤って無関係の他申請者に関する合否情報が漏洩したことを明らかにした。

同大によれば、2021 年度海事科学研究科博士課程前期課程の推薦入試事前審査において、国外に居住する申請者 5 人に対して、5 月 22 日にメールによる通知を行ったところ、一部でミスが発生したものの。

入試事前審査の結果としてパスワード付き PDF ファイルとパスワードを記載した 2 通のメールを送信したが、申請者 1 人に対して全合格者 37 人分の氏名、審査番号、審査結果を含

むメールを送信。また別の申請者 1 人には、全不合格者 17 人分の氏名や審査番号、審査結果を含むメールを送ってしまったという。

これまで審査結果は郵送で通知していたが、新型コロナウイルス感染症拡大を受けて国際郵便が滞っていたことから、今回は国外に居住する申請者に対して、メールにより通知を行ったという。

同大では誤って送信した 2 人に対し連絡を取り、問題のメールについて削除するよう依頼。また事前審査申請者に対し、事情の説明と謝罪を行っている。

2020/07/10

元研究員が卒業生名簿を議員事務所へ提供 - 愛媛大

愛媛大学の元職員が、在籍中に卒業生の個人情報や議員事務所や後援会事務所に提供していたことがわかった。

同大によれば、理学部の元職員が在職していた 2019 年 6 月や同年 9 月ごろに、同学部で管理していた卒業生名簿のうち 104 人分の氏名と住所を、議員の事務所や後援会事務所へ紙媒体で提供していたという。

問題発覚後、同大では、両事務所に対して個人情報の廃棄を依頼、廃棄が完了している。元職員は有期契約の研究員ですでに退職済み。就業規則上は懲戒処分を行うことはできないが、同大では今回の問題に対する見解を示すため、7 月 7 日付けで元職員を停職 1 カ月相当とした。

情報セキュリティ事故事例

参考：Security NEXT

2020 年 6 月

2020/06/17

メール送信ミスで研究協力者のメアド流出 - 東京大学

東京大学において、メールの送信ミスがあり、研究協力者のメールアドレスが流出したことがわかった。

大学院教育学研究科付属発達保育実践政策学センターによれば、4 月 30 日に実施する新型コロナウイルス感染症に伴う乳幼児の成育環境の変化に関する緊急調査の協力依頼メールや謝罪するメールにおいて操作ミスが発生したもの。送信先である 558 人のメールアドレスと一部氏名が、受信者間で閲覧できる状態となった。

担当者はメールの操作に慣れており、情報教育も受けていたが、不注意などが重なりミスが生じたという。同センターでは、関係者に対してメールで事情を説明して謝罪。マニュアルやチェック体制の見直し、セキュリティ教育の実施などを通じて再発防止に取り組むとしている。

2020/06/15

小学校教員が帰宅途中に眠り込み、USB メモリなど紛失 - 川崎市

神奈川県川崎市は、小学校の教員が帰宅途中に眠り込み、児童の個人情報が入った USB メモリを紛失したことを明らかにした。

同市によれば、小学校の教員が 6 月 5 日に帰宅する途中、リュックサックごと USB メモリを紛失したもの。USB メモリには、担任するクラスの児童 28 人の短歌作品のほか、以前担任をしていた学級の児童 54 人の学習状況に関する所見、一部に児童の氏名が記載されている学級通信の原稿、学校行事に関するしおりなどが保存されていた。

帰宅途中に同僚と飲食店に立ち寄り飲酒。翌 6 日未明にバス停で眠り込み、気づいた時には鞆を紛失していたという。

同校では 12 日に臨時保護者会を開催。また全教職員に対し、情報管理の徹底について校内研修を実施したとしている。

2020/06/15

なりすまし医師に患者の電話番号を漏洩 - 札幌医科大

札幌医科大学は、同大付属病院の医師をかたる部外者に対し、誤って患者の電話番号を漏洩したことを明らかにした。

同大によれば、6月9日、同大付属病院の医師を名乗る者から患者の電話番号を教えてほしいと電話があり、同大の職員が8人分の電子カルテに登録されている電話番号を伝えたという。8人はいずれも同大の元学生だった。

名前を使われた医師に確認したところ、電話をしたのは本人ではないことが判明。患者情報の外部漏洩が確認された。同大では対象となる患者に事情を説明して謝罪するとともに、警察へ相談している。

医師になりすまし、患者情報を聞き出す電話は、他大学病院でも確認されている。福島県立医科大学付属病院においても、なりすましの電話に職員が応対。誤って患者情報を伝えていた。患者はいずれも元学生だったという。

2020/06/12

なりすまし医師から電話、患者の携帯番号伝える - 福島県立医科大病院

福島県立医科大学付属病院は、同院に関係する医師を名乗る人物から電話があり、複数の職員が誤って患者の携帯電話番号を伝えていたことを明らかにした。

6月に入って複数回にわたり、同院の医師を名乗る人物から電話があり、対応した複数の職員があわせて69人分の携帯電話番号を伝えていたことが判明したもの。いずれも同大卒業生だったという。

同院によれば、6月9日12時ごろ、過去に同院へ勤務した医師を名乗る人物から、患者に治療のことで連絡をしなければならないので、携帯電話番号を教えてほしいと電話があり、対応した職員が医師本人からの電話と信じて患者9人分の携帯電話番号を伝えた。

さらに12時45分ごろ、再度同様の電話があり、別の職員が応対。患者2人分の携帯電話番号を伝えるも不審に思い、同日13時ごろ上長に報告したが、その間も別の職員が同様の電話で、7人分の携帯電話番号を伝えていたという。

情報セキュリティ事故事例

参考：Security NEXT

2020 年 5 月

2020/05/29

メール誤送信で進学相談会参加者のメールアドレス流出 - 情報科学芸術大学院大学

情報科学芸術大学院大学において、メールの送信ミスが発生し、オンライン進学相談会の参加者のメールアドレスが流出したことがわかった。

岐阜県によれば、同大の事務局職員が送信したオンライン進学相談会の案内メールにおいて誤送信が発生したもの。

5 月 27 日 19 時過ぎ、オンライン進学相談会第一部の参加者 4 人と第二部の参加者 7 人に対し、それぞれ案内メールを送信。その際送信先を誤って宛先に設定したため、受信者間でメールアドレスが閲覧できる状態となった。

メール送信後、同大教員の指摘により誤送信が判明。対象となる参加者に謝罪し、誤送信したメールの削除を依頼した。

2020/05/15

就学支援金支給停止通知など書類の誤送付が発生 - 新潟県

新潟県は、県立高校や地域振興局健康福祉部で発生した書類の誤送付を公表した。

同県によれば、県立高校では 5 月 8 日に就学支援金支給停止通知を郵送した際、誤って別の生徒へ送付する事故が発生したもの。

宛名シールで住所と氏名が一致しない状態で 9 人分を送付。6 人分は宛先不明で学校へ返送されたが、3 人分が別の生徒に誤って届いた。誤送付先となった生徒からの連絡で判明した。誤送付された通知には、生徒の氏名、学校名、就学支援金支給期間、支給停止期日などが記載されている。同校では、誤送付先と情報流出の対象となった生徒および保護者に対し、説明と謝罪を行った。

2020/05/14

GW の緊急連絡先確認メールで送信ミス - 学習塾

成学社が運営する学習塾においてメールの送信ミスがあり、保護者のメールアドレスが流出したことがわかった。

同社によれば、開成教育セミナー南草津駅前教室において、4 月 30 日 15 時半過ぎに保護者へ送信したメールでミスが発生したもの。ゴールデンウィーク中の緊急連絡先を通知するメールでミスが発生。送信先のメールアドレス 442 件を誤って宛先に設定したため、受信者間でメールアドレスが表示される状態となった。

送信から 10 分後にメールを受信した保護者から指摘があり問題が判明。対象となる保護者に謝罪するとともに、誤送信したメールの削除を依頼した。

2020/05/11

緊急事態宣言対応の留学生宛て連絡メールで送信ミス - 中京大

中京大学は、緊急事態宣言にともない、外国人留学生に対してメールで連絡を取った際に送信ミスがあり、メールアドレスが流出したことを明らかにした。

同大によれば、4 月 30 日 17 時半ごろ、外国人留学生 126 人に対し送信したメールにおいて送信ミスが発生したもの。

送信先を誤って宛先に入力したため、メールアドレスと学籍番号、氏名が受信者間で閲覧できる状態となった。

誤送信後、担当職員がミスに気づき、問題が判明。対象となる留学生に対し謝罪するとともに、誤送信したメールの削除を依頼している。

情報セキュリティ事故事例

参考：Security NEXT

2020 年 4 月

2020/04/23

履修案内メールに誤って 3 年生全員分の成績表 - 宝塚大

宝塚大学は、3 年生へ履修登録の案内メールを送信した際、誤って全員分の成績通知表を添付していたことを明らかにした。

同大によれば、4 月 20 日に東京メディア芸術学部の 3 年生に対し、2020 年度前期ガイダンスの中止や履修登録を案内するメールを送信した際、誤った資料を添付する事故が発生したものの。

3 年生配当科目表の PDF ファイルを添付するところ、誤って 3 年生全員分の成績通知表の PDF ファイルを添付した。

送信後にミスへ気が付き、30 分後に対象となる学生に謝罪のメールを送信。あわせて誤送信したメールの削除を依頼した。

2020/04/23

卒業証明書を封入ミスで誤送付 - 中京大

中京大学は、卒業証明書の封入作業においてミスがあり、別の卒業生へ送付したことを明らかにした。

同大によれば、3 月 10 日に学位授与、卒業証明書を 1 人分ずつ封筒に入れる作業を行っていたところ、別の卒業生の証明書が重なっていることに気付かず封入。封入物と発行願いの枚数を照合せずそのまま作業を続けたため、卒業証明書が別の卒業生の封筒に入ったままとなった。

同月 19 日、卒業生に書留で卒業証明書を発送。翌 20 日、卒業生の保証人より別人の卒業証明書が同封されていたと電話があり、書類の誤送付が判明した。卒業証明書には、卒業生の氏名、生年月日、学籍番号が記載されている。

同大では、誤送付の対象となった卒業生に対し、報告と謝罪を行った。誤送付した卒業証明書は、同月 25 日に誤送付先から回収している。

2020/04/13

学生が個人情報含むクラス表を SNS 投稿 - 植草学園大学

植草学園大学は、学生の個人情報が Twitter 上に投稿されたことを明らかにした。

同大によれば、4 月 6 日に発達教育学部の学生が、学生用ポータルサイトで発表された授業クラス担当表をスクリーンショットとして撮影。自身の Twitter に投稿したという。

担当表には同大の 1 年生の氏名と学籍番号が記載されていた。同大では同月 8 日に事態を把握。学生に削除を求め、現在は削除されているという。

同大は関係者へ謝罪するとともに、SNS へ書き込む際は、責任を持って慎重に行動するよう学生に注意喚起を行った。

2020/04/13

新入生への案内メールで誤送信、メアド流出 - 新潟食料農業大

新潟食料農業大学は、新入生へメールを送信した際にミスがあり、メールアドレスが流出したことを明らかにした。

同大によれば、4 月 7 日 20 時半ごろ、オリエンテーションの開催日や授業開始日の変更などを案内するメールを新入生へ送信した際、ミスがあったもの。

誤って職員が送信先を宛先に設定したため、編入学生を含む新入生のメールアドレスが受信者間に流出した。翌 8 日に別の職員がメールを確認し、問題に気が付いた。

同大では対象となる学生に対し、メールで謝罪。誤送信したメールの削除を依頼したとしている。

2020 年 3 月

2020/03/30

新型コロナ影響で入学式中止、通知メールで送信ミス - 創価大

創価大学は、入学式の中止を案内するメールにおいて誤送信が発生し、入学者のメールアドレスが流出したことを明らかにした。

同大によれば、3 月 6 日 14 時から 16 時にかけて通信教育部事務室が送信したメールにおいてミスがあったもの。

新型コロナウイルス感染症の影響により、入学式の中止を案内するメールを送信したが、メールアドレスを宛先に設定。805 人分のメールアドレスが受信者間に流出した。

同大は対象となる学生やその家族に対し、謝罪を行っている。

2020/03/18

ガイダンス中止の通知でメール送信ミス - 専修大

専修大学は、ガイダンスの中止を案内するメールで送信があり、メールアドレスが流出したことを明らかにした。

同大によれば、3 月 12 日に送信したガイダンスの中止を案内するメールにおいて、送信ミスが発生したもの。メールアドレス 72 件が受信者間で閲覧できる状態となった。

送信の直後にミスへ気が付き、対象者へメールで謝罪。誤送信したメールの削除を依頼している。

2020/03/17

留学生や提携校担当者宛のメールで送信ミス - 国際教養大

国際教養大学は、短期留学生や派遣元提携校の担当者にメールを送信した際にミスがあり、メールアドレスが流出したことを明らかにした。

同大によれば、3月11日17時半過ぎ、2020年度春学期短期留学生と派遣元提携校の担当者に送信したメールにおいて送信ミスが発生したものの。

206人分のメールアドレス252件を誤って宛先に設定したため、受信者間でメールアドレスが表示される状態となった。

担当者がミスへ気が付き、対象となる留学生と担当者へ謝罪。誤送信したメールの削除を依頼している。

2020/03/12

企業説明会の中止連絡でメール送信ミス - 兵庫県立大

兵庫県立大学は、合同企業説明会の中止を連絡するメールにおいて送信ミスがあり、学生のメールアドレスが流出したことを明らかにした。

同大によれば、国内で新型コロナウイルスが感染拡大している状況を受け、合同企業説明会の中止を連絡するメールを2月25日19時半ごろ送信したところ、メールアドレスが流出したものの。

送信対象の学生約4500人を約500人ずつグループにわけてメールを送信したが、宛先にメールアドレスを入力したため、同一グループ内の受信者間でメールアドレスが閲覧できる状態となった。

翌26日に対象となる学生に対し謝罪。問題のメールについて削除するよう依頼している。

通常同大では、学生情報システムの一斉メール送信機能を利用していたが、システム機器の更新にともない同機能が利用できなかったため、手動による送信を行ったところミスが発生したという。

情報セキュリティ事故事例

参考：Security NEXT

2020 年 2 月

2020/02/27

受験生に対するメールで送信ミス、メアド流出 - 琉球大

琉球大学は、受験生へ面接試験の集合時間を知らせるメールにおいて送信ミスがあり、メールアドレスが流出したことを明らかにした。

同大によれば、教育学部を受験する学生に対し、2 月 13 日に面接試験の集合時間を案内するメールを送信したが、送信先を誤って宛先に設定。受験生 200 人のメールアドレスが受信者間で表示される状態となった。

同大では対象となる受験生に対し謝罪するとともに、誤送信したメールの削除を依頼している。

2020/02/26

セミナー申込者のメアドが流出 - 首都大学東京

首都大学東京は、セミナーを案内するメールの送信ミスがあり、申込者のメールアドレスが流出したことを明らかにした。

同大によれば、2 月 13 日 10 時半ごろ、金融工学研究センターの担当者がセミナーを案内するメールを送信したが、誤って送信先のメールアドレス 71 件を「CC」に入力。受信者間で閲覧できる状態となった。

同日 18 時過ぎ、送信先からの返信で誤送信が判明。対象となる申込者にメールで報告と謝罪を行い、問題のメールについて削除するよう依頼した。

2020/02/13

不正アクセスでスパム送信、情報流出のおそれも - 長岡技科大

長岡技術科学大学は、教員のメールアカウントが不正アクセスを受け、迷惑メールの送信に悪用されたほか、個人情報含むメールの内容を閲覧された可能性があることを明らかにした。

同大によれば、教員 1 人のメールアカウントが不正アクセスを受けたもので、2019 年 10 月 17 日 19 時半ごろから、パスワードを変更した翌 18 日 23 時半過ぎにかけて攻撃者によるアクセスが可能となり、同アカウントから 6 万 6482 件の迷惑メールが送信されたほか、メールボックス内のメールが閲覧された可能性がある。

メールボックスには、学内関係者とのメールのべ 675 件と、学外関係者とのメールのべ 464 件が保存されていた。

そのうちのべ 30 件のメールに学生の氏名やメールアドレス、のべ 18 件には学外関係者の氏名や住所、電話番号、メールアドレスなどの個人情報が保存されていた。またのべ 3 件には学内教職員の氏名や電話番号、メールアドレスなどが含まれる。

2019 年 10 月 17 日 21 時過ぎ、同教員からメールサーバ管理者に対して、アカウントから大量の迷惑メールが送信されているとの報告があり、メールアカウントのパスワードを変更した。同大では、情報が漏洩した可能性がある関係者に対し、説明と謝罪を行っている。

2020/02/10

教員が個人情報含む HDD を出張中に紛失 - 京大

京都大学の教員が、出張中に個人情報含む外付けハードディスクを紛失したことがわかった。

同大によれば、大学院医学研究科人間健康科学系専攻の教員が、出張中に個人情報を含む外付けハードディスクを紛失したものの。

所在がわからなくなっているハードディスクには、学生の成績に関する情報など 919 人分の個人情報が保存されていた。

今回の問題を受け、同大では対象となる関係者に事情を説明し、謝罪する書面を送付した。

情報セキュリティ事故事例

参考： Security NEXT

2020 年 1 月

2020/01/21

誤送信で博士課程在籍者のメアドが流出 - 琉球大

琉球大学は、職員がメールを送信する際にミスがあり、過去に大学院博士課程に在籍した関係者のメールアドレスが流出したことを明らかにした。

同大によれば、1 月 15 日 10 時過ぎ、職員が 2018 年度に大学院博士課程へ在籍した 304 人に対して、アンケートの協力を依頼するメールを送信した際にミスがあったもの。送信先を誤って宛先に入力したため、受信者間でメールアドレスが閲覧できる状態となった。

同大では対象者に対し謝罪するとともに、誤送信したメールの削除を依頼している。

2020/01/14

患者情報含む PC と HDD を院外で紛失 - 昭和大病院

昭和大学病院は、患者の個人情報が保存されたノートパソコンと外付けハードディスクを、院外で紛失したことを明らかにした。

同院によれば、2019 年 12 月 25 日深夜から翌 26 日早朝にかけて、消化器、一般外科の患者情報が保存されたノートパソコンと外付けハードディスクを院外で紛失したもの。

紛失した機器には、最大 1300 件の患者情報が保存されていた。患者の氏名や性別、年齢、診察券番号、病名、手術内容などが含まれる。同院では警察へ届け出るとともに、捜索が続けている。

同院では、院外へ個人情報を持ち出すことを原則禁止としていた。同院では対象となる患者に対し、書面を送付して事情を説明し、謝罪としている。

2020/01/06

学会費納入依頼メールで送信ミス - 日本植物学会

日本植物学会は、学会員宛ての連絡メールにおいて送信ミスがあり、メールアドレスが流出したことを明らかにした。

同学会によれば、2019 年 12 月 20 日 18 時半ごろ 2 回にわけて、会費が未納となっている学会員向けに送信した納入依頼メールで、送信ミスがあったもの。

送信先を誤って「CC」に設定したため、1 回目のメールで 41 件、2 回目に 17 件のメールアドレスが、受信者間で閲覧できる状態となった。

同学会では、対象となる学会員に対してメールで謝罪。あわせて誤送信したメールの削除を依頼している。

2019 年 12 月

2019/12/25

台風被害で小学校の指導要録が流出 - 宮城県大郷町

宮城県大郷町は、市内小学校における過去の指導要録が一部所在不明となっていることを明らかにした。

同町によれば、**台風 19 号による被害の影響**で、保管してあった旧粕川小学校より流出。児童や保護者の個人情報が記載された指導要録の所在がわからなくなっているもの。

対象となるのは、旧大谷小学校の 1992 年度から 1994 年度の卒業生、1996 年度から 2005 年度の卒業生、2007 年度から 2009 年度の卒業生の指導要録。

また旧粕川小学校において 13 人分の教職員通勤手当届が所在不明となっている。

1995 年度卒業生、2006 年度卒業生、および 2010 年度卒業生の指導要録については、一時紛失したが回収。旧味明小学校、旧粕川小学校、旧大松沢小学校の指導要録について紛失はないとしている。

同町は、書類の管理体制や、統廃合時における書類搬出時における確認不足があったと説明。対象者に謝罪の書面を送付している。

2019/12/03

個人情報含む USB メモリを出張先で紛失 - 金沢大

金沢大学の教員が、学生の個人情報が保存された **USB メモリを持ち出し、紛失した**ことがわかった。

同大によれば、11 月 7 日から 8 日にかけて国内で開催された学会に教員が参加した際、出張先で業務を行うために持参していた USB メモリを紛失したもの。USB メモリやデータなどに**パスワードなどは設定されていない**という。

所在不明となっている USB メモリには、同教員が担当する科目の受講学生 43 人の氏名や学籍番号、所属、国籍などを保存。また同教員が指導する学生 1 人の氏名、メールアドレス、所属研究科や学外関係者 3 人分の情報も記録しており、氏名や勤務先、職歴、学歴のほか、住所、本籍、電話番号なども含まれる。

同月 9 日朝に USB メモリの紛失に気付き、宿泊したホテルや立ち寄ったレストランなどに連絡。警察へ届けたが見つからない。

同大では個人情報等を学外へ持ち出す際に、管理者の許可が必要となるが、許可は得られていなかった。同大では対象となる学生や関係者に対し、説明と謝罪を行っている。

2019/12/19

患者情報が路上に飛散、廃棄処理委託先で - 鹿児島大学病院

鹿児島大学病院は、患者のカルテやエコー写真などが路上に飛散したことを明らかにした。

同院によれば、12 月 2 日に機密文書の廃棄処理を委託している事業者において発生したもので、患者のカルテやエコー写真など 49 枚が路上に飛散した。飛散した 49 枚のうち、28 枚に関しては患者 16 人について個人を特定できる資料だったという。

同院は、委託業務の対象品目が機密文書であり、回収から裁断処理まで万全の管理体制で対処することを同事業者との契約で指示していたと釈明。対象となる患者に説明と謝罪を行っている。

情報セキュリティ事故事例

参考：Security NEXT

2019 年 11 月

2019/11/25

医学部卒業試験に患者情報、マスキング外れる - 富山大

富山大学は、医学部の**卒業試験の試験問題と画像集**に、患者の個人情報表記されていたことを明らかにした。受験者から回収したという。

同大によれば、10 月 30 日に実施した 2019 年度医学部卒業試験において、試験問題と画像集に患者 2 人の個人情報が表記されていたもの。患者の氏名や生年月日、年齢、性別、撮影した病院、撮影した日時、CT の画像、X 線写真などが含まれる。

試験中、試験監督者が試験問題と画像集に個人情報が残っていることを発見。記名の上、全受験者 113 人分の試験問題と画像集を回収した。

同大で調査したところ、試験問題に当初黒塗り図形でマスキングした画像を貼り付けていたが、編集の段階でマスキングが外れ、校正の段階でも気が付かなかったという。教育への画像利用そのものは、同院受診者より包括同意を得ている。

対象となる患者には、主治医および診療科長が電話で事情を説明し、謝罪した。また関係病院に対して電話で説明と謝罪を行っている。

2019/11/18

ライブイベントの当選メールを誤送信、メアド流出 - 近畿大

近畿大学は、同大で開催されるライブイベントの当選案内メールにおいて送信ミスがあり、当選者のメールアドレスが流出したことを明らかにした。

同大によれば、11 月 15 日 17 時から 18 時ごろにかけてイベント「ゴールデンボンバー×近大×ジェクスイベント&ライブ開催」の当選者にメールを送信した際、ミスが発生したものの、**送信先を誤って宛先に設定**したため、メールアドレス 409 件が、受信者間で確認できる状態となった。

担当者が送信ミスに気が付き、受信者からも指摘が寄せられた。同大では対象となる当選者に事情を説明し、謝罪。誤送信したメールの削除を依頼している。

2019/11/15

メール誤送信で推薦入試出願者のメールアドレス流出 - 県立広島大

県立広島大学は、推薦入試の出願者に送信した連絡メールにおいて誤送信が発生し、メールアドレスが流出したことを明らかにした。

同大によれば、2020 年度推薦入試の募集要項において一部誤りがあったことから、出願者に対して 11 月 5 日に訂正のメールを送信。

その際に**送信先を宛先に設定するミス**があり、受信者間でメールアドレスを確認できる状態となった。

翌 6 日に担当者が誤送信に気づき、対象となる出願者に電話で謝罪を行い、誤送信したメールの削除を依頼した。あわせて出願者の在籍校に対しても、電話で謝罪している。

2019/11/11

ネット経由で学生情報が閲覧可能に、設定ミスで - 室蘭工業大

室蘭工業大学は、学生などの個人情報インターネット経由で閲覧できる状態だったことを明らかにした。サーバの設定ミスが原因だという。

同大によれば、9 月 18 日から 10 月 11 日にかけて、ウェブサーバ上で学生などの個人情報が外部から閲覧できる状態となっていたもの。10 月 11 日に外部から指摘があり判明、対策を講じた。

2006 年度から 2013 年度にかけて、同大建築社会基盤系学科および建築社会基盤系専攻に在籍した学生 1187 人の氏名、所属、成績が含まれる。また 2013 年度に設置した土木コースの外部評価委員会委員 14 人の氏名と所属などの個人情報も掲載されていた。

9 月 18 日に行ったサーバの設定変更により生じたもので、同大では対象となる関係者に対し、説明と謝罪を行うとしている。

2019/11/05

実在企業名乗るメールで教員 PC がマルウェア感染 - - 首都大

首都大学東京は、同大教員のパソコンがマルウェアに感染し、メールアドレスが窃取されたことを明らかにした。

同大によれば、10月21日に同大教員のパソコンがマルウェア「Emotet」に感染していることが判明したもの。同月18日17時ごろより、同大の**教職員をかたるメール**が届いたため、教職員や学生、関係者などへ注意喚起を行っていたところ判明したという。

10月18日10時ごろ、**実在する雑誌社をかたるメール**の添付ファイルを教員が開封したことから、マルウェアへ感染。その後の調査で、同教員とやりとりしたメールアドレスの一部が窃取されていることがわかった。

同教員のメールボックスには、受信メール1万2069件や送信メール6774件など、あわせて1万8843件のメールが保存されていた。メールアドレスやメールの本文、添付ファイルの流出状況について現在調査を進めている。

同大では、同大教職員をかたる不審なメールに注意を呼びかけており、メールに記載されたリンクや添付ファイルを開かないよう呼びかけている。同大では関係者に対して謝罪を行ったが、具体的な被害などは確認されていないという。

紛失の判明後、学内の搜索や交通機関への問い合わせなどを行ったが見つからず、警察へ届けた。同大では対象となる学生に説明と謝罪の書面を送付している。

情報セキュリティ事故事例

参考：Security NEXT

2019 年 10 月

2019/10/29

高校で生徒情報含む資料紛失、郵送され判明 - 神戸市

神戸市の市立高校において、生徒の個人情報に記載されたアンケート資料が所在不明になっていることがわかった。市役所に郵送で届いたことで判明した。

同市によれば、生徒から回収した 8 クラス 320 人分の理科の授業に関するアンケートが、6 月末より所在不明となっているもの。生徒の氏名や学年、クラス、生年月日、出身中学校などが記載されている。

10 月 15 日、7 人分のアンケート用紙が市役所に郵送で届いたことで、紛失が発覚した。問題のアンケートは、ファイルに挟んだ状態で施錠できる化学準備室に保管していた。担当教員は紛失を把握しており探索していたが、報告していなかったという。

同校では、対象となる生徒と保護者に対して説明会を開催、謝罪を行っている。

2019/10/23

教委送付の入学予定者名簿が所在不明に - 豊島区

東京都豊島区は、教育委員会から区立中学校あてに送付した新入学予定者名簿が所在不明になっていることを明らかにした。

同区によれば、10 月 9 日に、同区の文書送付システムを用いて庁舎内から発送した新入学予定者名簿の写しが、所在不明になっているもの。同名簿には、区立中学校 1 校分、288 人分の入学予定者の氏名、生年月日、保護者氏名、住所などが記載されていた。

同月 16 日、送付先の副校長が教育委員会に問い合わせたことから、所在がわからなくなっていることが判明。学校内や文書交換室、教育委員会内などを検索したが発見できなかった。

同県では、対象となる入学予定者および保護者に対し、電話と書面による報告と謝罪を行っている。

2019/10/18

県立高校で成績一覧表をプロジェクターで投影 - 岐阜県

岐阜県は、県立高校において、生徒の成績一覧表を誤ってプロジェクターで投影するミスがあったことを明らかにした。

同県によれば、10月1日、生徒57人分の成績一覧表がホワイトボードに誤って投影され、教室内の生徒が閲覧できる状態になったもの。氏名や出席番号、得点、課題ノートの評価点などが含まれる。

非常勤講師が、生徒に予習を指示し、その間にパソコンをプロジェクターへ接続してパソコン内の表計算ソフトに成績などを入力していたが、作業の様子がホワイトボードに投影されており、一部の生徒の指摘で判明した。

同校では、対象となる生徒と保護者に対し説明と謝罪を行っている。

2019/10/11

メールアカウント乗っ取り、個人情報流出のおそれも - 金沢大

金沢大学において、フィッシングメールによる被害で複数教職員のメールアカウントが乗っ取られた問題で、同大は個人情報流出した可能性があることを明らかにした。

問題のフィッシングメールは、メールサービスの障害通知を装う手口で8月14日、9月20日に複数の教職員が受信。25人がフィッシングサイトにパスワードを入力、アカウント情報を詐取された。

今回の問題を受け、すでに同大では、7件のアカウントから4万1697件のフィッシングメールが送信されたことを公表、関係者へ注意喚起を行っていたが、その後被害にあったアカウントに保存されていたメールを閲覧され、個人情報流出している可能性があることが判明した。

閲覧された可能性があるメールは251件で、学内外の関係者66人分の氏名とメールアドレスが記載されていた。そのうち53人については住所や電話番号も含まれる。

同大では関係者に対して謝罪を行ったが、具体的な被害などは確認されていないという。紛失の判明後、学内の搜索や交通機関への問い合わせなどを行ったが見つからず、警察へ届けた。同大では対象となる学生に説明と謝罪の書面を送付している。

情報セキュリティ事故事例

参考：Security NEXT

2019 年 9 月

2019/09/24

メール整理時に誤操作でメール誤送信 - 札幌大

札幌大学の教員が、誤操作によってメールアドレスが表示された状態でメールを送信し、教職員や卒業生などのメールアドレスが流出したことを明らかにした。

同大によれば、9 月 19 日 9 時過ぎ、教員がパソコンに保存された古いメールを整理していた際、パソコンに登録されていた 282 人宛てに誤ってメールアドレスが表示された状態でメールを送信したもの。

同大の教職員や卒業生、関係者など 282 人分のメールアドレスと 39 人分の所属先、1 人の携帯電話番号などが含まれる。

同教員は送信後にメールで謝罪。誤送信したメールの削除を依頼した。また同大でも対象となる関係者にメールで謝罪している。

2019/09/20

学生や関係者の個人情報紛失、匿名で送付 - 共立女子大

共立女子大学は、看護学部の実習実習において、学生や関係者の個人情報含む書類を紛失していたことを明らかにした。拾得者から匿名で送付され、問題が判明した。

同大によれば、看護学部の実習関連書類を紛失していたことが明らかとなったもの。2017 年当時のもので、実習先の関係者や学生など、それぞれ 6 人分の個人情報を含む一覧表や、学生 98 人分の氏名と学籍番号が記載された学生配置表だという。

6 月 20 日に実習先機関に匿名の封書が届き、紛失していたことが判明した。実習先機関の周辺で拾得したとの手紙が入っていたという。

同大では調査委員会を立ち上げ、報告書をまとめるとともに、実習先機関や対象となる学生、関係者に対し、事情の説明や謝罪を行っている。

2019/09/11

教員免許更新講習受講者へのメールで送信ミス - 関西国際大

関西国際大学は、教員免許状の更新講習受講者に対するメールで送信ミスがあり、個人情報が流出したことを明らかにした。

同大によれば、8月20日に2019年度教員免許状更新講習の受講者へ受講の礼状をメールで送信したところ、操作ミスが発生したもの。全受講者1119人のうち499人について、氏名とメールアドレスが表示された状態で送信された。

今回の問題を受けて同大では関係者へ謝罪。関係者に対する連絡方法などについて見直しを図るなど、再発防止に取り組むとしている。

2019/09/03

学生の個人情報含む USB メモリを紛失 - 富山大

富山大学の教員が、学生の個人情報を保存した USB メモリを紛失していたことがわかった。

同大によれば、同教員が担当していた科目の受講生320人分の氏名や学籍番号、学部、出欠記録などを保存していた USB メモリが8月23日以降、所在不明となっているもの。研究成果や講義資料なども含まれる。

同大では個人情報の持ち出しを原則禁止としており、学外に持ち出す際は管理者の許可が必要だが、同教員は許可を得ずに持ち出していたという。USB メモリやファイルにはパスワードなども設定されていなかった。

紛失の判明後、学内の検索や交通機関への問い合わせなどを行ったが見つからず、警察へ届けた。同大では対象となる学生に説明と謝罪の書面を送付している。

情報セキュリティ事故事例

参考：Security NEXT

2019 年 8 月

2019/08/20

課外講座の受講者など個人情報含む USB メモリ紛失 - 近畿大

近畿大学は、課外講座の資料請求や受講者などの個人情報が保存された USB メモリを職員が紛失したことを明らかにした。

同大によれば、同大通信教育部の職員が USB メモリを紛失したもの。7 月 31 日に紛失へ気が付き、翌 8 月 1 日に上長へ報告した。

職員は、出張にあたり学内ガイドラインに違反して USB メモリを 7 月 26 日より持ち出していた。7 月 29 日に USB メモリを鞆へ入れて出勤したが、その後の所在がわからないという。学内で誤って廃棄した可能性もあるとしている。

問題の USB メモリには、課外講座「韓国語講座」の資料請求者および受講者 102 人の氏名と住所が保存されていた。一部電話番号やメールアドレス、生年月日、学籍番号も含まれる。データの暗号化などは実施していなかった。

同大では、文部科学省および個人情報保護委員会へ事態を報告するとともに、対象となる関係者へ事情を説明、謝罪した。8 月 20 日の時点で不正利用などの報告は受けていないとしている。

2019/08/09

内定辞退予測、学生同意なく企業に - リクナビ DMP フォロー サービス廃止へ

就職活動を行う学生の個人データから内定を辞退する確率を予測し、企業へ提供するリクルートキャリアのサービスが、対象となる学生の同意を得ずに提供されていたことがわかった。サービスは廃止するという。

問題となった「リクナビ DMP フォロー」では、就活情報サイト「リクナビ」上での学生の行動ログを、前年度応募学生のデータより作成したアルゴリズムで解析。利用企業の内定を辞退する確率について、「分析スコア」として提供していたが、対象となった学生 7983 人から同意を得ていなかった。

同サービスのプライバシーポリシーの表現に問題があるとの指摘を受け、7 月 31 日に同サ

ービスを一時休止。その後の調査で同意取得時の不備が判明したという。

同社では3月にプライバシーポリシーを変更。同サービスについて言及したが、一部画面で表記漏れがあり、プライバシーポリシーへの同意が適切に得られていなかったと釈明している。

2019/08/07

テストメールで誤送信、生徒保護者のメアド流出 - 郡山市

福島県郡山市は、研修活動に参加する中学生の保護者に送信したテストメールにおいて誤送信が発生し、メールアドレスが流出したことを明らかにした。

同市によれば、8月2日11時過ぎに、「郡山市中学生長崎派遣事業」の参加者の保護者27人に対し送信したテストメールにおいて誤送信が発生したもの。送信先の設定を誤ったため、受信者間でメールアドレスが閲覧できる状態となった。

同メールを受信した職員が、メールアドレスが表示されていることを確認したことで発覚。同日中にメールと電話で対象となる保護者に謝罪し、誤送信したメールの削除を依頼している。

2019/08/06

がん患者情報を誤送信、煩雑となり個人情報記載 - 横浜市立大病院

横浜市立大学付属病院の医師が、患者情報含むファイルを、宛先不明のメールアドレスに誤ってメールで送信していたことがわかった。

同院によれば、泌尿器科において、膀胱がんの臨床研究に関係する医師22人で情報共有していた患者の症例を含むファイルを、医師が誤って宛先がわからないメールアドレスに対し送信したもの。

誤送信したのは、同院を含む20の病院が保有する泌尿器科患者の症例3411件。患者の氏名や生年月日、性別、初回手術実施日、腫瘍の状況、手術後の治療、再発の有無などが含まれる。7月24日21時ごろ、個人のフリーメールアドレスから医師22人に対して患者情報含むファイルを送信したところ、一部でまったく関係ないメールアドレスへ送信していた。送信対象である22人のうち、正しいメールアドレスは9件のみで、誤ったメールアドレスのうち2件は送信されたほか、11件については宛先不明との返信メールが届いたという。

情報セキュリティ事故事例

参考：Security NEXT

2019 年 7 月

2019/07/26

学生の個人情報含む USB メモリを紛失 - 北海道情報大

北海道情報大学は、学生の個人情報を保存した USB メモリを、非常勤の講師が紛失したことを明らかにした。

同大によれば、7 月 8 日に USB メモリを紛失したもの。講義終了後から帰宅するまでの間になくしたものと見られている。

問題の USB メモリには、同講師が 2014 年度から 2019 年度に担当したクラスの学生 213 人の氏名、出席状況、成績評価などが保存されていた。2015 年度後期分以外のファイルに関しては、パスワードが設定されているという。

紛失判明後、学内の関係各所を搜索し、通勤で利用している交通機関への問い合わせや警察への届け出を行ったが見つかっていない。

同大では、対象となる学生と卒業生に対し、説明と謝罪の書面を送付したとしている。

2019/07/23

分析機器納入業者が患者遺伝子検査データを持出 - 九大病院

九州大学病院は、医療検査機器メーカーの従業員が、遺伝子検査データを含む患者情報を無断で外部に持ち出していたことを明らかにした。

同院によれば、同院に遺伝子分析装置を納入しているアークレイの従業員が、患者情報を含むバックアップデータを院外へ無断で持ち出したもの。

3 月に同社より報告があったが、持ち出された経緯や、第三者に対する漏洩の有無など、説明が不十分だったことから追加調査を求め、明らかになったという。

持ち出されたのは、同院で 2014 年 10 月から 2017 年 8 月までに検査を行った患者 404 人分の個人情報。氏名や生年月日、年齢、性別のほか、遺伝子検査データ、測定日、測定者名、診療科、病棟名、担当医名などが含まれる。

2019/07/22

イベント申込者情報をサイト上で公開 - 宮崎県立図書館

宮崎県立図書館は、ウェブサイトにおいてイベント申込者の個人情報を誤って公開していたことを明らかにした。

同館によれば、2017 年度に実施したイベントの申込者の名簿を、ウェブサイトに誤って掲載していたもの。22 人の氏名や連絡先が含まれる。

同館では、問題の名簿を削除。対象となる申込者に対し、説明と謝罪を行っている。

2019/07/17

教員が都システムから収集したメールアドレスにセミナー案内 - 明海大

過去に都立高校へ勤務していた明海大学の教員が、都の情報ネットワークから収集したメールアドレスを使用し、セミナーの案内メールを送付していたことがわかった。

同大によれば、同大教員は 3 月まで都立高校に勤務していたが、在任当時に都の東京都高度情報化推進システム（TAIMS）より教職員のメールアドレスを収集。都立高校に務める英語科教員のメーリングリストを作成していた。

今回、同教員が同メーリングリストを利用して、約 1500 人の教員に対し、同大が 8 月に実施する「英語授業改革セミナー」の案内文を送付したことが明らかになったという。

同大では同教員を厳重注意とし、メーリングリストの削除を指示。また、全教職員に対し個人情報の適切な取り扱いについて研修を実施するとしている。

情報セキュリティ事故事例

参考：Security NEXT

2019 年 6 月

2019/06/25

元応援団部員の個人情報入り USB メモリが所在不明 - 立命館大

立命館大学は、元応援団部員の個人情報が入った USB メモリが所在不明になっていることを明らかにした。

同大によれば、応援団が管理する USB メモリが所在不明になっているもの。問題の USB メモリには、以前同組織に所属した団員約 1000 人分の情報を保存した表計算ファイルや宛名印刷用のドキュメントファイルが保存されていた。氏名や住所、電話番号、卒団年などを含むが、暗号化などは行われていない。

同月 27 日に USB メモリを紛失していることが判明。団員が最後に使用した 4 月 23 日以降の所在がわからないという。捜索を行うとともに、警察や交通機関などに届け出を行ったが、発見されていない。

同大では、対象となる関係者に書面による報告と謝罪を行ったとしている。

2019/06/24

府立高校で生徒情報含む記録簿を紛失 - 大阪府

大阪府は、府立高校において、生徒の個人情報を記録した手帳を教員が紛失したことを明らかにした。

同府によれば、生徒の出欠状況などを記載する記録簿の所在がわからなくなっているもの。教員が担当する 1 年生 126 人、2 年生 75 人、3 年生 55 人の氏名や出席番号、出欠状況、提出物の有無などが記載されている。

6 月 7 日に教員が出勤した際、記録簿が見当たらないことに気が付いたという。前日 6 日の放課後に記録簿を持って複数教室に入ったのを最後に以降の所在がわからないという。その後全教職員で捜索したが発見できず、警察へ届けた。同校では、保護者説明会を開いて説明と謝罪を行うとしている。

2019/06/11

卒業生の個人情報含む名簿を紛失 - 同志社大学政法会

同志社大学法学部および同大大学院法学研究科の卒業生で構成される同志社大学政法会は、同窓会の幹事が卒業生名簿を紛失したことを明らかにした。

同会によれば、同窓会の学年幹事が、準備作業のために同会から貸与された卒業生名簿を紛失したもの。

所在がわからなくなっているのは、1969 年の卒業生 1020 人分の情報が記載された名簿。氏名や旧姓名、住所、電話番号、勤務先、学科、ゼミなどが含まれる。ただし、住所の記載が確認できたのは 400 人としており、会報誌を毎号送付しているのは 127 人だという。

5 月 18 日に名簿を貸与したが、作業のために持ち帰ったところ紛失。20 日に同会が報告を受けた。同会では、対象となる会員に対し郵送や電話などで連絡を取る。また同大や文部科学省、個人情報保護委員会へ報告を行った。

情報セキュリティ事故事例

参考：Security NEXT

2019 年 5 月

2019/05/23

学内用掲示板でアクセス制限不備、個人情報流出の可能性 - 吉備国際大

吉備国際大学は、学生向けの掲示板システムにセキュリティの不備があり、投稿されたファイルが外部から閲覧可能になっていたことを明らかにした。

同大によれば、問題があったのは吉備国際大学大学院で通信制の知的財産学研究科において、在学生や修了生との情報共有に用いている掲示板システム。

投稿に添付されたファイルが、本来は閲覧できない外部より閲覧可能だったもので、4 月下旬に修了生からの指摘があり、判明したという。

外部から閲覧可能だったファイルには、学生の氏名や住所、電話番号、メールアドレス、科目の評価など個人情報が含まれるものが含まれるという。

同大では、掲示板システムにおいて添付ファイルへのアクセスを制限。個人情報が流出した可能性がある学生に対し、書面や電話などで事情を説明し、謝罪している。

2019/05/16

学内関係者向けサイトに不正アクセス、PW や個人情報が流出 - 東京理科大

東京理科大学の一部サイトが不正アクセスを受け、学生や教員などサイトの利用者やイベント申込者などの個人情報が流出したことがわかった。

同大によれば、同大イノベーション研究科の学生と教員向けに提供していた専用サイトが不正アクセスを受け、個人情報が流出したものの。

外部からメールアドレス 1 件とログインパスワードが流出しているとの情報提供が 1 月 24 日にあり、調査を行ったところ、同サイトのパスワードである可能性が高いことが判明。2 月 2 日に同サイトを閉鎖した。

さらに別の組織より情報が寄せられ、ウェブサイトの構築を担当した委託先の調査で、2018 年 10 月以前に在学生や卒業生、教員の一部が使用するメールアドレスとログインパスワードが流出した可能性が高いことが判明した。

2019/05/15

学生アカウントが乗っ取り被害、スパムの踏み台に - 鹿屋体育大

鹿屋体育大学において、クラウドサービスの一部アカウントが乗っ取られたことがわかった。迷惑メールを送信するための踏み台に悪用されたほか、メールやアドレス帳が閲覧された可能性がある。同大によれば、同大が利用するクラウドサービスにおいて、学生 1 人のアカウント情報が窃取され、不正アクセスを受けたという。

3 月 16 日 9 時 12 分から 9 時 25 分にかけて、学外および学内へあわせて 319 件の迷惑メールが送信された。また同学生が学内外の関係者と送受信したメール 1515 件のほか、学内関係者の氏名とメールアドレス約 1000 件を含むアドレス帳が閲覧された可能性がある。同大では 3 月 16 日 13 時過ぎに、対象のアカウントを停止。学生や教職員に対し不審なメールに関する注意喚起を行った。

2019/05/08

メール送信ミスで講習受講希望者のメアド流出 - 香川大

香川大学においてメールの送信ミスがあり、教育免許状更新講習受講希望者のメールアドレスが流出したことがわかった。

同大によれば、4 月 24 日 13 時半過ぎ、教育免許状更新講習受講希望者 281 人に対し送信した連絡メールにおいて送信ミスがあったという。

職員が送信先を誤って宛先に設定したため、受信者間でメールアドレスが閲覧状態となった。同大では対象となる受講希望者に対し謝罪。あわせて、誤送信したメールの削除を依頼するなど対応を行っている。

2019/05/07

学生情報含む USB メモリを紛失 - 石巻専修大

石巻専修大学において、学生の個人情報を含む USB メモリが学内で所在不明となっている。同大によれば、学生の個人情報や成績に関するデータが保存された USB メモリを教員が学内で紛失したもの。4 月 12 日に紛失へ気が付いたという。

紛失した USB メモリには、2019 年度の全学部入学生の氏名と学籍番号のほか、2019 年度までの担当科目を履修した学生の氏名、学籍番号、成績に関するデータなど約 500 件が保存されていた。同大は、今回の紛失を受け、関係者に対して謝罪。一部データについてパスワードが設定されていると説明している。

情報セキュリティ事故事例

参考：Security NEXT

2019 年 4 月

2019/04/17

会誌に一部会員の個人情報を誤掲載、データ抽出時のミスで - 九州大学造船会

九州大学の同窓会組織である九州大学造船会は、会誌の名簿において、一部会員の個人情報を誤って掲載したことを明らかにした。

同会によれば、会誌「吾」94 号の名簿に公開しないはずの個人情報が掲載されたもの。

名簿のデータベースから印刷用データを抽出する際、本来同期生のみ公開とする住所や電話番号、メールアドレス 90 件のほか、公開しない設定の住所 3 件がミスにより含まれていたという。

同会では、誤掲載が発生した会誌の回収といった対応については、費用の工面やすべての会員から理解を得ることが困難など、課題があることから今後検討するとしている。

再発防止に向けては、内容を即時訂正することができる電子版の導入や、名簿公開区分の変更などを検討するという。

2019/04/18

教員が学生の個人情報を電車内で紛失 - 常葉大

常葉大学は、教員が移動中の電車内で、在学生および卒業生の個人情報含む書類を紛失したことを明らかにした。

同大によれば、3 月 18 日、外国語学部の教授が JR 東海道線で移動中、個人情報を含む書類を鞆ごと紛失したもの。

問題の書類には、2013 年度から 2016 年度の入学者のうち、日本語教員養成課程の希望者 230 人の氏名や生年月日、大学名、学部、学籍番号、申込年月日などが記載されていた。

降車後紛失に気づき、交通機関や警察へ届け出を行ったが、発見されていない。同大では、対象となる在学生と卒業生に対し書面による説明と謝罪を行った。

2019/04/22

複数医療機関の患者情報含む USB メモリが海外で盗難被害 - 福島県立医科大

福島県立医科大学の教員が海外出張中に盗難に遭い、2 医療機関の患者情報が保存された USB メモリを紛失したことがわかった。

同大によれば、オランダに出張中の教員が、現地時間 4 月 10 日の夕方ごろ、移動中の電車内で棚の上に置いていた鞆が盗まれたもの。被害に遭った鞆には患者情報が保存された USB メモリが入っていた。

被害に遭った USB メモリには、いわき市医療センターで超音波手術を受けた患者 79 人と、透析センター外科を受診した患者 66 人の個人情報が含まれる。重複を除くと 86 人分で、氏名のほか、79 人に関しては検査の画像データ、69 人については手術の内容や手術の理由、66 人に関しては通院理由や治療内容なども記載されていた。

盗難の発覚後、同日中に現地警察へ被害届を提出したが、盗難物は見つかっていない。同大では対象となる患者に対し、説明と謝罪などの対応を進めている。また緑の里クリニックとも対応について協議を行っている。

2019/04/22

公開サーバ上に 2006 年当時の学生情報 - 千葉大

千葉大学は、同大の教員が管理する外部からアクセス可能なウェブサーバ上に、学生の個人情報保管されていたことを明らかにした。

同大によれば、外部からアクセス可能なウェブサーバ上に、2006 年当時に工学部において開講していた科目に関する学生 81 人の氏名や性別、学生証番号、所属、年次、入学年月日、レポート提出状況などを保管していたもの。

問題の発覚後、対象となるウェブサーバはネットワークから隔離しており、現在は閲覧できない状態。個人情報不正に使用されたといった報告は受けていないという。

同大では、対象となる学生に対し、書面で説明と謝罪を行っている。

情報セキュリティ事故事例

参考：Security NEXT

2019 年 3 月

2019/03/05

学生の個人情報含む USB メモリを紛失 - 阪南大

阪南大学の教員が、学生の個人情報含む USB メモリを紛失したことがわかった。移動中の電車内で使用後、紛失した可能性が高いという。

同大によれば、2 月 2 日に同教員が調査へ向かう移動中の電車内でノートパソコンに接続して USB メモリを使用した、その後所在不明になっているもの。

問題の USB メモリには、2015 年度から 2018 年度開講の一部科目を履修した学生の氏名、学籍番号、成績評価など 1169 件が保存されていた。

紛失の判明後、警察、交通機関へ届けたが、見つかっていない。同大では対象となる在学生や卒業生に対し、書面を通じて詳細を報告、謝罪している。

2019/03/05

島根県立大、学生アカウント乗っ取り被害でスパムの踏み台に - 原因は調査中

島根県立大学において、学生のメールアカウントが乗っ取られ、迷惑メール送信の踏み台に悪用されたり、情報流出の可能性があることがわかった。

同大によれば、学生 1 人が利用するメールアカウントのパスワードが窃取されたもの。2 月 4 日から同月 26 日にかけて、同アカウント経由で 3 万 8006 件の迷惑メールが学外へ送信された。同月 26 日 17 時ごろ、システム担当者がメールシステムのアラートで問題に気が付いたという。

今回の不正アクセスにより、全学生および教職員の氏名や役職、所属、学年など 2476 件を含むアドレス帳や、送受信したメール 148 件が不正に閲覧された可能性がある。

同大では、対象となる学生に聞き取り調査を行ったが、フィッシングサイトへパスワードは入力していないとしており、マルウェアの感染も確認されていないという。同大では原因について調査を進めるとともに、関係者への注意喚起を行っている。

2019/03/22

受験出願者宛のメールで送信ミス、メアド流出 - 国際教養大

国際教養大学においてメール送信ミスがあり、受験出願者のメールアドレスが流出したことがわかった。

同大によれば 3 月 6 日 15 時半ごろ、3 月 14 日に実施する受験の出願者に対してメールを送

信する際、ミスが発生したもの。

326 人に対して複数のグループにわけてメールを送信したが、100 人に対し送信したグループにおいて送信先を誤って宛先に設定。受信者間にメールアドレスが流出した。

メールを送信した職員がミスに気づき、対象となる受験者にメールで謝罪。あわせて誤送信したメールの削除を依頼したという。

2019/03/25

職員採用内定者のメアドが流出 - 横浜市立大

横浜市立大学は、職員採用式を案内するメールにおいて送信ミスがあったことを公表した。同大によれば、3 月 8 日 11 時前に事務職の内定者 6 人、11 時半ごろ医療技術職の内定者 22 人に対して送信したメールで、ミスが発生したという。

それぞれのメールで送信先を誤って宛先に設定したため、受信者間でメールアドレスが閲覧できる状態となった。そのうち 3 人については氏名も含まれる。

送信後、別の職員が誤送信に気付いたことで判明。同日中に対象者へ謝罪のメールを送信し、誤送信したメールの削除を依頼。あわせて電話でも謝罪を行っている。

2019/03/26

一部サイトが改ざん被害、外部サイトに誘導 - 広島大

広島大学は、同大高等教育研究開発センターにある情報調査室のウェブサイトが不正アクセスを受け、改ざんされたことを明らかにした。

同大によれば、同サイトが米国の IP アドレスを発信元とする不正アクセスを受け、1 月 17 日 20 時ごろに改ざんされたもの。問題判明後、1 月 21 日昼過ぎにサイトを停止した。

脆弱なパスワードを突かれて侵入されたもので、不正なコードが埋め込まれ、特定検索サイトの検索結果より同サイトを訪れると、外部サイトへ誘導される状態だった。マルウェアの感染やフィッシングなど、今回の改ざんに関連する被害の報告は寄せられていないという。また個人情報流出についてもあわせて否定。同大の他サイトにおいて同様の被害が発生していないことも確認したとしている。

同大では、同サイトを閉鎖し、同センターのサイトにコンテンツを移行した。また停止している文献情報総合検索システムについても、復旧作業が完了次第、公開する予定。

情報セキュリティ事故事例

参考：Security NEXT

2019 年 1 月

2019/01/10

フィッシング被害でスパム送信、情報流出の可能性 - 東京外語大

東京外国語大学において、職員のメールアカウントがフィッシングにより乗っ取られ、スパムメール送信の踏み台に悪用されたり、個人情報が出た可能性があることがわかった。同大によれば、2018 年 12 月 17 日に職員がフィッシングメールを受信。メール保存期限が超過したなどとだます内容で、誤って誘導先のフィッシングサイトに ID とパスワードを入力してしまったという。

詐取されたアカウントを用いて、翌 18 日から 19 日にかけて約 24 万件の迷惑メールが送信された。またアカウント内に保存されていたメール 223 件が閲覧された可能性がある。学内関係者 97 人や、外部関係者 17 人分の個人情報が含まれる。

同大では、対象のアカウントをロックしてパスワードを変更。送信件数の制限を強化した。個人情報が不正に閲覧された可能性がある関係者には、個別に謝罪を行っている。

2019/01/11

学生向けのメールで誤送信が相次いで発生 - 同志社大

同志社大学において、メールの誤送信によるメールアドレスの流出が年末年始にかけて複数発生した。

同大によれば、2018 年 12 月 27 日に奨学金受給者へ送信した事務連絡メールにおいて、誤送信が発生したもの。複数回にわけて送信したが、そのうち 1 回において送信先を誤って宛先に設定。メールアドレス 150 件が受信者間で閲覧できる状態となった。

また 1 月 7 日には、外国人留学生を対象とする講座の案内メールにおいて、送信先を宛先に設定して送信。メールアドレス 52 件がメール内に表示され、受信者に流出した。

同大では、対象となる学生に対し謝罪するとともに、誤送信したメールの削除を依頼している。

2019/01/16

学生の個人情報含む PC が海外で盗難被害 - 長岡技術科学大

長岡技術科学大学は、教員が海外出張中に、学生の個人情報含むノートパソコンの盗難被害に遭ったことを公表した。

同大によれば、教員が海外出張中である 2018 年 12 月 11 日にノートパソコンの盗難被害に遭ったもの。翌 12 日に同大へ連絡が入った。

問題のパソコンには、同教員が担当する学部と修士の履修者 384 人の氏名と学籍番号、点数のほか、同教員の研究室に所属する 13 人の氏名、学籍番号、携帯電話番号、メールアドレスなどが保存されていた。

現地時間 11 日 10 時半ごろ、参加していた国際学会の休憩時間中にノートパソコンの入った鞆を置いて離席。席に戻ったところ、鞆がなくなっていたという。現地警察へ被害届を提出したが、見つかっていない。

同大では、不正アクセスを防ぐため、同教員のメールアドレスを停止し、パスワードを変更した。また対象となる学生と保護者に対し、説明と謝罪の書面を送付している。

2019/01/31

企業採用担当者や学生の個人情報を誤って公開 - 奈良先端大

奈良先端科学技術大学院大学 (NAIST) は、個人情報を掲載した学内向けのウェブサイトが、誤って学外に公開されていたことを明らかにした。

同大によれば、情報科学研究科において、本来学内からの閲覧に限定されるべきウェブサイトが、2018 年 8 月 7 日から 10 月 22 日にかけて、学外から閲覧できる状態となっていたことが判明したものの。

問題のウェブサイトには、企業 405 社の採用担当者の氏名とメールアドレス 1086 件を記載。さらに修了生 246 人の氏名と学生番号、利用停止済みのメールアドレス、および在學生と修了生 1771 人の氏名と学生番号などを掲載していた。

同サイトを運用しているサーバの更新時に、アクセス制御の設定を誤ったのが原因だという。同大では問題発覚後、設定を修正し、学外からのアクセスを禁止するとともに、検索サイト上のキャッシュを削除する措置を実施。対象となる企業と学生に対し、書面で謝罪を行っている。

情報セキュリティ事故事例

参考：Security NEXT

2018 年 12 月

2018/12/11

学生がフィッシング被害、迷惑メール約 29 万件の踏み台に - 新潟大

新潟大学において、学生のメールアカウントがフィッシングにより乗っ取られたことがわかった。迷惑メール送信の踏み台に悪用されたほか、メールに含まれる個人情報が閲覧された可能性がある。

同大によれば、8 月 24 日に同大の学生が支払通知を装ったフィッシングメールを受信。誘導先のフィッシングサイトでメールアカウントのパスワードを入力したため、同日より同アカウントが不正アクセスを受けていたという。

同月 28 日には、問題のアカウントより約 29 万 6000 件の迷惑メールが送信された。またメールアカウントに保存されていた個人情報が第三者によって閲覧された可能性がある。

閲覧された可能性があるのは、学外関係者 17 人の氏名とメールアドレスで、一部住所や電話番号も含む。さらに、学内関係者 93 人の氏名とメールアドレスおよび一部の住所と電話番号、2 人のメールアドレスなども保存されていた。

同大では、対象となるアカウントを停止。学生や教職員に対して注意喚起を行った。個人情報流出の可能性がある関係者には、個別に対応を進めている。

また発表までに 3 カ月以上がかかっているが、確認と調査に時間を要したと釈明。今後は迅速に発表できるよう努めるとしている。

2018/12/18

職員が自動転送していたフリーメールに不正アクセス、個人情報が流出 - 兵庫教育大

兵庫教育大学は、事務員個人のメールアカウントが不正アクセスを受け、同アカウントへ転送していた個人情報含む業務メールが第三者に漏洩した可能性があることを明らかにした。同大によれば、職員が大学のメールアカウントに届くメールを、学外でも確認できるよう自身のフリーのメールアカウントに自動転送させていたところ、同アカウントが不正アクセスを受けたという。

2016 年 4 月 1 日から 2018 年 10 月 26 日までに転送されたメールが、第三者によって閲覧された可能性があり、これらメールには、学外および学内関係者 1 万 1322 人の個人情報が保存されていた。一部メールには、障害や病歴など含む個人情報が 11 件、パスポートの写しや金融機関の情報など含む個人情報が 23 件あった。

転送先のフリーメールで不正アクセスを知らせるアラート通知があり、ログイン履歴を確認したところ、不正ログインされたことが判明。今回の問題を受け、同大では対象となる関係者に謝罪している。

2018/12/21

恥ずかし画像で不安煽る詐欺メール、送信元を情セ大に偽装

受信者の端末にマルウェアを感染させ、不都合な画像を撮影したなどとだまし、金銭を要求する詐欺メールが出回っているが、送信元として「情報セキュリティ大学院大学」を名乗るケースが確認された。

同大によれば、同大を送信元に偽装した詐欺メールが送信されたとの報告を 12 月 18 日に多数受けたという。

問題のメールでは、「数カ月前にメールのデバイスをクラックしたハッカー」などと名乗り、あたかも受信者の端末へトロイの木馬に感染させたかのように主張。アダルトサイトを閲覧している姿をカメラで撮影したなどと脅し、データやマルウェアを削除するなどとして、555 米ドル相当の Bitcoin を送金するよう求めている。

インターネット上に流出したと見られるパスワードを記載することで実際に端末を侵害したかのように見せかけ、受信者を信じ込ませるソーシャルエンジニアリングのテクニックを用いていた。

同大が示した詐欺メールのサンプルに記載された振込先の Bitcoin アドレスには、12 月 21 日の時点で 3 件のトランザクションが記録されており、0.316 ビットコインが送金された形跡が見られた。

同大を名乗るケースに限らず、類似した詐欺メールは多数確認されているが、最近では証拠画像などと称してファイルをダウンロードさせ、ランサムウェアに感染させる手口も確認されており、注意が必要だ。

2018/12/25

学生情報含む USB メモリが所在不明 - 札幌学院大

札幌学院大学は、学生の個人情報が入った USB メモリが、同大学構内で所在不明になっていることを明らかにした。

同大によれば、教員が 11 月 20 日に講師室で USB メモリを使用した後、その後の所在がわからなくなっているもの。同月 26 日に授業の準備のため講師室へ訪れた際、USB メモリを紛失していることに気が付いたという。

問題の USB メモリには、同教員が担当した 2016 年から 2018 年までの講義を受講した学生 210 人分の氏名や学籍番号、提出課題が含まれる。

2017 年、翌 18 年の学生に関しては成績や出席状況についてもあわせて保存していたが、これらデータに関しては暗号化されているという。

同大では、対象となる学生に対し説明と謝罪を実施。学生の保証人に対しては書面を通じて説明と謝罪を行っている。

2018/12/27

メール誤送信で卒業生などのメールアドレス流出 - 上越教育大

上越教育大学は、卒業生や修了生にメールを送った際にミスがあり、メールアドレスが流出したことを公表した。

同大によれば、12月13日13時半過ぎ、日本学生支援機構の奨学生だった卒業生および修了生へ連絡を取るためにメール116件を送信したが、送信先を誤って宛先に入力。受信者間でメールアドレスが閲覧できる状態となった。

同大では、関係者へ謝罪するとともに、誤送信したメールの削除を依頼している。

情報セキュリティ事故事例

参考：Security NEXT

2018 年 11 月

2018/11/12

偽大学サイトが 1 年間で 961 件、16 カ国 131 大学が標的に - 国立大の偽ウェブメールも

大学関係者を狙うフィッシング攻撃があとを絶たない。露 Kaspersky Lab によれば、同社が確認しただけで 16 カ国 131 大学が標的となっていた。同調査には含まれないが、日本の国立大学を狙った攻撃も 10 月末に確認されたという。

同調査は、2017 年 9 月から 1 年間、同社製品で検出されたフィッシングサイトの状況について取りまとめたもの。ブラウザやメールにおいて検出されたフィッシングサイトの URL は 961 件、少なくとも 16 カ国 131 の大学が標的となっていた。

攻撃対象となった教育機関は、米国が 83 大学、英国が 21 大学でおもに英語圏が中心。今回の報告に日本国内の大学は含まれていないという。

しかし油断は大敵だ。同調査の対象外だが、10 月末に日本の国立大学を偽装したウェブメールのフィッシングサイトを、同社リサーチャーがパトロール中に確認している。

また 10 月にはイランの攻撃グループ「COBALT DICKENS」により、14 カ国 76 大学を狙った攻撃が報告されており、件数は少ないが、国内の大学も標的とされていた。

またフィッシング攻撃により、教職員がメールアカウント情報を詐取され、フィッシング攻撃の踏み台として悪用されたり、メール情報が流出する事件も相次いでいる。

Kaspersky Lab は、「サイバー犯罪者は教育機関に注目しており、教職員や生徒の 1 人 1 人が標的となっている」と指摘。

大学では、経済学から原子物理学まで幅広く、未公開かつ影響力が大きい情報を扱っていることにくわえ、大手企業との共同研究に取り組むケースも多く、企業の機密情報が狙われるおそれもあるとして警鐘を鳴らしている。

2018/11/19

職員メールアドレスに不正アクセス、PW を類推か - 早大

早稲田大学商学学術院において、職員のメールアドレスが不正アクセスを受け、同アカウントで送受信した一部メールが、外部に流出した可能性があることがわかった。

同大によれば、職員のメールアドレス 1 件が不正アクセスを受けたもの。同アカウントで 7 月 25 日から 8 月 31 日にかけて送受信されたメールが外部へ流出した可能性があるという。メールによって内容は異なるが、氏名や住所、電話番号、生年月日、メールアドレスのほか、国籍、本籍地、学歴、職歴、研究業績などの個人情報が含まれる。

8 月ごろから同職員のアカウントでメール送信がブロックされることが複数回あったことから、通信記録を調べたところ、不正アクセスを受けていることへ気が付いた。

本誌の取材に対し同大は、同期間以外に送受信したメールについては、あらためて流出を否

定。設定変更による不正転送などの被害なども生じていないとしている。

またメール送信がブロックされる状況が生じたが、スパムメールの踏み台に悪用された被害も確認されていないという。

同大は、不正アクセスを受けた原因について「安易なパスワードを用いており、類推された可能性がある」とし、問題発覚後、不正アクセスを受けたメールアカウントのパスワードを変更した。

同職員が利用する端末に関してはマルウェアに感染した可能性は低いとする一方、感染の疑いも否定できないとして、同職員 PC のローカルデータをリセットした。

不正アクセスを行った攻撃者の動機について、同大では「調査の結果から愉快犯による不正ハッキング目的と考えられる」との見方を示した。

愉快犯とした根拠について説明を求めたところ、「対象者からの具体的な被害報告がない」ことからこのような表現になったと説明。

「しかしながら、状況の変化も考えられるため、今後の推移を見守っていきたい(同大広報)」とコメントしている。

2018/11/19

造血幹細胞移植患者などの個人情報紛失 - 秋田大病院

秋田大学医学部付属病院の医師が、患者の個人情報を保存した USB メモリを 9 月に紛失していたことがわかった。

同大によれば、9 月 6 日に同院医師が、研究目的で患者の個人情報を保存していた USB メモリを紛失したものの。

問題の USB メモリには、同院で過去 20 年間に造血幹細胞移植を行った患者 500 人の氏名や生年月日、コードを用いた移植様式、患者識別番号、存命状況などの情報が保存されていた。

あわせて呼吸器内科の患者 1 人の氏名や検査データ、画像データ、所見なども含まれる。

警察に紛失届を提出したが、見つかっていない。同院では対象となる患者に書面による謝罪を行っている。

情報セキュリティ事故事例

参考：Security NEXT

2018 年 10 月

2018/10/03

神戸大、業務 PC でアダルトサイト閲覧した職員処分 - 2 年で約 1220 時間

神戸大学は、業務用パソコンでアダルトサイトを閲覧していた職員に対し、停職 6 カ月の懲戒処分を行った。

同大によれば、事務職員が業務用に貸与されているパソコンとネットワークを私的に使用。断続的にアダルトサイトを閲覧していたという。内部から通報があり、本人と関係者から聞き取り調査を行ったところ、問題が判明した。

同職員が業務用のシステムを利用してアダルトサイトを閲覧していた時間は、調査対象となった約 2 年間で労働時間の内外あわせて約 1220 時間。そのうち約 730 時間は勤務時間内だったという。

同大では、職員として不適切な行為であり、同大の就業規則で定められている勤務怠慢や備品の私的利用など違反行為にあたるとして、同職員に対し、停職 6 カ月の懲戒処分を実施した。

2018/10/09

「恥ずかし動画公開」詐欺メール、9 月中旬以降に大量送信 7 回 - 被害額は約 250 万円超か

「アダルトサイトの閲覧姿を盗撮した」などとして金銭をだまし取る日本語の詐欺メールが出回っている問題で、少なくとも約 250 万円の被害が発生していることがわかった。

トレンドマイクロによれば、9 月に同様の手口を用いた詐欺メールが同月 19 日以降、7 回にわたり配信されたことを同社クラウド基盤で確認した。送信されたメールは、少なくとも 3 万件にのぼるという。

メールには 11 種類の件名が用いられていた。なかでも「緊急対応!」「AV アラート」「あなたの心の安らぎの問題」「すぐにお読みください!」との件名で 7 割近くを占めている。

一連のメールでは、受信者の環境があたかも攻撃を受けたことを印象付けようとするソーシャルエンジニアリングの手法が見られた。

攻撃者は、詐欺メールの受信者のメールアドレスを乗っ取ったなどと説明。送信者のメールアドレスを、受信者のメールアドレスに偽装することで信じ込ませようとしていた。

さらに実際に受信者が利用するパスワードをメール上に記載。不正アクセスやマルウェア感染による攻撃が成功したかのように見せかけていた。

今回発生した詐欺メールのキャンペーンにおいて、攻撃者がパスワードを入手した詳しい経緯はわかっていないが、インターネット上へ大量に流出しているアカウント情報を用いた可能性がある。

同社では被害状況を把握するため、一連の攻撃で支払先として指定されていた 8 件の Bitcoin アドレスにおける入金状況について調査。

最初に詐欺メールが送信された 9 月 19 日以降、46 件のトランザクションがあり、日本円で約 250 万円にあたる約 3.4BTC が入金されていたという。

同社では 10 月に入ってから同様の攻撃を確認しているとし、引き続き注意するよう求めている。

件名	割合
緊急対応！	17.8%
AVアラート	17.6%
あなたの心の安らぎの問題。	16.8%
すぐにお読みください！	16.6%
セキュリティ警告	6.2%
読んだ後に電子メールを削除！	5.8%
アカウントの問題	5.7%
あなたの秘密の生活	5.7%
あなたのアカウントは亀裂です	2.7%
私はあなたのアカウントをハックしている	2.6%
緊急のメッセージ	2.6%

詐欺メールの件名と送信された割合(表:トレンドマイクロ)

2018/10/23

入試受験予定者への案内メール誤送信でメアド流出 - 兵庫大

兵庫大学、兵庫大学短期大学部は、2019 年度の公募推薦入試の一部出願者に対するメールで誤送信が発生し、メールアドレスが流出したことを明らかにした。

同大によれば、10 月 19 日 20 時前に送信した試験会場の案内メールにおいて、誤送信が発生したもの。送信先を誤って「CC」に記載したため、メールアドレス 28 件が受信者間で閲覧できる状態となった。

受信者からの指摘があり問題が判明。同大では翌 20 日に対象となる出願者に謝罪し、誤送信したメールの削除を依頼している。

2018/10/24

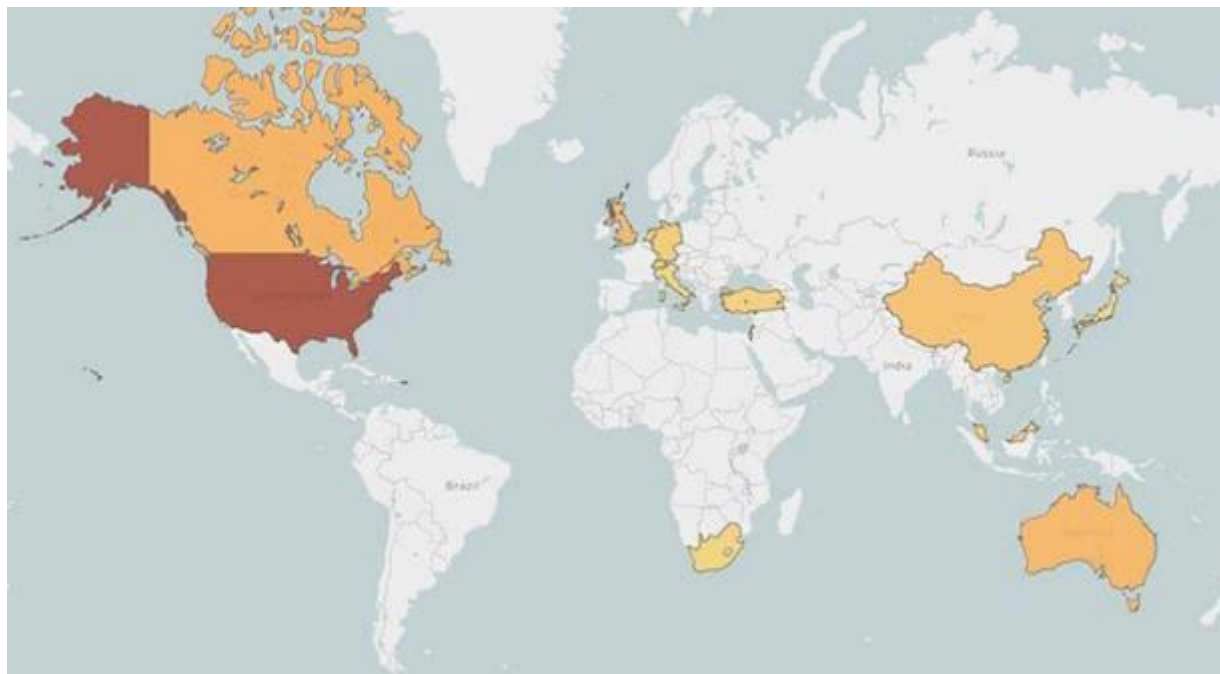
日本など 14 カ国の大学を狙う大規模攻撃 - 論文 DB 装うフィッシングで知的財産を標的に

イランに関わるとされる攻撃グループ「COBALT DICKENS」が、日本をはじめ、複数国の教育機関に対してフィッシング攻撃を展開していることがわかった。

Secureworks が、大学のログインページを装うフィッシングサイトを確認したことを契機に、攻撃に利用された IP アドレスについて調査したところ、認証情報の窃取を目的とした大規模な攻撃キャンペーンが展開されていることが判明した。

問題の IP アドレスでは、16 件のドメインを悪用。日本をはじめ、米国、カナダ、イギリス、スイス、トルコ、イスラエル、オーストラリア、中国など、少なくとも 14 カ国の 76 大学、300 以上のなりすましサイトを設置していた。

同社によると、標的となった国内の大学は少数だが、いずれもおもに英語で作成されており、各大学につき複数のフィッシングサイトが設置されていたという。



攻撃対象となった地域のヒートマップ（図：Secureworks）

これらフィッシングサイトでは、ログインページに見せかけてアカウント情報を狙っており、詐取後はフィッシング攻撃であったことへ気が付かせないよう、正規ページに遷移するしくみだった。

一部は論文検索システムなどを偽装。取得したアカウント情報などを用いて知的財産などにアクセスしていたと見られる。

これらフィッシングサイトへの誘導経路はわかっていないが、過去の攻撃傾向から、大学のライブラリシステムなどを装ったフィッシングメールにより誘導された可能性がある。

大学など学術機関に対するフィッシング攻撃では、メールシステムなどを装う手口も少なくないが、今回のキャンペーンに関しては、確認されていないとしている。

攻撃者は、2018 年 5 月から 8 月にかけてこれらドメインを登録。また 2018 年 5 月に登録したドメインには、ターゲットとした大学のサブドメインの文字列などを含めていた。

今回の攻撃について Secureworks は、利用するインフラや知的財産の窃取を狙う手口など、攻撃グループ「COBALT DICKENS」が過去に展開した攻撃と酷似すると指摘。

同グループは、イラン政府との関係が指摘されており、2018 年 3 月には米司法省が関係者と見られるイラン人 9 人を告発しているが、その後も攻撃を続けているものと同社は分析している。

大学では最先端の研究を行い、知的財産を保有する一方、セキュリティ対策への規制が厳しい金融機関やヘルスケア関連事業者に比べ、セキュリティ対策が甘く、攻撃対象になっていると指摘している。

2018/10/25

明大、複数メールアドレスに不正アクセス - 情報流出やスパム送信が発生

明治大学は、同大関係者のメールアドレスが不正アクセスを受け、情報流出や迷惑メールの踏み台に悪用されたことを明らかにした。

同大によれば、教員や客員研究員、付属高校教諭が不正アクセスを受け、7月から10月にかけてあわせて3件のメールアドレスが乗っ取られる被害が発生したものの。

送受信したメールを第三者に取得され、迷惑メールの送信に悪用されたという。

7月28日に教員のメールアドレスが不正アクセスを受け、同アカウントで以前に送受信したメールや添付ファイルなど1540件をダウンロードされた。

これらデータには、教職員や学生、卒業生、学外関係者あわせて771人の氏名やメールアドレスなどが含まれる。また同アカウントを通じて、5677件におよぶ迷惑メールが送信された。

また5日後の8月2日には、客員研究員のメールアドレスが不正アクセスを受け、迷惑メール927件が送信され、送受信したメールや添付書類394件が流出。

客員研究員がパスワードを変更し、一時不正アクセスは収まったが、再び10月13日に不正アクセスを受けてメール292件が流出。143件の迷惑メールが送信されたという。

さらに、付属高校教諭のメールアドレスでも8月28日に被害が発生。不正アクセスにより、送受信したメールや添付ファイル578件がダウンロードされ、さらに迷惑メール225件が発信された。

ダウンロードされたメールには、生徒303人のほか、教職員や保護者、学外関係者などあわせて374人の個人情報が含まれる。

今回の問題を受け、同大では関係者に対し、事情の説明や謝罪を行っている。

2018/10/30

メール誤送信でオープンキャンパス申込者のメールアドレス流出 - 岐阜保健大

岐阜保健大学は、メールの誤送信により、オープンキャンパス申込者のメールアドレスが流出したことを公表した。

同大によれば、10月23日11時前に、オープンキャンパス参加申込者51人に対して送信したメールにおいて誤送信が発生したものの。送信先を宛先として送信したため、受信者間でメールアドレスが確認できる状態となった。

送信の翌日に受信者からの連絡があり判明。同大では対象者に謝罪するとともに、誤送信したメールアドレスの削除を依頼している。

情報セキュリティ事故事例

2018 年 9 月

2018/09/03

シンポジウム案内メールで誤送信 - 大阪市立大

大阪市立大学は、シンポジウムの案内メールで誤送信が発生し、メールアドレスが流出したことを公表した。

同大によれば、8 月 31 日 16 時前に送信した「平成 30 年度ダイバーシティ研究環境実現シンポジウム」の案内メールにおいて誤送信が発生したもの。前回シンポジウムの参加者 75 人に対し、誤って送信先を「CC」に設定して送信。受信者間でメールアドレスが閲覧できる状態となった。25 人に関しては学内関係者としており、5 人は配信不能だったという。

メールを誤送信した職員とは別の職員が誤送信に気付き、同日中に対象者にメールで謝罪。あわせて誤送信したメールの削除を依頼している。

2018/09/18

メールアカウントがフィッシングメール送信の踏み台に - 京都教育大

京都教育大学において、一部ウェブメールのアカウントが乗っ取られ、フィッシングメールを送信する際の踏み台に悪用されたことがわかった。

同大によれば、7 月 30 日と 8 月 2 日に米国を発信元とする 3 件の IP アドレスよりメールシステムに対する不正アクセスを受けたもの。教職員のアカウント 1 件が踏み台として悪用され、学外のメールアドレス約 1 万件に対し、フィッシングメールが送信された。

同大の複数関係者にフィッシングメールが届いており、誘導先のウェブサイトでアカウント情報が詐取されたものと見られる。

フィッシングメールは、特定製品の警告メッセージに見せかけ、メールボックスの保存容量を超えてメールの送受信ができなくなるなどと不安を煽る内容だった。踏み台として外部に送信されたフィッシングメールも、同様の内容だったという。

同大では、ウェブメールにおける操作ログを取得しており、不正アクセス元の IP アドレスよりメールの受信ボックスを開く操作などは行われていなかったことから、同アカウント経由の情報流出については否定した。

また同大では 4 月にも類似したフィッシング攻撃を受け、アカウントの乗っ取り被害が発生している。

同大では予算の確保が難しく、費用をかけずに導入できる対策として、パスワードを用いた二段階認証の準備を進めてきたと説明。今回の問題を受け、導入予定時期を繰り上げ、9 月より導入を開始するとしている。

2018/09/21

慶大、A0 入試出願者の関連書類を誤表示 - システム不具合で

慶応義塾大学は、A0 入試のウェブエントリーシステムに不具合があり、関係ない他出願者の出願関係書類を閲覧できる状態だったことを明らかにした。

同大によれば、総合政策学部および環境情報学部のアドミッションズオフィス（A0）入試において、8 月 3 日 8 時半から 10 時半ごろにかけて、関係ない別の出願者に関する出願関係書類を閲覧できる状態となったもの。出願者 5 人から問い合わせがあり、問題が発覚した。2019 年 4 月入学 I 期に出願した出願者最大 72 人の出願関係書類が、流出した可能性がある。一方、自分以外の出願関係書類を閲覧した可能性があるのは最大 94 人としており、そのなかには情報が漏洩した 72 人中 35 人が重複しているという。

今回の不具合について同大は、8 月 2 日 23 時から 3 日 8 時半ごろまでサーバがダウンし、復旧後にアクセスが集中したことと、プログラム上の問題が重なったことに起因すると説明。対象となる出願者に説明と謝罪を行っている。

2018/09/28

フィッシングで複数職員がアカウントが乗っ取り被害 - 新潟大

新潟大学において、複数の教職員のメールアカウントがフィッシングにより乗っ取られたことがわかった。迷惑メールを送信するための踏み台に悪用されたほか、個人情報が閲覧された可能性がある。

同大によれば、4 月 17 日から 5 月 14 日にかけて、複数の教職員が同大のメール管理者を装ったフィッシングメールを受信。そのうち 6 人が、フィッシングサイトにパスワードを入力したため、アカウントが不正アクセスを受けたという。

不正アクセスを受けた教職員 2 人のメールアカウントが悪用され、5 月 10 日と同月 15 日に、約 36 万件の迷惑メールが送信された。

また 3 人のメールアカウントには、個人情報を保存。学内関係者の氏名、役職、学年など 32 件、学内関係者の送信者名とメールアドレス、一部電話番号など 47 件、学外関係者の送信者名とメールアドレス、一部電話番号など 29 件が含まれ、これら情報が第三者に閲覧された可能性がある。

同大では対象となるメールアカウントを停止。教職員に対して注意喚起を行った。個人情報が流出した可能性がある関係者には個別に対応を進めている。

また発表のタイミングについて個人情報の有無、流出内容の特定など綿密な調査で時間を要したと説明、謝罪している。

情報セキュリティ事故事例

2018 年 8 月

2018/08/03

教員が関係者情報含む PC をスペインで盗難被害 - 九大

九州大学は、同大教員が出張先の海外において、学生や同大資料館の利用者情報などを保存していたパソコンを盗まれたと発表した。

同大付属図書館付設記録資料館の教員が、6 月 23 日に資料の調査のために訪れたスペインで、食事をしていた際にパソコンを入れた鞆が置き引き被害に遭ったという。

持ち去られたパソコンには、教員がアルバイトとして採用した学生 15 人分の氏名や生年月日、所属ゼミ、出勤状況、送受信したメールなどのデータを保存。

また氏名や電話番号、メールアドレスなど同館利用者 55 人分の情報や同教員が非常勤講師を務める他大学の学生情報なども含まれるとしている。

現地の警察へ被害を届けたが見つかっておらず、同大では、連絡先が判明した同大関係者に対して文書で事情を説明、謝罪している。

2018/08/06

誤送信でオープンキャンパス申込者のメールアドレス流出 - 順天堂大

順天堂大学は、オープンキャンパスの受付完了を知らせるメールにおいて送信ミスがあり、メールアドレスが流出したことを明らかにした。

同大によれば、7 月 30 日 17 時過ぎに、保健医療学部開設準備室よりオープンキャンパスの事前申込者 57 人へ送信したメールにおいて、誤送信が発生したもの。送信先を誤って宛先に設定したため、受信者間にメールアドレスが流出した。

送信直後に誤送信に気づき、同日中に対象となる申込者に謝罪。誤送信したメールの削除を依頼している。

2018/08/10

退職医師が患者の個人情報を不正に持ち出し - 東京女子医科大

東京女子医科大学東医療センターにおいて、退職した医師が患者の個人情報を不正に持ち出していたことがわかった。

一部週刊誌が報じたことから明らかになったもので、退職した医師が、在籍中に担当していた患者の個人情報を不正に持ち出していたことが判明したもの。持ち出した個人情報には、氏名や電話番号などが含まれていたとし、同院では対象となる患者へ書面で謝罪している。

同院は、同医師がデータを持ち出した経緯や件数、内容などは明らかにしていない。本誌の取材に対し、同院では「警察に相談し、捜査中の案件であるため、現時点での回答は控える」としてコメントを避けている。

2018/08/10

教員免許更新講習の連絡メールで誤送信、メアド流出 - 山形大

山形大学は、教員免許状の更新講習に参加する受講者宛てメールにおいて誤送信が発生し、メールアドレスが流出したことを明らかにした。

同大によれば、7月31日19時半過ぎに送信した教員免許状更新の講習に関する連絡メールにおいて誤送信が発生したもの。送信先を誤って宛先に設定したため、受講者185人のメールアドレスが受信者間で閲覧できる状態となった。

同大では翌8月1日に、対象となる受講者へ謝罪のメールを送信。あわせて誤送信したメールの削除を依頼した。また講習会場でもあらためて謝罪したとしている。

2018/08/24

不正アクセスで不祥事対応の内部情報が流出 - 高知県立大

高知県立大学が不正アクセスを受けたことがわかった。内部情報が漏洩し、不祥事対応に関する資料が職員に一斉送信されたほか、システムが変更されるといった被害も生じたという。同大によれば、8月20日4時過ぎ、同大職員のメールアドレスから、全教職員228人宛てに、本来送信されることのない内部情報が一斉送信されたことから不正アクセスが発覚したもの。

同大が調査したところ、同大大学院が学外で利用するメールサービスが不正アクセスを受け、同サービスへ転送された学内のメールが外部に流出したほか、管理者パスワードが変更され、約20人のユーザー登録が削除されていることが判明した。

さらに大学院のウェブサイトにおいて、関連するページが削除されていたという。

一斉送信されたメールには、永国寺図書館の蔵書処分に関する問題に対しての同大コメント案や同問題に対する情報開示請求書などが添付。

さらに酒気帯び運転で検挙された同大職員への対応を協議した内容や職員のネット購入履歴なども含まれるという。

同大では、問題のメールが送信された同日20日6時半ごろ、事態を把握。同メールを削除するよう教職員へ通知するとともに、学内の教職員用メールサーバを停止。

翌21日、同メールサーバを復旧し、外部に対するメールの自動転送について登録制へ変更するとともに、高知県警に捜査を依頼したという。

情報セキュリティ事故事例

2018 年 7 月

2018/07/02

フィッシング攻撃でアカウント乗っ取り、メールが不正転送 - 弘前大

弘前大学は、教職員 12 人がフィッシング攻撃を受けてメールアカウントを不正に操作され、受信したメールが外部へ流出したことを明らかにした。

同大によれば、フィッシング攻撃により教職員 12 人が利用しているメールサービスのアカウント情報が奪われ、不正に操作された。

5 月 23 日に同大システム管理者がフィッシングメールの受信を把握。翌 24 日にフィッシングサイトへのアクセスをブロックしたが、同一の差出人を名乗るフィッシングメールが 6 月 1 日に届き、別のサイトへ誘導するなど、繰り返し攻撃を受けたという。

問題のメールは、「Office365 team」を名乗っており、メールの送信が失敗したとして再送信を促す内容を英文で記載。HTML メールで本文中のリンクをクリックさせるものだった。

教職員 242 人へ送信され、そのうち 12 人が誘導先の偽サイトに誤ってパスワードを入力。

メールの転送先が不正に設定され、受信メールあわせて 3151 件が外部へ転送された。

外部へ流出したメールに含まれる情報で、現時点で判明しているのは、送受信者の氏名とメールアドレスが 2457 件、氏名、住所、電話番号、性別など 2517 件。

同大では転送されたメールにさらなる情報が含まれていないか確認するとともに、メールボックスに保存された送受信メールから個人情報や機密情報などを取得されていないかログを調べている。

同大では、不正に転送されたメールの差出人に対し、報告と謝罪を行った。また今後は、2 要素認証を含めた総合的な対策を検討するとしている。

2018/07/23

症例要約含む USB メモリを医学部で紛失 - 群馬大

群馬大学は、医学部において個人情報を含む USB メモリが、所在不明になっていることを公表した。

同大によれば、症例の要約を記録した USB メモリを紛失したもの。2 月以降の実習時に医学部の学生によって作成されたデータが保存されていたもので、学生が、学外で紛失した可能性があるという。

個人が特定できるデータは 1 件のみとしており、氏名や年齢、性別、病歴、診断内容などが含まれる。また別に 7 件の要約も保存されていたが、個人は特定できないとしている。

同大では、個人が特定可能なデータの関係者に対し、説明と謝罪を行っている。

2018/07/27

職員と部署のメールアドレスに不正アクセス、メール漏洩やスパム送信など - 明大

明治大学は、職員や部署のメールアドレスが不正アクセスを受け、送受信したメールが窃取されたほか、迷惑メール送信の踏み台に悪用されたことを明らかにした。

同大によれば、職員、部署それぞれ1件のメールアドレスが不正アクセスを受けたもの。職員のメールアドレスは、6月30日に不正アクセスを受け、同アカウントを通じて迷惑メール415件が送信された。

また、同アカウントで送受信されたメールおよび添付書類332件をダウンロードされていたという。

これらメールには、学生と卒業生31人分の氏名や学生番号、勤務先での役職名などが含まれる。さらにメールアドレス69件も流出した。

さらに7月12日には、同大所属機関のメールアドレスが不正アクセスを受け、迷惑メール30件が送信された。同アカウントにおいて送受信したメールおよび添付ファイル1168件を窃取されたという。

送受信したメールには、教職員や学生、学外関係者など81人分の氏名、所属、勤務先、メールアドレスなどが含まれていたほか、201件のメールアドレスが流出した。

同大では対象者に説明と謝罪を行うとともに、文部科学省と個人情報保護委員会へ報告を行っている。

	(1) 職員メールアドレスへの不正アクセス	(2) 部署メールアドレスへの不正アクセス
① SPAMメール送信件数	415件	30件
② 漏えいメール件数	332件	1168件
③ 個人情報that漏えいした方	31名 ・本学学生 6名（所属，氏名，学生番号） ・卒業生 25名（氏名，卒年，勤務先等における役職名）	81名 ・本学教職員：13名（氏名，所属，メールアドレス等） ・本学学生：2名（所属，氏名） ・学外者：66名（氏名，勤務先，メールアドレス等）
④ メールアカウントのみ漏えいした方	69名	201名

被害状況(表:明治大学)

2018/07/30

職員採用説明会の案内メールを編集中に誤送信 - 北陸先端大

北陸先端科学技術大学院大学（JAIST）は、職員採用説明会の開催案内メールにおいて誤送信が発生し、メールアドレスが流出したことを明らかにした。

同大によれば、7月25日14時半ごろ、メールを編集していたところ誤って送信してしまったという。送信先のメールアドレス90件が、受信者間で閲覧できる状態で送信されたという。

同日19時過ぎに、対象者へ謝罪するとともに、誤送信したメールの削除を依頼している。

2018/07/31

個人情報含む教員の私物パソコンが学内で盗難 - 東大

東京大学は、教員が所有するパソコンが、学内で盗難被害に遭ったことを明らかにした。学生や非常勤講師の個人情報が保存されていたという。

同大によれば、同大総合文化研究科の教員が、7月9日に学内のイベント参加中、パソコンを鞆ごと盗まれたもの。

問題の端末には、同教員が2016年度から2018年度まで担当した一部科目の受講生384人分の個人情報を保存。氏名、学生証番号、成績が含まれる。また非常勤講師7人分の氏名や住所、連絡先、生年月日を含むファイルが保存されていた。

端末内部のデータは、暗号化されていなかったという。同大では、対象者に文書による説明と謝罪を行っている。

情報セキュリティ事故事例

2018 年 6 月

2018/06/07

教職員 29 アカウントが乗っ取り被害、メール 3500 件を攻撃者へ転送 - 横浜市立大

横浜市立大学は、教職員が利用しているクラウドサービスの ID とパスワードがフィッシング攻撃により詐取され、受信したメールが外部へ意図せず転送され、外部へ流出していたことを明らかにした。

同大で利用するクラウドメールサービスの ID とパスワードが、フィッシング攻撃により詐取されたもの。これらアカウントでは受信したメールが外部へ転送されるよう設定されていた。

同大によれば、メールの管理者を装って「送信サーバの障害によりメールの送信ができません」などとだまし、クラウドメールサービスのログイン画面を模した偽サイトへ誘導するフィッシングメールが、4 月 24 日から 5 月 23 日にかけて 1037 件のメールアカウントへ届いたという。そのうち 29 件のアカウントで、誤って ID やパスワードを入力、詐取されていた。5 月 28 日に同大教員から転送設定しているメールアドレスへメールが届かないとの連絡があり、外部への不正なメール転送が発覚。他教職員や学生に対してメール転送の設定状況を確認するよう求めたところ、29 件のメールアカウントで意図せず転送されていることが判明した。

不正に転送されたメールは 3512 件にのぼり、メール送信者の氏名とメールアドレス 3512 件のほか、本文や添付ファイルに記載された氏名や住所、電話番号 2266 件、学生情報 16 件のあわせて 5794 件の個人情報が含まれる。

同大では、5 月 23 日の時点でフィッシングメールを検知しており、同日にシステム管理者からすべての教職員と学生に注意喚起を行っていたという。

同大では、全教職員と学生に対し、パスワードを変更しメールの転送設定を停止するよう通知。パスワードの有効期限を設定し、一定期間変更しないと無効になり、メールサービスにログインできないよう措置を講じた。

また、転送されたメールの送信者に対しメールで謝罪を行い、問い合わせ窓口を設置するなど対応を進めている。

2018/06/11

学生の個人情報含む USB メモリを紛失 - 関西大

関西大学は、非常勤講師が学生の個人情報が保存された USB メモリを紛失したことを明らかにした。

同大によれば、外国語科目の担当講師が、学生の個人情報が保存された USB メモリを紛失したもの。問題の USB メモリには、講師が 2014 年度から 2018 年度に担当した中国語の履修者

555 人分の氏名、学籍番号が記録されていた。そのうちのべ 189 人については、成績情報も含まれる。

今回の問題を受け、同大では対象となる学生に対し、個別に連絡して説明と謝罪を行うとしている。

2018/06/11

誤送信で学生のメールアドレスが流出 - 東京音大

東京音楽大学は、3 年生および 4 年生の一部に送信した案内メールにおいて誤送信が発生し、メールアドレスが流出したことを明らかにした。

同大によれば、6 月 8 日 11 時半から 12 時にかけて大学院課が送信した「修士課程 平成 31 年度入試説明会」の開催案内メールにおいて、誤送信が発生したもの。送信先を誤って宛先に設定したため、メールアドレス 512 件が受信者間で閲覧可能な状態となった。

受信者からの指摘で誤送信が判明。同大では同日中に対象となる学生に謝罪し、誤送信したメールの削除を依頼している。

2018/06/13

USB メモリを紛失、成績など学生の個人情報を保存 - 大阪産業大

大阪産業大学は、学生の個人情報が保存された USB メモリが所在不明となっていることを明らかにした。

同大によれば、中国語を担当する非常勤講師が USB メモリを紛失したもの。問題の USB メモリには、2017 年度後期に担当した学生 106 人の氏名、学籍番号、成績情報などが保存されていたという。

同大では、対象となる学生へ連絡を取り、謝罪した。紛失した個人情報の悪用などは確認されていないという。

2018/06/14

学生の個人情報を記録した USB メモリが所在不明 - 神戸市外国語大

神戸市外国語大学は、学生の個人情報含む USB メモリを非常勤講師が紛失したと発表した。同大によれば、非常勤講師が USB メモリを紛失したことが 6 月 7 日に判明したもの。紛失した USB メモリには、2016 年度後期から 2017 年度後期までの講義を履修した学生のうち 9 人の氏名や学籍番号、提出した作文などが保存されていた。

警察へ届け出るとともに、利用した交通機関にも問い合わせを行っているが、見つからない。同大では対象となる学生に説明と謝罪を行っている。

2018/06/15

学生の個人情報含む USB メモリを紛失、一部にテスト結果も - 大阪電通大

大阪電気通信大学は、学生の個人情報が保存された USB メモリの紛失が発生したことを明らかにした。

同大によれば、中国語担当の非常勤講師が USB メモリを紛失したもの。問題の USB メモリには、2016 年度から 2017 年度に同講師が担当した科目の履修者 113 人の氏名と学籍番号が記録されていた。そのうち 23 人は、小テストの結果も含まれる。

同大では対象となる学生に対し、説明と謝罪を行うとしている。

2018/06/22

学生や教職員の個人情報含む PC を紛失 - 北海道科学大

北海道科学大学は、学生や卒業生、教員などの個人情報含むノートパソコンを、教員が紛失したことを明らかにした。

同大によれば、6 月 8 日に薬学部の教員がノートパソコンを紛失したもの。

紛失したパソコンには、同大薬学部の学生、北海道薬科大学卒業生の氏名と学生番号、および教職員の氏名とメールアドレスなど、約 2000 人の個人情報に比べ、同教員が加入している学会や会議などの関係者約 1000 人の氏名などが保存されていた。

利用した交通機関や警察への届け出を行ったが、発見されていない。同大では、対象となる学生や関係者に対し、書面による報告と謝罪を行ったとしている。

2018/06/26

個人情報入り PC がドイツで盗難、発生は 4 カ月前 - 久留米大

久留米大学は、教員が海外の研修先であるドイツで盗難に遭い、学生の個人情報を保存したパソコンが盗まれたことを明らかにした。

同大によれば、同教員が 2 月 27 日に学生の海外研修の引率で訪れたドイツのホテルで、パソコンの盗難被害に遭ったもの。持ち出すためのパソコンが研修に出発する直前に故障したため、別のパソコンを持参したところ、個人情報の削除が不十分だったという。

問題のパソコンには、レポートの提出状況やレポート、出欠確認、海外研修の手続き書類など、学生や大学院生のべ 679 人分の個人情報が保存されていた。氏名や学籍番号、メールアドレスなどが含まれる。

またこれ以外に、同教員が非常勤講師を務める他大学の学生の情報も含まれる。海外研修の手続き書類や授業のメモなど一部は暗号化していたが、それら以外のデータは、暗号化していない可能性が高いとしている。

今回の盗難は 2 月末に発生しており、公表まで 4 カ月近くを要したが、同大では公表が遅れたことについて、盗まれたパソコンにどのような情報が保存されていたかの精査に時間がかかったと説明。対象となる学生には、事情を説明し、謝罪する書面をすでに送付している。

2018/06/28

教職員アカウントに不正アクセス、メールが外部へ転送 - 沖縄県立看護大

沖縄県立看護大学は、フィッシング攻撃によって教職員 1 人のメールアカウントが乗っ取られ、メールが意図せず外部へ転送されていたことを明らかにした。

同大によれば、教職員 1 人が学内で利用しているクラウドサービスの ID とパスワードが、フィッシング攻撃により詐取されたもの。5 月 15 日に同サイトを装ったフィッシングメールが届き、誘導先のフィッシングサイトで誤って ID とパスワードを入力してしまったという。

アカウントを詐取されたことで、攻撃者によってメールの設定が不正に変更され、5 月 15 日から 6 月 6 日にかけて同教職員へ送信されたメール 313 件のうち 210 件が、意図せず外部へ転送されていたことが判明した。

転送されたメールには、学内関係者 295 人、沖縄県の職員 24 人、学外関係者 11 人の氏名が含まれる、メールアドレス 140 件や個人の電話番号 50 件、学籍番号 159 件なども含まれ、重複分を除いた個人情報 は 330 件。

同大では、メールの不正な転送が行われないよう設定を変更し、全教職員への注意喚起を行った。また、警察に届け出を行い、個人情報 が漏洩した関係者には説明と謝罪を行ったとしている。

情報セキュリティ事故事例

2018 年 5 月

2018/05/01

複数アカウントが迷惑メール送信の踏み台に - 東北工業大

東北工業大学の一部メールアカウントが何者かに乗っ取られ、不特定多数に対して、迷惑メールの送信に悪用されたことがわかった。

同大によれば、教職員のメールアカウント 3 件に対し不正アクセスがあり、そのうち 2 件が迷惑メールの踏み台に悪用された。

3 月 6 日から 4 月 16 日にかけて、米国やナイジェリアなどの IP アドレス 11 件を発信元とする不正アクセスを受けたという。

1 件のアカウントから約 57 万件、もう 1 件のアカウントから約 14 万件のメールが送信され、送信された迷惑メールは、フィッシングメール、宝くじの当選を装って連絡を求める詐欺メールなど、10 種類におよんだ。

乗っ取り被害に遭ったメールアカウントの利用者は、「電子メール保守サービス」を名乗り、メールの保存容量の上限を超え、メールの送受信ができなくなるなどとだますフィッシングメールを受信。誤って誘導先のフィッシングサイトで ID とパスワードを入力してしまったという。

今回の不正アクセスに関して同大では、ウェブメールのログから攻撃者の操作を追跡。受信ボックスのメール一覧が表示されたり、メールの送信テストを行ったと見られるアクセスを確認したが、特定のメールや本部の検索、表示、ファイルのダウンロードなどの操作を行った痕跡はなく、個人情報や機密情報の漏洩はなかったと結論付けている。

同大では今回の問題を受け、対象アカウントのパスワードを変更。教職員と学生に対し、フィッシングメールやパスワードの管理について注意喚起を行っている。

2018/05/16

プレスリリースを誤送信、報道機関のメアド流出 - 札幌医科大

札幌医科大学は、報道機関向けのリリース提供メールにおいて誤送信が発生し、メールアドレスが流出したことを明らかにした。

同大によれば、5 月 14 日 16 時ごろに報道機関向けのプレスリリースをメール送信した際、誤送信が発生したもの。報道機関 15 社に対し、送信先を誤って「CC」に設定して送信したため、受信者間でメールアドレス 30 件が閲覧できる状態となった。

担当職員が送信後に気づき、上長へ報告。同日 19 時ごろ、同大から対象となる報道各社へメールで謝罪するとともに、誤送信したメールの削除を依頼した。

2018/05/18

攻撃者がメール転送設定を変更、受信した個人情報外部に - 立命館大

立命館大学が主催する国際研修の応募者に関する個人情報が外部に流出した。フィッシングメールによりアカウント情報が奪われ、受信メールが外部に転送されるよう設定が変更されたという。

歴史都市防災研究所が主催する 2018 年ユネスコチェア国際研修「文化遺産と危機管理」に、海外から応募した 264 人分の個人情報が外部へ流出したもの。氏名や所属組織の住所、電話番号、生年月日、性別、現職、学歴、職務経験、国籍などが含まれる。

同大によれば、研修への申し込みを受け付けるために用意したメールアカウントにおいて、4 月 24 日に「未読メールが 13 通残っている」などと記載されたマイクロソフトの通知を装うフィッシングメールを受信。

同研究所の職員が誤ってメールに記載された URL へアクセスし、誘導先の「Office365」を装ったページよりアカウント情報を入力してしまったという。

攻撃者は奪ったアカウント情報でログインし、同メールアカウントで受信したメールを外部に転送するよう設定を変更。期間中に、応募者の個人情報リストが添付されたメールや、応募者の参加申請書や履歴書などのメールを同アカウントで受信したことから外部へ不正に転送された。

さらに転送されたメールの一部には、参加申請書や履歴書を保管していたクラウドサービスにおける共有フォルダの URL を記載。パスワードなしに共有フォルダへアクセスできる状態だったため、応募者 264 人のうち、共有フォルダに保存されていた 261 人分の参加申請書や履歴書についても取得された可能性がある。

今回の問題を受け、同大では関係者に対して、メールで事情を説明し、謝罪を行った。

また問題のアカウントは、今回の研修用に用意したものであり、不正にログインされたものの、転送されたメール以外の情報漏洩はないと同大では説明。ログから不正なログインは 1 回のみであることも判明しており、スパムメールを送信するための踏み台などに悪用された形跡もなかったとしている。

2018/05/31

職員のメールアカウントが詐取、メールが外部へ転送 - 富山県立大

富山県立大学は、複数の教職員がフィッシング攻撃によってメールアカウントの ID とパスワードが詐取され、攻撃者により設定が変更されて受信したメールが外部へ意図せず転送されていたことを明らかにした。

フィッシングによる被害が発生した富山県立大

同大によれば、教職員 5 人のメールアカウントの ID とパスワードが、フィッシング攻撃により詐取されたもの。複数の教職員にフィッシングメールが届いたが、5 人が誤ってフィッシングサイトに ID とパスワードを送信してしまったという。

5月16日に1人が詐取され、さらに同月23日未明に4人が入力。同日9時過ぎに事務局が注意喚起を行い、詐取された5人のいずれも同日午前中にはパスワードの変更を済ませていた。

しかし同月28日、メールの転送を失敗したことを通知する身に覚えのないメールが教職員1人に届いたことから問題が発覚。調査を行ったところ、3人のメールアカウントで、メールが自動的に転送されるよう設定が変更されていたことが判明した。

転送設定が行われた5月16日から、アカウントを凍結した同月28日にかけて、これらアカウントで受信したメール275件が外部に流出した。受信したメールには、学生の個人情報や、学外関係者の情報も含まれるとしている。

またこれらアカウントの送受信フォルダに保存されていたメールが、攻撃者によって閲覧された可能性がある。

同大では、関係者に対して事情を説明して謝罪を行った。被害などの報告は受けていないという。また不正にメールの転送設定が行われないよう、システムの設定を変更している。

2018/05/31

客員教授のメールアカウントに不正アクセス、スパム送信の踏み台に - 京都薬科大

京都薬科大学は、客員教授のメールアカウントが乗っ取り被害に遭い、迷惑メール送信の踏み台に悪用されたことを明らかにした。

同大によれば、客員教授1人のメールアカウントが被害に遭い、4月19日から5月11日までにスパムメールやフィッシングメールなど少なくとも3699件のメールが意図せず不特定多数に対して送信されたという。4月19日以前についてはログが残っておらず、同アカウントが悪用された期間は不明。

第三者によってアカウント情報が奪われており、同大ではフィッシングなどの被害に遭ったものと見ているが、本人は身に覚えがないと話しており、詳しい原因はわかっていないという。

同メールアカウントにおいて、同教授が個人的に送受信したメールが攻撃者によって取得された可能性があるが、ログが残っておらず、確認できない状態となっている。

一方、同大では不正アクセスを受けた客員教授は、大学関連の個人情報に対するアクセス権限を持っておらず、大学としても提供していないため、メールアカウント上から情報が流出した可能性はないと説明。

同大情報システムへの不正アクセスや、システムの改ざん、情報流出についても否定している。

同大では対象となる教授のメールアカウントを停止。すべての職員および学生においてメールアカウントのパスワードを変更するなどの対策を講じている。

情報セキュリティ事故事例

2018 年 4 月

2018/04/05

播磨町教委の「校務支援システム」に不正アクセス - ランサム感染か

兵庫県播磨町は、同町教育委員会に設置されたサーバに対する不正アクセスや、マルウェア感染の被害が確認されたことを明らかにした。個人情報の流出については否定している。町立小学校と中学校で使用する「校務支援システム」の管理サーバが不正アクセスを受けたことが、3 月 15 日に判明したもの。同サーバがマルウェアに感染し、対応時に不正アクセスの被害を把握したという。

同町によれば、不正アクセスを受けた期間や回数、原因などは調査中としているが、感染したマルウェアは「ランサムウェア」だと見られている。

また「校務支援システム」では児童や生徒、教諭の情報を扱っているが、不正アクセスを受けた管理サーバとは別のサーバに保存されており、これらサーバからの情報流出は確認されなかったと説明している。

同町ではネットワークを切断してマルウェアの駆除を実施。原因や被害状況の調査を進めるとともに、保守体制の見直しを図るとしている。

2018/04/24

不正アクセスで迷惑メールの踏み台に - 京都教育大

京都教育大学において、ウェブメールのアカウントが乗っ取られ、フィッシングメールを送信する際の踏み台に悪用されたことがわかった。セキュリティ対策の強化を検討しているが、費用確保が難しい状況に置かれているという。

同大によれば、2 月 10 日から 11 日にかけて、メールシステムに対する不正アクセスがあり、アカウント 1 件が踏み台として悪用されたもの。デンマークの IP アドレスから不正アクセスが行われ、約 36 万件のメールアドレスに対してフィッシングメールが送信されたという。メールのアカウント情報は、フィッシングメールを通じて詐取されたものと見られている。問題のメールでは、メールシステムのヘルプデスクが発信したかのように見せかけており、「メールボックスの保存容量が上限に達した」などとだます内容だった。

同大では、個人情報や機密情報などの送信に同メールアカウントを利用したことはないとしているが、ウェブメールが不正アクセスを受けたため、送受信先の情報やメールの記載内容が閲覧された可能性は否定できないとしている。

同大では、従来より利用者に対する注意喚起など研修を実施してきたが、利用者個人の対策に限界を感じており、二要素認証について導入を検討しているところだったという。

一方で苦しい財政事情もあるようだ。「セキュリティ対策を強化するシステムの導入を検討しているが、費用の確保に苦慮している（同大）」と状況を説明する。

政府では、2004 年度の国立大学の法人化以降、運営費交付金の削減を推進。同大においても約 1 割が削減されている。国立大学においては、交付金の減少で経営状況の悪化などの指摘が出ている。

2018/04/25

体力測定参加者の個人情報含む USB メモリを紛失 - 京都橘大

京都橘大学は、滋賀県守山市が主催した体操教室および体力測定会参加者の個人情報含む USB メモリを紛失したことを明らかにした。

同大によれば、教員が代表者となっている共同研究のため、同市が主催した「健康のび体操教室」と体力測定会の参加者から収集したデータを保存した USB メモリを紛失したもの。問題の USB メモリには、参加者 48 人の氏名、年齢、体力測定値、問診内容などが保存されていた。

4 月 9 日、研究の補助をしていた学生が、自宅でデータ処理を行うため私物の USB メモリにデータを移して帰宅。翌日、USB メモリを紛失していることに気付いた。移動経路を調べたほか、警察へ届けているが見つからない。

今回の共同研究では学生がデータを扱うことは承認されておらず、データ匿名化のルールも守られていなかった。同大では、対象となる参加者への謝罪文を同市に提出。共同研究者に対しても謝罪を行っている。

2018/04/27

一部学費請求書を誤送付、前年データ流用後に作業ミス - 横浜市立大

横浜市立大学は、学費請求書の一部が誤った住所へ送付されたことを明らかにした。システムに追加するためにデータを作成した際、作業ミスがあったという。

同大によれば、4 月 16 日に新入生の保証人へ送付した学費請求書の一部において誤送付が発生したもの。郵便局から請求書が返送されたことから問題に気が付いた。学費請求書には、2018 年度の新入生と保証人の氏名と学籍番号が記載されている。

誤送付した件数は 70 件。そのうち 31 件が誤った宛先に届く可能性があり、2 件については誤った宛先に届いて同大へ連絡があった。また 37 件は宛先不明で返送されたとしている。誤送付が発生した原因は、データ作成時のミスによるものだった。同大では、教務電算システムへアップロードするデータについて、更新項目がずれないように前年度に利用したデータのコピーに上書きする方法を用いて作成していたが、請求先住所の項目を上書きしなかったため、2018 年度の新入生 70 人分の請求先住所が、前年度の新入生の住所として登録されてしまったという。

同大では誤送付先に電話で連絡し、説明と謝罪を実施。返信用封筒を発送し、誤送付した請求書の回収を進めている。また本来の送付先となる保証人に対しても謝罪し、あらたな学費請求書を発送している。

情報セキュリティ事故事例

2018 年 3 月

2018/03/09

個人情報含むファイルをメール誤送信 - 香川大

香川大学は、カンボジアで実施するプロジェクトの非常勤職員を採用する選考過程において、一部応募者へメールを送信する際にミスがあり、誤って他応募者の個人情報含むファイルを添付していたことを明らかにした。

同大によれば、2 月 13 日に事務職員が非常勤職員の採用選考の応募者 5 人へ送信したメールにおいて、個人情報含むファイルを誤って添付したという。同月 26 日に、受信者から大学のコンプライアンス相談窓口に通報があり、問題が発覚した。

問題のファイルには、全応募者 23 人の氏名や住所、性別、年齢、所属先、経歴、メールアドレスなどを記載。同日、メールの受信者から誤送信について指摘があり、事務職員は受信者へメールの削除を依頼したが、大学には報告していなかった。

同大では、受信者におけるファイルの削除を確認しており、関係者に対しては、あらためて報告と謝罪を行うとしている。

2018/03/14

学内から外部に不正通信、マルウェア感染端末を特定できず - 成蹊中高

成蹊中学・高校の教員が利用するパソコンが、マルウェアに感染したことがわかった。異常な通信が確認されたものの、感染端末の特定には至っていないという。

同校によれば、2 月 23 日 21 時ごろから約 8 時間にわたり、外部の特定サイトに対して大量のアクセスが発生したものの。同月 26 日に職員がネットワークやメール配信の異常に気が付き、問題が発覚した。

発覚後、ネットワーク内にあるすべてのパソコンを抜線してネットワークから隔離し、マルウェアの感染状況などを調べたという。

今回の不正通信について同校では、メールやウェブサイトの閲覧などを通じて、外部と通信を行うボットプログラムに感染したものと見ているが、3 月 14 日の時点で感染端末は特定できておらず、くわしい感染経路もわかっていない。個人情報の流出については確認されていないが、可能性も否定できないとしている。

感染端末を特定できていないことに対し、同校では「学内システムをモニタリングすることで、マルウェアによる異常が生じていないことを確認している」と説明。

今回の事態を受け、同校では監視にくわえ、異常通信を自動検知するシステムの導入などを検討するなど、組織的対策や技術的対策を進め、再発防止に取り組むたいとしている。

2018/03/20

中部大でランサムウェア被害 - 不正ログイン後にインストールか

中部大学において、パソコンやファイルサーバがランサムウェアに感染する被害が発生したことがわかった。

同大によれば、1月9日2時半ごろ、同大工学部情報工学科研究室のパソコンとファイルサーバが、不正にログインされ、セキュリティ対策ソフトがアンインストールされ、ランサムウェアがインストールされたという。同日14時ごろに問題を把握し、対象機器をネットワークから遮断した。

被害に遭った端末では、ランサムウェアによるデータの暗号化被害が発生。内部には受講者名簿と行事参加者名簿などの個人情報が保存されていた。

同大では、外部のセキュリティ事業者に調査を依頼。原因や端末内のファイルや内容について調査を進めている。現時点では、暗号化以外、個人情報の流出といった被害は確認されていないとしている。

不正ログインの発信元については、攻撃元が内部や外部であるかも含めて特定には至っていない。盗まれたパスワードが利用され、インターネット経由で攻撃された可能性もあるという。

また感染したランサムウェアも特定されいないが、今回の攻撃でマルウェアの「FAKEGLOBE」が利用された可能性があるという説明。「FAKEGLOBE」はトロイの木馬で、「Locky」の感染活動でも利用されたことがある。

2018/03/30

非常勤講師が持ち帰った答案用紙を紛失 - 金沢星稜大

金沢星稜大学女子短期大学部の非常勤講師が、学生の答案用紙を紛失したことがわかった。同大によれば、非常勤講師が学生87人分の答案用紙を紛失したもの。答案用紙には、学生の氏名と学籍番号、学年、学部、学科などの個人情報が記載されていた。

同講師は自宅で採点するため、2月26日に答案用紙を持ち出したが、帰宅途中に電車を下りた際、答案用紙がなくなっていることに気付いた。駅員に問い合わせたが見つからず、28日に大学へ報告。警察へ届けた。

同大では対象となる学生とその保護者に対し、書面による謝罪を行うとともに、保護者説明会であらためて謝罪した。また、管轄官庁への報告を行っている。

情報セキュリティ事故事例

2018 年 2 月

2018/02/06

学生情報含む教員の私有 USB メモリが所在不明に - 大阪工業大

大阪工業大学は、学生の個人情報が入った USB メモリを、教員が紛失したことを明らかにした。

同大によれば、教員が個人で所有する USB メモリが所在不明になっているもの。問題の USB メモリには、2016 年度から 2017 年度に同教員が担当した授業の履修者 1070 人分の氏名や学生番号、出欠情報のほか、一部科目の成績評価などが保存されていた。成績のみパスワードを設定していたという。

1 月 23 日に教員が出勤した際、紛失に気付いた。前日に大学のパソコンで資料を作成する際に USB メモリを接続したが、その後の所在がわかっていない。

同大では、対象となる学生に事情を説明し、謝罪。対象となる学生の保証人には、説明と謝罪の書面を送付した。また USB メモリへ個人情報を保存する行為を全面禁止し、学内のファイルサーバーを利用するよう周知徹底を図っている。

2018/02/22

ウェブサイト開設案内メールで誤送信、学生のメールアドレス流出 - 大阪市立大

大阪市立大学は、案内メールで誤送信が発生し、教育向上への調査協力に登録している学生や卒業生のメールアドレスが流出したことを明らかにした。

同大によれば、2 月 13 日 16 時半ごろに送信した学修支援推進室のウェブサイト開設を案内するメールにおいて誤送信が発生したもの。送信先のメールアドレスを誤って宛先に設定したため、卒業生 38 人と学生 20 人の氏名およびメールアドレスが、受信者間で閲覧できる状態となった。誤送信した 58 人のうち、15 人は宛先に届かなかったとしている。

送信の約 30 分後に担当者が気づき、対象となる卒業生と学生にメールで謝罪。あわせて、誤送信したメールの削除を依頼した。

2018/02/23

入学予定者への連絡メールで誤送信、メールアドレス流出 - 上智大

上智大学は、2018 年度の入学予定者へ送信した連絡メールにおいて誤送信が発生し、メールアドレスが流出したことを明らかにした。

同大によれば、2 月 20 日 15 時から 17 時にかけて、入学センターが入学予定者 1317 人へ送信した連絡メールにおいて誤送信が発生したもの。受信者からの指摘で判明した。

本来利用すべきメール配信システムを利用せず、宛先に指定して送信してしまったため、受信者間で互いのメールアドレスが閲覧できる状態となったという。

同大では、対象となる入学予定者に謝罪。誤送信したメールの削除を依頼している。

情報セキュリティ事故事例

2018 年 1 月

2018/01/18

メールアカウントに不正アクセス、迷惑メールの踏み台に - 新潟県立看護大

新潟県立看護大学は、教職員のメールアカウントが乗っ取られ、不特定多数に対する迷惑メール送信の踏み台に悪用されたことを明らかにした。

同大によれば、教職員 1 人のメールアカウントが乗っ取られ、同大のメールサーバから不特定多数のメールアドレスに対し迷惑メールが送信されたもの。1 月 15 日、情報ネットワークシステムの保守を担当する事業者から連絡があり問題が発覚。パスワードの変更など対応を講じた。

不正アクセスを受けた教職員のメールボックスに保管されたメールに含まれる個人情報などが漏洩した可能性がある。今回の不正アクセスによる他システムへの侵入は否定した。同大では詳細について調査するとともに、教職員に対しパスワード管理の徹底を指示としている。

2018/01/25

教員の私用メールアカウントに不正アクセス、情報流出の可能性 - 滋賀県立大

滋賀県立大学は、教員の私用メールアカウントが不正アクセスを受け、学生や関係者の個人情報含むメールが流出した可能性があることを明らかにした。

同大によれば、教員が私的に利用しているメールアカウントが海外から不正アクセスを受けていたことが 1 月 19 日に判明したもの。端末に不調があることから調査を行ったところ問題が判明した。

同アカウントには、大学の許可を得たうえで学内のメールが転送される設定になっており、2017 年 9 月 25 日から 1 月 19 日にかけて転送されたメール 430 件が流出した可能性がある。対象となるメールには、学生 106 人の氏名や学籍番号、メールアドレス、成績情報、進路先のほか、教職員 23 人のメールアドレスや職員番号、所属、学外関係者 39 人の住所とメールアドレスなどの個人情報が含まれていた。

同大では、1 月 22 日に学外へのメール転送システムを停止。同システムを利用する教職員の端末の状況を確認し、パスワードの管理に関する注意喚起を行った。

また対象となる学生や教職員には、大学のウェブサイトで説明と謝罪を行い、学外関係者には個別に説明と謝罪を行うとしている。

2018/01/31

イベント案内メール誤送信で学生のメールアドレス流出 - 京都教育大生協

京都教育大学生協同組合は、イベントの案内メールにおいて誤送信が発生し、イベント申込者のメールアドレスが流出したことを明らかにした。

同組合によれば、1月14日に送信した学生委員会企画「推薦合格者の集い」の案内メールにおいて誤送信が発生したもの。送信先を誤って「T0」に設定したため、メールアドレス74件が受信者間で閲覧できる状態となった。

同組合では、対象となる申込者へメールで謝罪するとともに、誤送信したメールの削除を依頼したとしている。

2018/1/16

ランサムウェアに感染、サイト改ざん被害も - 新潟大医歯学総合病院

新潟大学医歯学総合病院において、ランサムウェアの感染被害やウェブサイトの改ざんなどが相次いで発生していたことがわかった。

同院によれば、2017年12月8日、パソコンがマルウェアに感染している可能性があるとして職員から報告があり、調査を行ったところ、ファイルが暗号化されて使用できない状態となっていることが判明したという。

ランサムウェアに感染したパソコンには、治験に関する患者の氏名など個人情報が保存されていた。同大では調査を行っているが、個人情報の外部流出は確認されていない。

また同月18日には、心当たりがない記事が投稿されていることに職員が気付き、同院ウェブサイトが不正アクセスを受け、改ざんされていたことが判明した。同月25日に暫定サイトを公開。同大では復旧に向けて調査などを進めている。

情報セキュリティ事故事例

2017 年 12 月

017/12/13

システム管理者アカウントが奪われ、個人情報約 7 万件が流出 - 阪大

大阪大学は、教育用計算機システムが不正アクセスを受け、利用者の個人情報約 7 万件が外部へ流出した可能性があることを明らかにした。

同大によれば、5 月 18 日から 7 月 4 日にかけて、教育用計算機システムが不正アクセスを受けたもの。教員の ID とパスワードを用いて侵入され、システム内部に設置された不正プログラムにより、システム管理者のアカウントが盗まれたという。

管理者用アカウントが奪われたことで、同システムの利用者に関する氏名や ID、同大発行のメールアドレス、所属、学籍番号など約 7 万件が流出した可能性がある。

内訳を見ると、教職員に関する情報が 1 万 2451 件、学生が 2 万 4196 件、元教職員が 9435 件、元学生が 2 万 3467 件。元関係者の ID とメールアドレスについては、すでに無効化されている。

2017/12/14

メールサーバに不正アクセス、迷惑メールの踏み台に - 放送大

放送大学のメールアカウントが乗っ取られ、不特定多数に対する迷惑メール送信の踏み台に悪用されたことがわかった。

放送大学学園によれば、メールサーバが外部より不正アクセスを受けたもので、踏み台として悪用され、不特定多数のメールアドレスに対して迷惑メールが送信されていたという。

10 月 27 日 10 時過ぎから問題が判明した 11 月 9 日 0 時ごろにかけて、あわせて 14 万 3000 件のメールが送信された。今回の不正アクセスによる他サーバへの侵入や、情報漏洩については否定している。

同大では、問題のアカウントを停止。再発防止に向けて監視を強化するとともに、サーバやパスワードの脆弱性について調査を実施するとしている。

情報セキュリティ事故事例

2017 年 11 月

2017/11/01

教員が学生の個人情報含む USB メモリを紛失 - 明星大

明星大学において、学生の個人情報を保存した USB メモリが所在不明となっている。

同大によれば、問題の USB メモリには、学生 134 人分の氏名と学籍番号含む履修者名簿のほか、学生 9 人分の氏名や実習状況含む教育実習生指導報告書、学生 2 人分の氏名、性別、生年月日含む推薦書などが保存されていた。セキュリティ対策は講じられていない。

9 月 27 日に同大教員が非常勤講師を務める他大学で貸与されたパソコンで USB メモリを使用した、その後の所在がわからない状態だという。

警察や交通機関に届け出を行ったが見つかっておらず、同大では、対象となる学生に対し、報告と謝罪の書面を送付している。

2017/11/27

学生情報含む PC を空港に置き忘れて紛失 - 札幌医科大

札幌医科大学の教員が、学生の個人情報を保存したノート PC を空港に置き忘れ、紛失したことがわかった。

同大によれば、11 月 20 日に医学部の教員が出張で新千歳空港を利用した際、搭乗待合室のシートにノート PC を置き忘れたもの。

問題のパソコンには、1989 年から 2017 年までの担当科目における学生約 3000 人分の成績と顔写真、および医学研究科修了生 1 人の論文データが保存されていた。

11 月 20 日 20 時ごろ、宿泊先のホテルでパソコンの紛失に気付いた。同大では、大学で管理するパソコンを持ち出す際は、申告が義務付けられているが、同教員は手続きを行っていなかったという。

同大では対象となる学生とその保護者に対し、報告と謝罪を行うとしている。

情報セキュリティ事故事例

2017 年 10 月

2017/10/17

誤送信で講座受講者のメールアドレス流出 - 首都大学東京

首都大学東京は、委託先の近畿日本ツーリストにおいてメールの誤送信が発生し、講座受講者のメールアドレスが流出したことを明らかにした。

同大によれば、10 月 12 日 11 時半ごろ、同大と東京都が実施している観光人材育成講座の申込者に送信したメールにおいて誤送信が発生したもの。近畿日本ツーリストの担当者が送信先のメールアドレス 25 件を誤って「CC」に設定したため、受信者間でメールアドレスが閲覧できる状態となった。

同日に受信者から指摘があり誤送信が判明。近畿日本ツーリストでは対象となる申込者にメールと電話で謝罪し、誤送信したメールの削除を依頼した。また同大では、近畿日本ツーリストに対し再発防止の徹底を指示したとしている。

2017/10/23

図書館のウェブサーバから個人情報流出の可能性 - 島根大

島根大学は、付属図書館のウェブサイトを開いているサーバにおいて、利用者の個人情報が外部に流出した可能性があることを明らかにした。

同大によれば、図書館が利用者向けのアンケート調査や主催イベントの申し込みを受け付けるために公開していたシステムに問題があり、アンケートフォームやイベント申込フォームより入力された個人情報が外部へ流出した可能性があることが判明したもの。氏名や電話番号、メールアドレス、所属機関名などが含まれる。

8 月下旬、図書館のウェブサーバ上で管理していた同システムにおいて、不正アクセスの痕跡を確認。ネットワークから切断して調査を行ったところ、特定の操作を行うことでアンケートの管理画面が外部から閲覧可能な状態だったことが判明した。

同大では、対象となる利用者に郵送やメールで説明と謝罪を行う。またアンケートについては、外部のサービスを利用し、図書館のサーバには個人情報を保存しない運用に変更している。

2017/10/23

入試情報サイトで個人情報が閲覧可能に - 京都精華大

京都精華大学は、入試情報サイトにおいて、登録会員の個人情報がインターネット経由で閲覧可能な状態にあったことを明らかにした。

同大によれば、9月5日から10月19日にかけて、入試情報サイトに登録している会員の個人情報を含む会員一覧ページや、各会員のプロフィールページが閲覧できる状態となっていたもの。会員468人分の氏名のほか、学生または保護者などの属性情報が含まれる。

10月18日に会員からの指摘を受けて調査を行い、翌19日に問題が判明した。対象ページのほか、検索サイトでの検索結果からも閲覧可能だったという。同サイトの運営委託先における人為的なミスが原因と説明している。

同大では問題のページを非公開にするとともに、対象となる会員にメールで報告と謝罪を実施。影響などを調査するとともに、再発防止策を検討するとしている。

2017/10/26

教員がレポートを回収後に紛失 - 首都大学東京

首都大学東京において、学生が提出したレポートが所在不明となっている。

同大によれば、システムデザイン学部の授業において、学生から提出されたレポートを担当教員が紛失したもの。学生の氏名と学籍番号が記載されていた。対象授業の履修登録者は59人だが、レポートの提出数は不明だという。

10月9日にレポートを回収後、帰宅。同月19日にレポートの採点を行おうとした際、紛失に気付いたという。キャンパス内を搜索したが見つからず、対象となる学生に説明と謝罪を行っている。

情報セキュリティ事故事例

2017 年 9 月

2017/09/08

入試出願者の個人情報含む USB メモリが所在不明 - 静岡県立大

静岡県立大学は、入試出願者の個人情報が保存された USB メモリが同大内で所在不明となっていることを明らかにした。ファイルにはパスワードが設定されていたという。

同大によれば、教員が 8 月 31 日に、USB メモリ 1 個を学内で紛失したものの。

問題の USB メモリには、大学院食品栄養科学専攻の入試出願者 17 人の氏名、性別、生年月日、出身校、受験番号、志望研究室などの個人情報が保存されていた。個人情報を保存したファイルには、パスワードが設定されているとしている。

紛失した教員は、9 月 6 日に警察へ届け出るとともに、大学へ報告。出願者に対しても事情を説明して謝罪した。個人情報の外部流出や不正利用は確認されていないという。

2017/09/27

講習受講者への連絡メールを誤送信 - 佛教大

佛教大学は、教員免許状更新講習の受講申込者に対する連絡メールで誤送信が発生し、メールアドレスが流出したことを明らかにした。

同大によれば、9 月 20 日に受講申込者へ送信した受講手続きに関する連絡メールにおいて、誤送信が発生したという。

メールアドレス 502 件を誤って「CC」に設定したため、受信者間でメールアドレスと一部申込者の氏名を閲覧できる状態となった。同大では事態を報告、謝罪している。

情報セキュリティ事故事例

2017 年 7 月

今月は大学関連の情報セキュリティ事故事例はありません。
情報セキュリティ関連ニュースを掲載します。

2017/07/03

「LINE」装うフィッシング攻撃に注意 - 複数サイトが確認される

SNS サービス「LINE」を装ったフィッシング攻撃が発生している。誘導先のフィッシングサイトは7月3日の時点で稼働が確認されており、フィッシング対策協議会では注意を呼びかけている。

今回確認された攻撃では、「LINE 変更」といった件名のメールを送信。本文で「アカウントの変更申請のメールを受け取った」などと不安を煽り、申請していない場合は解除が必要として偽サイトへ誘導、アカウント情報をだまし取ろうとする。

メールの本文には「LINE Corporation」をそのまま訳したと見られる「ライン会社」といった記載や、「リンクはずっと無応答です」など、一部不自然な言い回しも見られた。

誘導先としてすでに6件のURLが報告されており、7月3日の時点でフィッシングサイトは稼働していることが確認されていることから同協議会は閉鎖に向けてJPCERT コーディネーションセンターへ調査を依頼した。

同協議会では、誤ってメールアドレスやパスワードといったアカウント情報を送信しないよう注意を呼びかけている。

情報セキュリティ事故事例

2017 年 6 月

2017/06/16

香川県立保健医療大のサイトに不正アクセス - 一部が改ざん

香川県立保健医療大学のウェブサイトが、不正アクセスにより改ざんされたことがわかった。マルウェアの配布などに悪用された形跡はないという。

同県の発表によると、6 月 15 日 16 時半ごろ、同大のウェブサイトが改ざんされていることを大学職員が確認したもの。サイトの新着情報欄に犯行声明の文字列が表示され、クリックすると政治的なメッセージ画像が表示される状態だった。

同大では、ウェブサイト作成を委託した事業者に連絡してサイトを停止。改ざんについて調査しているが、6 月 15 日の時点では、マルウェアの感染や情報流出などの痕跡は確認されていないという。

2017/06/29

学生の個人情報含む USB メモリが所在不明に - 大阪工業大

大阪工業大学は、学生の個人情報含む USB メモリが所在不明になっていることを明らかにした。

同大によれば、6 月 20 日に非常勤講師が他大学の図書館に設置されているパソコンで USB メモリを使用後、所在がわからなくなっているもの。

問題の USB メモリは私物で、同講師が担当している授業の履修者 129 人の氏名、学生番号、小テストの評価などが保存されていた。メモリにパスワードや暗号化は講じられていないという。

帰宅後 USB メモリの紛失に気づき、メモリを使用していた図書館や利用した交通機関に連絡したほか、自身でも捜索を行い警察への届出も行ったが発見されていない。

対象となる学生には、授業内で説明と謝罪を行った。また保護者には書面による説明と謝罪を行っている。

情報セキュリティ事故事例

2017 年 5 月

2017/05/11

業務 PC でアダルトサイト閲覧、職員を懲戒処分 - 神戸大

神戸大学は、業務用の端末で 1 年間に約 150 時間アダルトサイトを私的に閲覧していたとして、事務職員を懲戒処分した。

同大によれば、問題の事務職員は業務で使用しているパソコンを使ってアダルトサイトを閲覧。2016 年 12 月上旬に学内の関係者から報告があり、調査員会を設置して本人や関係者から聞き取り調査を実施したところ、問題が判明した。

調査対象の 1 年間でアダルトサイトを閲覧した時間は合計で約 150 時間にのぼり、そのうち約 120 時間は勤務時間内の閲覧だったという。

アクセスには、学内のパソコンやネットワークを私用に利用しており、同大では就業規則に違反しているとして同職員に対し、停職 2 カ月の懲戒処分とした。

2017/05/12

講師が学生の個人情報含むノート PC を紛失 - 共立女子大

共立女子大学のキャンパス内で、学生の個人情報を含む PC が所在不明となっている。同 PC には、同大のほか、教員が兼任講師を務める立教大学の学生情報も保存されていたという。同大の教員が、4 月 21 日に学外授業を行うため教室を出た際、パソコンを教室内に置き忘れ、紛失したものの。同日置き忘れに気が付き、探索を行ったがその後の所在がわからない状態だという。

同端末には、2013 年度から 2015 年度にかけて、同教員が担当した授業の履修者が提出した課題のデータ 376 人分が保存されていた。また 2016 年度の履修者 150 人が提出した課題が含まれる可能性がある。いずれも学籍番号や氏名などが記載されていた。

また同教員は、立教大で社会学部の兼任講師を務めており、同大において 2014 年度春学期の専門科目履修者 469 人の氏名、学生番号、レポート評価、筆記試験評価、出席データなどについても保存されていた。

2017/05/25

法政大、不正アクセスに関する調査結果を公表

法政大学は、同大のサーバが不正アクセスを受けた問題で、当初発表していたアカウント情報の外部流出は確認されなかったとする調査結果を公表した。

同問題は、2016 年 12 月 8 日に同大のサーバが不正アクセスを受けたもの。3 月 10 日に公表した時点では、サーバを経由してアカウント管理サーバにアクセスされ、学生や教職員、委

託業者などのアカウント情報 4 万 3103 件が流出した可能性があるとしていた。
同大では、外部事業者によるネットワークの解析およびログの調査を実施。同調査の報告を踏まえ、同大の情報セキュリティ委員会で検討を行い、アカウント管理サーバへのアカウント情報の要求を行った痕跡は認められたが、それにともなう情報流出は確認されなかったと結論付けたという。

情報セキュリティ事故事例

2017 年 4 月

2017/04/05

学生の個人情報含む書類を海外研修先で紛失 - 中部大

中部大学は、学生の個人情報含む書類を、教員が研修先の海外で紛失したことを明らかにした。

同大によれば、3 月 11 日、現代教育学部の海外研修中に、引率の教員が現地の路線バス車内に鞆を置き忘れて紛失したという。

所在不明となっている鞆には、パソコンと書類が入っていた。パソコンには個人情報は保存されていなかったが、書類には研修に参加した学生の氏名や性別、生年月日、国籍、学籍番号、学年や学部などが記載されていた。

2017/04/21

車上荒らしで学生の個人情報が被害に - 梅光学院大

梅光学院大学は、公用車が車上荒らしに遭い、在学生や受験生の個人情報が記載された書類が盗まれたことを明らかにした。

同大によれば、4 月 17 日夜、山口県下関市内で同大の自動車が車上荒らしに遭い、在学生と受験生の個人情報含む書類が盗まれたもの。被害に遭った書類には、在学生の氏名や学籍番号、性別、学年と学科、出身校、および受験生の氏名や受験番号、性別、高校名、合否などが記載されていた。

同大では説明会を実施して対象となる学生に謝罪。事故対策本部を学内に設置して再発防止に向けた体制の構築を進めている。

情報セキュリティ事故事例

2017 年 3 月

2017/03/06

課外講座の出席簿が教室内で所在不明に - 近畿大

近畿大学は、課外講座の出席簿が、学内で所在不明になっていることを明らかにした。受講生の個人情報も含まれるという。

同学によれば、課外講座「公務員試験対策講座」の出席簿を、教室内で紛失したもの。同出席簿には、受講生 270 人の氏名、学年、学籍番号が記載されていた。

同学では、清掃業者が廃棄した可能性が高いとの見解を示しており、紛失した個人情報の不正利用に関する報告は確認されていないとしている。

2017/03/10

学生や職員などアカウント情報 4.3 万件が漏洩 - 法政大

法政大学は、同大のサーバが不正アクセスを受け、教員や学生などのアカウント情報が外部へ漏洩したと発表した。

同大によれば、2016 年 12 月 8 日に同大のアカウント管理サーバから学生や教職員、委託業者など、全アカウント情報を取得されたことが判明したもの。

攻撃者が 1 月 10 日、2 月 7 日に VPN で同大ネットワークへ接続。内部ネットワークに対するポートスキャンが行われたことへ気が付き、調査を実施したところ、2 月 21 日に情報が取得された際のログを確認した。

同大内部のサーバを経由してアカウント管理サーバにアクセスされ、学生証番号や教務員番号のほか、氏名、メールアドレス、種別、所属、暗号化されたパスワードなど、4 万 3103 件のアカウント情報が、攻撃者によって取得された可能性がある。

同大では、攻撃の踏み台となったサーバを隔離。対象となる関係者へ連絡を取り、パスワードの変更を依頼した。窃取された情報の悪用は確認されていないという。

同大では、詳細について調査を進め、調査結果や再発防止策について、あらためて公表する予定。

2017/03/21

10 分ほどの駐車中に車上荒らし、学生情報など被害 - 名大

名古屋大学大学院の教員が車上荒らしの被害に遭い、学生の個人情報を保存していたパソコンが盗難に遭ったことがわかった。

同大によれば、大学院生命農学研究科の教員が、学生の個人情報含むパソコンを盗まれたもの。2 月 22 日 18 時半ごろ、駐車していた約 10 分ほどの間に車の窓ガラスが割られ、パソ

コンを鞆ごと持ち去られた。

被害に遭ったパソコンには、農学部 1 年生と 3 年生 666 人分の氏名と学生番号などが保存されていた。個人情報を含むファイルには、パスワードを設定していたと同大では説明している。

発覚後に警察へ被害届を提出。対象となる学生に書面で事情を説明し、謝罪した。紛失した情報の不正利用などは確認されていないという。

2017/03/27

入試結果など個人情報含む書類を紛失 - 大手前大

大手前大学および大手前短期大学は、受験生や在学生に関する個人情報が記載された書類を紛失したことを明らかにした。

同大によれば、職員が参考資料として携帯していた高校 2 校に関する書類が所在不明となっているもの。3 月 8 日に判明した。紛失した書類には、受験生の氏名と入試結果のほか、在学生の氏名や成績など、あわせて 54 人分の個人情報が記載されていたという。

同大では、対象となる受験生が在学する高校 2 校を訪問して謝罪するほか、受験生にも個別に連絡して説明と謝罪を行うとしている。

情報セキュリティ事故事例

2017 年 2 月

2017/02/01

学生の個人情報含む成績原簿が所在不明 - 奈良先端大

奈良先端科学技術大学院大学において、学生の個人情報が記載された「成績原簿」が所在不明になっている。

同大学によれば、常時施錠した倉庫に保管されている成績原簿が紛失していることが、2016 年 12 月 12 日に実施した点検作業によって判明したもの。

同年 6 月 22 日の点検時には、倉庫に収納されていることを確認していることから、その後 7 月から 8 月にかけて倉庫内を整理した際に、不要文書とともに誤って廃棄した可能性が高いという。

紛失したのは 2014 年度に情報科学研究科で開講された授業の成績原簿で、同科に在籍し 2014 年度に成績評価を受けた学生 354 人分の氏名や学生番号、研究室名、授業科目名、授業担当教員名、評価などが記載されていた。

同大学では、対象となる学生に謝罪の書面を送付している。

2017/02/06

PC から内蔵 HDD が抜き取られ盗難 - 神奈川大

神奈川大学は、同大研究室のパソコンから内蔵ハードディスクが盗まれたことを明らかにした。盗難に遭ったハードディスクには研究情報や個人情報が保存されていた。

同大によれば、2016 年 12 月末に工学部機械工学科の研究室内に設置してあった教員の私有パソコンから内蔵ハードディスクが抜き取られ、持ち去られたという。

被害に遭ったハードディスクには、研究に関する情報のほか、学生 631 人分の氏名、学生番号、成績情報が保存されていた。データにはそれぞれパスワードを設定していたとしており、個人情報の不正利用は確認されていない。

同大学では、対象となる学生に対し書面による説明と謝罪を行っている。

2017/02/28

転送ミスで学生の個人情報を第三者へメール送信 - 兵庫教育大

兵庫教育大学は、教員が学生の個人情報含むファイルを誤って外部へメールで送信する事故が発生したと公表した。

同学によれば、2 月 19 日深夜に教員が学生 31 人分の個人情報含むファイルをメールに添付し、誤って学外へ送信したもの。同教員が所有する別のメールアドレスに転送しようとしたところ、誤って第三者のメールアドレスに送信してしまったという。

誤送信したファイルは、授業科目を同教員と共同で担当する非常勤講師が作成したもので、パスワードを設定していたが、パスワードの設定や取り扱いに不備があったとしている。同教員は翌 20 日に誤送信に気づき、送信先に連絡して誤送信したファイルの削除を依頼。22 日に対象となる学生に説明と謝罪を行っている。

情報セキュリティ事故事例

2017 年 1 月

2017/01/27

成績情報含むファイルを学外に誤送信 - 千葉工業大

千葉工業大学は、学生の成績情報含むファイルを、教員が外部の関係者に誤ってメール送信したことを公表した。

同大学によれば、1 月 10 日に教員が送信したメールにおいて、学生の個人情報含むファイルを誤って添付していたもの。ファイルには、教員が担当している科目の受講生の氏名や学生番号、成績、出席状況などが記載されていた。

学会誌の原稿を学外の編集委員 10 人にメール送信した際、誤って添付したという。送信直後に気づき、送信先に誤送信したメールの削除を依頼。電話で削除の確認を行った。

2017/01/30

迷惑メールの踏み台に、4000 通を配信 - 京都女子大

京都女子大学のメールアカウントが乗っ取られ、迷惑メールを送信する際の踏み台に悪用されたことがわかった。

同大学によれば、メールサーバに対する不正アクセスがあり、職員のアカウントを踏み台として悪用され、不特定多数のメールアドレスに対し、迷惑メールが送信されたもの。

1 月 26 日 3 時半過ぎから問題が判明した 13 時過ぎまでの 9 時間半に配信された迷惑メールは、約 4000 件にのぼるという。今回の不正アクセスによる他システムへの侵入や情報漏洩については否定している。

同大では、対象のアカウントを停止。教職員や学生に対し、適切なパスワード管理を行うよう注意を喚起した。

情報セキュリティ事故事例

2016 年 11 月

2016/11/09

患者の個人情報含む論文を誤って投稿、閲覧可能に - 杏林大

杏林大学の医師が、米国のオンライン学術誌に投稿した論文に、個人を特定できないよう処理が行われていない患者の個人情報を誤って添付していたことがわかった。投稿先のサイト上で一時公開されたという。

同大によれば、医学部付属病院呼吸器内科の医師が、米国のオンライン学術誌「PLOS ONE」に投稿した論文において、患者の個人情報を添付したもの。患者 158 人の氏名や住所、性別、年齢、病名、検査結果、治療内容などが含まれる。

10 月 24 日に論文が日本語の原文で掲載され、投稿した医師が 28 日に個人情報の掲載に気付いた。学術誌の編集部には個人情報の削除を依頼したが連絡が取れず、個人情報が削除された 11 月 8 日まで、16 日間にわたり、サイト上で閲覧できる状態だった。

同医師は、論文に添付するデータについて個人を特定できないよう処理したが、処理前のデータも同じ文書ファイルに含まれた状態で誤って投稿してしまったという。また論文の点検をした指導教授もデータの誤添付を見落とした。

同院では対象となる患者に謝罪の書面を送付したとしている。

2016/11/11

企業から返送されたアンケート調査票を誤廃棄 - 岩手県立大

岩手県立大学は、企業から返送された「就職先企業アンケート」の調査票を、誤って廃棄したことを公表した。

同大によると、卒業生の就職先企業から返送されたアンケート調査票を、誤って廃棄したもの。同調査票では、雇用した卒業生の評価や就職支援活動の評価など、11 の調査項目に対する回答が含まれる。

同大では 10 月 11 日から 13 日に受理した調査票 35 件の管理に問題があり、誤って廃棄物として焼却処分されたという。

調査票に記載された回答内容の外部流出は否定している。同大では対象となる企業に説明と謝罪を行ったうえで、アンケート調査への協力をあらためて要請している。

2016/11/17

学生名簿を配送会社が紛失 - 近畿大

近畿大学は、配送を委託した業者が在学生の名簿を運搬中に紛失したことを公表した。

同大の通信教育部が配送を委託した在学生名簿を、配送会社が運搬中に紛失したもの。名簿には学生 98 人分の個人情報が記載されていた。

同大では対象となる学生に対し連絡。外部への流出に関する報告は受けていないという。

2016/11/25

個人情報含む進路状況調査表が所在不明、盗難か - 東洋大

東洋大学において、学生の個人情報を含む進路状況調査表が所在不明になっていることがわかった。

同大によれば、9 月 12 日に、個人情報が記載された進路状況調査表 230 件の紛失が明らかになったもの。板倉キャンパス内のキャリア形成、就職支援室において保管していたという。

同大では、調査表は厳重な管理のもと保管されていたと説明。盗難の可能性もあるとして警察に被害届を提出した。対象となる学生には、書面により報告を行ったとしている。

情報セキュリティ事故事例

2016 年 10 月

2016/10/07

フィッシング被害で個人情報漏洩 - 関西学院大

関西学院大学において、学生や卒業生の個人情報が外部に漏洩したことがわかった。

同大によれば、職員がメールにより誘導されたフィッシングサイトで誤って ID とパスワードを詐取されたことから、学生や卒業生の個人情報 1466 人分が外部へ漏洩したという。

同大では、関係者に謝罪。学内への注意喚起を再度実施するなど再発防止に向けて対策を講じている。

2016/10/11

メール経由でマルウェア感染、外部と通信 - 富山大

富山大学水素同位体科学研究センターのパソコンがマルウェアに感染し、外部と不正な通信を行っていたことがわかった。機密情報は含まれていないという。

同センターは、核融合炉の燃料として使われる水素同位体の研究施設。一部メディアの報道を受けてマルウェアへの感染について認めたもの。2015 年 11 月に研究者に送られたメールをきっかけにマルウェアへ感染し、外部と大量の通信が行われていたという。

同大では、感染した端末内部のデータについて、すでに発表済みであったり、公開を前提としているデータであるとし、機密情報の漏洩を否定。今回の問題を受け、同大ではセキュリティ対策の強化など進めるとしている。

2016/10/12

図書館の利用者情報 19 万件含む PC が所在不明 - 秋田市

秋田市の市立図書館において、利用者の個人情報が保存されたノートパソコンが所在不明になっている。予約、貸出状況などの情報も含まれるという。

所在がわからなくなっているのは、中央図書館明徳館が移動図書館で利用しているノートパソコン。同館で「図書館利用カード」を作成した利用者の個人情報 19 万 3844 件が保存されていた。氏名や電話番号、生年月日、登録者番号、10 月 7 日時点の予約、貸出状況などが含まれる。

同館では今回の問題を受け、不審な電話などがあった場合は、連絡するよう利用者に対してアナウンスを行っている。

2016/10/14

学生の個人情報添付メールを誤送信 - 東京都市大

東京都市大学は、学生の個人情報含むファイルを添付したメールの誤送信について公表した。ファイルにはパスワードが設定されていたという。

同大によれば、知識工学部情報通信工学科の教員が、9月21日に同学科の学生の氏名や学籍番号、所属研究室などを含むファイルをメールに添付し、誤ってほかの学生に送信したものの。ファイルには、パスワードが設定されていたとしている。

同大学では、対象となる学生に説明会を行って説明と謝罪を実施。メールを受信した学生には、添付ファイルの削除を依頼した。1カ月後に、削除が完了しているか確認を行うとしている。

情報セキュリティ事故事例

2016 年 9 月

2016/09/01

教員が個人情報や試験問題を SNS に掲載 - 名古屋大

名古屋大学は、同大教員が個人情報をはじめ、不適切な情報を自身の SNS に投稿していたと発表した。問題とされる投稿はすでに削除されているという。

同大によれば、2 月に同教員が SNS へ不適切な投稿を行っているとの指摘を受け、調査を行ったところ判明したもの。

同教員や関係者に対する聴き取り調査を実施した結果、出題予定の定期試験問題や採点中の答案、審査中の修士論文の画像のほか、自身が立ち会った医学部付属病院における手術中の写真、患者の MRI 画像の写真などを掲載していた。

また大学入試センター試験の監督者や同大の推薦入試や大学院入試の面接委員を務めていることがわかる投稿が存在。さらに修士論文発表者 1 人の個人情報や、奨学金返還免除者に選ばれた学生と、学術奨励賞の面接を受けた学生の氏名などの個人情報を掲載していたという。

いずれも閲覧状況などは特定できていない。すでに投稿は削除されており、同大では、対象となる関係者に報告と謝罪を行っている。

2016/09/09

複数端末がマルウェア感染、ランサムウェア被害も - 神戸大

神戸大学の業務用パソコン 2 台が、マルウェアに感染したことがわかった。そのうち 1 台はランサムウェアに感染しており、端末やネットワークストレージ上のファイルが暗号化されたという。

同大によれば、7 月から 8 月にかけて同大卒業生課や連携推進課において、マルウェアの感染被害が発生したもの。

卒業生課では、7 月 28 日 8 時 10 分ごろにパソコンがマルウェアに感染。8 月 18 日まで不正な通信が行われていた。

8 月 18 日 12 時ごろ、外部サーバと不正な通信が行われているとの指摘が外部より寄せられ問題が判明したという。感染端末においてマルウェアと見られる添付ファイルを開いた形跡

はないとしており、感染経路はわかっていない。

端末内には卒業生の個人情報が入っていたが、ファイルを外部に送信した記録は残っておらず、被害の報告なども確認されていないという。

また同大学の連携推進課では、8月22日10時ごろに使用しているネットワークストレージに保存されたファイルの拡張子が「zepto」に書き換えられ、暗号化されていることへ気が付いた。

同課のパソコンを隔離し、調査を行ったところ、同課の端末1台が外部と不正な通信を行っており、メールの受信記録からランサムウェアが添付されたメールを開封した可能性があることが判明。NASに比べ、PC内部のファイルについても暗号化されていた。

同端末からファイルが外部に送信された記録は残っていなかったが、暗号化されたファイルは、現在も操作できない状態だという。

同大学ではこれら問題について、外部の事業者へ調査を依頼。原因の特定や情報漏洩の有無などを調べている。

情報セキュリティ事故事例

2016 年 8 月

2016/08/03

成績など記録した USB メモリを紛失 - 大阪体育大

大阪体育大学の非常勤講師が、在学生や卒業生の個人情報記録された USB メモリを紛失したことがわかった。

同大健康福祉学部の非常勤講師が、個人で所有する USB メモリを 7 月 5 日に紛失したもの。同 USB メモリには、同講師が 2014 年から 2016 年まで担当した科目を受講した在学生と卒業生 451 人分の氏名や学籍番号、出席状況、成績などが保存されている可能性があるという。

同大学では、対象となる学生とその保護者に対し、説明と謝罪の書面を送付した。紛失にともなう被害などは報告されていないという。

2016/08/22

学生の個人情報がネット上で閲覧可能な状態に - 名古屋大

名古屋大学は、学生の個人情報含むファイルを教員が誤ってウェブサーバにアップロードしたことから、約 3 カ月にわたってインターネットよりファイルの内容を閲覧できる状態だったことを明らかにした。

同大宇宙地球環境研究所の教員が、5 月 2 日に個人情報を含むファイルを誤ってサーバにアップロードしたことから、ファイルの内容をインターネットより参照できる状態となっていたもの。

アップロードしたサーバに関しては、5 月 30 日に問題のファイルを削除したが、キャッシュが検索サイトに残存。7 月 30 日にウェブサーバの管理者がサーバへのアクセス履歴を調査したことから問題へ気が付いた。

閲覧可能な状態となっていたのは、氏名、性別、身分、学修状況など、同大理学部と大学院環境学研究所の学生 335 人分の個人情報。また 2014 年度に年代測定総合研究センターが開催した体験学習の参加者および保護者 24 人分の氏名、性別、連絡先、学校名、学年なども含まれる。

同大では 8 月 1 日に検索エンジンへキャッシュの削除を依頼し、翌 2 日に削除を確認した。流出した個人情報の不正利用に関する報告は確認されていない。同大学では、対象となる学生や関係者に対し、説明と謝罪の書面を送付している。

2016/08/22

個人情報含む USB メモリを紛失、判明は 2 月 - 大谷大

大谷大学は、寮生などの個人情報を保存した USB メモリが所在不明となっていることを公表した。

2013 年度から 2015 年度の寮生活のしおりを保存していた USB メモリの所在がわからなくなっているもの。2 月 22 日に紛失へ気が付き、以降も探索しているが発見できていないという。

USB メモリには、寮生 60 人の氏名、出身都道府県、所属学科、および寮監と学生委員 10 人の氏名、携帯電話番号、メールアドレス、出身都道府県、所属学科などが含まれる。

同大学では、対象となる寮生や関係者に書面による報告と謝罪を行っている。

情報セキュリティ事故事例

2016 年 7 月

2016/07/05

メール誤送信でオープンキャンパス申込者のメアド流出 - 京都府立医科大

京都府立医科大学は、オープンキャンパスの申込者に受付確認のメールを送信した際、送信ミスがあり、一部でメールアドレスが流出したことを明らかにした。

夏のオープンキャンパスの申込者に対し、6 月 30 日 19 時 44 分に受付確認のメールを送信した際に発生したもの。7 グループに分けて送信したが、そのうち 1 グループ 27 件については送信先アドレス「宛先に誤って設定。受信者のメールアドレスを受信者間で閲覧できる状態となった。

7 月 1 日に受信者の保護者から指摘があり発覚。同大学では同日中にメールで謝罪し、誤送信したメールの削除を依頼している。引き続き調査を継続するとしている。

2016/07/22

個人情報含むファイルが外部から閲覧可能に - 慶大

慶應義塾大学において、関係者の連絡用として作成された個人情報を含むファイルが、一時サイト上で外部から閲覧可能な状態だったことがわかった。

同大学院経営管理研究科において、学生や教員など関係者の事務連絡用として作成されたファイルが、ウェブサイト上で 2015 年 4 月から 2016 年 6 月中旬にかけて、外部から閲覧できる状態だったことが判明したもの。

ファイルには 2009 年度から 2014 年度に同研究科へ入学した学生、修了生のほか、教員、その他関係者の氏名などが含まれており、対象となる学生や関係者には、報告と謝罪の書面を送付した。また問題のファイルについてパスワードを設定。検索サイトのキャッシュについて削除を依頼するなどの対応を講じたという。

2016/07/26

車上荒らしで個人情報含む PC などが被害 - 筑波大

筑波大学は、教員が車上荒らし被害に遭い、個人情報や企業情報、7 機関の情報が保存されたノートパソコンなどが盗まれたことを明らかにした。

同大のシステム情報系に所属の教員が、7月6日に帰宅途中、車上荒らしに遭い、鞆が持ち去られたもの。被害に遭った鞆のなかには、同大が保有する関係者の個人情報 2562 件をはじめ、企業 32 社、および 7 機関の情報を保存したノートパソコンのほか、期末試験の答案用紙などが入っていた。

盗難の発覚後、警察へ被害を届けた。盗難に起因した個人情報の外部流出や、不正利用については確認されていないという。

情報セキュリティ事故事例

2016 年 6 月

2016/06/03

福島高専の就職支援システムに不正アクセス - 求人票情報 5000 件流出か

福島工業高等専門学校就職支援システムが不正アクセスを受け、求人票情報が外部へ流出した可能性があることがわかった。

同システムに対する不正アクセスの痕跡を確認したことから調査を実施したところ、情報が流出している可能性があることが判明したものの。

流出したおそれがあるのは、サーバ内に保存されていた 2009 年度以降の求人票情報約 5000 件。求人票情報を提供した事業者の名称、住所、採用担当者の氏名、電話番号、ファックス番号、メールアドレス、採用予定数、採用希望学科などが含まれる。

同校では、対象となる事業者へ書面による説明と謝罪を行っているが、情報が悪用されたといった報告は受けていないという。

2016/06/06

研究室 PC が踏み台に、詐欺メールをメアド約 280 万件へ送信 - 電通大

電気通信大学のパソコンが不正アクセスを受け、フィッシングメールを送信するための踏み台に悪用されていたことがわかった。

被害に遭ったのは、同大レーザー新世代研究センターの研究室が管理する端末。5 月 3 日から翌 4 日にかけて、メール送信の踏み台に利用されたもので、同大メールアドレスを送信元とし、同大外部のメールアドレス約 280 万件に対して、銀行を装ったフィッシングメールが送信されていたという。

問題のメールでは、銀行の認証システムが変更されたなどと説明。顧客情報の確認などとだまして本文内の URL よりフィッシングサイトへ誘導していた。同大では、5 月 4 日に同端末によるメール送信を停止。また誘導先の偽サイトは、5 月 9 日以降、閉鎖された状態だという。

同大では、不正アクセスを受けた原因について、端末で安易なパスワードを使用していたほか、アクセス制限も適切に設定されていなかったことを挙げた。また今回不正アクセスを受けた端末は、個人情報情報を保存しておらず、個人情報情報の流出については否定している。

2016/06/17

学生 1600 人分のレポート含む USB メモリを紛失 - 茨城大

茨城大学において、学生のレポートを保存していた USB メモリが、所在不明となっていることがわかった。

紛失したのは、学生のレポートを保存していた USB メモリ。4 月 26 日に教員が研究室で紛失に気が付いた。同日の講義に USB メモリを用いたが、その後の所在がわからないという。

保存されていたレポートのデータは、同教員が 2015 年度に担当した科目の受講生によるもので、手書きで記入、提出したレポート約 1600 人分をスキャンニングし、PDF ファイルとして保存していた。

USB メモリの暗号化など対策は講じていなかったという。同大学では、対象となる学生にメールで事情を説明し、謝罪している。

2016/06/20

サーバ設定ミスで個人情報を誤公開 - 宮崎大

宮崎大学のウェブサイトにおいて、学生や退職した教員 16 人の個人情報が 1 カ月以上にわたって外部に公開されていたことがわかった。

同大によれば、学部のウェブサイトにおいて、4 月 15 日から 5 月 26 日までの間、個人情報が含まれたファイルが学外から閲覧可能な状況だったもの。サーバにおけるアクセス制限の設定ミスが原因としている。問題発覚後、同ファイルを置いたディレクトリを閲覧できないよう修正した。

外部から閲覧可能だったのは、学生や卒業生、退職した教員あわせて 16 人分の個人情報。氏名や生年月日、入学年度、認定科目名と単位数、出身校、学生の身分異動内容などが含まれる。

同大学では関係者に説明し、謝罪。被害などの報告は受けていないという。

2016/06/22

学生 1651 人分の個人情報含む USB メモリを紛失 - 宮崎大

宮崎大学は、在学生や卒業生の個人情報が保存された USB メモリを、教員が学内で紛失したことを明らかにした。

教育学部の教員が、所有する USB メモリを 6 月 7 日に学内で紛失したもの。同教員が 2010 年度から 2015 年度まで担当した 4 科目を受講した在学生と卒業生 1651 人の個人情報が保存されていた可能性があるという。氏名や学籍番号、出席状況、一部学生の成績などが含まれる。

同大学では、対象となる在学生と卒業生に順次事情を説明して謝罪する方針で、相談窓口なども開設し、対応を進めている。

2016/06/24

個人情報入り PC がマルウェア感染、外部と不正通信 - 山口大

山口大学において業務用端末がマルウェアに感染し、外部と不審な通信を行っていたことがわかった。パソコンにはのべ約 2 万人分の個人情報が保存されており、同大では調査を進めている。

同大によれば、6 月 6 日 8 時半ごろに、不審な外部サイトへアクセスした疑いがあるパソコンを発見したもの。ネットワークから遮断し、通信記録を調査したところ、マルウェアの感染が原因と見られる通信を確認した。

マルウェアに感染したパソコンには、のべ 2 万 998 人分の個人情報を保存。学生の氏名や住所、電話番号、生年月日、メールアドレス、在籍内容や入学に関する情報、銀行口座などの情報が含まれる。そのほか学生指導や職員人事、学外研修講師の銀行口座なども保存されていた。被害の報告などは受けていないという。

6 月 1 日に受信したメールの添付ファイルを職員が開封したことから、マルウェアへ感染したと見られている。他端末におけるマルウェアの感染や不正通信は確認されていない。同大学は警察に相談するとともに、引き続き調査を継続するとしている。

情報セキュリティ事故事例

2016 年 5 月

2016/05/24

マルウェア感染端末から学生や保護者の個人情報が流出 - 中大

中央大学は、パソコン 1 台がマルウェアに感染し、学生や保護者、教職員などの個人情報が流出していたことを明らかにした。

4 月 9 日に同大多摩キャンパスで事務に使用している端末 1 台がマルウェアに感染し、その後の調査で情報流出が判明した。流出したデータには、学生や保護者、教職員など 20 人の氏名や住所、生年月日などが含まれる。

同大では、対象となる学生や関係者には個別に謝罪。また詳細や再発防止策などを検討したうえで、再度書面で説明と謝罪を行っている。

2016/04/21

学生健康診断受診票が一時所在不明に - 北海道教育大

北海道教育大学において、学生健康診断受診票が一時所在不明となっていたことがわかった。2 週間後に学内で発見、回収されたという。

委託先の北海道対がん協会が 4 月 6 日に実施した学生健康診断において、15 人分の受診票を一時紛失したもの。受診票には氏名や性別、生年月日のほか、健康診断の結果などが記載されている。

同大学では委託業者からの報告を受けて明らかとなり、委託事業者が 4 月 8 日に同大内を搜索。その際に発見できなかったが、20 日に学内において教員が発見、回収したという。

問題の受診票は、回収場所から 120 メートルほど離れた渡り廊下の脇に設置された棚の上に、廃棄用段ボール箱のふたに挟まるような形で見つかったという。

個人情報不正に利用されるなど被害は確認されていない。同大学では、対象となる学生とその保護者に説明を行うとしている。

2016/03/29

学生 8 人の個人情報を誤って 192 人に配信 - 摂南大学

摂南大学において、就職部が配信した履歴書の添削指導メールに、誤って学生 8 人の個人情報含む文書を添付していたことがわかった。

3 月 10 日、学生が不適切な内容の文書を所有していると教員から指摘があり、問題が判明したもの。就職部が学生向けポータルサイトで配信した履歴書の添削指導メールに、本来添付すべき「履歴書見本」ではなく、異なる文書ファイルを誤って添付していた。

問題のファイルは内部資料で、学生 8 人の氏名や学生番号、進級状況などの個人情報が含まれる。同メールは 2 月 10 日に学生 192 人に対し配信され、掲載期間中に 64 人が閲覧していたという。

同大学では個人情報が流出した学生に対し、個別に説明と謝罪を実施。またメールを参照した学生には、ファイルの削除を要請など行っている。

2016/03/16

学生の個人情報入り PC が出張先のドイツで盗難 - 東京大学

東京大学 産学連携本部は、職員がドイツ出張中に、学生の個人情報含むノートパソコンの盗難に遭ったことを明らかにした。

同大によれば、2 月 9 日から 13 日にかけてのドイツ出張中、鞆の盗難に遭ったもの。鞆の中には、起業家教育受講生の氏名や住所、電話番号、メールアドレスなどを保存したノートパソコンが入っていた。

同大学では、対象となる受講生に書面による報告と謝罪を行っている。

2016/03/03

個人情報持ち出しと不正アクセスで職員を懲戒免職 - 岐阜県

岐阜県は、職場から私的な目的で個人情報を持ち出すとともに、他人の ID を使ってコンピュータへ不正アクセスを行った職員に対し、3 月 2 日付けで懲戒処分を実施した。

同県によれば、同職員が最初に個人情報を持ち出したのは 2013 年 8 月 22 日ごろ。岐阜県総合医療センターにおいて、同センター職員の個人情報を業務以外の目的で収集。さらに翌 2014 年 8 月 12 日および 9 月 12 日に、総務事務センターで県職員の個人情報を持ち出していた。

また同職員は、類推した ID やパスワードを用い、2014 年 9 月 12 日から 2015 年 11 月 18 日までの間、57 回にわたり不正アクセスを行っていたという。

同県では同職員を懲戒免職とし、管理監督する立場にあった 3 人に対し、管理監督責任に基づく戒告処分を行った。

2016/02/19

入試出願登録情報が外部から閲覧可能な状態に - 学習院大学

学習院大学は、入試ウェブ出願システムに不具合があり、出願登録情報を出願者以外が一時閲覧できる状態だったことを明らかにした。一部情報が閲覧された可能性があるという。

ウェブ出願確認画面の不具合により、出願登録情報が第三者から閲覧できる状態だったもので、1 月 14 日に受験生から指摘があり判明した。すでに不具合は修正されているという。

ウェブ経由の出願を受け付け開始した 1 月 5 日から、システムの修正が完了した 14 日 22 時過ぎまで閲覧可能となり、期間中に登録者 86 人分の情報が閲覧された可能性がある。氏名や住所、電話番号、生年月日、メールアドレス、出身高校、出願情報などが含まれる。

同大学では入学試験への影響を避けるため、同事案の公表を入試実施後に行ったと説明。閲覧された可能性のある 86 人に謝罪している。

2016/02/19

小学校教職員のマイナンバー含む書類が所在不明 - 横浜市

横浜市の小学校において、事務職員がマイナンバー含む書類を、電車での移動中に紛失したことがわかった。

1 月 26 日、神奈川県教育委員会事務局へ教職員の扶養状況を記した書類を提出しようとした際、紛失したもの。職員が同校を出発して 30 分ほど経過した同日 15 時半ごろ、東横線横浜駅で下車する直前に、書類を入れた鞆がないことに気が付いた。

所在がわからなくなっている書類には、同校の教職員およびその配偶者、扶養家族など 54 人分の氏名、マイナンバーが記載されていた。そのほか、教職員 5 人の氏名や住所、勤務状況、給与支給額や、最大 37 人分の氏名と最寄り駅も含まれているという。

2016/02/18

学生の個人情報含むタブレット端末を紛失 - 文京学院大学

文京学院大学は、学生 310 人分の個人情報が保存されたタブレット端末を紛失したことを明らかにした。

同大によれば、1 月 13 日 18 時 20 分ごろにタブレット端末が所在不明となっていることへ教員が気付いたもの。端末は、同日 16 時 30 分から 18 時までの演習で使用しており、同室内で紛失したものと見られている。

所在不明となっているタブレット端末には、同教員が 2015 年度前期に担当した科目の履修者 160 人の氏名、学籍番号、成績と、同年度後期に担当している科目の履修者 150 人の氏名および学籍番号が保存されていた。

同教員は警察に盗難届を提出。同端末にはパスワードと暗号化などのセキュリティ対策が講じられているという。

2016/01/13

サーバが外部と不正通信・情報流出の可能性 - 北海道大学

北海道大学のサーバが外部と不正通信を行っていたことがわかった。サーバ内部には関係者の個人情報や企業情報などが保存されていたという。

同大によれば、同大キャリアセンターのファイルサーバが外部のサーバと不正な通信を行っていたことが、1 月 4 日に判明したもの。同日サーバをネットワークから隔離した。

問題のサーバは、2015 年 12 月 27 日にスパムメールの大量送信に悪用され、翌 28 日に送信を自動遮断していることへ気が付き、ログなどを調査したところ不正通信が判明した。

サーバ内には、同大へ在学する学生約 1 万 8000 人や卒業生約 9 万 5000 人の個人情報、企業情報約 2000 社分が保存されており、外部へ流出した可能性がある。

同大では、情報漏洩の被害状況について調査を進めている。調査結果については判明次第公表する予定。また関係者に対しては、書面で事情を説明、謝罪する。

2016/01/07

中学校教諭が緊急連絡網を財布ごと紛失 - さいたま市

さいたま市は、市立中学校の教諭が、温泉施設の付近で生徒や職員の個人情報が記載された名簿などを紛失したことを公表した。

同市によれば、1 月 5 日未明、教諭がコンビニエンスストアで個人情報を記載した緊急連絡網を入れていた財布を紛失していることに気付いたもの。同教諭は前日 20 時ごろに温泉施設へ行き、5 日 1 時ごろに支払いを行っているが、その後、施設の向かいにあるコンビニエンスストアを訪れた時には、財布がなくなっていたという。

所在不明となっている財布には、担任学級の生徒 35 人の氏名と電話番号含む緊急連絡網と、顧問をしているクラブの部員 81 人の氏名や住所、電話番号、性別など含む名簿のほか、職員 67 人の氏名と電話番号含む緊急連絡網などが入っていた。

同校では臨時保護者会を開催して事情を説明し、謝罪。不審な連絡に注意するよう注意喚起を行っている。

2016/01/05

小学校児童の個人情報含む USB メモリを紛失 - 長野市

長野市は、市内小学校の教諭が児童の個人情報を保存した USB メモリを紛失したと公表した。氏名は含まれないが、所見などを記載していたという。

同市によれば、2015 年 12 月 17 日に教諭が学級通信を作成するため USB メモリを使用しようとしたところ、紛失が判明したもの。教諭は自宅などを捜索したが見つからず、21 日に校長に報告した。

紛失したのは業務用の USB メモリで、児童 14 人分の通知表所見の下書きを保存。氏名は含まれておらず、児童 2 人の学習や生活の様子などが記載されたメモも保存されていた。1 人は氏名、1 人はイニシャルが記載されていたという。

2015/12/18

学生の成績情報含むファイルを誤送信 - 福岡女学院大

福岡女学院大学人間関係学部の教員が、学生 234 人分の個人情報含むファイルを誤って学生 14 人に送信していたことがわかった。

12 月 10 日、教員が担当科目の履修者 14 人に指導日程調整表をメールで送信。その際、卒業生 2 人を含む学生 234 人分の氏名や学籍番号、2013 年度の成績評価など含むファイルを誤って添付した。受信した学生からの連絡により判明した。

同大学では受信した 14 人に対し、添付ファイルの削除を要請。教職員立ち会いのもとでファイルの削除を確認した。また外部に流出していないことを確認したという。

2015/12/15

学生の個人情報含む PC が講義室から盗難 - 愛知工業大

愛知工業大学は、情報科学部准教授のノートパソコン 3 台が講義室で盗難に遭ったと発表した。パソコン内部には、同大にくわえ、同准教授が非常勤講師として勤める名古屋市立大学と中部大学の学生に関する情報も含まれていた。

同大によれば、12 月 10 日に 12 時 50 分から 13 時までの間に、豊田市の八草キャンパス内にある講義室からパソコン 3 台を何者かに持ち去られたもの。

被害に遭ったパソコンには、同大の学生 225 人をはじめ、名古屋市立大の学生 54 人、中部大の学生 66 人の氏名や学籍番号、出席状況、課題提出状況などが保存されていた。

同大では、対象となる学生に対し、事情の説明や謝罪を行っている。

2015/12/11

約 6.2 万人分の個人情報入り USB メモリが所在不明に - 関西大

関西大学において、学生など約 6 万人分の個人情報を記録した USB メモリが所在不明となっている。

同大によれば、同大が業務を委託している情報処理業者と受け渡しを行った際に USB メモリを紛失したもの。問題の USB メモリには、同大の学生や留学生、大学院生および保証人の個人情報あわせて 6 万 2308 人分が保存されていたという。

学生に関しては氏名、住所、電話番号、生年月日のほか、所属や学籍情報などが含まれる。また保証人に関しては氏名、住所、電話番号などの個人情報が記録されていた。

同大では、誤って廃棄された可能性が高いと説明。二次被害などの報告は受けていないとしている。関係者に対しては、順次連絡を取り、事情の説明や謝罪を行っていく。

2015/11/26

シンポジウム案内メールを誤送信 - 専修大

専修大学社会知性開発研究センターは、シンポジウムの案内メールにおいて、送信先のメールアドレスが流出したことを公表した。

11 月 9 日、同センターが開催するシンポジウムの案内メールを送信した際、操作ミスにより宛先のメールアドレス 249 件が受信者間で確認できる状態となったもの。

同センターでは誤送信から 1 時間後、メールアドレスを登録していた 249 人にメールで謝罪。誤送信したメールの削除を依頼している。

2015/11/10

学生の個人情報含む USB メモリを紛失 - 関西大

関西大学の非常勤講師が、学生のべ 990 人分の個人情報が記録された USB メモリを紛失したことがわかった。

同大内において、外国語科の非常勤講師が USB メモリを紛失したもの。同講師が 2014 年と 2015 年春学期に担当した科目の履修者のべ 749 人の氏名、学籍番号、成績と、2015 年秋学期に担当している科目の履修者のべ 241 人の氏名と学籍番号が記録されていた。

同大学では、対象となる学生に説明と謝罪を進めている。

2015/10/30

国家試験模試の結果を教員で回覧中に紛失 - 新潟県立看護大

新潟県立看護大学は、国家試験模試の結果 182 件を紛失したと発表した。教員 5 人が回覧する過程で紛失したと見られている。

2015 年保健師国家試験模試の結果 91 人分や、2015 年看護師国家試験模試の結果 91 人分が所在不明となっているもの。学生の氏名や学籍番号、模試の得点率、評価などが記載されていた。

同大学によれば、模試の結果を今後の国家試験対策に活かすため、教員 5 人が 10 月 15 日から回覧していたが、23 日になって所在がわからないことへ気が付き、関係者への聴き取りで、最後に回覧した教員が最初の教員に返却する際に所在不明になったことが判明したという。

同大学では、対象となる学生と保護者に謝罪するとしている。

2015/10/26

学生の個人情報や入試問題など含む PC を英国で紛失 - 岩手大

岩手大学工学部の教員が、英国への出張中にタクシー内に個人情報含むノートパソコンを置き忘れ、紛失していたことがわかった。

国際会議に出席するため訪れていた英国において、タクシーの車内にノートパソコンの入った鞆を置き忘れ、そのまま紛失したもの。盗難の可能性が高いとして、現地の警察当局や日本大使館に被害届を提出した。

パソコンには学生のべ 1526 人の個人情報のほか、2016 年度入学試験の問題案などが保存されていた。個人情報については、一部パスワードが設定されているという。

同大学では、対象となる学生や関係者に説明と謝罪の書面を送付した。また、入試問題については問題を差し替えるなど、対応を行っている。

2015/10/20

関係ないメアドが CC に、不具合が原因と説明 - 京大生協

京都大学生生活協同組合は、メールを送信した際に、関係ないメールアドレスが流出したことを明らかにした。メールソフトの不具合が原因だとしている。

9 月 30 日 18 時過ぎに、同大学研究室へ見積りのメールを送信したが、45 件となった未着を含む PC 内に登録されていたメールアドレス 232 件が「CC」に設定され、送られたという。メールを受信した組合員より指摘があり問題が判明。10 月 1 日に関係者へメールで謝罪するとともに、誤って送信したメールの削除を依頼した。

同組合では、送信時にメールアドレスが CC へ挿入された原因について、操作ミスではなく、使用するメールソフトの不具合である可能性が高いと説明。

対策として、パソコン内に登録されているすべてのメールアドレスとメールソフトを削除したほか、使用するメールソフトの点検を実施。メールソフトの変更についても検討するという。

2015/10/13

学生の個人情報含む USB メモリを紛失 - 甲南女子大

甲南女子大学において、学生の個人情報を保存した USB メモリが所在不明となっている。

人間科学部総合子ども学科の准教授が9 月 25 日に紛失し、その後所在不明となっているもの。捜索が続いているが発見されていないという。

問題の USB メモリには、2013 年度から 2015 年度に在籍している学生 577 人の氏名や学籍番号、成績情報、出席状況などが保存されていた。同大学では、対象となる学生に個別に対応を行うとしている。

2015/09/28

病院事務担当者への通知メールで誤送信 - 山口県

山口県は、県内の 144 病院の事務担当者へメール送信した際、誤ってメールアドレスが漏洩したことを公表した。

誤送信されたのは、次年度の補助金要望調査の通知メール。9 月 17 日 16 時半過ぎに、対象となる県内 144 の病院における事務担当者へメールを送信したが、宛先にメールアドレスを記載して送信。受信者間でそれぞれのメールアドレスを確認できる状態となった。

送信 20 分後に同県担当者が問題へ気が付き、関係者へ謝罪のメールを送信。誤送信したメールの削除を依頼している。

2015/09/09

患者情報含む USB メモリを紛失 - 名大付属病院

名古屋大学医学部付属病院は、患者の個人情報が入った USB メモリが院内で所在不明になっていることを明らかにした。

8 月 11 日 16 時ごろ、看護師が USB メモリを使用しようとしたところ、保管場所に見当たらないことに気付いたもの。問題の USB メモリは同月 7 日に確認されており、外部に持ち出された形跡は確認されていないという。

紛失した USB メモリには、退院後に心臓リハビリテーションを実施している患者 217 人の氏名や年齢、性別、ID、入退院日などが記録されていた。対象となる患者には、電話と書面を通じて報告と謝罪を行っている。

2015/09/09

表計算ソフトのソートミスでメールに別人の個人情報 - 文化放送

文化放送は、イベントの当選通知メールを送信した際、操作ミスにより個人情報が漏洩したことを明らかにした。

10 月に後楽園で開催される声優イベントの当選者へメールで通知する際にミスが発生したもの。当選者 700 人のデータを作成する際、表計算ソフトのソート操作を誤り、メールアドレスと名前や住所が一致しない状況となったが、気が付かずに 9 月 7 日にメールを送信した。

送信作業を行っている際に、受信した当選者から連絡があり問題が判明。別の当選者の氏名や住所、年齢、性別などが記載された状態で 360 人に送信しており、43 件の問い合わせが寄せられたという。

同社ではすべての当選者にメールで謝罪。当選者リストの修正を行ったうえで当選メールを再度送信した。また漏洩の対象者には電話で連絡を取り、メールの削除を依頼している。

2015/08/21

個人情報含む書類を置き引きで一時紛失 - 一橋大

一橋大学において、講師が学生の個人情報を含む書類を帰宅途中に一時紛失していたことがわかった。警察から連絡があり、10 日後に回収したという。

8 月 1 日 23 時 30 分ごろ、講師が帰宅時の電車内で、足元に書類が入ったバッグを置いていたが、JR 赤羽駅に到着した際になくなっていることに気付いたという。

紛失した書類は夏学期成績報告書と出席簿。講義を履修している学生 108 人の氏名や学籍番号、出欠状況などが記載されていた。

同大では、対象となる学生にメールで紛失を報告。紛失したバッグが発見されたと警察から連絡があり、11 日に回収した。書類はすべて揃っていたという。

2015/08/07

盗まれた患者情報含む外部記憶装置が発見 - 昭和大

昭和大学は、5 月に発生した車上荒らしによる外付けハードディスクの盗難事件に関し、別の事件で逮捕された容疑者の押収物から盗難物が発見されたことを明らかにした。

5 月 8 日から翌朝にかけて、横浜市内の駐車場に駐車していた同大医師の車が車上荒らしに遭い、横浜市北部病院の患者情報約 4 万 8000 人分の個人情報を保存したハードディスクが持ち去られたもの。

別の事件で逮捕された被疑者の押収物に被害に遭ったハードディスクが含まれていたという。内部の患者情報が不正に利用された事実は確認されていないとしている。

同大では、今回の問題を受けて盗難に遭った医師を減給処分とした。また個人情報管理体制の見直しや責任の明確化、個人情報管理マニュアルの周知徹底などにより、再発防止を目指す。

2015/08/05

職員や学生の個人情報含む USB メモリを紛失 - 横浜国立大

横浜国立大学の職員が、学生と職員の個人情報が保存された USB メモリを自宅に持ち帰り、紛失していたことがわかった。

自宅で資料を作成するため USB メモリにデータをコピーして、7 月 31 日に持ち帰ったが、8 月 2 日までに紛失したことが判明した。所在不明となっている USB メモリには「2015 年度教員免許状更新講習受付担当者一覧」が保存されており、職員 2 人や派遣職員 14 人、学生 6 人の氏名が含まれていた。

職員は内規を守っておらず、個人情報を持ち出す際の届出や USB メモリの暗号化などは実施していなかったという。

2015/07/24

学生らの個人情報流出 ロシア経由で不正アクセス - 秋田大学

秋田大（澤田賢一学長）は 24 日、学外からの不正アクセスにより学生や教職員らの個人情報 1171 人分が流出したと発表した。国際資源学部にも所属する男性教員のメールのパスワードが不正に取得されたのが原因とみられる。県警は不正アクセス禁止法違反の疑いで捜査している。

秋田大によると、流出したのは学生、教職員、学外関係者の氏名や学籍番号、メールアドレス、電話番号など。55 人分の成績情報も含まれるが、見るためには別にパスワードが必要。現在、これらの個人情報が悪用されたとの連絡はないという。

男性教員が 16 日、送信した覚えのないメール数万件が宛先不明で戻ってきたことを不審に思い、同大の情報管理担当に連絡し判明した。ロシア経由で不正にアクセスされたことは分かっているが、アクセスに必要なパスワードが取得された経緯は調査中。不正アクセスにより、男性職員のメールアドレスで約 6 万件のメールが送信された。送信済みメールから、違法薬物を売り込む英文などが確認されている。

2015/07/22

合否情報など個人情報入り USB メモリを紛失 - 大阪府立大学

大阪府立大学は、羽曳野キャンパスの事務所内において、入学志願者などの個人情報のべ 828 件を含む USB メモリが所在不明になっていることを明らかにした。

7 月 8 日に USB メモリを使用しようとしたところ、紛失に気付いたもの。7 月 6 日に職員が事務所内で USB メモリを使用し、デスクの引き出しに入れていたが、その後の所在がわからないという。デスクの引き出しは施錠されていなかった。

紛失した USB メモリには、2012 年度から 2014 年度に実施した入学試験の志願者のべ 797 人の氏名や住所、生年月日、出身校、合否情報のほか、大学院看護学研究科の出願資格認定審査の申請者のべ 31 人の氏名や出身校、勤務先、研究実績などが保存されていた。同大学では、対象となる関係者に書面で事情の説明や謝罪を行うとしている。

2015/07/22

サイトに不正アクセス、公開講座受講者のメアドなど流出 - 梅花女子大学

梅花女子大学のウェブサイトが不正アクセスを受け、公開講座受講者のメールアドレスや電話番号などが流出したことがわかった。

7 月 13 日に、同大学のウェブサイトが不正アクセスを受けているとの連絡が外部機関から寄せられたもので、調査の結果、不正アクセスにより公開講座受講者のメールアドレス 418 件と電話番号 5 件が流出していたことが判明した。

同大学ではサイトを停止し、脆弱性を修正。また、対象となる受講者には報告と謝罪を行うとしている。

2015/07/16

ID や初期 PW 含む学生や教職員の個人情報流出 - 東京大学

東京大学のパソコンがマルウェアに感染し、学生や教職員のアカウント情報をはじめとする個人情報あわせて最大 3 万 6300 件が流出した可能性があることがわかった。

同大において、業務に利用するパソコンがマルウェアに感染、内部に保存されていた学内向けサービスのアカウントが流出していることが判明したものの。

同大によれば、6 月 30 日に学内で使用するメールサーバにおいて、管理画面の設定が変更されていることへ気が付き、調査を行ったところ、マルウェアの感染が発覚した。

感染したパソコンや同サービスのサーバには、システムのアカウント情報や個人情報が保存されていた。

流出した可能性があるのは、2013 年度と 2014 年度の学部入学者、および 2012 年度と 2013 年度にシステムを利用した学生の氏名、学生証番号、利用者 ID、初期パスワードなど約 2 万 7000 件。

さらに 2012 年度以降にシステムを利用した教職員の氏名や ID、初期パスワードなど 4500 件、サーバ管理者の氏名、ID、初期パスワードなど 3800 件、現在システムを利用している学生と教職員の氏名、学生証番号、ID など 1000 件などが含まれる。

同大学では対象となるすべてのパスワードを変更。感染端末を隔離した。詳しい原因や影響の範囲など調査を進めており、関係者へ連絡を取っているが、二次被害などは確認されていないという。

2015/07/16

サイトに不正アクセス - メールアドレスが流出 - 愛媛大学

愛媛大学が不正アクセスを受け、「愛媛大学ミュージアム」の情報配信用に登録されていたメールアドレスが流出したことがわかった。

同大が業者に運用を委託しているウェブサーバが、同月 10 日に不正アクセスを受けたもので、外部機関から 7 月 13 日に連絡があり、判明したという。愛媛大学ミュージアムの情報配信メールサービスに登録されているメールアドレス 366 件が外部へ流出した。

同大学では、不正アクセスを受けたサーバを停止。アプリケーションの脆弱性を突かれたものと見られているが、詳細な調査を進めている。また、アドレスが流出した登録者には報告と謝罪を行う方針。

2015/06/22

学内便で送付した学生の「住所届」が所在不明 - 九州大

九州大学は、キャンパス間で配送を行う学内便を利用して送付した学生 183 人分の「住所届」が所在不明になっていることを明らかにした。

所在不明になっているのは、箱崎キャンパスの理学部等事務部から伊都キャンパスの学務部宛てに、4 月 6 日に学内便で発送した学生の住所届。5 月 29 日の判明後から搜索を続けているという。

住所届には、理学部の院生と学部生 183 人分の氏名や住所、電話番号、学籍番号、生年月日、性別、本籍地、メールアドレスのほか、保護者の氏名や住所、電話番号、勤務先などが記載されていた。

同大学では、対象となる学生とその保護者に対し、書面で事情を報告し、謝罪した。個人情報の外部流出は確認されていない。

2015/06/19

個人情報入り PC が盗難、見知らぬ人との会話中に - 名古屋大

名古屋大学太陽地球環境研究所の教員が、出張先のスウェーデンで盗難に遭い、個人情報を含むノートパソコンが被害に遭ったことがわかった。

現地時間 5 月 31 日 12 時 30 分、レストランで食事中に見知らぬ男性から声を掛けられて会話した間に、イスの上に置いていた鞆が持ち去られた。鞆にはノートパソコンが入っていた。パソコンには、教員が担当する講義を受講している学生の氏名や成績のほか、研究所の学生や教職員の氏名、メールアドレスなど含む研究所連絡一覧など、のべ 271 人分の個人情報が保存されていた。一部データにはパスワードを設定していたという。

現地警察や日本大使館に被害届を提出するなど対応を行うとともに、対象となる学生と教職員には謝罪の書面を送付している。

2015/06/01

標的型メールでマルウェア感染、個人情報約 125 万件が漏洩 - 日本年金機構

日本年金機構のパソコンがマルウェアへ感染し、外部へ個人情報が漏洩したことがわかった。同機構は、詳細について調査を進めるとともに、基礎年金番号の変更など対応を進めている。

同機構のパソコンがマルウェアへ感染し、個人情報が外部へ漏洩していることが 5 月 28 日に判明したもの。「氏名」「基礎年金番号」「生年月日」を含む約 116.7 万件や、それに住所をくわえた約 5.2 万件など、現在わかっているだけであわせて約 125 万件にのぼる。

マルウェアは、メールの添付ファイルを開封したことにより感染。外部より端末に対してアクセスが発生した。端末を隔離し、マルウェアの駆除などを行うとともに警察へ被害を届けた。基幹である社会保険オンラインシステムに対する不正アクセスは確認されていないが、同機構では詳細について調査を進めている。

同機構は、今回の漏洩を受けて、関係者の基礎年金番号を変更するほか、年金手続きの際、本人確認などを実施する。

2015/05/27

非公開処理のミスでパブコメ提出者の個人情報漏洩 - 文科省

文部科学省は、文書公開請求に対して文書を公開した際、非公開とすべき個人情報が読み取れる状態だったことを明らかにした。

同省によれば、開示請求で公開した資料から個人情報が取得できる状態だったもの。2014 年 7 月に実施した「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」への意見募集について、提出された全意見の開示を求める請求があったことから、個人情報については不開示とした上で、2 月 18 日付けで意見を記録した PDF ファイルを含む CD-ROM を開示請求者に送付したが、PDF ファイルから表計算ソフトなどヘデータをコピーすると個人情報を読み取れる状態だった。

意見データでは提出者の個人情報を非公開処理したが、担当者が処理手順を十分に理解していなかったという。公開されたデータには、445 件の意見が保存されており、ローマ字表記の氏名や、住所、電話番号、メールアドレスなど提出者 111 人分の個人情報が含まれる。

4 月 28 日に開示請求者から指摘があり判明。同省では CD-ROM の返還と複製したデータの消去を要請した。また対象となる意見提出者には謝罪を行った。今後同省では、不開示の処理にあたり、電子データを紙に出力し、再度スキャナーで電子化するといった対応を徹底するとしている。

2015/05/12

大学向けクラウドで設定ミス 個人情報閲覧可能に - 電翔

パッケージソフトやソリューションサービスを展開する電翔は、大学向けクラウドソリューションにおいて、個人情報閲覧可能となる事故が 2 件発生していたことを明らかにした。

同社が大学向けに提供しているクラウドソリューションにおいて、利用者が特定の操作を行うことで、本来は閲覧できない個人情報にアクセスできる状態になっていたもの。2 月 6 日に利用している大学の職員から連絡があり問題が判明した。

学生の氏名や住所、電話番号、生年月日、メールアドレスなどが閲覧できる状態で、共有フォルダにおけるアクセス権限の設定ミスが原因だったという。

また別の学校のケースでは、就職支援システムの権限変更作業を行った際、同社従業員が学生情報の閲覧権限を誤って設定してしまったため、教職員のみ利用できる検索機能が、約 6 時間にわたり学生が利用できる状態だった。

これにより、同システムに登録された氏名や住所、電話番号、学籍番号、メールアドレス、出身高校、帰省先住所などが閲覧可能だったという。大学職員からの指摘を受け、設定の修正を行った。いずれも、個人情報の不正利用は確認されていないとしている。

2015/05/08

個人情報をウェブ公開フォルダに誤ってコピー - 名古屋大

名古屋大学において、サーバ内に保存されていた個人情報が外部から閲覧可能な状態になっていたことがわかった。あやまって公開フォルダ上へコピーしてしまったという。

誤って情報を公開してしまったのは、名古屋大学大学院理学研究科生命理学専攻の研究室で管理するサーバ。4月23日に同大においてサーバ情報の調査を行った際、問題が発覚した。原因は、公開しているウェブサイトのフォルダに、個人情報の入ったファイルを誤ってコピーしてしまったためだという。

閲覧できた個人情報は、2007年度の理学部および大学院理学研究科の学生のべ261人分の個人情報で、氏名や受講教科の採点結果、成績など含まれる。また職員3人分の氏名やメールアドレスも含まれる。

同大では、情報漏洩の原因となったサーバのデータを移動。ネットワーク上のキャッシュを消去した。学生や関係者に対しては個別に事情を説明、謝罪しているが、不正使用などは確認されていないという。

2015/04/22

学生の個人情報外部から閲覧可能に、操作ミスで - 東京大学

東京大学は、学生 136 人の氏名や成績が外部から閲覧可能な状態にあったことを明らかにした。

同大学大学院情報理工学系研究科の教員が、4 月 6 日に行った研究室のローカルサーバのシステム変更において操作ミスがあり、同教員の講義を受講した学生の個人情報が外部から閲覧可能となっていたもの。

漏洩したのは、同教員が個人的に作成した成績関連のメモで、学生 136 人の氏名と学籍番号が記載されていた。そのうち 70 人は成績情報も含まれる。

13 日に学生からの連絡を受けて問題が判明。データを削除するとともに、検索エンジンへキャッシュの削除を依頼し、すでに削除されたとしている。

同大学では、対象となる学生に書面により報告と謝罪を実施。個人情報の不正利用などは報告されていないという。

2015/04/18 （秋田魁新報掲載）

医学部HP改ざん、一時閉鎖 ハッカー集団名など表示 - 秋田大

秋田大は 17 日、医学部のホームページ（HP）が何者かに改ざんされたと発表した。詳しい原因を調べ、対策を講じるため、同日夕に医学部の HP を閉鎖した。

同大広報課によると、医学部の職員が同日午後 4 時 10 分ごろ、医学部の 1 講座のトップページが書き換えられ、ハッカー集団とみられる名称とロゴマークだけが表示されているのを見つけた。約 20 分後、同大が医学部全体の HP を閉鎖した。

HP は 18 日午前 0 時ごろ復旧した。

2015/04/07

入学式で新入生の名簿を紛失・個人情報揭示を指摘受けて中止 - 横浜国立大

横浜国立大学は、全新生の個人情報が記載された名簿を紛失したことを明らかにした。

入学式の受付で使用していた新入生名簿を紛失したというもの。問題の名簿には、全学部の新入生の氏名や学籍番号、生年月日、所属学部、学科などが記載されていた。

同大学では、紛失の経緯など事実関係について調査を進めている。また今回の事態を受けて学籍番号を変更し、学生証を再発行した。

紛失した情報が悪用されるおそれもあるとして、パスワードに生年月日を用いない、身に覚えのない連絡には返信しないなど、学生に注意するよう呼びかけている。

また同大では 6 日に、学生の個人情報を学内に揭示する問題が発生したことを明らかにした。教育人間科学部の教育実習に関する揭示において、氏名や住所、電話番号、生年月日、性別、出身高校、最寄り駅、教育実習希望校など、学生 3 人の個人情報を揭示していたという。

揭示後 1 時間後に指摘を受け、揭示を中止した。

同大では、再発防止策を早急に取りまとめるとしている。

2015/03/20

就職説明会で学生情報を紛失 - クリーニング事業者

ロイヤルネットワークは、企業説明会で提出された企業訪問カードが所在不明になっていることを明らかにした。

3 月 3 日に宮城県で実施したマイナビ大卒新卒向け合同企業説明会において、回収した企業訪問カード 10 人分を紛失したもの。

氏名や住所、携帯電話番号、メールアドレス、学校、卒業年などが記載されていた。

不正使用などは確認されていないが、不審なダイレクトメールや勧誘の電話などに注意するよう呼びかけている。

2015/03/09

患者の個人情報記載の書類を紛失 - 東京歯科大市川総合病院

東京歯科大学市川総合病院において、同意書など患者の個人情報が記載された一部書類が所在不明となっている。

2 月 6 日、10 日、13 日に患者から預かった問診票や同意書、診療情報提供書など 126 人分が、電子データとして保存する手続きを行った後に所在不明となっていることが、2 月 18 日に判明した。

同院では、誤って廃棄した可能性が高いとし、すでに電子化が行われており、治療への影響はないとしている。対象となる患者と関係医療機関には個別に報告や謝罪を行う。

2015/02/26

患者情報を保存した PC が盗難被害 - 筑波大付属病院

筑波大学付属病院は、患者の個人情報が保存されたノートパソコンが盗難被害に遭ったことを明らかにした。

同大の大学院生が学外で盗難被害に遭ったもので、被害に遭ったパソコンには、患者など 165 人分の個人情報が保存されていたという。氏名や年齢、手術日、病名の略号、手術や術後経過に関する情報などが含まれる。

同院では、対象となる患者へ電話で事情を説明。また書面や訪問などにより謝罪を行っている。盗難に遭った情報の不正利用など、報告は受けていないという。

2015/02/18

患者情報含む PC を一時紛失、ファイルアクセスなし - 東大病院

東京大学医学部付属病院に関連する医師が、患者の個人情報含むノートパソコンなどを電車内に置き忘れ、一時紛失していたことがわかった。パソコンは 6 日後に回収されている。

同院によれば、紛失が発生したのは 2 月 10 日 20 時ごろ。専門研修プログラムに所属する医師が電車内に置き忘れたもので、検索を行ったところ、千葉県警が保管していることを 16 日に確認、回収した。パソコンは、紛失した翌 11 日 9 時ごろに拾得者より警察へ届けられていたという。

同パソコンには、2014 年 1 月から 12 月までのあいだに同院で診療を受けた患者 1027 人分の氏名や ID、年齢、診療情報が保存されており、そのうち 942 人については住所や生年月日も含まれる。同院が回収後にログを確認したところ、これらファイルに対して第三者がアクセスした記録は残っていなかったという。

今回の問題を受けて、同院では対象となる患者に事情を説明し、謝罪する書面を送付した。また、個人情報を持ち出す際は匿名化するルールが守られていなかったとして、全職員への指導を徹底するとしている。

2015/02/06

学生の個人情報入り USB メモリを出張先で紛失 - 大阪市立大

大阪市立大学は、教員が出張先のマレーシアにおいて、学生 39 人分の個人情報を保存した USB メモリを紛失したと発表した。

同大学によれば、現地時間の 1 月 27 日 21 時 45 分ごろ、USB メモリを入れていたポーチがなくなっていることに気付いたという。ポーチは、パスポートや航空機の搭乗券なども入れていたもので、ズボンのポケットに入れていた。

USB メモリには、教員が 2009 年に担当した講義を受講した学生 39 人の氏名や学籍番号、成績データなどのべ 62 件を保存。データにはパスワードが設定されているとしている。同大学では、対象となる学生に説明と謝罪を行う方針。

2015/01/21

学生のレントゲンフィルムを誤廃棄 - 慶応大

慶応義塾大学は、健康診断で撮影した学生のレントゲンフィルムが所在不明になっていることを明らかにした。誤って廃棄した可能性が高いとしている。

2013 年春の健康診断時に撮影した学生 9336 人分の胸部レントゲンフィルムが所定の場所に保管されていないことが 1 月 6 日に判明したもの。搜索したが発見できず、調査を行った結果、2014 年秋に誤って廃棄した可能性が高いという。

廃棄物として業者に渡した際、191 人分のフィルムについては氏名と学籍番号が特定できる状態だったという。対象となる 191 人には、謝罪の書面を送付する。健康診断票は別途管理されており、学生の健康管理上の不都合はないと説明している。

2015/01/20

NAS の個人情報 5 万件を誤って外部へ公開 - 首都大学東京

首都大学東京は、学内で利用していたネットワーク接続に対応したハードディスクの設定ミスにより、個人情報約 5 万 1000 件が外部へ公開されていたことを明らかにした。

外部からアクセス可能となっていたのは、同大南大沢キャンパスの教務課が管理している NAS。1 月 1 日に学外からメールで指摘があり、休み明けの 5 日に確認、問題が発覚した。

NAS 内に保存されていたのは、学生や教員の氏名、住所、電話番号、生年月日などで、一部メールアドレスや修得単位数、TOEIC のスコアも含まれる。入学手続予定者や教員免許状更新講習受講者など、学外の関係者の情報も記録されていた。

個人情報は、のべ人数で約 5 万 1000 件にのぼり、2014 年 8 月 22 日から FTP 共有を無効化した 2015 年 1 月 5 日まで外部からアクセスできる状態だった。

NAS では、初期設定で FTP 共有機能が有効となっており、そのまま設定を変更せずに利用したのが原因だという。FTP 接続時の ID やパスワードなども利用しておらず、保存しているデータの多くについても、パスワードによる保護は行っていなかった。

情報の不正利用は確認されていない。同大学では窓口を設置し、関係者からの問い合わせに対応する。

2015/01/06

母体や乳児の患者情報含む USB メモリがひったくり被害 - 九大病院

九州大学病院の医師がひったくりに遭い、患者の個人情報を保存した USB メモリが持ち去られたことがわかった。

2014 年 12 月 18 日 21 時ごろ、医師が帰宅後に再度自転車で外出した際、バイクに乗った 2 人組に鞆を強奪されたという。鞆の中には、医師が研究目的で収集した患者 91 人の情報を保存した USB メモリが入っていた。

奪われた USB メモリには、患者の氏名や年齢、使用した薬剤の名称、細菌検査の結果にくわえ、出産した乳児の体重や性別、発育状態、そのほか記号化したデータなどが含まれるという。USB メモリにセキュリティ対策は講じていなかった。

同大では警察へ被害届を提出。対象となる患者に、電話や文書で事情の説明と謝罪を行っている。

2014/12/24

教員選考応募者の個人情報含む USB メモリが所在不明 - 宮崎大

宮崎大学において、教員採用選考の応募者情報が保存された USB メモリが所在不明となっている。

同大教員が、校内で紛失したもので、12 月 18 日に教員が報告し、問題が判明した。所在がわからなくなっている USB メモリには、教員採用選考の応募者に関する氏名、住所、電話番号、生年月日など、17 人分の個人情報を保存していた。個人情報含むファイルに対しては、パスワードを設定していたと説明している。

紛失した情報の不正利用に関する報告は寄せられていないという。同大学では、対象となる応募者に連絡、説明と謝罪を行っている。

2014/12/22

請求受けて公開した行政文書に個人情報 - 新潟県立看護大

新潟県立看護大学は、公開した行政文書の中に、本来非公開とすべき個人情報が含まれていたことを明らかにした。

同大学によれば、行政文書の公開請求を受け、12 月 19 日に請求者に対し公開を行ったが、請求者より文書内に個人情報が含まれているとの指摘を受けたため、文書の公開を停止した。

請求を受けて公開したのは、実習委員会議事録や学生委員会議事録など。同文書内に、実習を終えた学生が行う継燈式の委員 5 人や卒業生成績優秀者 2 人、休学者 1 人、退学者 2 人に関する個人情報が含まれていた。同大学では、対象となる関係者に文書で謝罪する。

2014/12/18

テストメール誤送信で職業訓練生のアドレスが流出 - 帝京大

帝京大学は、東京都から受託している公共職業訓練において、訓練生 19 人へのテストメール送信の際、職員の誤操作により全員のメールアドレスが表示された状態で送ったと公表した。

12 月 12 日 13 時 39 分ごろ、緊急時連絡用として訓練生より提供されたメールアドレスのテストのためにメールを一斉送信した際、操作ミスが発生したものの。

19 人に対し一斉送信したが、宛先にメールアドレスを記載、送信したため、受信者間でメールアドレスを確認できる状態と成った。ただし、2 件はアドレスの誤入力で未着だったという。

同日中に訓練生から流出を指摘するメールがあったが、担当者はすでに帰宅しており、流出を把握したのは週明けの 15 日だった。同大学では対象となる訓練生に謝罪、誤送信したメールの削除を要請している。

2014/11/26

高校で裏面に誤って個人情報印字した案内書を送付 - 広島県

広島県教育委員会は、県立高校の教諭が学習会の案内文書を送付した際、生徒の個人情報が漏洩したことを公表した。

11 月 12 日、学習会の担当教諭が受講者確認のための担任用資料を作成した際、学習会の案内を印刷した紙の裏に、受講者 48 人の氏名や住所、生徒番号などを印刷。そのまま確認せず、誤って発送してしまったもの。

2014/11/13

メールングリストの設定ミスにより個人情報流出 - BCC 利用から切り替え直後に

島根県の業務委託先において、メールングリストの設定ミスにより個人情報が漏洩したことがわかった。配信方法を切り替えた直後の事故だったという。

同県によれば、「島根県 IT 人材確保促進事業」を委託している東京の事業者においてメールングリストの設定に問題があり、リターンやＩターンの希望者のメールが漏洩したもの。

担当者が 11 月 4 日に、登録者 135 人に対して、メールングリストを用いて求人情報などをメールで配信。そのメールに対して 5 人から返信があったが、メールングリストの設定にミスがあり、関係ない登録者全員へ同報配信されたという。

返信されたメールには、氏名やメールアドレス。携帯電話番号、顔写真付きの履歴書などが含まれていた。従来、登録者へメールを同報配信する際は、BCC を利用していたが、11 月からメールングリストに切り替えたばかりだった。

委託先では、メールングリストの設定を修正。登録者に報告と謝罪を行い、誤って配信されたメールの削除を要請した。また同県でも対象者への謝罪を行っている。

2014/11/12

患者の個人情報を第三者に誤送信 - 昭和大学病院付属東病院

昭和大学病院付属東病院は、患者情報を第三者に誤って送信する事故が発生したことを公表した。

11 月 2 日に、患者 53 人の個人情報を第三者に誤って送信したもの。個人情報の具体的な内容は明らかにされていない。不正利用の報告は確認していないという。

同病院では、東京都に報告するとともに、対象となる患者に説明と謝罪の文書を送付するなどの対応を行っている。

2014/11/05

一部学生への連絡メールに学生 2634 人分の個人情報が混入 - 龍谷大

龍谷大学は、学生アルバイトに事務連絡を行った際、誤って学生 2634 人分の個人情報を含むメールを送信したことを明らかにした。

同大学によれば、10 月 23 日 17 時ごろ、理工学部の実験室を公開する際のアルバイトとして運営補助を行う理工学部と大学院理工学研究科の学生 105 人に、事務連絡メールを送信したが、その際に送信ミスが発生したもの。誤って理工学部と大学院理工学研究科の学生 2634 人の氏名、住所、電話番号、メールアドレスなどを含んだ状態で送信したという。

同大学では、誤送信したメールの受信者である学生にメールの削除を依頼。26 日に全員と個別に直接会い、メールの削除を確認した。また個人情報が流出した学生に対しては、報告と謝罪を行っている。

2014/10/17

個人情報含むファイルを学生 125 人にメール送信 - 兵庫医科大

兵庫医科大学は、6 年生 40 人の個人情報含むファイルを、1 年生 125 人に誤ってメール送信したことを明らかにした。

10 月 14 日、教務学生課の職員が、別の職員宛ての業務メールとして、6 年生 40 人の個人情報含む Excel ファイルを添付したメールを送信。その際に操作を誤り、1 年生への連絡用として使用している一斉送信用のアドレスにも送信した。ファイルにパスワードは設定していなかったという。

誤送信したファイルには、学生の氏名、電話番号、性別のほか、保護者の氏名、住所、電話番号、続柄などが含まれていた。

誤送信の発生後、送信先の 1 年生に対しメールや電話などで誤送信したメールの削除を依頼。また個人情報が流出した学生やその保護者に対して、電話で説明と謝罪を行っている。

2014/10/11 秋田さきがけ新報 掲載

学生情報漏えい 閲覧可能と指摘メール - 秋田大

秋田大（澤田賢一学長）は 10 日、教員がハードディスクをパソコンに接続した際、保存していた一部の学生の学籍番号や学習評価などの情報が一時、外部から閲覧できる状態になっていたと発表した。今のところ情報が悪用されたといった報告はなく、秋田大が原因を調べている。秋田大によると、保存していたのは、学生 10 人ほどの学籍番号と氏名、学習評価、外部講師の氏名や略歴など。教員はハードディスクを研究室内のパソコンに接続して使っており、外部から閲覧されないようパスワードを設定していたという。秋田大は教員や学生の所属学部を明らかにしていない。

9 日夕、「はじめまして。先生が管理している記録装置の内容が、学外に公表されたようです。」とのメールが外部からこの教員に届き、情報の漏えいが発覚。送信者のアドレスなどに見覚えはないという。

教員はすぐに大学に報告。別のパソコンでファイルを確認しようとしたが、ハードディスクが故障して読み取れなくなっていた。秋田大は、ハードディスクを修復してデータを復元する作業を進めている。

2014/10/03

マドリードのカフェで個人情報入り HDD が置き引き被害 - 大阪市立大

大阪市立大学の教員が、出張先のスペインで鞆の盗難に遭い、学生のべ 277 人分の個人情報を保存したハードディスクを盗まれたことがわかった。

盗難が発生したのは、工学研究科の講師が立ち寄ったマドリードのカフェ。現地時間の 9 月 20 日 22 時 30 分ごろに入り、15 分ほど経ったところで足元へ置いていた鞆がなくなっていることに気付いたという。現地警察への届出を行ったが見つからない。

鞆にはノート PC やハードディスク、カメラ、パスポートなどが入っていたが、そのうちハードディスクには、同教員が 2013 年から 2014 年に担当した 8 講義を受講した学生のべ 277 人の氏名や学籍番号、成績、レポート提出状況などを含むエクセルファイルが保存されていた。また、過去 4 年間に送受信したメールも含む。エクセルファイルには、パスワードが設定されているという。

同大学では、9 月 30 日に同教員より個人情報の紛失について報告を受けた。対象となる学生や関係者には、説明と謝罪を進めている。

2014/09/30

学生の個人情報含む PC が海外で盗難被害 - 上智大

上智大学は、学生の氏名や成績などが保存されたパソコンが、海外で盗難被害に遭っていたことを明らかにした。

被害に遭ったパソコンには、同大学の教員が 2000 年から 2013 年の間に担当した 3 科目の受講者に関する氏名や成績などの情報が保存されていた。対象ファイルにはパスワードを設定しているほか、ハードディスクの暗号化などセキュリティ対策を講じていたという。

同大学では、対象となる受講者に書面を送付し、説明と謝罪を行うとしている。

2014/09/05

国際会議の発表中にパソコンを置き引き被害 - 九大

九州大学大学院システム情報科学研究院の教授が、学生や卒業生、研究者などの個人情報を含むパソコンを、出張先のスウェーデンで紛失したことがわかった。

8 月 25 日にスウェーデンで開催された国際会議において、同教授の発表中、付近に置いていた鞆が持ち去られたもの。鞆の中には大学が貸与したパソコンが入っており、事務局や現地警察に盗難を届けたが見つからない。

紛失したパソコンには、同教授が担当する 3 科目の講義を過去 3 年間に履修した学生、および卒業生約 400 人の氏名と点数、さらに国内外の大学、研究所、企業の研究者約 300 人の氏名と連絡先、送受信メールなどの個人情報が保存されていた。パソコンのハードディスクは暗号化を行っていたという。

同大学では今回の盗難を受け、対象となる学生や卒業生、研究者に対し、書面で状況を報告、謝罪する。

2014/08/27

出張先の海外で個人情報含むノート PC が盗難被害 - 東大

東京大学大学院の教員が、海外出張中に盗難被害に遭い、関係者の個人情報が保存されたノートパソコンを盗まれたことがわかった。

同大学院教育学研究科の教員が、出張先の海外でノートパソコンを入れた鞆ごと何者かに持ち去られた。盗まれたパソコンには、関係者の氏名やメールアドレスなどの個人情報が保存されていた。

同大によれば、今回の盗難と関連した個人情報の不正利用などは確認されていないという。

2014/08/12

教員免許更新講習システムに不具合、受講者情報が閲覧可能に - 放送大学

放送大学学園の教員免許更新講習システムにおいて、受講者の個人情報がほかの受講者から一時閲覧できる状態だったことがわかった。

教員免許更新講習システムの設定にミスがあり、本来アクセスできない個人情報が閲覧可能となったもの。閲覧可能となったのは、同システムに登録されている受講者の氏名とメールアドレス。

閲覧可能だった 7 月 14 日から 8 月 6 日までで 78 件の情報閲覧が確認されたという。8 月 6 日に受講者からの指摘を受け、問題が判明した。同大では、システムの設定変更を実施。設定の変更後、問題は解消されたという。

2014/07/15

教員が置き引き被害、学生の個人情報含む USB メモリを紛失 - 大阪市立大

大阪市立大学の教員が、帰宅途中に路上で置き引き被害に遭い、学生の個人情報含む USB メモリ 2 個などが盗まれていたことがわかった。

同大学の発表によれば、7 月 8 日 2 時過ぎごろ、工学研究科の准教授が置き引きに遭い、鞆がなくなったもの。

懇親会の終了後の 1 時 30 分ごろ、帰宅途中で、一緒に帰宅に向かっていた大学院生の気分が悪くなり、路上で介抱していたところ、その間に鞆を持ち去られたという。院生の回復を待って警察へ届け出た。

被害に遭った鞆にはノート PC や USB メモリ 3 個が入っていたが、そのうち 1 個の USB メモリに卒業生 111 人の氏名、住所、在学時の学籍番号を保存していた。パスワードは設定されているという。また別の 1 個には、在校生および卒業生 284 人の氏名、学籍番号、レポートの提出状況、試験の成績が含まれていた。

パスワードなどセキュリティ対策は講じていなかった。

同大学では、対象となる在校生と卒業生に対し、口頭や文書による説明と謝罪を進める。また情報媒体の持ち出しルールの徹底や、不必要な個人情報の削除を実施し、再発防止を目指す。

2014/07/10

誤送信で学生ボランティアのメールアドレス流出、同様事故過去にも - 北海道

北海道教育庁においてメール誤送信が発生し、学生ボランティア 73 人のメールアドレスが流出したことがわかった。

オホーツク教育局の担当者が、「学校サポーター派遣事業」の学生ボランティアバンクに登録している学生ボランティア 73 人に対し、研修会の案内メールを送信。その際、担当者の操作ミスにより送信先の全アドレスを表示した状態で送られたという。

また、今回の誤送信を受けて過去のメールについて確認したところ、2013 年度までの間に学生ボランティアに登録した 79 人についても、同様の誤送信でアドレスを流出した可能性が判明した。今後は、複数の職員による宛先確認を徹底するとしている。

2014/06/23

患者情報保存した USB メモリが所在不明 - 東京女子医科大

東京女子医科大学東医療センターにおいて、123 人分の患者情報を保存していた USB メモリが所在不明となっている。

同センターによれば、問題の USB メモリには、2009 年から 2012 年までに同センターへ入院した患者の氏名や ID、検査データなど 103 人分のほか、2007 年から 2012 年までの患者 20 人に関する氏名、ID、病名などが記載されていた。

今回の紛失は、5 月 19 日に判明したもので、同センターではその後も探索を続けているという。個人情報の不正利用などは確認されていない。

2014/06/13

奨学金支給対象者の個人情報や口座情報含むファイルを誤送信 - 横浜市立大

横浜市立大学が日本学生支援機構奨学金の申請者 181 人にメール送信した際、誤って支給対象者 172 人の個人情報含むファイルを添付していたことがわかった。

同大学によれば、6 月 9 日 15 時 45 分ごろ、職員が日本学生支援機構奨学金の申請者 181 人に対して、学生専用のポータルサイトを通じてメールを送信。本来は学籍番号のみ記載した PDF ファイルを添付するはずが、誤って 6 月から奨学金の支給が開始される 172 人分の個人情報含むエクセルファイルを添付、送信したという。

ファイルには、学生の氏名や生年月日、学年、学籍番号、奨学生番号のほか、振込先の金融機関名や口座番号、奨学金貸与月額、入学時特別増額貸与額、保証料月額などが記載されていた。同日 17 時 15 分ごろ、メールを受信した学生から連絡があり判明したもので、19 時 10 分に誤送信先の 181 人へメールで謝罪し、添付ファイルの削除を要請。また対象学生の保証人に対し、経緯説明と謝罪を行った。

本来送付するはずだったファイルと誤送信したファイルは、いずれも同じファイル名で、送信前に添付ファイルの内容を確認せずに送ったのが原因だったとし、同大では、再発防止策として、職員間におけるチェックの強化など対策を講じていく。

2014/06/16

学生や卒業生の個人情報含む HDD が盗難 - 大阪府立大工業高専

大阪府立大学工業高等専門学校において、教員が研究室で使用する外付けハードディスクが盗難に遭ったことがわかった。学生の個人情報が記録されていたという。

同大によれば、教員が 6 月 6 日 15 時ごろ、研究室のパソコンへハードディスクを接続した状態で部屋を離れ、17 時 30 分ごろ研究室に戻ったところ、ハードディスクがなくなっていることに気付いたという。パソコンの画面上には、ハードディスクを不適切に接続解除したことを示す警告画面が残っていた。

盗まれたハードディスクには、同教員が 1999 年以降に担当した科目に関する学生の氏名と成績のべ 4835 人分のほか、2008 年度および 2011 から 2014 年度の同校在学生のべ 4028 人分の氏名と集合写真、同教員が担当した体験入学への参加者のべ 211 人の氏名と住所、同教員と交流のある学外の研究者のべ 476 人の氏名と住所など、個人情報が保存されていた。

同大では、10 日に警察へ盗難届を提出。対象となる卒業生や学外の関係者には説明と謝罪の文書を送付するほか、在校生に対し、校内掲示板やホームページを通じて謝罪している。

2014/05/12

患者の個人情報含む USB メモリを医師が紛失 - 東京医科歯科大病院

東京医科歯科大学医学部付属病院の医師が、患者の個人情報が保存された USB メモリを紛失していたことがわかった。

紛失が発生した東京医科歯科大学 4 月 26 日 9 時ごろ、同医師が JR 武蔵野線の車内に USB メモリ 2 本が入った鞆を置き忘れたもので、紛失した USB メモリには、あわせて患者 225 人分の手術症例リストや画像データが保存されていた。

保存されていた患者情報のうち、「氏名」「ID」「年齢」「性別」など 215 人分の症例リストについては、パスワードで保護されていたが、患者 16 人分のデータについては、氏名、生年月日、画像データ、所見など含まれるものの、パスワードが設定されていなかった。

一部重複しているため、対象となる患者は 225 人で、同大学では、文書による謝罪を行っている。個人情報の不正利用は確認されていない。

2014/05/09

アカウント登録の作業ファイルが外部よりアクセス可能に - 大阪工業大学

大阪工業大学は、大学内において新システム導入する際、アカウント情報の登録に利用した一部作業ファイルが外部へ流出したことを明らかにした。

外部からアクセス可能となっていたのは、アカウント登録に用いたファイルで、学生や教職員の個人情報が含まれるという。また一時検索サイト上にも登録されていた。

同大は、今回の問題についてシステム導入業者の認識不足や作業ミスが重なったことが原因と説明。管理体制の強化を実施し、再発防止に努めたいとしている。

2014/05/07

個人情報含む USB メモリが所在不明に - 広島市立大

広島市立大学は、学生や教員など 58 人の個人情報が保存された USB メモリが所在不明になっていることを公表した。

同大学の保健管理室において USB メモリが所在不明となったもの。3 月下旬まで事務機の引き出しに保管されていたが、4 月 18 日に紛失が判明。警察へ紛失届を提出した。紛失時期については特定できないという。

保健管理室へ相談に訪れた学生や教員など 58 人の氏名や性別、学部、学籍番号、相談区分などが記録されていた。対象となる学生および教員には、謝罪の文書を送付している。

2014/04/27

ハードディスクに保存した個人情報インターネットで閲覧可能に - 千葉大

千葉大学は、教授が持ち帰ったハードディスクに保存されていた学生の個人情報が、インターネット経由で一時的に閲覧できる状態だったことを明らかにした。

同大教授が、大学からネットワーク接続に対応したハードディスクを自宅に持ち帰り、使用していたところ、セキュリティ設定に問題があり、インターネット経由でアクセス可能な状態だったという。

ハードディスクに保存されていた個人情報は、在校生および他大学の学生などあわせて約 4 万 7000 人分にのぼると見られ、検索エンジンなどにも登録されていた。

同大学では、情報流出の判明後、ハードディスクの設定を変更。検索サイトに情報の削除を要請するなど対応を行っている。

2014/04/01

休退学者の個人情報ファイルを学生 1824 人に誤送信 - 明治薬科大

明治薬科大学は、学生 1824 人に誤って学生 20 人分の休学・退学情報をメールに添付し送信していたことを明らかにした。

3 月 11 日 18 時、同大学の学生支援部学生支援課が「サークル棟・体育館の清掃」に関する案内メールを、薬学科の学生 1603 人、生命創薬科学科の学生 221 人に送信。その際、担当者の確認不足により、学生 20 人の休退学情報が添付ファイルとして送信されたという。

同日中に送信先の学生に連絡し、添付ファイルの削除を依頼した。また情報が流出した学生には、電話または文書で謝罪を行ったとしている。

情報セキュリティ事故事例

参考：Security NEXT

2018 年 12 月

2018/12/11

学生がフィッシング被害、迷惑メール約 29 万件の踏み台に - 新潟大

新潟大学において、学生のメールアカウントがフィッシングにより乗っ取られたことがわかった。迷惑メール送信の踏み台に悪用されたほか、メールに含まれる個人情報が閲覧された可能性がある。

同大によれば、8 月 24 日に同大の学生が支払通知を装ったフィッシングメールを受信。誘導先のフィッシングサイトでメールアカウントのパスワードを入力したため、同日より同アカウントが不正アクセスを受けていたという。

同月 28 日には、問題のアカウントより約 29 万 6000 件の迷惑メールが送信された。またメールアカウントに保存されていた個人情報が第三者によって閲覧された可能性がある。

閲覧された可能性があるのは、学外関係者 17 人の氏名とメールアドレスで、一部住所や電話番号も含む。さらに、学内関係者 93 人の氏名とメールアドレスおよび一部の住所と電話番号、2 人のメールアドレスなども保存されていた。

同大では、対象となるアカウントを停止。学生や教職員に対して注意喚起を行った。個人情報流出の可能性がある関係者には、個別に対応を進めている。

また発表までに 3 カ月以上がかかっているが、確認と調査に時間を要したと釈明。今後は迅速に発表できるよう努めるとしている。

2018/12/18

職員が自動転送していたフリーメールに不正アクセス、個人情報が流出 - 兵庫教育大

兵庫教育大学は、事務員個人のメールアカウントが不正アクセスを受け、同アカウントへ転送していた個人情報含む業務メールが第三者に漏洩した可能性があることを明らかにした。同大によれば、職員が大学のメールアカウントに届くメールを、学外でも確認できるよう自身のフリーのメールアカウントに自動転送させていたところ、同アカウントが不正アクセスを受けたという。

2016 年 4 月 1 日から 2018 年 10 月 26 日までに転送されたメールが、第三者によって閲覧された可能性があり、これらメールには、学外および学内関係者 1 万 1322 人の個人情報が保存されていた。一部メールには、障害や病歴など含む個人情報が 11 件、パスポートの写しや金融機関の情報など含む個人情報が 23 件あった。

転送先のフリーメールで不正アクセスを知らせるアラート通知があり、ログイン履歴を確認したところ、不正ログインされたことが判明。今回の問題を受け、同大では対象となる関係者に謝罪している。

2018/12/21

恥ずかし画像で不安煽る詐欺メール、送信元を情セ大に偽装

受信者の端末にマルウェアを感染させ、不都合な画像を撮影したなどとだまし、金銭を要求する詐欺メールが出回っているが、送信元として「情報セキュリティ大学院大学」を名乗るケースが確認された。

同大によれば、同大を送信元に偽装した詐欺メールが送信されたとの報告を 12 月 18 日に多数受けたという。

問題のメールでは、「数カ月前にメールのデバイスをクラックしたハッカー」などと名乗り、あたかも受信者の端末へトロイの木馬に感染させたかのように主張。アダルトサイトを閲覧している姿をカメラで撮影したなどと脅し、データやマルウェアを削除するなどとして、555 米ドル相当の Bitcoin を送金するよう求めている。

インターネット上に流出したと見られるパスワードを記載することで実際に端末を侵害したかのように見せかけ、受信者を信じ込ませるソーシャルエンジニアリングのテクニックを用いていた。

同大が示した詐欺メールのサンプルに記載された振込先の Bitcoin アドレスには、12 月 21 日の時点で 3 件のトランザクションが記録されており、0.316 ビットコインが送金された形跡が見られた。

同大を名乗るケースに限らず、類似した詐欺メールは多数確認されているが、最近は証拠画像などと称してファイルをダウンロードさせ、ランサムウェアに感染させる手口も確認されており、注意が必要だ。

2018/12/25

学生情報含む USB メモリが所在不明 - 札幌学院大

札幌学院大学は、学生の個人情報が入った USB メモリが、同大学構内で所在不明になっていることを明らかにした。

同大によれば、教員が 11 月 20 日に講師室で USB メモリを使用した後、その後の所在がわからなくなっているもの。同月 26 日に授業の準備のため講師室へ訪れた際、USB メモリを紛失していることに気が付いたという。

問題の USB メモリには、同教員が担当した 2016 年から 2018 年までの講義を受講した学生 210 人分の氏名や学籍番号、提出課題が含まれる。

2017 年、翌 18 年の学生に関しては成績や出席状況についてもあわせて保存していたが、これらデータに関しては暗号化されているという。

同大では、対象となる学生に対し説明と謝罪を実施。学生の保証人に対しては書面を通じて説明と謝罪を行っている。

2018/12/27

メール誤送信で卒業生などのメールアドレス流出 - 上越教育大

上越教育大学は、卒業生や修了生にメールを送った際にミスがあり、メールアドレスが流出したことを公表した。

同大によれば、12月13日13時半過ぎ、日本学生支援機構の奨学生だった卒業生および修了生へ連絡を取るためにメール116件を送信したが、送信先を誤って宛先に入力。受信者間でメールアドレスが閲覧できる状態となった。

同大では、関係者へ謝罪するとともに、誤送信したメールの削除を依頼している。

情報セキュリティ事故事例

参考：Security NEXT

2018 年 12 月

2018/12/11

学生がフィッシング被害、迷惑メール約 29 万件の踏み台に - 新潟大

新潟大学において、学生のメールアカウントがフィッシングにより乗っ取られたことがわかった。迷惑メール送信の踏み台に悪用されたほか、メールに含まれる個人情報が閲覧された可能性がある。

同大によれば、8 月 24 日に同大の学生が支払通知を装ったフィッシングメールを受信。誘導先のフィッシングサイトでメールアカウントのパスワードを入力したため、同日より同アカウントが不正アクセスを受けていたという。

同月 28 日には、問題のアカウントより約 29 万 6000 件の迷惑メールが送信された。またメールアカウントに保存されていた個人情報が第三者によって閲覧された可能性がある。

閲覧された可能性があるのは、学外関係者 17 人の氏名とメールアドレスで、一部住所や電話番号も含む。さらに、学内関係者 93 人の氏名とメールアドレスおよび一部の住所と電話番号、2 人のメールアドレスなども保存されていた。

同大では、対象となるアカウントを停止。学生や教職員に対して注意喚起を行った。個人情報流出の可能性がある関係者には、個別に対応を進めている。

また発表までに 3 カ月以上がかかっているが、確認と調査に時間を要したと釈明。今後は迅速に発表できるよう努めるとしている。

2018/12/18

職員が自動転送していたフリーメールに不正アクセス、個人情報が流出 - 兵庫教育大

兵庫教育大学は、事務員個人のメールアカウントが不正アクセスを受け、同アカウントへ転送していた個人情報含む業務メールが第三者に漏洩した可能性があることを明らかにした。同大によれば、職員が大学のメールアカウントに届くメールを、学外でも確認できるよう自身のフリーのメールアカウントに自動転送させていたところ、同アカウントが不正アクセスを受けたという。

2016 年 4 月 1 日から 2018 年 10 月 26 日までに転送されたメールが、第三者によって閲覧された可能性があり、これらメールには、学外および学内関係者 1 万 1322 人の個人情報が保存されていた。一部メールには、障害や病歴など含む個人情報が 11 件、パスポートの写しや金融機関の情報など含む個人情報が 23 件あった。

転送先のフリーメールで不正アクセスを知らせるアラート通知があり、ログイン履歴を確認したところ、不正ログインされたことが判明。今回の問題を受け、同大では対象となる関係者に謝罪している。

2018/12/21

恥ずかし画像で不安煽る詐欺メール、送信元を情セ大に偽装

受信者の端末にマルウェアを感染させ、不都合な画像を撮影したなどとだまし、金銭を要求する詐欺メールが出回っているが、送信元として「情報セキュリティ大学院大学」を名乗るケースが確認された。

同大によれば、同大を送信元に偽装した詐欺メールが送信されたとの報告を 12 月 18 日に多数受けたという。

問題のメールでは、「数カ月前にメールのデバイスをクラックしたハッカー」などと名乗り、あたかも受信者の端末へトロイの木馬に感染させたかのように主張。アダルトサイトを閲覧している姿をカメラで撮影したなどと脅し、データやマルウェアを削除するなどとして、555 米ドル相当の Bitcoin を送金するよう求めている。

インターネット上に流出したと見られるパスワードを記載することで実際に端末を侵害したかのように見せかけ、受信者を信じ込ませるソーシャルエンジニアリングのテクニックを用いていた。

同大が示した詐欺メールのサンプルに記載された振込先の Bitcoin アドレスには、12 月 21 日の時点で 3 件のトランザクションが記録されており、0.316 ビットコインが送金された形跡が見られた。

同大を名乗るケースに限らず、類似した詐欺メールは多数確認されているが、最近では証拠画像などと称してファイルをダウンロードさせ、ランサムウェアに感染させる手口も確認されており、注意が必要だ。

2018/12/25

学生情報含む USB メモリが所在不明 - 札幌学院大

札幌学院大学は、学生の個人情報が入った USB メモリが、同大学構内で所在不明になっていることを明らかにした。

同大によれば、教員が 11 月 20 日に講師室で USB メモリを使用した後、その後の所在がわからなくなっているもの。同月 26 日に授業の準備のため講師室へ訪れた際、USB メモリを紛失していることに気が付いたという。

問題の USB メモリには、同教員が担当した 2016 年から 2018 年までの講義を受講した学生 210 人分の氏名や学籍番号、提出課題が含まれる。

2017 年、翌 18 年の学生に関しては成績や出席状況についてもあわせて保存していたが、これらデータに関しては暗号化されているという。

同大では、対象となる学生に対し説明と謝罪を実施。学生の保証人に対しては書面を通じて説明と謝罪を行っている。

2018/12/27

メール誤送信で卒業生などのメールアドレス流出 - 上越教育大

上越教育大学は、卒業生や修了生にメールを送った際にミスがあり、メールアドレスが流出したことを公表した。

同大によれば、12月13日13時半過ぎ、日本学生支援機構の奨学生だった卒業生および修了生へ連絡を取るためにメール116件を送信したが、送信先を誤って宛先に入力。受信者間でメールアドレスが閲覧できる状態となった。

同大では、関係者へ謝罪するとともに、誤送信したメールの削除を依頼している。

情報セキュリティ事故事例

参考：Security NEXT

2018 年 12 月

2018/12/11

学生がフィッシング被害、迷惑メール約 29 万件の踏み台に - 新潟大

新潟大学において、学生のメールアカウントがフィッシングにより乗っ取られたことがわかった。迷惑メール送信の踏み台に悪用されたほか、メールに含まれる個人情報が閲覧された可能性がある。

同大によれば、8 月 24 日に同大の学生が支払通知を装ったフィッシングメールを受信。誘導先のフィッシングサイトでメールアカウントのパスワードを入力したため、同日より同アカウントが不正アクセスを受けていたという。

同月 28 日には、問題のアカウントより約 29 万 6000 件の迷惑メールが送信された。またメールアカウントに保存されていた個人情報が第三者によって閲覧された可能性がある。

閲覧された可能性があるのは、学外関係者 17 人の氏名とメールアドレスで、一部住所や電話番号も含む。さらに、学内関係者 93 人の氏名とメールアドレスおよび一部の住所と電話番号、2 人のメールアドレスなども保存されていた。

同大では、対象となるアカウントを停止。学生や教職員に対して注意喚起を行った。個人情報流出の可能性がある関係者には、個別に対応を進めている。

また発表までに 3 カ月以上がかかっているが、確認と調査に時間を要したと釈明。今後は迅速に発表できるよう努めるとしている。

2018/12/18

職員が自動転送していたフリーメールに不正アクセス、個人情報が流出 - 兵庫教育大

兵庫教育大学は、事務員個人のメールアカウントが不正アクセスを受け、同アカウントへ転送していた個人情報含む業務メールが第三者に漏洩した可能性があることを明らかにした。同大によれば、職員が大学のメールアカウントに届くメールを、学外でも確認できるよう自身のフリーのメールアカウントに自動転送させていたところ、同アカウントが不正アクセスを受けたという。

2016 年 4 月 1 日から 2018 年 10 月 26 日までに転送されたメールが、第三者によって閲覧された可能性があり、これらメールには、学外および学内関係者 1 万 1322 人の個人情報が保存されていた。一部メールには、障害や病歴など含む個人情報が 11 件、パスポートの写しや金融機関の情報など含む個人情報が 23 件あった。

転送先のフリーメールで不正アクセスを知らせるアラート通知があり、ログイン履歴を確認したところ、不正ログインされたことが判明。今回の問題を受け、同大では対象となる関係者に謝罪している。

2018/12/21

恥ずかし画像で不安煽る詐欺メール、送信元を情セ大に偽装

受信者の端末にマルウェアを感染させ、不都合な画像を撮影したなどとだまし、金銭を要求する詐欺メールが出回っているが、送信元として「情報セキュリティ大学院大学」を名乗るケースが確認された。

同大によれば、同大を送信元に偽装した詐欺メールが送信されたとの報告を 12 月 18 日に多数受けたという。

問題のメールでは、「数カ月前にメールのデバイスをクラックしたハッカー」などと名乗り、あたかも受信者の端末へトロイの木馬に感染させたかのように主張。アダルトサイトを閲覧している姿をカメラで撮影したなどと脅し、データやマルウェアを削除するなどとして、555 米ドル相当の Bitcoin を送金するよう求めている。

インターネット上に流出したと見られるパスワードを記載することで実際に端末を侵害したかのように見せかけ、受信者を信じ込ませるソーシャルエンジニアリングのテクニックを用いていた。

同大が示した詐欺メールのサンプルに記載された振込先の Bitcoin アドレスには、12 月 21 日の時点で 3 件のトランザクションが記録されており、0.316 ビットコインが送金された形跡が見られた。

同大を名乗るケースに限らず、類似した詐欺メールは多数確認されているが、最近は証拠画像などと称してファイルをダウンロードさせ、ランサムウェアに感染させる手口も確認されており、注意が必要だ。

2018/12/25

学生情報含む USB メモリが所在不明 - 札幌学院大

札幌学院大学は、学生の個人情報が保存された USB メモリが、同大学構内で所在不明になっていることを明らかにした。

同大によれば、教員が 11 月 20 日に講師室で USB メモリを使用した後、その後の所在がわからなくなっているもの。同月 26 日に授業の準備のため講師室へ訪れた際、USB メモリを紛失していることに気が付いたという。

問題の USB メモリには、同教員が担当した 2016 年から 2018 年までの講義を受講した学生 210 人分の氏名や学籍番号、提出課題が含まれる。

2017 年、翌 18 年の学生に関しては成績や出席状況についてもあわせて保存していたが、これらデータに関しては暗号化されているという。

同大では、対象となる学生に対し説明と謝罪を実施。学生の保証人に対しては書面を通じて説明と謝罪を行っている。

2018/12/27

メール誤送信で卒業生などのメールアドレス流出 - 上越教育大

上越教育大学は、卒業生や修了生にメールを送った際にミスがあり、メールアドレスが流出したことを公表した。

同大によれば、12月13日13時半過ぎ、日本学生支援機構の奨学生だった卒業生および修了生へ連絡を取るためにメール116件を送信したが、送信先を誤って宛先に入力。受信者間でメールアドレスが閲覧できる状態となった。

同大では、関係者へ謝罪するとともに、誤送信したメールの削除を依頼している。

情報セキュリティ事故事例

参考：Security NEXT

2018 年 11 月

2018/11/12

偽大学サイトが 1 年間で 961 件、16 カ国 131 大学が標的に - 国立大の偽ウェブメールも

大学関係者を狙うフィッシング攻撃があとを絶たない。露 Kaspersky Lab によれば、同社が確認しただけで 16 カ国 131 大学が標的となっていた。同調査には含まれないが、日本の国立大学を狙った攻撃も 10 月末に確認されたという。

同調査は、2017 年 9 月から 1 年間、同社製品で検出されたフィッシングサイトの状況について取りまとめたもの。ブラウザやメールにおいて検出されたフィッシングサイトの URL は 961 件、少なくとも 16 カ国 131 の大学が標的となっていた。

攻撃対象となった教育機関は、米国が 83 大学、英国が 21 大学でおもに英語圏が中心。今回の報告に日本国内の大学は含まれていないという。

しかし油断は大敵だ。同調査の対象外だが、10 月末に日本の国立大学を偽装したウェブメールのフィッシングサイトを、同社リサーチャーがパトロール中に確認している。

また 10 月にはイランの攻撃グループ「COBALT DICKENS」により、14 カ国 76 大学を狙った攻撃が報告されており、件数は少ないが、国内の大学も標的とされていた。

またフィッシング攻撃により、教職員がメールアカウント情報を詐取され、フィッシング攻撃の踏み台として悪用されたり、メール情報が流出する事件も相次いでいる。

Kaspersky Lab は、「サイバー犯罪者は教育機関に注目しており、教職員や生徒の 1 人 1 人が標的となっている」と指摘。

大学では、経済学から原子物理学まで幅広く、未公開かつ影響力が大きい情報を扱っていることにくわえ、大手企業との共同研究に取り組むケースも多く、企業の機密情報が狙われるおそれもあるとして警鐘を鳴らしている。

2018/11/19

職員メールアドレスに不正アクセス、PW を類推か - 早大

早稲田大学商学学術院において、職員のメールアドレスが不正アクセスを受け、同アカウントで送受信した一部メールが、外部に流出した可能性があることがわかった。

同大によれば、職員のメールアドレス 1 件が不正アクセスを受けたもの。同アカウントで 7 月 25 日から 8 月 31 日にかけて送受信されたメールが外部へ流出した可能性があるという。メールによって内容は異なるが、氏名や住所、電話番号、生年月日、メールアドレスのほか、国籍、本籍地、学歴、職歴、研究業績などの個人情報が含まれる。

8 月ごろから同職員のアカウントでメール送信がブロックされることが複数回あったことから、通信記録を調べたところ、不正アクセスを受けていることへ気が付いた。

本誌の取材に対し同大は、同期間以外に送受信したメールについては、あらためて流出を否

定。設定変更による不正転送などの被害なども生じていないとしている。

またメール送信がブロックされる状況が生じたが、スパムメールの踏み台に悪用された被害も確認されていないという。

同大は、不正アクセスを受けた原因について「安易なパスワードを用いており、類推された可能性がある」とし、問題発覚後、不正アクセスを受けたメールアカウントのパスワードを変更した。

同職員が利用する端末に関してはマルウェアに感染した可能性は低いとする一方、感染の疑いも否定できないとして、同職員 PC のローカルデータをリセットした。

不正アクセスを行った攻撃者の動機について、同大では「調査の結果から愉快犯による不正ハッキング目的と考えられる」との見方を示した。

愉快犯とした根拠について説明を求めたところ、「対象者からの具体的な被害報告がない」ことからこのような表現になったと説明。

「しかしながら、状況の変化も考えられるため、今後の推移を見守っていききたい(同大広報)」とコメントしている。

2018/11/19

造血幹細胞移植患者などの個人情報紛失 - 秋田大病院

秋田大学医学部付属病院の医師が、患者の個人情報を保存した USB メモリを 9 月に紛失していたことがわかった。

同大によれば、9 月 6 日に同院医師が、研究目的で患者の個人情報を保存していた USB メモリを紛失したものの。

問題の USB メモリには、同院で過去 20 年間に造血幹細胞移植を行った患者 500 人の氏名や生年月日、コードを用いた移植様式、患者識別番号、存命状況などの情報が保存されていた。

あわせて呼吸器内科の患者 1 人の氏名や検査データ、画像データ、所見なども含まれる。

警察に紛失届を提出したが、見つかっていない。同院では対象となる患者に書面による謝罪を行っている。

情報セキュリティ事故事例

参考：Security NEXT

2018 年 10 月

2018/10/03

神戸大、業務 PC でアダルトサイト閲覧した職員処分 - 2 年で約 1220 時間

神戸大学は、業務用パソコンでアダルトサイトを閲覧していた職員に対し、停職 6 カ月の懲戒処分を行った。

同大によれば、事務職員が業務用に貸与されているパソコンとネットワークを私的に使用。断続的にアダルトサイトを閲覧していたという。内部から通報があり、本人と関係者から聞き取り調査を行ったところ、問題が判明した。

同職員が業務用のシステムを利用してアダルトサイトを閲覧していた時間は、調査対象となった約 2 年間で労働時間の内外あわせて約 1220 時間。そのうち約 730 時間は勤務時間内だったという。

同大では、職員として不適切な行為であり、同大の就業規則で定められている勤務怠慢や備品の私的利用など違反行為にあたるとして、同職員に対し、停職 6 カ月の懲戒処分を実施した。

2018/10/09

「恥ずかし動画公開」詐欺メール、9 月中旬以降に大量送信 7 回 - 被害額は約 250 万円超か

「アダルトサイトの閲覧姿を盗撮した」などとして金銭をだまし取る日本語の詐欺メールが出回っている問題で、少なくとも約 250 万円の被害が発生していることがわかった。

トレンドマイクロによれば、9 月に同様の手口を用いた詐欺メールが同月 19 日以降、7 回にわたり配信されたことを同社クラウド基盤で確認した。送信されたメールは、少なくとも 3 万件にのぼるという。

メールには 11 種類の件名が用いられていた。なかでも「緊急対応!」「AV アラート」「あなたの心の安らぎの問題」「すぐにお読みください!」との件名で 7 割近くを占めている。

一連のメールでは、受信者の環境があたかも攻撃を受けたことを印象付けようとするソーシャルエンジニアリングの手法が見られた。

攻撃者は、詐欺メールの受信者のメールアドレスを乗っ取ったなどと説明。送信者のメールアドレスを、受信者のメールアドレスに偽装することで信じ込ませようとしていた。

さらに実際に受信者が利用するパスワードをメール上に記載。不正アクセスやマルウェア感染による攻撃が成功したかのように見せかけていた。

今回発生した詐欺メールのキャンペーンにおいて、攻撃者がパスワードを入手した詳しい経緯はわかっていないが、インターネット上へ大量に流出しているアカウント情報を用いた可能性がある。

同社では被害状況を把握するため、一連の攻撃で支払先として指定されていた 8 件の Bitcoin アドレスにおける入金状況について調査。

最初に詐欺メールが送信された 9 月 19 日以降、46 件のトランザクションがあり、日本円で約 250 万円にあたる約 3.4BTC が入金されていたという。

同社では 10 月に入ってから同様の攻撃を確認しているとし、引き続き注意するよう求めている。

件名	割合
緊急対応！	17.8%
AVアラート	17.6%
あなたの心の安らぎの問題。	16.8%
すぐにお読みください！	16.6%
セキュリティ警告	6.2%
読んだ後に電子メールを削除！	5.8%
アカウントの問題	5.7%
あなたの秘密の生活	5.7%
あなたのアカウントは亀裂です	2.7%
私はあなたのアカウントをハックしている	2.6%
緊急のメッセージ	2.6%

詐欺メールの件名と送信された割合(表:トレンドマイクロ)

2018/10/23

入試受験予定者への案内メール誤送信でメアド流出 - 兵庫大

兵庫大学、兵庫大学短期大学部は、2019 年度の公募推薦入試の一部出願者に対するメールで誤送信が発生し、メールアドレスが流出したことを明らかにした。

同大によれば、10 月 19 日 20 時前に送信した試験会場の案内メールにおいて、誤送信が発生したものの。送信先を誤って「CC」に記載したため、メールアドレス 28 件が受信者間で閲覧できる状態となった。

受信者からの指摘があり問題が判明。同大では翌 20 日に対象となる出願者に謝罪し、誤送信したメールの削除を依頼している。

2018/10/24

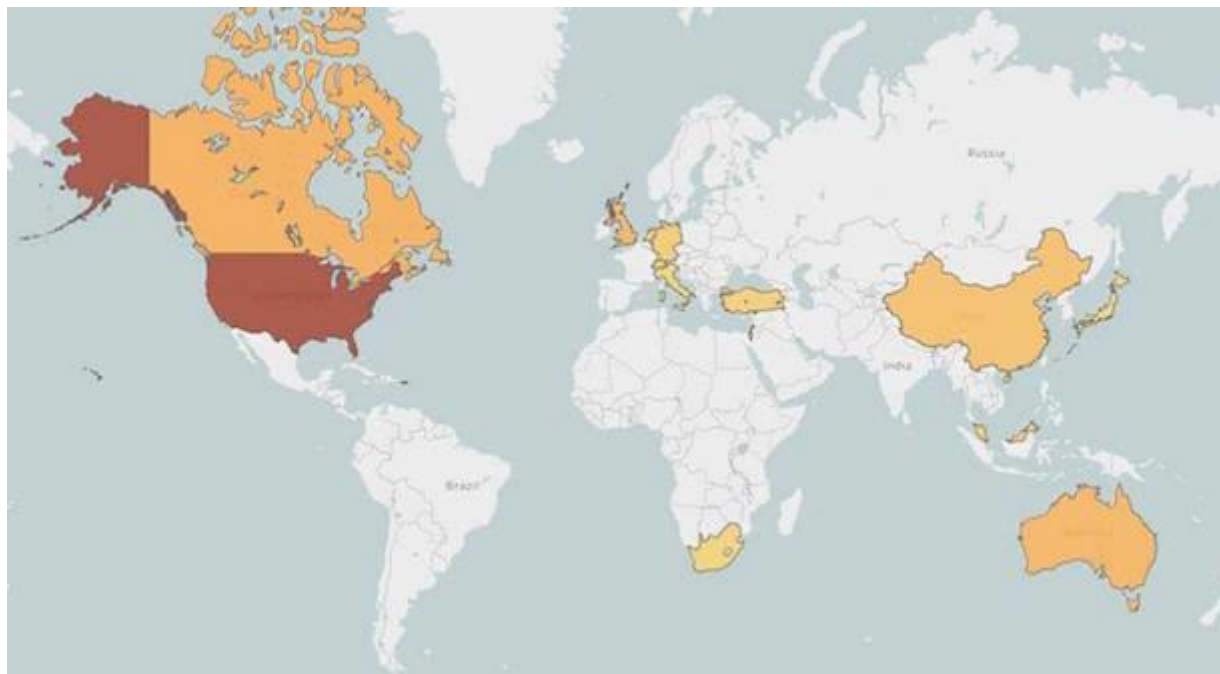
日本など 14 カ国の大学を狙う大規模攻撃 - 論文 DB 装うフィッシングで知的財産を標的に

イランに関わるとされる攻撃グループ「COBALT DICKENS」が、日本をはじめ、複数国の教育機関に対してフィッシング攻撃を展開していることがわかった。

Secureworks が、大学のログインページを装うフィッシングサイトを確認したことを契機に、攻撃に利用された IP アドレスについて調査したところ、認証情報の窃取を目的とした大規模な攻撃キャンペーンが展開されていることが判明した。

問題の IP アドレスでは、16 件のドメインを悪用。日本をはじめ、米国、カナダ、イギリス、スイス、トルコ、イスラエル、オーストラリア、中国など、少なくとも 14 カ国の 76 大学、300 以上のなりすましサイトを設置していた。

同社によると、標的となった国内の大学は少数だが、いずれもおもに英語で作成されており、各大学につき複数のフィッシングサイトが設置されていたという。



攻撃対象となった地域のヒートマップ（図：Secureworks）

これらフィッシングサイトでは、ログインページに見せかけてアカウント情報を狙っており、詐取後はフィッシング攻撃であったことへ気が付かせないよう、正規ページに遷移するしくみだった。

一部は論文検索システムなどを偽装。取得したアカウント情報などを用いて知的財産などにアクセスしていたと見られる。

これらフィッシングサイトへの誘導経路はわかっていないが、過去の攻撃傾向から、大学のライブラリシステムなどを装ったフィッシングメールにより誘導された可能性がある。

大学など学術機関に対するフィッシング攻撃では、メールシステムなどを装う手口も少なくないが、今回のキャンペーンに関しては、確認されていないとしている。

攻撃者は、2018 年 5 月から 8 月にかけてこれらドメインを登録。また 2018 年 5 月に登録したドメインには、ターゲットとした大学のサブドメインの文字列などを含めていた。

今回の攻撃について Secureworks は、利用するインフラや知的財産の窃取を狙う手口など、攻撃グループ「COBALT DICKENS」が過去に展開した攻撃と酷似すると指摘。

同グループは、イラン政府との関係が指摘されており、2018 年 3 月には米司法省が関係者と見られるイラン人 9 人を告発しているが、その後も攻撃を続けているものと同社は分析している。

大学では最先端の研究を行い、知的財産を保有する一方、セキュリティ対策への規制が厳しい金融機関やヘルスケア関連事業者に比べ、セキュリティ対策が甘く、攻撃対象になっていると指摘している。

2018/10/25

明大、複数メールアドレスに不正アクセス - 情報流出やスパム送信が発生

明治大学は、同大関係者のメールアドレスが不正アクセスを受け、情報流出や迷惑メールの踏み台に悪用されたことを明らかにした。

同大によれば、教員や客員研究員、付属高校教諭が不正アクセスを受け、7月から10月にかけてあわせて3件のメールアドレスが乗っ取られる被害が発生したものの。

送受信したメールを第三者に取得され、迷惑メールの送信に悪用されたという。

7月28日に教員のメールアドレスが不正アクセスを受け、同アカウントで以前に送受信したメールや添付ファイルなど1540件をダウンロードされた。

これらデータには、教職員や学生、卒業生、学外関係者あわせて771人の氏名やメールアドレスなどが含まれる。また同アカウントを通じて、5677件におよぶ迷惑メールが送信された。

また5日後の8月2日には、客員研究員のメールアドレスが不正アクセスを受け、迷惑メール927件が送信され、送受信したメールや添付書類394件が流出。

客員研究員がパスワードを変更し、一時不正アクセスは収まったが、再び10月13日に不正アクセスを受けてメール292件が流出。143件の迷惑メールが送信されたという。

さらに、付属高校教諭のメールアドレスでも8月28日に被害が発生。不正アクセスにより、送受信したメールや添付ファイル578件がダウンロードされ、さらに迷惑メール225件が発信された。

ダウンロードされたメールには、生徒303人のほか、教職員や保護者、学外関係者などあわせて374人の個人情報が含まれる。

今回の問題を受け、同大では関係者に対し、事情の説明や謝罪を行っている。

2018/10/30

メール誤送信でオープンキャンパス申込者のメールアドレス流出 - 岐阜保健大

岐阜保健大学は、メールの誤送信により、オープンキャンパス申込者のメールアドレスが流出したことを公表した。

同大によれば、10月23日11時前に、オープンキャンパス参加申込者51人に対して送信したメールにおいて誤送信が発生したものの。送信先を宛先として送信したため、受信者間でメールアドレスが確認できる状態となった。

送信の翌日に受信者からの連絡があり判明。同大では対象者に謝罪するとともに、誤送信したメールアドレスの削除を依頼している。

情報セキュリティ事故事例

2018 年 9 月

2018/09/03

シンポジウム案内メールで誤送信 - 大阪市立大

大阪市立大学は、シンポジウムの案内メールで誤送信が発生し、メールアドレスが流出したことを公表した。

同大によれば、8 月 31 日 16 時前に送信した「平成 30 年度ダイバーシティ研究環境実現シンポジウム」の案内メールにおいて誤送信が発生したもの。前回シンポジウムの参加者 75 人に対し、誤って送信先を「CC」に設定して送信。受信者間でメールアドレスが閲覧できる状態となった。25 人に関しては学内関係者としており、5 人は配信不能だったという。

メールを誤送信した職員とは別の職員が誤送信に気付き、同日中に対象者にメールで謝罪。あわせて誤送信したメールの削除を依頼している。

2018/09/18

メールアカウントがフィッシングメール送信の踏み台に - 京都教育大

京都教育大学において、一部ウェブメールのアカウントが乗っ取られ、フィッシングメールを送信する際の踏み台に悪用されたことがわかった。

同大によれば、7 月 30 日と 8 月 2 日に米国を発信元とする 3 件の IP アドレスよりメールシステムに対する不正アクセスを受けたもの。教職員のアカウント 1 件が踏み台として悪用され、学外のメールアドレス約 1 万件に対し、フィッシングメールが送信された。

同大の複数関係者にフィッシングメールが届いており、誘導先のウェブサイトでアカウント情報が詐取されたものと見られる。

フィッシングメールは、特定製品の警告メッセージに見せかけ、メールボックスの保存容量を超えてメールの送受信ができなくなるなどと不安を煽る内容だった。踏み台として外部に送信されたフィッシングメールも、同様の内容だったという。

同大では、ウェブメールにおける操作ログを取得しており、不正アクセス元の IP アドレスよりメールの受信ボックスを開く操作などは行われていなかったことから、同アカウント経由の情報流出については否定した。

また同大では 4 月にも類似したフィッシング攻撃を受け、アカウントの乗っ取り被害が発生している。

同大では予算の確保が難しく、費用をかけずに導入できる対策として、パスワードを用いた二段階認証の準備を進めてきたと説明。今回の問題を受け、導入予定時期を繰り上げ、9 月より導入を開始するとしている。

2018/09/21

慶大、A0 入試出願者の関連書類を誤表示 - システム不具合で

慶応義塾大学は、A0 入試のウェブエントリーシステムに不具合があり、関係ない他出願者の出願関係書類を閲覧できる状態だったことを明らかにした。

同大によれば、総合政策学部および環境情報学部のアドミッションズオフィス（A0）入試において、8 月 3 日 8 時半から 10 時半ごろにかけて、関係ない別の出願者に関する出願関係書類を閲覧できる状態となったもの。出願者 5 人から問い合わせがあり、問題が発覚した。2019 年 4 月入学 I 期に出願した出願者最大 72 人の出願関係書類が、流出した可能性がある。一方、自分以外の出願関係書類を閲覧した可能性があるのは最大 94 人としており、そのなかには情報が漏洩した 72 人中 35 人が重複しているという。

今回の不具合について同大は、8 月 2 日 23 時から 3 日 8 時半ごろまでサーバがダウンし、復旧後にアクセスが集中したことと、プログラム上の問題が重なったことに起因すると説明。対象となる出願者に説明と謝罪を行っている。

2018/09/28

フィッシングで複数職員がアカウントが乗っ取り被害 - 新潟大

新潟大学において、複数の教職員のメールアカウントがフィッシングにより乗っ取られたことがわかった。迷惑メールを送信するための踏み台に悪用されたほか、個人情報が閲覧された可能性がある。

同大によれば、4 月 17 日から 5 月 14 日にかけて、複数の教職員が同大のメール管理者を装ったフィッシングメールを受信。そのうち 6 人が、フィッシングサイトにパスワードを入力したため、アカウントが不正アクセスを受けたという。

不正アクセスを受けた教職員 2 人のメールアカウントが悪用され、5 月 10 日と同月 15 日に、約 36 万件の迷惑メールが送信された。

また 3 人のメールアカウントには、個人情報を保存。学内関係者の氏名、役職、学年など 32 件、学内関係者の送信者名とメールアドレス、一部電話番号など 47 件、学外関係者の送信者名とメールアドレス、一部電話番号など 29 件が含まれ、これら情報が第三者に閲覧された可能性がある。

同大では対象となるメールアカウントを停止。教職員に対して注意喚起を行った。個人情報が流出した可能性がある関係者には個別に対応を進めている。

また発表のタイミングについて個人情報の有無、流出内容の特定など綿密な調査で時間を要したと説明、謝罪している。

情報セキュリティ事故事例

2018 年 8 月

2018/08/03

教員が関係者情報含む PC をスペインで盗難被害 - 九大

九州大学は、同大教員が出張先の海外において、学生や同大資料館の利用者情報などを保存していたパソコンを盗まれたと発表した。

同大付属図書館付設記録資料館の教員が、6 月 23 日に資料の調査のために訪れたスペインで、食事をしていた際にパソコンを入れた鞆が置き引き被害に遭ったという。

持ち去られたパソコンには、教員がアルバイトとして採用した学生 15 人分の氏名や生年月日、所属ゼミ、出勤状況、送受信したメールなどのデータを保存。

また氏名や電話番号、メールアドレスなど同館利用者 55 人分の情報や同教員が非常勤講師を務める他大学の学生情報なども含まれるとしている。

現地の警察へ被害を届けたが見つかっておらず、同大では、連絡先が判明した同大関係者に対して文書で事情を説明、謝罪している。

2018/08/06

誤送信でオープンキャンパス申込者のメールアドレス流出 - 順天堂大

順天堂大学は、オープンキャンパスの受付完了を知らせるメールにおいて送信ミスがあり、メールアドレスが流出したことを明らかにした。

同大によれば、7 月 30 日 17 時過ぎに、保健医療学部開設準備室よりオープンキャンパスの事前申込者 57 人へ送信したメールにおいて、誤送信が発生したもの。送信先を誤って宛先に設定したため、受信者間にメールアドレスが流出した。

送信直後に誤送信に気づき、同日中に対象となる申込者に謝罪。誤送信したメールの削除を依頼している。

2018/08/10

退職医師が患者の個人情報を不正に持ち出し - 東京女子医科大

東京女子医科大学東医療センターにおいて、退職した医師が患者の個人情報を不正に持ち出していたことがわかった。

一部週刊誌が報じたことから明らかになったもので、退職した医師が、在籍中に担当していた患者の個人情報を不正に持ち出していたことが判明したもの。持ち出した個人情報には、氏名や電話番号などが含まれていたとし、同院では対象となる患者へ書面で謝罪している。

同院は、同医師がデータを持ち出した経緯や件数、内容などは明らかにしていない。本誌の取材に対し、同院では「警察に相談し、捜査中の案件であるため、現時点での回答は控える」としてコメントを避けている。

2018/08/10

教員免許更新講習の連絡メールで誤送信、メアド流出 - 山形大

山形大学は、教員免許状の更新講習に参加する受講者宛てメールにおいて誤送信が発生し、メールアドレスが流出したことを明らかにした。

同大によれば、7月31日19時半過ぎに送信した教員免許状更新の講習に関する連絡メールにおいて誤送信が発生したもの。送信先を誤って宛先に設定したため、受講者185人のメールアドレスが受信者間で閲覧できる状態となった。

同大では翌8月1日に、対象となる受講者へ謝罪のメールを送信。あわせて誤送信したメールの削除を依頼した。また講習会場でもあらためて謝罪したとしている。

2018/08/24

不正アクセスで不祥事対応の内部情報が流出 - 高知県立大

高知県立大学が不正アクセスを受けたことがわかった。内部情報が漏洩し、不祥事対応に関する資料が職員に一斉送信されたほか、システムが変更されるといった被害も生じたという。同大によれば、8月20日4時過ぎ、同大職員のメールアドレスから、全教職員228人宛てに、本来送信されることのない内部情報が一斉送信されたことから不正アクセスが発覚したもの。

同大が調査したところ、同大大学院が学外で利用するメールサービスが不正アクセスを受け、同サービスへ転送された学内のメールが外部に流出したほか、管理者パスワードが変更され、約20人のユーザー登録が削除されていることが判明した。

さらに大学院のウェブサイトにおいて、関連するページが削除されていたという。

一斉送信されたメールには、永国寺図書館の蔵書処分に関する問題に対しての同大コメント案や同問題に対する情報開示請求書などが添付。

さらに酒気帯び運転で検挙された同大職員への対応を協議した内容や職員のネット購入履歴なども含まれるという。

同大では、問題のメールが送信された同日20日6時半ごろ、事態を把握。同メールを削除するよう教職員へ通知するとともに、学内の教職員用メールサーバを停止。

翌21日、同メールサーバを復旧し、外部に対するメールの自動転送について登録制へ変更するとともに、高知県警に捜査を依頼したという。

情報セキュリティ事故事例

2018 年 7 月

2018/07/02

フィッシング攻撃でアカウント乗っ取り、メールが不正転送 - 弘前大

弘前大学は、教職員 12 人がフィッシング攻撃を受けてメールアカウントを不正に操作され、受信したメールが外部へ流出したことを明らかにした。

同大によれば、フィッシング攻撃により教職員 12 人が利用しているメールサービスのアカウント情報が奪われ、不正に操作された。

5 月 23 日に同大システム管理者がフィッシングメールの受信を把握。翌 24 日にフィッシングサイトへのアクセスをブロックしたが、同一の差出人を名乗るフィッシングメールが 6 月 1 日に届き、別のサイトへ誘導するなど、繰り返し攻撃を受けたという。

問題のメールは、「Office365 team」を名乗っており、メールの送信が失敗したとして再送信を促す内容を英文で記載。HTML メールで本文中のリンクをクリックさせるものだった。

教職員 242 人へ送信され、そのうち 12 人が誘導先の偽サイトに誤ってパスワードを入力。

メールの転送先が不正に設定され、受信メールあわせて 3151 件が外部へ転送された。

外部へ流出したメールに含まれる情報で、現時点で判明しているのは、送受信者の氏名とメールアドレスが 2457 件、氏名、住所、電話番号、性別など 2517 件。

同大では転送されたメールにさらなる情報が含まれていないか確認するとともに、メールボックスに保存された送受信メールから個人情報や機密情報などを取得されていないかログを調べている。

同大では、不正に転送されたメールの差出人に対し、報告と謝罪を行った。また今後は、2 要素認証を含めた総合的な対策を検討するとしている。

2018/07/23

症例要約含む USB メモリを医学部で紛失 - 群馬大

群馬大学は、医学部において個人情報を含む USB メモリが、所在不明になっていることを公表した。

同大によれば、症例の要約を記録した USB メモリを紛失したもの。2 月以降の実習時に医学部の学生によって作成されたデータが保存されていたもので、学生が、学外で紛失した可能性があるという。

個人が特定できるデータは 1 件のみとしており、氏名や年齢、性別、病歴、診断内容などが含まれる。また別に 7 件の要約も保存されていたが、個人は特定できないとしている。

同大では、個人が特定可能なデータの関係者に対し、説明と謝罪を行っている。

2018/07/27

職員と部署のメールアドレスに不正アクセス、メール漏洩やスパム送信など - 明大

明治大学は、職員や部署のメールアドレスが不正アクセスを受け、送受信したメールが窃取されたほか、迷惑メール送信の踏み台に悪用されたことを明らかにした。

同大によれば、職員、部署それぞれ1件のメールアドレスが不正アクセスを受けたもの。職員のメールアドレスは、6月30日に不正アクセスを受け、同アカウントを通じて迷惑メール415件が送信された。

また、同アカウントで送受信されたメールおよび添付書類332件をダウンロードされていたという。

これらメールには、学生と卒業生31人分の氏名や学生番号、勤務先での役職名などが含まれる。さらにメールアドレス69件も流出した。

さらに7月12日には、同大所属機関のメールアドレスが不正アクセスを受け、迷惑メール30件が送信された。同アカウントにおいて送受信したメールおよび添付ファイル1168件を窃取されたという。

送受信したメールには、教職員や学生、学外関係者など81人分の氏名、所属、勤務先、メールアドレスなどが含まれていたほか、201件のメールアドレスが流出した。

同大では対象者に説明と謝罪を行うとともに、文部科学省と個人情報保護委員会へ報告を行っている。

	(1) 職員メールアドレスへの不正アクセス	(2) 部署メールアドレスへの不正アクセス
① SPAMメール送信件数	415件	30件
② 漏えいメール件数	332件	1168件
③ 個人情報が漏えいした方	31名 ・本学学生 6名（所属，氏名，学生番号） ・卒業生 25名（氏名，卒年，勤務先等における役職名）	81名 ・本学教職員：13名（氏名，所属，メールアドレス等） ・本学学生：2名（所属，氏名） ・学外者：66名（氏名，勤務先，メールアドレス等）
④ メールアカウントのみ漏えいした方	69名	201名

被害状況(表:明治大学)

2018/07/30

職員採用説明会の案内メールを編集中に誤送信 - 北陸先端大

北陸先端科学技術大学院大学（JAIST）は、職員採用説明会の開催案内メールにおいて誤送信が発生し、メールアドレスが流出したことを明らかにした。

同大によれば、7月25日14時半ごろ、メールを編集していたところ誤って送信してしまったという。送信先のメールアドレス90件が、受信者間で閲覧できる状態で送信されたという。

同日19時過ぎに、対象者へ謝罪するとともに、誤送信したメールの削除を依頼している。

2018/07/31

個人情報含む教員の私物パソコンが学内で盗難 - 東大

東京大学は、教員が所有するパソコンが、学内で盗難被害に遭ったことを明らかにした。学生や非常勤講師の個人情報が保存されていたという。

同大によれば、同大総合文化研究科の教員が、7月9日に学内のイベント参加中、パソコンを鞆ごと盗まれたもの。

問題の端末には、同教員が2016年度から2018年度まで担当した一部科目の受講生384人分の個人情報を保存。氏名、学生証番号、成績が含まれる。また非常勤講師7人分の氏名や住所、連絡先、生年月日を含むファイルが保存されていた。

端末内部のデータは、暗号化されていなかったという。同大では、対象者に文書による説明と謝罪を行っている。

情報セキュリティ事故事例

2018 年 6 月

2018/06/07

教職員 29 アカウントが乗っ取り被害、メール 3500 件を攻撃者へ転送 - 横浜市立大

横浜市立大学は、教職員が利用しているクラウドサービスの ID とパスワードがフィッシング攻撃により詐取され、受信したメールが外部へ意図せず転送され、外部へ流出していたことを明らかにした。

同大で利用するクラウドメールサービスの ID とパスワードが、フィッシング攻撃により詐取されたもの。これらアカウントでは受信したメールが外部へ転送されるよう設定されていた。

同大によれば、メールの管理者を装って「送信サーバの障害によりメールの送信ができません」などとだまし、クラウドメールサービスのログイン画面を模した偽サイトへ誘導するフィッシングメールが、4 月 24 日から 5 月 23 日にかけて 1037 件のメールアカウントへ届いたという。そのうち 29 件のアカウントで、誤って ID やパスワードを入力、詐取されていた。5 月 28 日に同大教員から転送設定しているメールアドレスへメールが届かないとの連絡があり、外部への不正なメール転送が発覚。他教職員や学生に対してメール転送の設定状況を確認するよう求めたところ、29 件のメールアカウントで意図せず転送されていることが判明した。

不正に転送されたメールは 3512 件のほり、メール送信者の氏名とメールアドレス 3512 件のほか、本文や添付ファイルに記載された氏名や住所、電話番号 2266 件、学生情報 16 件のあわせて 5794 件の個人情報が含まれる。

同大では、5 月 23 日の時点でフィッシングメールを検知しており、同日にシステム管理者からすべての教職員と学生に注意喚起を行っていたという。

同大では、全教職員と学生に対し、パスワードを変更しメールの転送設定を停止するよう通知。パスワードの有効期限を設定し、一定期間変更しないと無効になり、メールサービスにログインできないよう措置を講じた。

また、転送されたメールの送信者に対しメールで謝罪を行い、問い合わせ窓口を設置するなど対応を進めている。

2018/06/11

学生の個人情報含む USB メモリを紛失 - 関西大

関西大学は、非常勤講師が学生の個人情報が保存された USB メモリを紛失したことを明らかにした。

同大によれば、外国語科目の担当講師が、学生の個人情報が保存された USB メモリを紛失したもの。問題の USB メモリには、講師が 2014 年度から 2018 年度に担当した中国語の履修者

555 人分の氏名、学籍番号が記録されていた。そのうちのべ 189 人については、成績情報も含まれる。

今回の問題を受け、同大では対象となる学生に対し、個別に連絡して説明と謝罪を行うとしている。

2018/06/11

誤送信で学生のメールアドレスが流出 - 東京音大

東京音楽大学は、3 年生および 4 年生の一部に送信した案内メールにおいて誤送信が発生し、メールアドレスが流出したことを明らかにした。

同大によれば、6 月 8 日 11 時半から 12 時にかけて大学院課が送信した「修士課程 平成 31 年度入試説明会」の開催案内メールにおいて、誤送信が発生したもの。送信先を誤って宛先に設定したため、メールアドレス 512 件が受信者間で閲覧可能な状態となった。

受信者からの指摘で誤送信が判明。同大では同日中に対象となる学生に謝罪し、誤送信したメールの削除を依頼している。

2018/06/13

USB メモリを紛失、成績など学生の個人情報を保存 - 大阪産業大

大阪産業大学は、学生の個人情報が保存された USB メモリが所在不明となっていることを明らかにした。

同大によれば、中国語を担当する非常勤講師が USB メモリを紛失したもの。問題の USB メモリには、2017 年度後期に担当した学生 106 人の氏名、学籍番号、成績情報などが保存されていたという。

同大では、対象となる学生へ連絡を取り、謝罪した。紛失した個人情報の悪用などは確認されていないという。

2018/06/14

学生の個人情報を記録した USB メモリが所在不明 - 神戸市外国語大

神戸市外国語大学は、学生の個人情報含む USB メモリを非常勤講師が紛失したと発表した。同大によれば、非常勤講師が USB メモリを紛失したことが 6 月 7 日に判明したもの。紛失した USB メモリには、2016 年度後期から 2017 年度後期までの講義を履修した学生のうち 9 人の氏名や学籍番号、提出した作文などが保存されていた。

警察へ届け出るとともに、利用した交通機関にも問い合わせを行っているが、見つからない。同大では対象となる学生に説明と謝罪を行っている。

2018/06/15

学生の個人情報含む USB メモリを紛失、一部にテスト結果も - 大阪電通大

大阪電気通信大学は、学生の個人情報が保存された USB メモリの紛失が発生したことを明らかにした。

同大によれば、中国語担当の非常勤講師が USB メモリを紛失したもの。問題の USB メモリには、2016 年度から 2017 年度に同講師が担当した科目の履修者 113 人の氏名と学籍番号が記録されていた。そのうち 23 人は、小テストの結果も含まれる。

同大では対象となる学生に対し、説明と謝罪を行うとしている。

2018/06/22

学生や教職員の個人情報含む PC を紛失 - 北海道科学大

北海道科学大学は、学生や卒業生、教員などの個人情報含むノートパソコンを、教員が紛失したことを明らかにした。

同大によれば、6 月 8 日に薬学部の教員がノートパソコンを紛失したもの。

紛失したパソコンには、同大薬学部の学生、北海道薬科大学卒業生の氏名と学生番号、および教職員の氏名とメールアドレスなど、約 2000 人の個人情報に比べ、同教員が加入している学会や会議などの関係者約 1000 人の氏名などが保存されていた。

利用した交通機関や警察への届け出を行ったが、発見されていない。同大では、対象となる学生や関係者に対し、書面による報告と謝罪を行ったとしている。

2018/06/26

個人情報入り PC がドイツで盗難、発生は 4 カ月前 - 久留米大

久留米大学は、教員が海外の研修先であるドイツで盗難に遭い、学生の個人情報を保存したパソコンが盗まれたことを明らかにした。

同大によれば、同教員が 2 月 27 日に学生の海外研修の引率で訪れたドイツのホテルで、パソコンの盗難被害に遭ったもの。持ち出すためのパソコンが研修に出発する直前に故障したため、別のパソコンを持参したところ、個人情報の削除が不十分だったという。

問題のパソコンには、レポートの提出状況やレポート、出欠確認、海外研修の手続き書類など、学生や大学院生のべ 679 人分の個人情報が保存されていた。氏名や学籍番号、メールアドレスなどが含まれる。

またこれ以外に、同教員が非常勤講師を務める他大学の学生の情報も含まれる。海外研修の手続き書類や授業のメモなど一部は暗号化していたが、それら以外のデータは、暗号化していない可能性が高いとしている。

今回の盗難は 2 月末に発生しており、公表まで 4 カ月近くを要したが、同大では公表が遅れたことについて、盗まれたパソコンにどのような情報が保存されていたかの精査に時間がかかったと説明。対象となる学生には、事情を説明し、謝罪する書面をすでに送付している。

2018/06/28

教職員アカウントに不正アクセス、メールが外部へ転送 - 沖縄県立看護大

沖縄県立看護大学は、フィッシング攻撃によって教職員 1 人のメールアカウントが乗っ取られ、メールが意図せず外部へ転送されていたことを明らかにした。

同大によれば、教職員 1 人が学内で利用しているクラウドサービスの ID とパスワードが、フィッシング攻撃により詐取されたもの。5 月 15 日に同サイトを装ったフィッシングメールが届き、誘導先のフィッシングサイトで誤って ID とパスワードを入力してしまったという。

アカウントを詐取されたことで、攻撃者によってメールの設定が不正に変更され、5 月 15 日から 6 月 6 日にかけて同教職員へ送信されたメール 313 件のうち 210 件が、意図せず外部へ転送されていたことが判明した。

転送されたメールには、学内関係者 295 人、沖縄県の職員 24 人、学外関係者 11 人の氏名が含まれる、メールアドレス 140 件や個人の電話番号 50 件、学籍番号 159 件なども含まれ、重複分を除いた個人情報 は 330 件。

同大では、メールの不正な転送が行われないよう設定を変更し、全教職員への注意喚起を行った。また、警察に届け出を行い、個人情報 が漏洩した関係者には説明と謝罪を行ったとしている。

情報セキュリティ事故事例

2018 年 5 月

2018/05/01

複数アカウントが迷惑メール送信の踏み台に - 東北工業大

東北工業大学の一部メールアカウントが何者かに乗っ取られ、不特定多数に対して、迷惑メールの送信に悪用されたことがわかった。

同大によれば、教職員のメールアカウント 3 件に対し不正アクセスがあり、そのうち 2 件が迷惑メールの踏み台に悪用された。

3 月 6 日から 4 月 16 日にかけて、米国やナイジェリアなどの IP アドレス 11 件を発信元とする不正アクセスを受けたという。

1 件のアカウントから約 57 万件、もう 1 件のアカウントから約 14 万件のメールが送信され、送信された迷惑メールは、フィッシングメール、宝くじの当選を装って連絡を求める詐欺メールなど、10 種類におよんだ。

乗っ取り被害に遭ったメールアカウントの利用者は、「電子メール保守サービス」を名乗り、メールの保存容量の上限を超え、メールの送受信ができなくなるなどとだますフィッシングメールを受信。誤って誘導先のフィッシングサイトで ID とパスワードを入力してしまったという。

今回の不正アクセスに関して同大では、ウェブメールのログから攻撃者の操作を追跡。受信ボックスのメール一覧が表示されたり、メールの送信テストを行ったと見られるアクセスを確認したが、特定のメールや本部の検索、表示、ファイルのダウンロードなどの操作を行った痕跡はなく、個人情報や機密情報の漏洩はなかったと結論付けている。

同大では今回の問題を受け、対象アカウントのパスワードを変更。教職員と学生に対し、フィッシングメールやパスワードの管理について注意喚起を行っている。

2018/05/16

プレスリリースを誤送信、報道機関のメアド流出 - 札幌医科大

札幌医科大学は、報道機関向けのリリース提供メールにおいて誤送信が発生し、メールアドレスが流出したことを明らかにした。

同大によれば、5 月 14 日 16 時ごろに報道機関向けのプレスリリースをメール送信した際、誤送信が発生したもの。報道機関 15 社に対し、送信先を誤って「CC」に設定して送信したため、受信者間でメールアドレス 30 件が閲覧できる状態となった。

担当職員が送信後に気づき、上長へ報告。同日 19 時ごろ、同大から対象となる報道各社へメールで謝罪するとともに、誤送信したメールの削除を依頼した。

2018/05/18

攻撃者がメール転送設定を変更、受信した個人情報外部に - 立命館大

立命館大学が主催する国際研修の応募者に関する個人情報が外部に流出した。フィッシングメールによりアカウント情報が奪われ、受信メールが外部に転送されるよう設定が変更されたという。

歴史都市防災研究所が主催する 2018 年ユネスコチェア国際研修「文化遺産と危機管理」に、海外から応募した 264 人分の個人情報が外部へ流出したもの。氏名や所属組織の住所、電話番号、生年月日、性別、現職、学歴、職務経験、国籍などが含まれる。

同大によれば、研修への申し込みを受け付けるために用意したメールアカウントにおいて、4 月 24 日に「未読メールが 13 通残っている」などと記載されたマイクロソフトの通知を装うフィッシングメールを受信。

同研究所の職員が誤ってメールに記載された URL へアクセスし、誘導先の「Office365」を装ったページよりアカウント情報を入力してしまったという。

攻撃者は奪ったアカウント情報でログインし、同メールアカウントで受信したメールを外部に転送するよう設定を変更。期間中に、応募者の個人情報リストが添付されたメールや、応募者の参加申請書や履歴書などのメールを同アカウントで受信したことから外部へ不正に転送された。

さらに転送されたメールの一部には、参加申請書や履歴書を保管していたクラウドサービスにおける共有フォルダの URL を記載。パスワードなしに共有フォルダへアクセスできる状態だったため、応募者 264 人のうち、共有フォルダに保存されていた 261 人分の参加申請書や履歴書についても取得された可能性がある。

今回の問題を受け、同大では関係者に対して、メールで事情を説明し、謝罪を行った。

また問題のアカウントは、今回の研修用に用意したものであり、不正にログインされたものの、転送されたメール以外の情報漏洩はないと同大では説明。ログから不正なログインは 1 回のみであることも判明しており、スパムメールを送信するための踏み台などに悪用された形跡もなかったとしている。

2018/05/31

職員のメールアカウントが詐取、メールが外部へ転送 - 富山県立大

富山県立大学は、複数の教職員がフィッシング攻撃によってメールアカウントの ID とパスワードが詐取され、攻撃者により設定が変更されて受信したメールが外部へ意図せず転送されていたことを明らかにした。

フィッシングによる被害が発生した富山県立大

同大によれば、教職員 5 人のメールアカウントの ID とパスワードが、フィッシング攻撃により詐取されたもの。複数の教職員にフィッシングメールが届いたが、5 人が誤ってフィッシングサイトに ID とパスワードを送信してしまったという。

5月16日に1人が詐取され、さらに同月23日未明に4人が入力。同日9時過ぎに事務局が注意喚起を行い、詐取された5人のいずれも同日午前中にはパスワードの変更を済ませていた。

しかし同月28日、メールの転送を失敗したことを通知する身に覚えのないメールが教職員1人に届いたことから問題が発覚。調査を行ったところ、3人のメールアカウントで、メールが自動的に転送されるよう設定が変更されていたことが判明した。

転送設定が行われた5月16日から、アカウントを凍結した同月28日にかけて、これらアカウントで受信したメール275件が外部に流出した。受信したメールには、学生の個人情報や、学外関係者の情報も含まれるとしている。

またこれらアカウントの送受信フォルダに保存されていたメールが、攻撃者によって閲覧された可能性がある。

同大では、関係者に対して事情を説明して謝罪を行った。被害などの報告は受けていないという。また不正にメールの転送設定が行われないよう、システムの設定を変更している。

2018/05/31

客員教授のメールアカウントに不正アクセス、スパム送信の踏み台に - 京都薬科大

京都薬科大学は、客員教授のメールアカウントが乗っ取り被害に遭い、迷惑メール送信の踏み台に悪用されたことを明らかにした。

同大によれば、客員教授1人のメールアカウントが被害に遭い、4月19日から5月11日までにスパムメールやフィッシングメールなど少なくとも3699件のメールが意図せず不特定多数に対して送信されたという。4月19日以前についてはログが残っておらず、同アカウントが悪用された期間は不明。

第三者によってアカウント情報が奪われており、同大ではフィッシングなどの被害に遭ったものと見ているが、本人は身に覚えがないと話しており、詳しい原因はわかっていないという。

同メールアカウントにおいて、同教授が個人的に送受信したメールが攻撃者によって取得された可能性があるが、ログが残っておらず、確認できない状態となっている。

一方、同大では不正アクセスを受けた客員教授は、大学関連の個人情報に対するアクセス権限を持っておらず、大学としても提供していないため、メールアカウント上から情報が流出した可能性はないと説明。

同大情報システムへの不正アクセスや、システムの改ざん、情報流出についても否定している。

同大では対象となる教授のメールアカウントを停止。すべての職員および学生においてメールアカウントのパスワードを変更するなどの対策を講じている。

情報セキュリティ事故事例

2018 年 4 月

2018/04/05

播磨町教委の「校務支援システム」に不正アクセス - ランサム感染か

兵庫県播磨町は、同町教育委員会に設置されたサーバに対する不正アクセスや、マルウェア感染の被害が確認されたことを明らかにした。個人情報の流出については否定している。町立小学校と中学校で使用する「校務支援システム」の管理サーバが不正アクセスを受けたことが、3 月 15 日に判明したもの。同サーバがマルウェアに感染し、対応時に不正アクセスの被害を把握したという。

同町によれば、不正アクセスを受けた期間や回数、原因などは調査中としているが、感染したマルウェアは「ランサムウェア」だと見られている。

また「校務支援システム」では児童や生徒、教諭の情報を扱っているが、不正アクセスを受けた管理サーバとは別のサーバに保存されており、これらサーバからの情報流出は確認されなかったと説明している。

同町ではネットワークを切断してマルウェアの駆除を実施。原因や被害状況の調査を進めるとともに、保守体制の見直しを図るとしている。

2018/04/24

不正アクセスで迷惑メールの踏み台に - 京都教育大

京都教育大学において、ウェブメールのアカウントが乗っ取られ、フィッシングメールを送信する際の踏み台に悪用されたことがわかった。セキュリティ対策の強化を検討しているが、費用確保が難しい状況に置かれているという。

同大によれば、2 月 10 日から 11 日にかけて、メールシステムに対する不正アクセスがあり、アカウント 1 件が踏み台として悪用されたもの。デンマークの IP アドレスから不正アクセスが行われ、約 36 万件のメールアドレスに対してフィッシングメールが送信されたという。メールのアカウント情報は、フィッシングメールを通じて詐取されたものと見られている。問題のメールでは、メールシステムのヘルプデスクが発信したかのように見せかけており、「メールボックスの保存容量が上限に達した」などとだます内容だった。

同大では、個人情報や機密情報などの送信に同メールアカウントを利用したことはないとしているが、ウェブメールが不正アクセスを受けたため、送受信先の情報やメールの記載内容が閲覧された可能性は否定できないとしている。

同大では、従来より利用者に対する注意喚起など研修を実施してきたが、利用者個人の対策に限界を感じており、二要素認証について導入を検討しているところだったという。

一方で苦しい財政事情もあるようだ。「セキュリティ対策を強化するシステムの導入を検討しているが、費用の確保に苦慮している（同大）」と状況を説明する。

政府では、2004 年度の国立大学の法人化以降、運営費交付金の削減を推進。同大においても約 1 割が削減されている。国立大学においては、交付金の減少で経営状況の悪化などの指摘が出ている。

2018/04/25

体力測定参加者の個人情報含む USB メモリを紛失 - 京都橘大

京都橘大学は、滋賀県守山市が主催した体操教室および体力測定会参加者の個人情報含む USB メモリを紛失したことを明らかにした。

同大によれば、教員が代表者となっている共同研究のため、同市が主催した「健康のび体操教室」と体力測定会の参加者から収集したデータを保存した USB メモリを紛失したもの。問題の USB メモリには、参加者 48 人の氏名、年齢、体力測定値、問診内容などが保存されていた。

4 月 9 日、研究の補助をしていた学生が、自宅でデータ処理を行うため私物の USB メモリにデータを移して帰宅。翌日、USB メモリを紛失していることに気付いた。移動経路を調べたほか、警察へ届けているが見つからない。

今回の共同研究では学生がデータを扱うことは承認されておらず、データ匿名化のルールも守られていなかった。同大では、対象となる参加者への謝罪文を同市に提出。共同研究者に対しても謝罪を行っている。

2018/04/27

一部学費請求書を誤送付、前年データ流用後に作業ミス - 横浜市立大

横浜市立大学は、学費請求書の一部が誤った住所へ送付されたことを明らかにした。システムに追加するためにデータを作成した際、作業ミスがあったという。

同大によれば、4 月 16 日に新入生の保証人へ送付した学費請求書の一部において誤送付が発生したもの。郵便局から請求書が返送されたことから問題に気が付いた。学費請求書には、2018 年度の新入生と保証人の氏名と学籍番号が記載されている。

誤送付した件数は 70 件。そのうち 31 件が誤った宛先に届く可能性があり、2 件については誤った宛先に届いて同大へ連絡があった。また 37 件は宛先不明で返送されたとしている。誤送付が発生した原因は、データ作成時のミスによるものだった。同大では、教務電算システムへアップロードするデータについて、更新項目がずれないように前年度に利用したデータのコピーに上書きする方法を用いて作成していたが、請求先住所の項目を上書きしなかったため、2018 年度の新入生 70 人分の請求先住所が、前年度の新入生の住所として登録されてしまったという。

同大では誤送付先に電話で連絡し、説明と謝罪を実施。返信用封筒を発送し、誤送付した請求書の回収を進めている。また本来の送付先となる保証人に対しても謝罪し、あらたな学費請求書を発送している。

情報セキュリティ事故事例

2018 年 3 月

2018/03/09

個人情報含むファイルをメール誤送信 - 香川大

香川大学は、カンボジアで実施するプロジェクトの非常勤職員を採用する選考過程において、一部応募者へメールを送信する際にミスがあり、誤って他応募者の個人情報含むファイルを添付していたことを明らかにした。

同大によれば、2 月 13 日に事務職員が非常勤職員の採用選考の応募者 5 人へ送信したメールにおいて、個人情報含むファイルを誤って添付したという。同月 26 日に、受信者から大学のコンプライアンス相談窓口に通報があり、問題が発覚した。

問題のファイルには、全応募者 23 人の氏名や住所、性別、年齢、所属先、経歴、メールアドレスなどを記載。同日、メールの受信者から誤送信について指摘があり、事務職員は受信者へメールの削除を依頼したが、大学には報告していなかった。

同大では、受信者におけるファイルの削除を確認しており、関係者に対しては、あらためて報告と謝罪を行うとしている。

2018/03/14

学内から外部に不正通信、マルウェア感染端末を特定できず - 成蹊中高

成蹊中学・高校の教員が利用するパソコンが、マルウェアに感染したことがわかった。異常な通信が確認されたものの、感染端末の特定には至っていないという。

同校によれば、2 月 23 日 21 時ごろから約 8 時間にわたり、外部の特定サイトに対して大量のアクセスが発生したものの。同月 26 日に職員がネットワークやメール配信の異常に気が付き、問題が発覚した。

発覚後、ネットワーク内にあるすべてのパソコンを抜線してネットワークから隔離し、マルウェアの感染状況などを調べたという。

今回の不正通信について同校では、メールやウェブサイトの閲覧などを通じて、外部と通信を行うボットプログラムに感染したものと見ているが、3 月 14 日の時点で感染端末は特定できておらず、くわしい感染経路もわかっていない。個人情報の流出については確認されていないが、可能性も否定できないとしている。

感染端末を特定できていないことに対し、同校では「学内システムをモニタリングすることで、マルウェアによる異常が生じていないことを確認している」と説明。

今回の事態を受け、同校では監視にくわえ、異常通信を自動検知するシステムの導入などを検討するなど、組織的対策や技術的対策を進め、再発防止に取り組むたいとしている。

2018/03/20

中部大でランサムウェア被害 - 不正ログイン後にインストールか

中部大学において、パソコンやファイルサーバがランサムウェアに感染する被害が発生したことがわかった。

同大によれば、1月9日2時半ごろ、同大工学部情報工学科研究室のパソコンとファイルサーバが、不正にログインされ、セキュリティ対策ソフトがアンインストールされ、ランサムウェアがインストールされたという。同日14時ごろに問題を把握し、対象機器をネットワークから遮断した。

被害に遭った端末では、ランサムウェアによるデータの暗号化被害が発生。内部には受講者名簿と行事参加者名簿などの個人情報が保存されていた。

同大では、外部のセキュリティ事業者に調査を依頼。原因や端末内のファイルや内容について調査を進めている。現時点では、暗号化以外、個人情報の流出といった被害は確認されていないとしている。

不正ログインの発信元については、攻撃元が内部や外部であるかも含めて特定には至っていない。盗まれたパスワードが利用され、インターネット経由で攻撃された可能性もあるという。

また感染したランサムウェアも特定されいないが、今回の攻撃でマルウェアの「FAKEGLOBE」が利用された可能性があるという説明。「FAKEGLOBE」はトロイの木馬で、「Locky」の感染活動でも利用されたことがある。

2018/03/30

非常勤講師が持ち帰った答案用紙を紛失 - 金沢星稜大

金沢星稜大学女子短期大学部の非常勤講師が、学生の答案用紙を紛失したことがわかった。同大によれば、非常勤講師が学生87人分の答案用紙を紛失したもの。答案用紙には、学生の氏名と学籍番号、学年、学部、学科などの個人情報が記載されていた。

同講師は自宅で採点するため、2月26日に答案用紙を持ち出したが、帰宅途中に電車を下りた際、答案用紙がなくなっていることに気付いた。駅員に問い合わせたが見つからず、28日に大学へ報告。警察へ届けた。

同大では対象となる学生とその保護者に対し、書面による謝罪を行うとともに、保護者説明会であらためて謝罪した。また、管轄官庁への報告を行っている。

情報セキュリティ事故事例

2018 年 2 月

2018/02/06

学生情報含む教員の私有 USB メモリが所在不明に - 大阪工業大

大阪工業大学は、学生の個人情報が入った USB メモリを、教員が紛失したことを明らかにした。

同大によれば、教員が個人で所有する USB メモリが所在不明になっているもの。問題の USB メモリには、2016 年度から 2017 年度に同教員が担当した授業の履修者 1070 人分の氏名や学生番号、出欠情報のほか、一部科目の成績評価などが保存されていた。成績のみパスワードを設定していたという。

1 月 23 日に教員が出勤した際、紛失に気付いた。前日に大学のパソコンで資料を作成する際に USB メモリを接続したが、その後の所在がわかっていない。

同大では、対象となる学生に事情を説明し、謝罪。対象となる学生の保証人には、説明と謝罪の書面を送付した。また USB メモリへ個人情報を保存する行為を全面禁止し、学内のファイルサーバーを利用するよう周知徹底を図っている。

2018/02/22

ウェブサイト開設案内メールで誤送信、学生のメールアドレス流出 - 大阪市立大

大阪市立大学は、案内メールで誤送信が発生し、教育向上への調査協力に登録している学生や卒業生のメールアドレスが流出したことを明らかにした。

同大によれば、2 月 13 日 16 時半ごろに送信した学修支援推進室のウェブサイト開設を案内するメールにおいて誤送信が発生したもの。送信先のメールアドレスを誤って宛先に設定したため、卒業生 38 人と学生 20 人の氏名およびメールアドレスが、受信者間で閲覧できる状態となった。誤送信した 58 人のうち、15 人は宛先に届かなかったとしている。

送信の約 30 分後に担当者が気づき、対象となる卒業生と学生にメールで謝罪。あわせて、誤送信したメールの削除を依頼した。

2018/02/23

入学予定者への連絡メールで誤送信、メールアドレス流出 - 上智大

上智大学は、2018 年度の入学予定者へ送信した連絡メールにおいて誤送信が発生し、メールアドレスが流出したことを明らかにした。

同大によれば、2 月 20 日 15 時から 17 時にかけて、入学センターが入学予定者 1317 人へ送信した連絡メールにおいて誤送信が発生したもの。受信者からの指摘で判明した。

本来利用すべきメール配信システムを利用せず、宛先に指定して送信してしまったため、受信者間で互いのメールアドレスが閲覧できる状態となったという。

同大では、対象となる入学予定者に謝罪。誤送信したメールの削除を依頼している。

情報セキュリティ事故事例

2018 年 1 月

2018/01/18

メールアカウントに不正アクセス、迷惑メールの踏み台に - 新潟県立看護大

新潟県立看護大学は、教職員のメールアカウントが乗っ取られ、不特定多数に対する迷惑メール送信の踏み台に悪用されたことを明らかにした。

同大によれば、教職員 1 人のメールアカウントが乗っ取られ、同大のメールサーバから不特定多数のメールアドレスに対し迷惑メールが送信されたもの。1 月 15 日、情報ネットワークシステムの保守を担当する事業者から連絡があり問題が発覚。パスワードの変更など対応を講じた。

不正アクセスを受けた教職員のメールボックスに保管されたメールに含まれる個人情報などが漏洩した可能性がある。今回の不正アクセスによる他システムへの侵入は否定した。同大では詳細について調査するとともに、教職員に対しパスワード管理の徹底を指示としている。

2018/01/25

教員の私用メールアカウントに不正アクセス、情報流出の可能性 - 滋賀県立大

滋賀県立大学は、教員の私用メールアカウントが不正アクセスを受け、学生や関係者の個人情報含むメールが流出した可能性があることを明らかにした。

同大によれば、教員が私的に利用しているメールアカウントが海外から不正アクセスを受けていたことが 1 月 19 日に判明したもの。端末に不調があることから調査を行ったところ問題が判明した。

同アカウントには、大学の許可を得たうえで学内のメールが転送される設定になっており、2017 年 9 月 25 日から 1 月 19 日にかけて転送されたメール 430 件が流出した可能性がある。対象となるメールには、学生 106 人の氏名や学籍番号、メールアドレス、成績情報、進路先のほか、教職員 23 人のメールアドレスや職員番号、所属、学外関係者 39 人の住所とメールアドレスなどの個人情報が含まれていた。

同大では、1 月 22 日に学外へのメール転送システムを停止。同システムを利用する教職員の端末の状況を確認し、パスワードの管理に関する注意喚起を行った。

また対象となる学生や教職員には、大学のウェブサイトで説明と謝罪を行い、学外関係者には個別に説明と謝罪を行うとしている。

2018/01/31

イベント案内メール誤送信で学生のメールアドレス流出 - 京都教育大生協

京都教育大学生協同組合は、イベントの案内メールにおいて誤送信が発生し、イベント申込者のメールアドレスが流出したことを明らかにした。

同組合によれば、1月14日に送信した学生委員会企画「推薦合格者の集い」の案内メールにおいて誤送信が発生したもの。送信先を誤って「T0」に設定したため、メールアドレス74件が受信者間で閲覧できる状態となった。

同組合では、対象となる申込者へメールで謝罪するとともに、誤送信したメールの削除を依頼したとしている。

2018/1/16

ランサムウェアに感染、サイト改ざん被害も - 新潟大医歯学総合病院

新潟大学医歯学総合病院において、ランサムウェアの感染被害やウェブサイトの改ざんなどが相次いで発生していたことがわかった。

同院によれば、2017年12月8日、パソコンがマルウェアに感染している可能性があるとして職員から報告があり、調査を行ったところ、ファイルが暗号化されて使用できない状態となっていることが判明したという。

ランサムウェアに感染したパソコンには、治験に関する患者の氏名など個人情報が保存されていた。同大では調査を行っているが、個人情報の外部流出は確認されていない。

また同月18日には、心当たりがない記事が投稿されていることに職員が気づき、同院ウェブサイトが不正アクセスを受け、改ざんされていたことが判明した。同月25日に暫定サイトを公開。同大では復旧に向けて調査などを進めている。

情報セキュリティ事故事例

2017 年 12 月

017/12/13

システム管理者アカウントが奪われ、個人情報約 7 万件が流出 - 阪大

大阪大学は、教育用計算機システムが不正アクセスを受け、利用者の個人情報約 7 万件が外部へ流出した可能性があることを明らかにした。

同大によれば、5 月 18 日から 7 月 4 日にかけて、教育用計算機システムが不正アクセスを受けたもの。教員の ID とパスワードを用いて侵入され、システム内部に設置された不正プログラムにより、システム管理者のアカウントが盗まれたという。

管理者用アカウントが奪われたことで、同システムの利用者に関する氏名や ID、同大発行のメールアドレス、所属、学籍番号など約 7 万件が流出した可能性がある。

内訳を見ると、教職員に関する情報が 1 万 2451 件、学生が 2 万 4196 件、元教職員が 9435 件、元学生が 2 万 3467 件。元関係者の ID とメールアドレスについては、すでに無効化されている。

2017/12/14

メールサーバに不正アクセス、迷惑メールの踏み台に - 放送大

放送大学のメールアカウントが乗っ取られ、不特定多数に対する迷惑メール送信の踏み台に悪用されたことがわかった。

放送大学学園によれば、メールサーバが外部より不正アクセスを受けたもので、踏み台として悪用され、不特定多数のメールアドレスに対して迷惑メールが送信されていたという。

10 月 27 日 10 時過ぎから問題が判明した 11 月 9 日 0 時ごろにかけて、あわせて 14 万 3000 件のメールが送信された。今回の不正アクセスによる他サーバへの侵入や、情報漏洩については否定している。

同大では、問題のアカウントを停止。再発防止に向けて監視を強化するとともに、サーバやパスワードの脆弱性について調査を実施するとしている。

情報セキュリティ事故事例

2017 年 11 月

2017/11/01

教員が学生の個人情報含む USB メモリを紛失 - 明星大

明星大学において、学生の個人情報を保存した USB メモリが所在不明となっている。

同大によれば、問題の USB メモリには、学生 134 人分の氏名と学籍番号含む履修者名簿のほか、学生 9 人分の氏名や実習状況含む教育実習生指導報告書、学生 2 人分の氏名、性別、生年月日含む推薦書などが保存されていた。セキュリティ対策は講じられていない。

9 月 27 日に同大教員が非常勤講師を務める他大学で貸与されたパソコンで USB メモリを使用した、その後の所在がわからない状態だという。

警察や交通機関に届け出を行ったが見つかっておらず、同大では、対象となる学生に対し、報告と謝罪の書面を送付している。

2017/11/27

学生情報含む PC を空港に置き忘れて紛失 - 札幌医科大

札幌医科大学の教員が、学生の個人情報を保存したノート PC を空港に置き忘れ、紛失したことがわかった。

同大によれば、11 月 20 日に医学部の教員が出張で新千歳空港を利用した際、搭乗待合室のシートにノート PC を置き忘れたもの。

問題のパソコンには、1989 年から 2017 年までの担当科目における学生約 3000 人分の成績と顔写真、および医学研究科修了生 1 人の論文データが保存されていた。

11 月 20 日 20 時ごろ、宿泊先のホテルでパソコンの紛失に気付いた。同大では、大学で管理するパソコンを持ち出す際は、申告が義務付けられているが、同教員は手続きを行っていなかったという。

同大では対象となる学生とその保護者に対し、報告と謝罪を行うとしている。

情報セキュリティ事故事例

2017 年 10 月

2017/10/17

誤送信で講座受講者のメールアドレス流出 - 首都大学東京

首都大学東京は、委託先の近畿日本ツーリストにおいてメールの誤送信が発生し、講座受講者のメールアドレスが流出したことを明らかにした。

同大によれば、10 月 12 日 11 時半ごろ、同大と東京都が実施している観光人材育成講座の申込者に送信したメールにおいて誤送信が発生したもの。近畿日本ツーリストの担当者が送信先のメールアドレス 25 件を誤って「CC」に設定したため、受信者間でメールアドレスが閲覧できる状態となった。

同日に受信者から指摘があり誤送信が判明。近畿日本ツーリストでは対象となる申込者にメールと電話で謝罪し、誤送信したメールの削除を依頼した。また同大では、近畿日本ツーリストに対し再発防止の徹底を指示したとしている。

2017/10/23

図書館のウェブサーバから個人情報流出の可能性 - 島根大

島根大学は、付属図書館のウェブサイトを開いているサーバにおいて、利用者の個人情報が外部に流出した可能性があることを明らかにした。

同大によれば、図書館が利用者向けのアンケート調査や主催イベントの申し込みを受け付けるために公開していたシステムに問題があり、アンケートフォームやイベント申込フォームより入力された個人情報が外部へ流出した可能性があることが判明したもの。氏名や電話番号、メールアドレス、所属機関名などが含まれる。

8 月下旬、図書館のウェブサーバ上で管理していた同システムにおいて、不正アクセスの痕跡を確認。ネットワークから切断して調査を行ったところ、特定の操作を行うことでアンケートの管理画面が外部から閲覧可能な状態だったことが判明した。

同大では、対象となる利用者に郵送やメールで説明と謝罪を行う。またアンケートについては、外部のサービスを利用し、図書館のサーバには個人情報を保存しない運用に変更するとしている。

2017/10/23

入試情報サイトで個人情報が閲覧可能に - 京都精華大

京都精華大学は、入試情報サイトにおいて、登録会員の個人情報がインターネット経由で閲覧可能な状態にあったことを明らかにした。

同大によれば、9月5日から10月19日にかけて、入試情報サイトに登録している会員の個人情報を含む会員一覧ページや、各会員のプロフィールページが閲覧できる状態となっていたもの。会員468人分の氏名のほか、学生または保護者などの属性情報が含まれる。

10月18日に会員からの指摘を受けて調査を行い、翌19日に問題が判明した。対象ページのほか、検索サイトでの検索結果からも閲覧可能だったという。同サイトの運営委託先における人為的なミスが原因と説明している。

同大では問題のページを非公開にするとともに、対象となる会員にメールで報告と謝罪を実施。影響などを調査するとともに、再発防止策を検討するとしている。

2017/10/26

教員がレポートを回収後に紛失 - 首都大学東京

首都大学東京において、学生が提出したレポートが所在不明となっている。

同大によれば、システムデザイン学部の授業において、学生から提出されたレポートを担当教員が紛失したもの。学生の氏名と学籍番号が記載されていた。対象授業の履修登録者は59人だが、レポートの提出数は不明だという。

10月9日にレポートを回収後、帰宅。同月19日にレポートの採点を行おうとした際、紛失に気付いたという。キャンパス内を搜索したが見つからず、対象となる学生に説明と謝罪を行っている。

情報セキュリティ事故事例

2017 年 9 月

2017/09/08

入試出願者の個人情報含む USB メモリが所在不明 - 静岡県立大

静岡県立大学は、入試出願者の個人情報が保存された USB メモリが同大内で所在不明となっていることを明らかにした。ファイルにはパスワードが設定されていたという。

同大によれば、教員が 8 月 31 日に、USB メモリ 1 個を学内で紛失したものの。

問題の USB メモリには、大学院食品栄養科学専攻の入試出願者 17 人の氏名、性別、生年月日、出身校、受験番号、志望研究室などの個人情報が保存されていた。個人情報を保存したファイルには、パスワードが設定されているとしている。

紛失した教員は、9 月 6 日に警察へ届け出るとともに、大学へ報告。出願者に対しても事情を説明して謝罪した。個人情報の外部流出や不正利用は確認されていないという。

2017/09/27

講習受講者への連絡メールを誤送信 - 佛教大

佛教大学は、教員免許状更新講習の受講申込者に対する連絡メールで誤送信が発生し、メールアドレスが流出したことを明らかにした。

同大によれば、9 月 20 日に受講申込者へ送信した受講手続きに関する連絡メールにおいて、誤送信が発生したという。

メールアドレス 502 件を誤って「CC」に設定したため、受信者間でメールアドレスと一部申込者の氏名を閲覧できる状態となった。同大では事態を報告、謝罪している。

情報セキュリティ事故事例

2017 年 7 月

今月は大学関連の情報セキュリティ事故事例はありません。
情報セキュリティ関連ニュースを掲載します。

2017/07/03

「LINE」装うフィッシング攻撃に注意 - 複数サイトが確認される

SNS サービス「LINE」を装ったフィッシング攻撃が発生している。誘導先のフィッシングサイトは7月3日の時点で稼働が確認されており、フィッシング対策協議会では注意を呼びかけている。

今回確認された攻撃では、「LINE 変更」といった件名のメールを送信。本文で「アカウントの変更申請のメールを受け取った」などと不安を煽り、申請していない場合は解除が必要として偽サイトへ誘導、アカウント情報をだまし取ろうとする。

メールの本文には「LINE Corporation」をそのまま訳したと見られる「ライン会社」といった記載や、「リンクはずっと無応答です」など、一部不自然な言い回しも見られた。

誘導先としてすでに6件のURLが報告されており、7月3日の時点でフィッシングサイトは稼働していることが確認されていることから同協議会は閉鎖に向けてJPCERT コーディネーションセンターへ調査を依頼した。

同協議会では、誤ってメールアドレスやパスワードといったアカウント情報を送信しないよう注意を呼びかけている。

情報セキュリティ事故事例

2017 年 6 月

2017/06/16

香川県立保健医療大のサイトに不正アクセス - 一部が改ざん

香川県立保健医療大学のウェブサイトが、不正アクセスにより改ざんされたことがわかった。マルウェアの配布などに悪用された形跡はないという。

同県の発表によると、6 月 15 日 16 時半ごろ、同大のウェブサイトが改ざんされていることを大学職員が確認したもの。サイトの新着情報欄に犯行声明の文字列が表示され、クリックすると政治的なメッセージ画像が表示される状態だった。

同大では、ウェブサイト作成を委託した事業者に連絡してサイトを停止。改ざんについて調査しているが、6 月 15 日の時点では、マルウェアの感染や情報流出などの痕跡は確認されていないという。

2017/06/29

学生の個人情報含む USB メモリが所在不明に - 大阪工業大

大阪工業大学は、学生の個人情報含む USB メモリが所在不明になっていることを明らかにした。

同大によれば、6 月 20 日に非常勤講師が他大学の図書館に設置されているパソコンで USB メモリを使用後、所在がわからなくなっているもの。

問題の USB メモリは私物で、同講師が担当している授業の履修者 129 人の氏名、学生番号、小テストの評価などが保存されていた。メモリにパスワードや暗号化は講じられていないという。

帰宅後 USB メモリの紛失に気づき、メモリを使用していた図書館や利用した交通機関に連絡したほか、自身でも捜索を行い警察への届出も行ったが発見されていない。

対象となる学生には、授業内で説明と謝罪を行った。また保護者には書面による説明と謝罪を行っている。

情報セキュリティ事故事例

2017 年 5 月

2017/05/11

業務 PC でアダルトサイト閲覧、職員を懲戒処分 - 神戸大

神戸大学は、業務用の端末で 1 年間に約 150 時間アダルトサイトを私的に閲覧していたとして、事務職員を懲戒処分した。

同大によれば、問題の事務職員は業務で使用しているパソコンを使ってアダルトサイトを閲覧。2016 年 12 月上旬に学内の関係者から報告があり、調査員会を設置して本人や関係者から聞き取り調査を実施したところ、問題が判明した。

調査対象の 1 年間でアダルトサイトを閲覧した時間は合計で約 150 時間にのぼり、そのうち約 120 時間は勤務時間内の閲覧だったという。

アクセスには、学内のパソコンやネットワークを私用に利用しており、同大では就業規則に違反しているとして同職員に対し、停職 2 カ月の懲戒処分とした。

2017/05/12

講師が学生の個人情報含むノート PC を紛失 - 共立女子大

共立女子大学のキャンパス内で、学生の個人情報を含む PC が所在不明となっている。同 PC には、同大のほか、教員が兼任講師を務める立教大学の学生情報も保存されていたという。同大の教員が、4 月 21 日に学外授業を行うため教室を出た際、パソコンを教室内に置き忘れ、紛失したものの。同日置き忘れに気が付き、探索を行ったがその後の所在がわからない状態だという。

同端末には、2013 年度から 2015 年度にかけて、同教員が担当した授業の履修者が提出した課題のデータ 376 人分が保存されていた。また 2016 年度の履修者 150 人が提出した課題が含まれる可能性がある。いずれも学籍番号や氏名などが記載されていた。

また同教員は、立教大で社会学部の兼任講師を務めており、同大において 2014 年度春学期の専門科目履修者 469 人の氏名、学生番号、レポート評価、筆記試験評価、出席データなどについても保存されていた。

2017/05/25

法政大、不正アクセスに関する調査結果を公表

法政大学は、同大のサーバが不正アクセスを受けた問題で、当初発表していたアカウント情報の外部流出は確認されなかったとする調査結果を公表した。

同問題は、2016 年 12 月 8 日に同大のサーバが不正アクセスを受けたもの。3 月 10 日に公表した時点では、サーバを経由してアカウント管理サーバにアクセスされ、学生や教職員、委

託業者などのアカウント情報 4 万 3103 件が流出した可能性があるとしていた。
同大では、外部事業者によるネットワークの解析およびログの調査を実施。同調査の報告を踏まえ、同大の情報セキュリティ委員会で検討を行い、アカウント管理サーバへのアカウント情報の要求を行った痕跡は認められたが、それにともなう情報流出は確認されなかったと結論付けたという。

情報セキュリティ事故事例

2017 年 4 月

2017/04/05

学生の個人情報含む書類を海外研修先で紛失 - 中部大

中部大学は、学生の個人情報含む書類を、教員が研修先の海外で紛失したことを明らかにした。

同大によれば、3 月 11 日、現代教育学部の海外研修中に、引率の教員が現地の路線バス車内に鞆を置き忘れて紛失したという。

所在不明となっている鞆には、パソコンと書類が入っていた。パソコンには個人情報は保存されていなかったが、書類には研修に参加した学生の氏名や性別、生年月日、国籍、学籍番号、学年や学部などが記載されていた。

2017/04/21

車上荒らしで学生の個人情報が被害に - 梅光学院大

梅光学院大学は、公用車が車上荒らしに遭い、在学生や受験生の個人情報が記載された書類が盗まれたことを明らかにした。

同大によれば、4 月 17 日夜、山口県下関市内で同大の自動車が車上荒らしに遭い、在学生と受験生の個人情報含む書類が盗まれたもの。被害に遭った書類には、在学生の氏名や学籍番号、性別、学年と学科、出身校、および受験生の氏名や受験番号、性別、高校名、合否などが記載されていた。

同大では説明会を実施して対象となる学生に謝罪。事故対策本部を学内に設置して再発防止に向けた体制の構築を進めている。

情報セキュリティ事故事例

2017 年 3 月

2017/03/06

課外講座の出席簿が教室内で所在不明に - 近畿大

近畿大学は、課外講座の出席簿が、学内で所在不明になっていることを明らかにした。受講生の個人情報も含まれるという。

同学によれば、課外講座「公務員試験対策講座」の出席簿を、教室内で紛失したもの。同出席簿には、受講生 270 人の氏名、学年、学籍番号が記載されていた。

同学では、清掃業者が廃棄した可能性が高いとの見解を示しており、紛失した個人情報の不正利用に関する報告は確認されていないとしている。

2017/03/10

学生や職員などアカウント情報 4.3 万件が漏洩 - 法政大

法政大学は、同大のサーバが不正アクセスを受け、教員や学生などのアカウント情報が外部へ漏洩したと発表した。

同大によれば、2016 年 12 月 8 日に同大のアカウント管理サーバから学生や教職員、委託業者など、全アカウント情報を取得されたことが判明したもの。

攻撃者が 1 月 10 日、2 月 7 日に VPN で同大ネットワークへ接続。内部ネットワークに対するポートスキャンが行われたことへ気が付き、調査を実施したところ、2 月 21 日に情報が取得された際のログを確認した。

同大内部のサーバを経由してアカウント管理サーバにアクセスされ、学生証番号や教務員番号のほか、氏名、メールアドレス、種別、所属、暗号化されたパスワードなど、4 万 3103 件のアカウント情報が、攻撃者によって取得された可能性がある。

同大では、攻撃の踏み台となったサーバを隔離。対象となる関係者へ連絡を取り、パスワードの変更を依頼した。窃取された情報の悪用は確認されていないという。

同大では、詳細について調査を進め、調査結果や再発防止策について、あらためて公表する予定。

2017/03/21

10 分ほどの駐車中に車上荒らし、学生情報など被害 - 名大

名古屋大学大学院の教員が車上荒らしの被害に遭い、学生の個人情報を保存していたパソコンが盗難に遭ったことがわかった。

同大によれば、大学院生命農学研究科の教員が、学生の個人情報含むパソコンを盗まれたもの。2 月 22 日 18 時半ごろ、駐車していた約 10 分ほどの間に車の窓ガラスが割られ、パソ

コンを鞆ごと持ち去られた。

被害に遭ったパソコンには、農学部 1 年生と 3 年生 666 人分の氏名と学生番号などが保存されていた。個人情報を含むファイルには、パスワードを設定していたと同大では説明している。

発覚後に警察へ被害届を提出。対象となる学生に書面で事情を説明し、謝罪した。紛失した情報の不正利用などは確認されていないという。

2017/03/27

入試結果など個人情報含む書類を紛失 - 大手前大

大手前大学および大手前短期大学は、受験生や在学生に関する個人情報が記載された書類を紛失したことを明らかにした。

同大によれば、職員が参考資料として携帯していた高校 2 校に関する書類が所在不明となっているもの。3 月 8 日に判明した。紛失した書類には、受験生の氏名と入試結果のほか、在学生の氏名や成績など、あわせて 54 人分の個人情報が記載されていたという。

同大では、対象となる受験生が在学する高校 2 校を訪問して謝罪するほか、受験生にも個別に連絡して説明と謝罪を行うとしている。

情報セキュリティ事故事例

2017 年 2 月

2017/02/01

学生の個人情報含む成績原簿が所在不明 - 奈良先端大

奈良先端科学技術大学院大学において、学生の個人情報が記載された「成績原簿」が所在不明になっている。

同大学によれば、常時施錠した倉庫に保管されている成績原簿が紛失していることが、2016 年 12 月 12 日に実施した点検作業によって判明したもの。

同年 6 月 22 日の点検時には、倉庫に収納されていることを確認していることから、その後 7 月から 8 月にかけて倉庫内を整理した際に、不要文書とともに誤って廃棄した可能性が高いという。

紛失したのは 2014 年度に情報科学研究科で開講された授業の成績原簿で、同科に在籍し 2014 年度に成績評価を受けた学生 354 人分の氏名や学生番号、研究室名、授業科目名、授業担当教員名、評価などが記載されていた。

同大学では、対象となる学生に謝罪の書面を送付している。

2017/02/06

PC から内蔵 HDD が抜き取られ盗難 - 神奈川大

神奈川大学は、同大研究室のパソコンから内蔵ハードディスクが盗まれたことを明らかにした。盗難に遭ったハードディスクには研究情報や個人情報が保存されていた。

同大によれば、2016 年 12 月末に工学部機械工学科の研究室内に設置してあった教員の私有パソコンから内蔵ハードディスクが抜き取られ、持ち去られたという。

被害に遭ったハードディスクには、研究に関する情報のほか、学生 631 人分の氏名、学生番号、成績情報が保存されていた。データにはそれぞれパスワードを設定していたとしており、個人情報の不正利用は確認されていない。

同大学では、対象となる学生に対し書面による説明と謝罪を行っている。

2017/02/28

転送ミスで学生の個人情報を第三者へメール送信 - 兵庫教育大

兵庫教育大学は、教員が学生の個人情報含むファイルを誤って外部へメールで送信する事故が発生したと公表した。

同学によれば、2 月 19 日深夜に教員が学生 31 人分の個人情報含むファイルをメールに添付し、誤って学外へ送信したもの。同教員が所有する別のメールアドレスに転送しようとしたところ、誤って第三者のメールアドレスに送信してしまったという。

誤送信したファイルは、授業科目を同教員と共同で担当する非常勤講師が作成したもので、パスワードを設定していたが、パスワードの設定や取り扱いに不備があったとしている。同教員は翌 20 日に誤送信に気づき、送信先に連絡して誤送信したファイルの削除を依頼。22 日に対象となる学生に説明と謝罪を行っている。

情報セキュリティ事故事例

2017 年 1 月

2017/01/27

成績情報含むファイルを学外に誤送信 - 千葉工業大

千葉工業大学は、学生の成績情報含むファイルを、教員が外部の関係者に誤ってメール送信したことを公表した。

同大学によれば、1 月 10 日に教員が送信したメールにおいて、学生の個人情報含むファイルを誤って添付していたもの。ファイルには、教員が担当している科目の受講生の氏名や学生番号、成績、出席状況などが記載されていた。

学会誌の原稿を学外の編集委員 10 人にメール送信した際、誤って添付したという。送信直後に気づき、送信先に誤送信したメールの削除を依頼。電話で削除の確認を行った。

2017/01/30

迷惑メールの踏み台に、4000 通を配信 - 京都女子大

京都女子大学のメールアカウントが乗っ取られ、迷惑メールを送信する際の踏み台に悪用されたことがわかった。

同大学によれば、メールサーバに対する不正アクセスがあり、職員のアカウントを踏み台として悪用され、不特定多数のメールアドレスに対し、迷惑メールが送信されたもの。

1 月 26 日 3 時半過ぎから問題が判明した 13 時過ぎまでの 9 時間半に配信された迷惑メールは、約 4000 件にのぼるという。今回の不正アクセスによる他システムへの侵入や情報漏洩については否定している。

同大では、対象のアカウントを停止。教職員や学生に対し、適切なパスワード管理を行うよう注意を喚起した。

情報セキュリティ事故事例

2016 年 11 月

2016/11/09

患者の個人情報含む論文を誤って投稿、閲覧可能に - 杏林大

杏林大学の医師が、米国のオンライン学術誌に投稿した論文に、個人を特定できないよう処理が行われていない患者の個人情報を誤って添付していたことがわかった。投稿先のサイト上で一時公開されたという。

同大によれば、医学部付属病院呼吸器内科の医師が、米国のオンライン学術誌「PLOS ONE」に投稿した論文において、患者の個人情報を添付したもの。患者 158 人の氏名や住所、性別、年齢、病名、検査結果、治療内容などが含まれる。

10 月 24 日に論文が日本語の原文で掲載され、投稿した医師が 28 日に個人情報の掲載に気付いた。学術誌の編集部には個人情報の削除を依頼したが連絡が取れず、個人情報が削除された 11 月 8 日まで、16 日間にわたり、サイト上で閲覧できる状態だった。

同医師は、論文に添付するデータについて個人を特定できないよう処理したが、処理前のデータも同じ文書ファイルに含まれた状態で誤って投稿してしまったという。また論文の点検をした指導教授もデータの誤添付を見落とした。

同院では対象となる患者に謝罪の書面を送付したとしている。

2016/11/11

企業から返送されたアンケート調査票を誤廃棄 - 岩手県立大

岩手県立大学は、企業から返送された「就職先企業アンケート」の調査票を、誤って廃棄したことを公表した。

同大によると、卒業生の就職先企業から返送されたアンケート調査票を、誤って廃棄したもの。同調査票では、雇用した卒業生の評価や就職支援活動の評価など、11 の調査項目に対する回答が含まれる。

同大では 10 月 11 日から 13 日に受理した調査票 35 件の管理に問題があり、誤って廃棄物として焼却処分されたという。

調査票に記載された回答内容の外部流出は否定している。同大では対象となる企業に説明と謝罪を行ったうえで、アンケート調査への協力をあらためて要請している。

2016/11/17

学生名簿を配送会社が紛失 - 近畿大

近畿大学は、配送を委託した業者が在学生の名簿を運搬中に紛失したことを公表した。

同大の通信教育部が配送を委託した在学生名簿を、配送会社が運搬中に紛失したもの。名簿には学生 98 人分の個人情報が記載されていた。

同大では対象となる学生に対し連絡。外部への流出に関する報告は受けていないという。

2016/11/25

個人情報含む進路状況調査表が所在不明、盗難か - 東洋大

東洋大学において、学生の個人情報を含む進路状況調査表が所在不明になっていることがわかった。

同大によれば、9 月 12 日に、個人情報が記載された進路状況調査表 230 件の紛失が明らかになったもの。板倉キャンパス内のキャリア形成、就職支援室において保管していたという。

同大では、調査表は厳重な管理のもと保管されていたと説明。盗難の可能性もあるとして警察に被害届を提出した。対象となる学生には、書面により報告を行ったとしている。

情報セキュリティ事故事例

2016 年 10 月

2016/10/07

フィッシング被害で個人情報が漏洩 - 関西学院大

関西学院大学において、学生や卒業生の個人情報が外部に漏洩したことがわかった。

同大によれば、職員がメールにより誘導されたフィッシングサイトで誤って ID とパスワードを詐取されたことから、学生や卒業生の個人情報 1466 人分が外部へ漏洩したという。

同大では、関係者に謝罪。学内への注意喚起を再度実施するなど再発防止に向けて対策を講じるとしている。

2016/10/11

メール経由でマルウェア感染、外部と通信 - 富山大

富山大学水素同位体科学研究センターのパソコンがマルウェアに感染し、外部と不正な通信を行っていたことがわかった。機密情報は含まれていないという。

同センターは、核融合炉の燃料として使われる水素同位体の研究施設。一部メディアの報道を受けてマルウェアへの感染について認めたもの。2015 年 11 月に研究者に送られたメールをきっかけにマルウェアへ感染し、外部と大量の通信が行われていたという。

同大では、感染した端末内部のデータについて、すでに発表済みであったり、公開を前提としているデータであるとし、機密情報の漏洩を否定。今回の問題を受け、同大ではセキュリティ対策の強化など進めるとしている。

2016/10/12

図書館の利用者情報 19 万件含む PC が所在不明 - 秋田市

秋田市の市立図書館において、利用者の個人情報が保存されたノートパソコンが所在不明になっている。予約、貸出状況などの情報も含まれるという。

所在がわからなくなっているのは、中央図書館明徳館が移動図書館で利用しているノートパソコン。同館で「図書館利用カード」を作成した利用者の個人情報 19 万 3844 件が保存されていた。氏名や電話番号、生年月日、登録者番号、10 月 7 日時点の予約、貸出状況などが含まれる。

同館では今回の問題を受け、不審な電話などがあった場合は、連絡するよう利用者に対してアナウンスを行っている。

2016/10/14

学生の個人情報添付メールを誤送信 - 東京都市大

東京都市大学は、学生の個人情報含むファイルを添付したメールの誤送信について公表した。ファイルにはパスワードが設定されていたという。

同大によれば、知識工学部情報通信工学科の教員が、9月21日に同学科の学生の氏名や学籍番号、所属研究室などを含むファイルをメールに添付し、誤ってほかの学生に送信したものの。ファイルには、パスワードが設定されていたとしている。

同大学では、対象となる学生に説明会を行って説明と謝罪を実施。メールを受信した学生には、添付ファイルの削除を依頼した。1カ月後に、削除が完了しているか確認を行うとしている。

情報セキュリティ事故事例

2016 年 9 月

2016/09/01

教員が個人情報や試験問題を SNS に掲載 - 名古屋大

名古屋大学は、同大教員が個人情報をはじめ、不適切な情報を自身の SNS に投稿していたと発表した。問題とされる投稿はすでに削除されているという。

同大によれば、2 月に同教員が SNS へ不適切な投稿を行っているとの指摘を受け、調査を行ったところ判明したもの。

同教員や関係者に対する聴き取り調査を実施した結果、出題予定の定期試験問題や採点中の答案、審査中の修士論文の画像のほか、自身が立ち会った医学部付属病院における手術中の写真、患者の MRI 画像の写真などを掲載していた。

また大学入試センター試験の監督者や同大の推薦入試や大学院入試の面接委員を務めていることがわかる投稿が存在。さらに修士論文発表者 1 人の個人情報や、奨学金返還免除者に選ばれた学生と、学術奨励賞の面接を受けた学生の氏名などの個人情報を掲載していたという。

いずれも閲覧状況などは特定できていない。すでに投稿は削除されており、同大では、対象となる関係者に報告と謝罪を行っている。

2016/09/09

複数端末がマルウェア感染、ランサムウェア被害も - 神戸大

神戸大学の業務用パソコン 2 台が、マルウェアに感染したことがわかった。そのうち 1 台はランサムウェアに感染しており、端末やネットワークストレージ上のファイルが暗号化されたという。

同大によれば、7 月から 8 月にかけて同大卒業生課や連携推進課において、マルウェアの感染被害が発生したもの。

卒業生課では、7 月 28 日 8 時 10 分ごろにパソコンがマルウェアに感染。8 月 18 日まで不正な通信が行われていた。

8 月 18 日 12 時ごろ、外部サーバと不正な通信が行われているとの指摘が外部より寄せられ問題が判明したという。感染端末においてマルウェアと見られる添付ファイルを開いた形跡

はないとしており、感染経路はわかっていない。

端末内には卒業生の個人情報が入っていたが、ファイルを外部に送信した記録は残っておらず、被害の報告なども確認されていないという。

また同大学の連携推進課では、8月22日10時ごろに使用しているネットワークストレージに保存されたファイルの拡張子が「zepto」に書き換えられ、暗号化されていることへ気が付いた。

同課のパソコンを隔離し、調査を行ったところ、同課の端末1台が外部と不正な通信を行っており、メールの受信記録からランサムウェアが添付されたメールを開封した可能性があることが判明。NASに比べ、PC内部のファイルについても暗号化されていた。

同端末からファイルが外部に送信された記録は残っていなかったが、暗号化されたファイルは、現在も操作できない状態だという。

同大学ではこれら問題について、外部の事業者へ調査を依頼。原因の特定や情報漏洩の有無などを調べている。

情報セキュリティ事故事例

2016 年 8 月

2016/08/03

成績など記録した USB メモリを紛失 - 大阪体育大

大阪体育大学の非常勤講師が、在学生や卒業生の個人情報記録された USB メモリを紛失したことがわかった。

同大健康福祉学部の非常勤講師が、個人で所有する USB メモリを 7 月 5 日に紛失したもの。同 USB メモリには、同講師が 2014 年から 2016 年まで担当した科目を受講した在学生と卒業生 451 人分の氏名や学籍番号、出席状況、成績などが保存されている可能性があるという。

同大学では、対象となる学生とその保護者に対し、説明と謝罪の書面を送付した。紛失にともなう被害などは報告されていないという。

2016/08/22

学生の個人情報がネット上で閲覧可能な状態に - 名古屋大

名古屋大学は、学生の個人情報含むファイルを教員が誤ってウェブサーバにアップロードしたことから、約 3 カ月にわたってインターネットよりファイルの内容を閲覧できる状態だったことを明らかにした。

同大宇宙地球環境研究所の教員が、5 月 2 日に個人情報を含むファイルを誤ってサーバにアップロードしたことから、ファイルの内容をインターネットより参照できる状態となっていたもの。

アップロードしたサーバに関しては、5 月 30 日に問題のファイルを削除したが、キャッシュが検索サイトに残存。7 月 30 日にウェブサーバの管理者がサーバへのアクセス履歴を調査したことから問題へ気が付いた。

閲覧可能な状態となっていたのは、氏名、性別、身分、学修状況など、同大理学部と大学院環境学研究所の学生 335 人分の個人情報。また 2014 年度に年代測定総合研究センターが開催した体験学習の参加者および保護者 24 人分の氏名、性別、連絡先、学校名、学年なども含まれる。

同大では 8 月 1 日に検索エンジンへキャッシュの削除を依頼し、翌 2 日に削除を確認した。流出した個人情報の不正利用に関する報告は確認されていない。同大学では、対象となる学生や関係者に対し、説明と謝罪の書面を送付している。

2016/08/22

個人情報含む USB メモリを紛失、判明は 2 月 - 大谷大

大谷大学は、寮生などの個人情報を保存した USB メモリが所在不明となっていることを公表した。

2013 年度から 2015 年度の寮生活のしおりを保存していた USB メモリの所在がわからなくなっているもの。2 月 22 日に紛失へ気が付き、以降も探索しているが発見できていないという。

USB メモリには、寮生 60 人の氏名、出身都道府県、所属学科、および寮監と学生委員 10 人の氏名、携帯電話番号、メールアドレス、出身都道府県、所属学科などが含まれる。

同大学では、対象となる寮生や関係者に書面による報告と謝罪を行っている。

情報セキュリティ事故事例

2016 年 7 月

2016/07/05

メール誤送信でオープンキャンパス申込者のメアド流出 - 京都府立医科大

京都府立医科大学は、オープンキャンパスの申込者に受付確認のメールを送信した際、送信ミスがあり、一部でメールアドレスが流出したことを明らかにした。

夏のオープンキャンパスの申込者に対し、6 月 30 日 19 時 44 分に受付確認のメールを送信した際に発生したもの。7 グループに分けて送信したが、そのうち 1 グループ 27 件については送信先アドレス「宛先に誤って設定。受信者のメールアドレスを受信者間で閲覧できる状態となった。

7 月 1 日に受信者の保護者から指摘があり発覚。同大学では同日中にメールで謝罪し、誤送信したメールの削除を依頼している。引き続き調査を継続するとしている。

2016/07/22

個人情報含むファイルが外部から閲覧可能に - 慶大

慶應義塾大学において、関係者の連絡用として作成された個人情報を含むファイルが、一時サイト上で外部から閲覧可能な状態だったことがわかった。

同大学院経営管理研究科において、学生や教員など関係者の事務連絡用として作成されたファイルが、ウェブサイト上で 2015 年 4 月から 2016 年 6 月中旬にかけて、外部から閲覧できる状態だったことが判明したもの。

ファイルには 2009 年度から 2014 年度に同研究科へ入学した学生、修了生のほか、教員、その他関係者の氏名などが含まれており、対象となる学生や関係者には、報告と謝罪の書面を送付した。また問題のファイルについてパスワードを設定。検索サイトのキャッシュについて削除を依頼するなどの対応を講じたという。

2016/07/26

車上荒らしで個人情報含む PC などが被害 - 筑波大

筑波大学は、教員が車上荒らし被害に遭い、個人情報や企業情報、7 機関の情報が保存されたノートパソコンなどが盗まれたことを明らかにした。

同大のシステム情報系に所属の教員が、7月6日に帰宅途中、車上荒らしに遭い、鞆が持ち去られたもの。被害に遭った鞆のなかには、同大が保有する関係者の個人情報 2562 件をはじめ、企業 32 社、および 7 機関の情報を保存したノートパソコンのほか、期末試験の答案用紙などが入っていた。

盗難の発覚後、警察へ被害を届けた。盗難に起因した個人情報の外部流出や、不正利用については確認されていないという。

情報セキュリティ事故事例

2016 年 6 月

2016/06/03

福島高専の就職支援システムに不正アクセス - 求人票情報 5000 件流出か

福島工業高等専門学校就職支援システムが不正アクセスを受け、求人票情報が外部へ流出した可能性があることがわかった。

同システムに対する不正アクセスの痕跡を確認したことから調査を実施したところ、情報が流出している可能性があることが判明したもの。

流出したおそれがあるのは、サーバ内に保存されていた 2009 年度以降の求人票情報約 5000 件。求人票情報を提供した事業者の名称、住所、採用担当者の氏名、電話番号、ファックス番号、メールアドレス、採用予定数、採用希望学科などが含まれる。

同校では、対象となる事業者へ書面による説明と謝罪を行っているが、情報が悪用されたといった報告は受けていないという。

2016/06/06

研究室 PC が踏み台に、詐欺メールをメアド約 280 万件へ送信 - 電通大

電気通信大学のパソコンが不正アクセスを受け、フィッシングメールを送信するための踏み台に悪用されていたことがわかった。

被害に遭ったのは、同大レーザー新世代研究センターの研究室が管理する端末。5 月 3 日から翌 4 日にかけて、メール送信の踏み台に利用されたもので、同大メールアドレスを送信元とし、同大外部のメールアドレス約 280 万件に対して、銀行を装ったフィッシングメールが送信されていたという。

問題のメールでは、銀行の認証システムが変更されたなどと説明。顧客情報の確認などとだまして本文内の URL よりフィッシングサイトへ誘導していた。同大では、5 月 4 日に同端末によるメール送信を停止。また誘導先の偽サイトは、5 月 9 日以降、閉鎖された状態だという。

同大では、不正アクセスを受けた原因について、端末で安易なパスワードを使用していたほか、アクセス制限も適切に設定されていなかったことを挙げた。また今回不正アクセスを受けた端末は、個人情報情報を保存しておらず、個人情報情報の流出については否定している。

2016/06/17

学生 1600 人分のレポート含む USB メモリを紛失 - 茨城大

茨城大学において、学生のレポートを保存していた USB メモリが、所在不明となっていることがわかった。

紛失したのは、学生のレポートを保存していた USB メモリ。4 月 26 日に教員が研究室で紛失に気が付いた。同日の講義に USB メモリを用いたが、その後の所在がわからないという。

保存されていたレポートのデータは、同教員が 2015 年度に担当した科目の受講生によるもので、手書きで記入、提出したレポート約 1600 人分をスキャンニングし、PDF ファイルとして保存していた。

USB メモリの暗号化など対策は講じていなかったという。同大学では、対象となる学生にメールで事情を説明し、謝罪している。

2016/06/20

サーバ設定ミスで個人情報を誤公開 - 宮崎大

宮崎大学のウェブサイトにおいて、学生や退職した教員 16 人の個人情報が 1 カ月以上にわたって外部に公開されていたことがわかった。

同大によれば、学部のウェブサイトにおいて、4 月 15 日から 5 月 26 日までの間、個人情報が含まれたファイルが学外から閲覧可能な状況だったもの。サーバにおけるアクセス制限の設定ミスが原因としている。問題発覚後、同ファイルを置いたディレクトリを閲覧できないよう修正した。

外部から閲覧可能だったのは、学生や卒業生、退職した教員あわせて 16 人分の個人情報。氏名や生年月日、入学年度、認定科目名と単位数、出身校、学生の身分異動内容などが含まれる。

同大学では関係者に説明し、謝罪。被害などの報告は受けていないという。

2016/06/22

学生 1651 人分の個人情報含む USB メモリを紛失 - 宮崎大

宮崎大学は、在学生や卒業生の個人情報が保存された USB メモリを、教員が学内で紛失したことを明らかにした。

教育学部の教員が、所有する USB メモリを 6 月 7 日に学内で紛失したもの。同教員が 2010 年度から 2015 年度まで担当した 4 科目を受講した在学生と卒業生 1651 人の個人情報が保存されていた可能性があるという。氏名や学籍番号、出席状況、一部学生の成績などが含まれる。

同大学では、対象となる在学生と卒業生に順次事情を説明して謝罪する方針で、相談窓口なども開設し、対応を進めている。

2016/06/24

個人情報入り PC がマルウェア感染、外部と不正通信 - 山口大

山口大学において業務用端末がマルウェアに感染し、外部と不審な通信を行っていたことがわかった。パソコンにはのべ約 2 万人分の個人情報が保存されており、同大では調査を進めている。

同大によれば、6 月 6 日 8 時半ごろに、不審な外部サイトへアクセスした疑いがあるパソコンを発見したもの。ネットワークから遮断し、通信記録を調査したところ、マルウェアの感染が原因と見られる通信を確認した。

マルウェアに感染したパソコンには、のべ 2 万 998 人分の個人情報を保存。学生の氏名や住所、電話番号、生年月日、メールアドレス、在籍内容や入学に関する情報、銀行口座などの情報が含まれる。そのほか学生指導や職員人事、学外研修講師の銀行口座なども保存されていた。被害の報告などは受けていないという。

6 月 1 日に受信したメールの添付ファイルを職員が開封したことから、マルウェアへ感染したと見られている。他端末におけるマルウェアの感染や不正通信は確認されていない。同大学は警察に相談するとともに、引き続き調査を継続するとしている。

情報セキュリティ事故事例

2016 年 5 月

2016/05/24

マルウェア感染端末から学生や保護者の個人情報が流出 - 中大

中央大学は、パソコン 1 台がマルウェアに感染し、学生や保護者、教職員などの個人情報が流出していたことを明らかにした。

4 月 9 日に同大多摩キャンパスで事務に使用している端末 1 台がマルウェアに感染し、その後の調査で情報流出が判明した。流出したデータには、学生や保護者、教職員など 20 人の氏名や住所、生年月日などが含まれる。

同大では、対象となる学生や関係者には個別に謝罪。また詳細や再発防止策などを検討したうえで、再度書面で説明と謝罪を行っている。

2016/04/21

学生健康診断受診票が一時所在不明に - 北海道教育大

北海道教育大学において、学生健康診断受診票が一時所在不明となっていたことがわかった。2 週間後に学内で発見、回収されたという。

委託先の北海道対がん協会が 4 月 6 日に実施した学生健康診断において、15 人分の受診票を一時紛失したもの。受診票には氏名や性別、生年月日のほか、健康診断の結果などが記載されている。

同大学では委託業者からの報告を受けて明らかとなり、委託事業者が 4 月 8 日に同大内を搜索。その際に発見できなかったが、20 日に学内において教員が発見、回収したという。

問題の受診票は、回収場所から 120 メートルほど離れた渡り廊下の脇に設置された棚の上に、廃棄用段ボール箱のふたに挟まるような形で見つかったという。

個人情報不正に利用されるなど被害は確認されていない。同大学では、対象となる学生とその保護者に説明を行うとしている。

2016/03/29

学生 8 人の個人情報を誤って 192 人に配信 - 摂南大学

摂南大学において、就職部が配信した履歴書の添削指導メールに、誤って学生 8 人の個人情報含む文書を添付していたことがわかった。

3 月 10 日、学生が不適切な内容の文書を所有していると教員から指摘があり、問題が判明したもの。就職部が学生向けポータルサイトで配信した履歴書の添削指導メールに、本来添付すべき「履歴書見本」ではなく、異なる文書ファイルを誤って添付していた。

問題のファイルは内部資料で、学生 8 人の氏名や学生番号、進級状況などの個人情報が含まれる。同メールは 2 月 10 日に学生 192 人に対し配信され、掲載期間中に 64 人が閲覧していたという。

同大学では個人情報が流出した学生に対し、個別に説明と謝罪を実施。またメールを参照した学生には、ファイルの削除を要請など行っている。

2016/03/16

学生の個人情報入り PC が出張先のドイツで盗難 - 東京大学

東京大学 産学連携本部は、職員がドイツ出張中に、学生の個人情報含むノートパソコンの盗難に遭ったことを明らかにした。

同大によれば、2 月 9 日から 13 日にかけてのドイツ出張中、鞆の盗難に遭ったもの。鞆の中には、起業家教育受講生の氏名や住所、電話番号、メールアドレスなどを保存したノートパソコンが入っていた。

同大学では、対象となる受講生に書面による報告と謝罪を行っている。

2016/03/03

個人情報持ち出しと不正アクセスで職員を懲戒免職 - 岐阜県

岐阜県は、職場から私的な目的で個人情報を持ち出すとともに、他人の ID を使ってコンピュータへ不正アクセスを行った職員に対し、3 月 2 日付けで懲戒処分を実施した。

同県によれば、同職員が最初に個人情報を持ち出したのは 2013 年 8 月 22 日ごろ。岐阜県総合医療センターにおいて、同センター職員の個人情報を業務以外の目的で収集。さらに翌 2014 年 8 月 12 日および 9 月 12 日に、総務事務センターで県職員の個人情報を持ち出していた。

また同職員は、類推した ID やパスワードを用い、2014 年 9 月 12 日から 2015 年 11 月 18 日までの間、57 回にわたり不正アクセスを行っていたという。

同県では同職員を懲戒免職とし、管理監督する立場にあった 3 人に対し、管理監督責任に基づく戒告処分を行った。

2016/02/19

入試出願登録情報が外部から閲覧可能な状態に - 学習院大学

学習院大学は、入試ウェブ出願システムに不具合があり、出願登録情報を出願者以外が一時閲覧できる状態だったことを明らかにした。一部情報が閲覧された可能性があるという。

ウェブ出願確認画面の不具合により、出願登録情報が第三者から閲覧できる状態だったもので、1 月 14 日に受験生から指摘があり判明した。すでに不具合は修正されているという。

ウェブ経由の出願を受け付け開始した 1 月 5 日から、システムの修正が完了した 14 日 22 時過ぎまで閲覧可能となり、期間中に登録者 86 人分の情報が閲覧された可能性がある。氏名や住所、電話番号、生年月日、メールアドレス、出身高校、出願情報などが含まれる。

同大学では入学試験への影響を避けるため、同事案の公表を入試実施後に行ったと説明。閲覧された可能性のある 86 人に謝罪している。

2016/02/19

小学校教職員のマイナンバー含む書類が所在不明 - 横浜市

横浜市の小学校において、事務職員がマイナンバー含む書類を、電車での移動中に紛失したことがわかった。

1 月 26 日、神奈川県教育委員会事務局へ教職員の扶養状況を記した書類を提出しようとした際、紛失したもの。職員が同校を出発して 30 分ほど経過した同日 15 時半ごろ、東横線横浜駅で下車する直前に、書類を入れた鞆がないことに気が付いた。

所在がわからなくなっている書類には、同校の教職員およびその配偶者、扶養家族など 54 人分の氏名、マイナンバーが記載されていた。そのほか、教職員 5 人の氏名や住所、勤務状況、給与支給額や、最大 37 人分の氏名と最寄り駅も含まれているという。

2016/02/18

学生の個人情報含むタブレット端末を紛失 - 文京学院大学

文京学院大学は、学生 310 人分の個人情報が保存されたタブレット端末を紛失したことを明らかにした。

同大によれば、1 月 13 日 18 時 20 分ごろにタブレット端末が所在不明となっていることへ教員が気付いたもの。端末は、同日 16 時 30 分から 18 時までの演習で使用しており、同室内で紛失したものと見られている。

所在不明となっているタブレット端末には、同教員が 2015 年度前期に担当した科目の履修者 160 人の氏名、学籍番号、成績と、同年度後期に担当している科目の履修者 150 人の氏名および学籍番号が保存されていた。

同教員は警察に盗難届を提出。同端末にはパスワードと暗号化などのセキュリティ対策が講じられているという。

2016/01/13

サーバが外部と不正通信・情報流出の可能性 - 北海道大学

北海道大学のサーバが外部と不正通信を行っていたことがわかった。サーバ内部には関係者の個人情報や企業情報などが保存されていたという。

同大によれば、同大キャリアセンターのファイルサーバが外部のサーバと不正な通信を行っていたことが、1 月 4 日に判明したもの。同日サーバをネットワークから隔離した。

問題のサーバは、2015 年 12 月 27 日にスパムメールの大量送信に悪用され、翌 28 日に送信を自動遮断していることへ気が付き、ログなどを調査したところ不正通信が判明した。

サーバ内には、同大へ在学する学生約 1 万 8000 人や卒業生約 9 万 5000 人の個人情報、企業情報約 2000 社分が保存されており、外部へ流出した可能性がある。

同大では、情報漏洩の被害状況について調査を進めている。調査結果については判明次第公表する予定。また関係者に対しては、書面で事情を説明、謝罪する。

2016/01/07

中学校教諭が緊急連絡網を財布ごと紛失 - さいたま市

さいたま市は、市立中学校の教諭が、温泉施設の付近で生徒や職員の個人情報が記載された名簿などを紛失したことを公表した。

同市によれば、1 月 5 日未明、教諭がコンビニエンスストアで個人情報を記載した緊急連絡網を入れていた財布を紛失していることに気付いたもの。同教諭は前日 20 時ごろに温泉施設へ行き、5 日 1 時ごろに支払いを行っているが、その後、施設の向かいにあるコンビニエンスストアを訪れた時には、財布がなくなっていたという。

所在不明となっている財布には、担任学級の生徒 35 人の氏名と電話番号含む緊急連絡網と、顧問をしているクラブの部員 81 人の氏名や住所、電話番号、性別など含む名簿のほか、職員 67 人の氏名と電話番号含む緊急連絡網などが入っていた。

同校では臨時保護者会を開催して事情を説明し、謝罪。不審な連絡に注意するよう注意喚起を行っている。

2016/01/05

小学校児童の個人情報含む USB メモリを紛失 - 長野市

長野市は、市内小学校の教諭が児童の個人情報を保存した USB メモリを紛失したと公表した。氏名は含まれないが、所見などを記載していたという。

同市によれば、2015 年 12 月 17 日に教諭が学級通信を作成するため USB メモリを使用しようとしたところ、紛失が判明したもの。教諭は自宅などを捜索したが見つからず、21 日に校長に報告した。

紛失したのは業務用の USB メモリで、児童 14 人分の通知表所見の下書きを保存。氏名は含まれておらず、児童 2 人の学習や生活の様子などが記載されたメモも保存されていた。1 人は氏名、1 人はイニシャルが記載されていたという。

2015/12/18

学生の成績情報含むファイルを誤送信 - 福岡女学院大

福岡女学院大学人間関係学部の教員が、学生 234 人分の個人情報含むファイルを誤って学生 14 人に送信していたことがわかった。

12 月 10 日、教員が担当科目の履修者 14 人に指導日程調整表をメールで送信。その際、卒業生 2 人を含む学生 234 人分の氏名や学籍番号、2013 年度の成績評価など含むファイルを誤って添付した。受信した学生からの連絡により判明した。

同大学では受信した 14 人に対し、添付ファイルの削除を要請。教職員立ち会いのもとでファイルの削除を確認した。また外部に流出していないことを確認したという。

2015/12/15

学生の個人情報含む PC が講義室から盗難 - 愛知工業大

愛知工業大学は、情報科学部准教授のノートパソコン 3 台が講義室で盗難に遭ったと発表した。パソコン内部には、同大にくわえ、同准教授が非常勤講師として勤める名古屋市立大学と中部大学の学生に関する情報も含まれていた。

同大によれば、12 月 10 日に 12 時 50 分から 13 時までの間に、豊田市の八草キャンパス内にある講義室からパソコン 3 台を何者かに持ち去られたもの。

被害に遭ったパソコンには、同大の学生 225 人をはじめ、名古屋市立大の学生 54 人、中部大の学生 66 人の氏名や学籍番号、出席状況、課題提出状況などが保存されていた。

同大では、対象となる学生に対し、事情の説明や謝罪を行っている。

2015/12/11

約 6.2 万人分の個人情報入り USB メモリが所在不明に - 関西大

関西大学において、学生など約 6 万人分の個人情報を記録した USB メモリが所在不明となっている。

同大によれば、同大が業務を委託している情報処理業者と受け渡しを行った際に USB メモリを紛失したもの。問題の USB メモリには、同大の学生や留学生、大学院生および保証人の個人情報あわせて 6 万 2308 人分が保存されていたという。

学生に関しては氏名、住所、電話番号、生年月日のほか、所属や学籍情報などが含まれる。また保証人に関しては氏名、住所、電話番号などの個人情報が記録されていた。

同大では、誤って廃棄された可能性が高いと説明。二次被害などの報告は受けていないとしている。関係者に対しては、順次連絡を取り、事情の説明や謝罪を行っていく。

2015/11/26

シンポジウム案内メールを誤送信 - 専修大

専修大学社会知性開発研究センターは、シンポジウムの案内メールにおいて、送信先のメールアドレスが流出したことを公表した。

11 月 9 日、同センターが開催するシンポジウムの案内メールを送信した際、操作ミスにより宛先のメールアドレス 249 件が受信者間で確認できる状態となったもの。

同センターでは誤送信から 1 時間後、メールアドレスを登録していた 249 人にメールで謝罪。誤送信したメールの削除を依頼している。

2015/11/10

学生の個人情報含む USB メモリを紛失 - 関西大

関西大学の非常勤講師が、学生のべ 990 人分の個人情報が記録された USB メモリを紛失したことがわかった。

同大内において、外国語科の非常勤講師が USB メモリを紛失したもの。同講師が 2014 年と 2015 年春学期に担当した科目の履修者のべ 749 人の氏名、学籍番号、成績と、2015 年秋学期に担当している科目の履修者のべ 241 人の氏名と学籍番号が記録されていた。

同大学では、対象となる学生に説明と謝罪を進めている。

2015/10/30

国家試験模試の結果を教員で回覧中に紛失 - 新潟県立看護大

新潟県立看護大学は、国家試験模試の結果 182 件を紛失したと発表した。教員 5 人が回覧する過程で紛失したと見られている。

2015 年保健師国家試験模試の結果 91 人分や、2015 年看護師国家試験模試の結果 91 人分が所在不明となっているもの。学生の氏名や学籍番号、模試の得点率、評価などが記載されていた。

同大学によれば、模試の結果を今後の国家試験対策に活かすため、教員 5 人が 10 月 15 日から回覧していたが、23 日になって所在がわからないことへ気が付き、関係者への聴き取りで、最後に回覧した教員が最初の教員に返却する際に所在不明になったことが判明したという。

同大学では、対象となる学生と保護者に謝罪するとしている。

2015/10/26

学生の個人情報や入試問題など含む PC を英国で紛失 - 岩手大

岩手大学工学部の教員が、英国への出張中にタクシー内に個人情報含むノートパソコンを置き忘れ、紛失していたことがわかった。

国際会議に出席するため訪れていた英国において、タクシーの車内にノートパソコンの入った鞆を置き忘れ、そのまま紛失したもの。盗難の可能性が高いとして、現地の警察当局や日本大使館に被害届を提出した。

パソコンには学生のべ 1526 人の個人情報のほか、2016 年度入学試験の問題案などが保存されていた。個人情報については、一部パスワードが設定されているという。

同大学では、対象となる学生や関係者に説明と謝罪の書面を送付した。また、入試問題については問題を差し替えるなど、対応を行っている。

2015/10/20

関係ないメアドが CC に、不具合が原因と説明 - 京大生協

京都大学生生活協同組合は、メールを送信した際に、関係ないメールアドレスが流出したことを明らかにした。メールソフトの不具合が原因だとしている。

9 月 30 日 18 時過ぎに、同大学研究室へ見積りのメールを送信したが、45 件となった未着を含む PC 内に登録されていたメールアドレス 232 件が「CC」に設定され、送られたという。メールを受信した組合員より指摘があり問題が判明。10 月 1 日に関係者へメールで謝罪するとともに、誤って送信したメールの削除を依頼した。

同組合では、送信時にメールアドレスが CC へ挿入された原因について、操作ミスではなく、使用するメールソフトの不具合である可能性が高いと説明。

対策として、パソコン内に登録されているすべてのメールアドレスとメールソフトを削除したほか、使用するメールソフトの点検を実施。メールソフトの変更についても検討するという。

2015/10/13

学生の個人情報含む USB メモリを紛失 - 甲南女子大

甲南女子大学において、学生の個人情報を保存した USB メモリが所在不明となっている。

人間科学部総合子ども学科の准教授が9 月 25 日に紛失し、その後所在不明となっているもの。捜索が続いているが発見されていないという。

問題の USB メモリには、2013 年度から 2015 年度に在籍している学生 577 人の氏名や学籍番号、成績情報、出席状況などが保存されていた。同大学では、対象となる学生に個別に対応を行うとしている。

2015/09/28

病院事務担当者への通知メールで誤送信 - 山口県

山口県は、県内の 144 病院の事務担当者へメール送信した際、誤ってメールアドレスが漏洩したことを公表した。

誤送信されたのは、次年度の補助金要望調査の通知メール。9 月 17 日 16 時半過ぎに、対象となる県内 144 の病院における事務担当者へメールを送信したが、宛先にメールアドレスを記載して送信。受信者間でそれぞれのメールアドレスを確認できる状態となった。

送信 20 分後に同県担当者が問題へ気が付き、関係者へ謝罪のメールを送信。誤送信したメールの削除を依頼している。

2015/09/09

患者情報含む USB メモリを紛失 - 名大付属病院

名古屋大学医学部付属病院は、患者の個人情報が入った USB メモリが院内で所在不明になっていることを明らかにした。

8 月 11 日 16 時ごろ、看護師が USB メモリを使用しようとしたところ、保管場所に見当たらないことに気付いたもの。問題の USB メモリは同月 7 日に確認されており、外部に持ち出された形跡は確認されていないという。

紛失した USB メモリには、退院後に心臓リハビリテーションを実施している患者 217 人の氏名や年齢、性別、ID、入退院日などが記録されていた。対象となる患者には、電話と書面を通じて報告と謝罪を行っている。

2015/09/09

表計算ソフトのソートミスでメールに別人の個人情報 - 文化放送

文化放送は、イベントの当選通知メールを送信した際、操作ミスにより個人情報が漏洩したことを明らかにした。

10 月に後楽園で開催される声優イベントの当選者へメールで通知する際にミスが発生したもの。当選者 700 人のデータを作成する際、表計算ソフトのソート操作を誤り、メールアドレスと名前や住所が一致しない状況となったが、気が付かずに 9 月 7 日にメールを送信した。

送信作業を行っている際に、受信した当選者から連絡があり問題が判明。別の当選者の氏名や住所、年齢、性別などが記載された状態で 360 人に送信しており、43 件の問い合わせが寄せられたという。

同社ではすべての当選者にメールで謝罪。当選者リストの修正を行ったうえで当選メールを再度送信した。また漏洩の対象者には電話で連絡を取り、メールの削除を依頼している。

2015/08/21

個人情報含む書類を置き引きで一時紛失 - 一橋大

一橋大学において、講師が学生の個人情報を含む書類を帰宅途中に一時紛失していたことがわかった。警察から連絡があり、10 日後に回収したという。

8 月 1 日 23 時 30 分ごろ、講師が帰宅時の電車内で、足元に書類が入ったバッグを置いていたが、JR 赤羽駅に到着した際になくなっていることに気付いたという。

紛失した書類は夏学期成績報告書と出席簿。講義を履修している学生 108 人の氏名や学籍番号、出欠状況などが記載されていた。

同大では、対象となる学生にメールで紛失を報告。紛失したバッグが発見されたと警察から連絡があり、11 日に回収した。書類はすべて揃っていたという。

2015/08/07

盗まれた患者情報含む外部記憶装置が発見 - 昭和大

昭和大学は、5 月に発生した車上荒らしによる外付けハードディスクの盗難事件に関し、別の事件で逮捕された容疑者の押収物から盗難物が発見されたことを明らかにした。

5 月 8 日から翌朝にかけて、横浜市内の駐車場に駐車していた同大医師の車が車上荒らしに遭い、横浜市北部病院の患者情報約 4 万 8000 人分の個人情報を保存したハードディスクが持ち去られたもの。

別の事件で逮捕された被疑者の押収物に被害に遭ったハードディスクが含まれていたという。内部の患者情報が不正に利用された事実は確認されていないとしている。

同大では、今回の問題を受けて盗難に遭った医師を減給処分とした。また個人情報管理体制の見直しや責任の明確化、個人情報管理マニュアルの周知徹底などにより、再発防止を目指す。

2015/08/05

職員や学生の個人情報含む USB メモリを紛失 - 横浜国立大

横浜国立大学の職員が、学生と職員の個人情報が保存された USB メモリを自宅に持ち帰り、紛失していたことがわかった。

自宅で資料を作成するため USB メモリにデータをコピーして、7 月 31 日に持ち帰ったが、8 月 2 日までに紛失したことが判明した。所在不明となっている USB メモリには「2015 年度教員免許状更新講習受付担当者一覧」が保存されており、職員 2 人や派遣職員 14 人、学生 6 人の氏名が含まれていた。

職員は内規を守っておらず、個人情報を持ち出す際の届出や USB メモリの暗号化などは実施していなかったという。

2015/07/24

学生らの個人情報流出 ロシア経由で不正アクセス - 秋田大学

秋田大（澤田賢一学長）は 24 日、学外からの不正アクセスにより学生や教職員らの個人情報 1171 人分が流出したと発表した。国際資源学部にも所属する男性教員のメールのパスワードが不正に取得されたのが原因とみられる。県警は不正アクセス禁止法違反の疑いで捜査している。

秋田大によると、流出したのは学生、教職員、学外関係者の氏名や学籍番号、メールアドレス、電話番号など。55 人分の成績情報も含まれるが、見るためには別にパスワードが必要。現在、これらの個人情報が悪用されたとの連絡はないという。

男性教員が 16 日、送信した覚えのないメール数万件が宛先不明で戻ってきたことを不審に思い、同大の情報管理担当に連絡し判明した。ロシア経由で不正にアクセスされたことは分かっているが、アクセスに必要なパスワードが取得された経緯は調査中。不正アクセスにより、男性職員のメールアドレスで約 6 万件のメールが送信された。送信済みメールから、違法薬物を売り込む英文などが確認されている。

2015/07/22

合否情報など個人情報入り USB メモリを紛失 - 大阪府立大学

大阪府立大学は、羽曳野キャンパスの事務所内において、入学志願者などの個人情報のべ 828 件を含む USB メモリが所在不明になっていることを明らかにした。

7 月 8 日に USB メモリを使用しようとしたところ、紛失に気付いたもの。7 月 6 日に職員が事務所内で USB メモリを使用し、デスクの引き出しに入れていたが、その後の所在がわからないという。デスクの引き出しは施錠されていなかった。

紛失した USB メモリには、2012 年度から 2014 年度に実施した入学試験の志願者のべ 797 人の氏名や住所、生年月日、出身校、合否情報のほか、大学院看護学研究科の出願資格認定審査の申請者のべ 31 人の氏名や出身校、勤務先、研究実績などが保存されていた。同大学では、対象となる関係者に書面で事情の説明や謝罪を行うとしている。

2015/07/22

サイトに不正アクセス、公開講座受講者のメアドなど流出 - 梅花女子大学

梅花女子大学のウェブサイトが不正アクセスを受け、公開講座受講者のメールアドレスや電話番号などが流出したことがわかった。

7 月 13 日に、同大学のウェブサイトが不正アクセスを受けているとの連絡が外部機関から寄せられたもので、調査の結果、不正アクセスにより公開講座受講者のメールアドレス 418 件と電話番号 5 件が流出していたことが判明した。

同大学ではサイトを停止し、脆弱性を修正。また、対象となる受講者には報告と謝罪を行うとしている。

2015/07/16

ID や初期 PW 含む学生や教職員の個人情報が流出 - 東京大学

東京大学のパソコンがマルウェアに感染し、学生や教職員のアカウント情報をはじめとする個人情報あわせて最大 3 万 6300 件が流出した可能性があることがわかった。

同大において、業務に利用するパソコンがマルウェアに感染、内部に保存されていた学内向けサービスのアカウントが流出していることが判明したものの。

同大によれば、6 月 30 日に学内で使用するメールサーバにおいて、管理画面の設定が変更されていることへ気が付き、調査を行ったところ、マルウェアの感染が発覚した。

感染したパソコンや同サービスのサーバには、システムのアカウント情報や個人情報が保存されていた。

流出した可能性があるのは、2013 年度と 2014 年度の学部入学者、および 2012 年度と 2013 年度にシステムを利用した学生の氏名、学生証番号、利用者 ID、初期パスワードなど約 2 万 7000 件。

さらに 2012 年度以降にシステムを利用した教職員の氏名や ID、初期パスワードなど 4500 件、サーバ管理者の氏名、ID、初期パスワードなど 3800 件、現在システムを利用している学生と教職員の氏名、学生証番号、ID など 1000 件などが含まれる。

同大学では対象となるすべてのパスワードを変更。感染端末を隔離した。詳しい原因や影響の範囲など調査を進めており、関係者へ連絡を取っているが、二次被害などは確認されていないという。

2015/07/16

サイトに不正アクセス - メールアドレスが流出 - 愛媛大学

愛媛大学が不正アクセスを受け、「愛媛大学ミュージアム」の情報配信用に登録されていたメールアドレスが流出したことがわかった。

同大が業者に運用を委託しているウェブサーバが、同月 10 日に不正アクセスを受けたもので、外部機関から 7 月 13 日に連絡があり、判明したという。愛媛大学ミュージアムの情報配信メールサービスに登録されているメールアドレス 366 件が外部へ流出した。

同大学では、不正アクセスを受けたサーバを停止。アプリケーションの脆弱性を突かれたものと見られているが、詳細な調査を進めている。また、アドレスが流出した登録者には報告と謝罪を行う方針。

2015/06/22

学内便で送付した学生の「住所届」が所在不明 - 九州大

九州大学は、キャンパス間で配送を行う学内便を利用して送付した学生 183 人分の「住所届」が所在不明になっていることを明らかにした。

所在不明になっているのは、箱崎キャンパスの理学部等事務部から伊都キャンパスの学務部宛てに、4 月 6 日に学内便で発送した学生の住所届。5 月 29 日の判明後から搜索を続けているという。

住所届には、理学部の院生と学部生 183 人分の氏名や住所、電話番号、学籍番号、生年月日、性別、本籍地、メールアドレスのほか、保護者の氏名や住所、電話番号、勤務先などが記載されていた。

同大学では、対象となる学生とその保護者に対し、書面で事情を報告し、謝罪した。個人情報の外部流出は確認されていない。

2015/06/19

個人情報入り PC が盗難、見知らぬ人との会話中に - 名古屋大

名古屋大学太陽地球環境研究所の教員が、出張先のスウェーデンで盗難に遭い、個人情報を含むノートパソコンが被害に遭ったことがわかった。

現地時間 5 月 31 日 12 時 30 分、レストランで食事中に見知らぬ男性から声を掛けられて会話した間に、イスの上に置いていた鞆が持ち去られた。鞆にはノートパソコンが入っていた。パソコンには、教員が担当する講義を受講している学生の氏名や成績のほか、研究所の学生や教職員の氏名、メールアドレスなど含む研究所連絡一覧など、のべ 271 人分の個人情報が保存されていた。一部データにはパスワードを設定していたという。

現地警察や日本大使館に被害届を提出するなど対応を行うとともに、対象となる学生と教職員には謝罪の書面を送付している。

2015/06/01

標的型メールでマルウェア感染、個人情報約 125 万件が漏洩 - 日本年金機構

日本年金機構のパソコンがマルウェアへ感染し、外部へ個人情報が漏洩したことがわかった。同機構は、詳細について調査を進めるとともに、基礎年金番号の変更など対応を進めている。

同機構のパソコンがマルウェアへ感染し、個人情報が外部へ漏洩していることが 5 月 28 日に判明したもの。「氏名」「基礎年金番号」「生年月日」を含む約 116.7 万件や、それに住所をくわえた約 5.2 万件など、現在わかっているだけであわせて約 125 万件にのぼる。

マルウェアは、メールの添付ファイルを開封したことにより感染。外部より端末に対してアクセスが発生した。端末を隔離し、マルウェアの駆除などを行うとともに警察へ被害を届けた。基幹である社会保険オンラインシステムに対する不正アクセスは確認されていないが、同機構では詳細について調査を進めている。

同機構は、今回の漏洩を受けて、関係者の基礎年金番号を変更するほか、年金手続きの際、本人確認などを実施する。

2015/05/27

非公開処理のミスでパブコメ提出者の個人情報が見え - 文科省

文部科学省は、文書公開請求に対して文書を公開した際、非公開とすべき個人情報が読み取れる状態だったことを明らかにした。

同省によれば、開示請求で公開した資料から個人情報が取得できる状態だったもの。2014 年 7 月に実施した「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」への意見募集について、提出された全意見の開示を求める請求があったことから、個人情報については不開示とした上で、2 月 18 日付けで意見を記録した PDF ファイルを含む CD-ROM を開示請求者に送付したが、PDF ファイルから表計算ソフトなど ヘデータをコピーすると個人情報が見取れる状態だった。

意見データでは提出者の個人情報を非公開処理したが、担当者が 処理手順を十分に理解していなかったという。公開されたデータには、445 件の意見が保存されており、ローマ字表記の氏名や、住所、電話番号、メールアドレスなど提出者 111 人分の個人情報が含まれる。

4 月 28 日に開示請求者から指摘があり判明。同省では CD-ROM の返還と複製したデータの消去を要請した。また対象となる意見提出者には謝罪を行った。今後同省では、不開示の処理にあたり、電子データを紙に出力し、再度スキャナーで電子化するといった対応を徹底するとしている。

2015/05/12

大学向けクラウドで設定ミス 個人情報が見え可能に - 電翔

パッケージソフトやソリューションサービスを展開する電翔は、大学向けクラウドソリューションにおいて、個人情報が見え可能となる事故が 2 件発生していたことを明らかにした。

同社が大学向けに提供しているクラウドソリューションにおいて、利用者が特定の操作を行うことで、本来は見えない個人情報にアクセスできる状態になっていたもの。2 月 6 日に利用している大学の職員から連絡があり問題が判明した。

学生の氏名や住所、電話番号、生年月日、メールアドレスなどが見える状態で、共有フォルダにおけるアクセス権限の設定ミスが原因だったという。

また別の学校のケースでは、就職支援システムの 権限変更作業を行った際、同社従業員が学生情報の閲覧権限を誤って設定してしまったため、教職員のみ利用できる検索機能が、約 6 時間にわたり学生が利用できる状態だった。

これにより、同システムに登録された氏名や住所、電話番号、学籍番号、メールアドレス、出身高校、帰省先住所などが見え可能だったという。大学職員からの指摘を受け、設定の修正を行った。いずれも、個人情報の不正利用は確認されていないとしている。

2015/05/08

個人情報をウェブ公開フォルダに誤ってコピー - 名古屋大

名古屋大学において、サーバ内に保存されていた個人情報が外部から見え可能な状態になっていたことがわかった。あやまって公開フォルダ上へコピーしてしまったという。

誤って情報を公開してしまったのは、名古屋大学大学院理学研究科生命理学専攻の研究室で管理するサーバ。4月23日に同大においてサーバ情報の調査を行った際、問題が発覚した。原因は、公開しているウェブサイトのフォルダに、個人情報の入ったファイルを誤ってコピーしてしまったためだという。

閲覧できた個人情報は、2007年度の理学部および大学院理学研究科の学生のべ261人分の個人情報で、氏名や受講教科の採点結果、成績など含まれる。また職員3人分の氏名やメールアドレスも含まれる。

同大では、情報漏洩の原因となったサーバのデータを移動。ネットワーク上のキャッシュを消去した。学生や関係者に対しては個別に事情を説明、謝罪しているが、不正使用などは確認されていないという。

2015/04/22

学生の個人情報が外部から閲覧可能に、操作ミスで - 東京大学

東京大学は、学生 136 人の氏名や成績が外部から閲覧可能な状態にあったことを明らかにした。

同大学大学院情報理工学系研究科の教員が、4 月 6 日に行った研究室のローカルサーバのシステム変更において操作ミスがあり、同教員の講義を受講した学生の個人情報が外部から閲覧可能となっていたもの。

漏洩したのは、同教員が個人的に作成した成績関連のメモで、学生 136 人の氏名と学籍番号が記載されていた。そのうち 70 人は成績情報も含まれる。

13 日に学生からの連絡を受けて問題が判明。データを削除するとともに、検索エンジンへキャッシュの削除を依頼し、すでに削除されたとしている。

同大学では、対象となる学生に書面により報告と謝罪を実施。個人情報の不正利用などは報告されていないという。

2015/04/18 (秋田魁新報掲載)

医学部HP改ざん、一時閉鎖 ハッカー集団名など表示 - 秋田大

秋田大は 17 日、医学部のホームページ（HP）が何者かに改ざんされたと発表した。詳しい原因を調べ、対策を講じるため、同日夕に医学部の HP を閉鎖した。

同大広報課によると、医学部の職員が同日午後 4 時 10 分ごろ、医学部の 1 講座のトップページが書き換えられ、ハッカー集団とみられる名称とロゴマークだけが表示されているのを見つけた。約 20 分後、同大が医学部全体の HP を閉鎖した。

HP は 18 日午前 0 時ごろ復旧した。

2015/04/07

入学式で新入生の名簿を紛失・個人情報揭示を指摘を受けて中止 - 横浜国立大

横浜国立大学は、全新入生の個人情報が記載された名簿を紛失したことを明らかにした。

入学式の受付で使用していた新入生名簿を紛失したというもの。問題の名簿には、全学部の新入生の氏名や学籍番号、生年月日、所属学部、学科などが記載されていた。

同大学では、紛失の経緯など事実関係について調査を進めている。また今回の事態を受けて学籍番号を変更し、学生証を再発行した。

紛失した情報が悪用されるおそれもあるとして、パスワードに生年月日を用いない、身に覚えのない連絡には返信しないなど、学生に注意するよう呼びかけている。

また同大では 6 日に、学生の個人情報を学内に揭示する問題が発生したことを明らかにした。教育人間科学部の教育実習に関する揭示において、氏名や住所、電話番号、生年月日、性別、出身高校、最寄り駅、教育実習希望校など、学生 3 人の個人情報を揭示していたという。

揭示後 1 時間後に指摘を受け、揭示を中止した。

同大では、再発防止策を早急に取りまとめるとしている。

2015/03/20

就職説明会で学生情報を紛失 - クリーニング事業者

ロイヤルネットワークは、企業説明会で提出された企業訪問カードが所在不明になっていることを明らかにした。

3 月 3 日に宮城県で実施したマイナビ大卒新卒向け合同企業説明会において、回収した企業訪問カード 10 人分を紛失したもの。

氏名や住所、携帯電話番号、メールアドレス、学校、卒業年などが記載されていた。

不正使用などは確認されていないが、不審なダイレクトメールや勧誘の電話などに注意するよう呼びかけている。

2015/03/09

患者の個人情報記載の書類を紛失 - 東京歯科大市川総合病院

東京歯科大学市川総合病院において、同意書など患者の個人情報が記載された一部書類が所在不明となっている。

2 月 6 日、10 日、13 日に患者から預かった問診票や同意書、診療情報提供書など 126 人分が、電子データとして保存する手続きを行った後に所在不明となっていることが、2 月 18 日に判明した。

同院では、誤って廃棄した可能性が高いとし、すでに電子化が行われており、治療への影響はないとしている。対象となる患者と関係医療機関には個別に報告や謝罪を行う。

2015/02/26

患者情報を保存した PC が盗難被害 - 筑波大付属病院

筑波大学付属病院は、患者の個人情報が保存されたノートパソコンが盗難被害に遭ったことを明らかにした。

同大の大学院生が学外で盗難被害に遭ったもので、被害に遭ったパソコンには、患者など 165 人分の個人情報が保存されていたという。氏名や年齢、手術日、病名の略号、手術や術後経過に関する情報などが含まれる。

同院では、対象となる患者へ電話で事情を説明。また書面や訪問などにより謝罪を行っている。盗難に遭った情報の不正利用など、報告は受けていないという。

2015/02/18

患者情報含む PC を一時紛失、ファイルアクセスなし - 東大病院

東京大学医学部付属病院に関連する医師が、患者の個人情報含むノートパソコンなどを電車内に置き忘れ、一時紛失していたことがわかった。パソコンは 6 日後に回収されている。

同院によれば、紛失が発生したのは 2 月 10 日 20 時ごろ。専門研修プログラムに所属する医師が電車内に置き忘れたもので、検索を行ったところ、千葉県警が保管していることを 16 日に確認、回収した。パソコンは、紛失した翌 11 日 9 時ごろに拾得者より警察へ届けられていたという。

同パソコンには、2014 年 1 月から 12 月までのあいだに同院で診療を受けた患者 1027 人分の氏名や ID、年齢、診療情報が保存されており、そのうち 942 人については住所や生年月日も含まれる。同院が回収後にログを確認したところ、これらファイルに対して第三者がアクセスした記録は残っていなかったという。

今回の問題を受けて、同院では対象となる患者に事情を説明し、謝罪する書面を送付した。また、個人情報を持ち出す際は匿名化するルールが守られていなかったとして、全職員への指導を徹底するとしている。

2015/02/06

学生の個人情報入り USB メモリを出張先で紛失 - 大阪市立大

大阪市立大学は、教員が出張先のマレーシアにおいて、学生 39 人分の個人情報を保存した USB メモリを紛失したと発表した。

同大学によれば、現地時間の 1 月 27 日 21 時 45 分ごろ、USB メモリを入れていたポーチがなくなっていることに気付いたという。ポーチは、パスポートや航空機の搭乗券なども入れていたもので、ズボンのポケットに入れていた。

USB メモリには、教員が 2009 年に担当した講義を受講した学生 39 人の氏名や学籍番号、成績データなどのべ 62 件を保存。データにはパスワードが設定されているとしている。同大学では、対象となる学生に説明と謝罪を行う方針。

2015/01/21

学生のレントゲンフィルムを誤廃棄 - 慶応大

慶応義塾大学は、健康診断で撮影した学生のレントゲンフィルムが所在不明になっていることを明らかにした。誤って廃棄した可能性が高いとしている。

2013 年春の健康診断時に撮影した学生 9336 人分の胸部レントゲンフィルムが所定の場所に保管されていないことが 1 月 6 日に判明したもの。搜索したが発見できず、調査を行った結果、2014 年秋に誤って廃棄した可能性が高いという。

廃棄物として業者に渡した際、191 人分のフィルムについては氏名と学籍番号が特定できる状態だったという。対象となる 191 人には、謝罪の書面を送付する。健康診断票は別途管理されており、学生の健康管理上の不都合はないと説明している。

2015/01/20

NAS の個人情報 5 万件を誤って外部へ公開 - 首都大学東京

首都大学東京は、学内で利用していたネットワーク接続に対応したハードディスクの設定ミスにより、個人情報約 5 万 1000 件が外部へ公開されていたことを明らかにした。

外部からアクセス可能となっていたのは、同大南大沢キャンパスの教務課が管理している NAS。1 月 1 日に学外からメールで指摘があり、休み明けの 5 日に確認、問題が発覚した。

NAS 内に保存されていたのは、学生や教員の氏名、住所、電話番号、生年月日などで、一部メールアドレスや修得単位数、TOEIC のスコアも含まれる。入学手続予定者や教員免許状更新講習受講者など、学外の関係者の情報も記録されていた。

個人情報は、のべ人数で約 5 万 1000 件にのぼり、2014 年 8 月 22 日から FTP 共有を無効化した 2015 年 1 月 5 日まで外部からアクセスできる状態だった。

NAS では、初期設定で FTP 共有機能が有効となっており、そのまま設定を変更せずに利用したのが原因だという。FTP 接続時の ID やパスワードなども利用しておらず、保存しているデータの多くについても、パスワードによる保護は行っていなかった。

情報の不正利用は確認されていない。同大学では窓口を設置し、関係者からの問い合わせに対応する。

2015/01/06

母体や乳児の患者情報含む USB メモリがひったくり被害 - 九大病院

九州大学病院の医師がひったくりに遭い、患者の個人情報を保存した USB メモリが持ち去られたことがわかった。

2014 年 12 月 18 日 21 時ごろ、医師が帰宅後に再度自転車で外出した際、バイクに乗った 2 人組に鞆を強奪されたという。鞆の中には、医師が研究目的で収集した患者 91 人の情報を保存した USB メモリが入っていた。

奪われた USB メモリには、患者の氏名や年齢、使用した薬剤の名称、細菌検査の結果にくわえ、出産した乳児の体重や性別、発育状態、そのほか記号化したデータなどが含まれるという。USB メモリにセキュリティ対策は講じていなかった。

同大では警察へ被害届を提出。対象となる患者に、電話や文書で事情の説明と謝罪を行っている。

2014/12/24

教員選考応募者の個人情報含む USB メモリが所在不明 - 宮崎大

宮崎大学において、教員採用選考の応募者情報が保存された USB メモリが所在不明となっている。

同大教員が、校内で紛失したもので、12 月 18 日に教員が報告し、問題が判明した。所在がわからなくなっている USB メモリには、教員採用選考の応募者に関する氏名、住所、電話番号、生年月日など、17 人分の個人情報を保存していた。個人情報含むファイルに対しては、パスワードを設定していたと説明している。

紛失した情報の不正利用に関する報告は寄せられていないという。同大学では、対象となる応募者に連絡、説明と謝罪を行っている。

2014/12/22

請求受けて公開した行政文書に個人情報 - 新潟県立看護大

新潟県立看護大学は、公開した行政文書の中に、本来非公開とすべき個人情報が含まれていたことを明らかにした。

同大学によれば、行政文書の公開請求を受け、12 月 19 日に請求者に対し公開を行ったが、請求者より文書内に個人情報が含まれているとの指摘を受けたため、文書の公開を停止した。

請求を受けて公開したのは、実習委員会議事録や学生委員会議事録など。同文書内に、実習を終えた学生が行う継燈式の委員 5 人や卒業生成績優秀者 2 人、休学者 1 人、退学者 2 人に関する個人情報が含まれていた。同大学では、対象となる関係者に文書で謝罪する。

2014/12/18

テストメール誤送信で職業訓練生のアドレスが流出 - 帝京大

帝京大学は、東京都から受託している公共職業訓練において、訓練生 19 人へのテストメール送信の際、職員の誤操作により全員のメールアドレスが表示された状態で送ったと公表した。

12 月 12 日 13 時 39 分ごろ、緊急時連絡用として訓練生より提供されたメールアドレスのテストのためにメールを一斉送信した際、操作ミスが発生したものの。

19 人に対し一斉送信したが、宛先にメールアドレスを記載、送信したため、受信者間でメールアドレスを確認できる状態と成った。ただし、2 件はアドレスの誤入力で未着だったという。

同日中に訓練生から流出を指摘するメールがあったが、担当者はすでに帰宅しており、流出を把握したのは週明けの 15 日だった。同大学では対象となる訓練生に謝罪、誤送信したメールの削除を要請している。

2014/11/26

高校で裏面に誤って個人情報印字した案内書を送付 - 広島県

広島県教育委員会は、県立高校の教諭が学習会の案内文書を送付した際、生徒の個人情報が漏洩したことを公表した。

11 月 12 日、学習会の担当教諭が受講者確認のための担任用資料を作成した際、学習会の案内を印刷した紙の裏に、受講者 48 人の氏名や住所、生徒番号などを印刷。そのまま確認せず、誤って発送してしまったもの。

2014/11/13

メールングリストの設定ミスにより個人情報流出 - BCC 利用から切り替え直後に

島根県の業務委託先において、メールングリストの設定ミスにより個人情報が漏洩したことがわかった。配信方法を切り替えた直後の事故だったという。

同県によれば、「島根県 IT 人材確保促進事業」を委託している東京の事業者においてメールングリストの設定に問題があり、リターンやＩターンの希望者のメールが漏洩したもの。

担当者が 11 月 4 日に、登録者 135 人に対して、メールングリストを用いて求人情報などをメールで配信。そのメールに対して 5 人から返信があったが、メールングリストの設定にミスがあり、関係ない登録者全員へ同報配信されたという。

返信されたメールには、氏名やメールアドレス。携帯電話番号、顔写真付きの履歴書などが含まれていた。従来、登録者へメールを同報配信する際は、BCC を利用していたが、11 月からメールングリストに切り替えたばかりだった。

委託先では、メールングリストの設定を修正。登録者に報告と謝罪を行い、誤って配信されたメールの削除を要請した。また同県でも対象者への謝罪を行っている。

2014/11/12

患者の個人情報を第三者に誤送信 - 昭和大学病院付属東病院

昭和大学病院付属東病院は、患者情報を第三者に誤って送信する事故が発生したことを公表した。

11 月 2 日に、患者 53 人の個人情報を第三者に誤って送信したもの。個人情報の具体的な内容は明らかにされていない。不正利用の報告は確認していないという。

同病院では、東京都に報告するとともに、対象となる患者に説明と謝罪の文書を送付するなどの対応を行っている。

2014/11/05

一部学生への連絡メールに学生 2634 人分の個人情報が混入 - 龍谷大

龍谷大学は、学生アルバイトに事務連絡を行った際、誤って学生 2634 人分の個人情報を含むメールを送信したことを明らかにした。

同大学によれば、10 月 23 日 17 時ごろ、理工学部の実験室を公開する際のアルバイトとして運営補助を行う理工学部と大学院理工学研究科の学生 105 人に、事務連絡メールを送信したが、その際に送信ミスが発生したもの。誤って理工学部と大学院理工学研究科の学生 2634 人の氏名、住所、電話番号、メールアドレスなどを含んだ状態で送信したという。

同大学では、誤送信したメールの受信者である学生にメールの削除を依頼。26 日に全員と個別に直接会い、メールの削除を確認した。また個人情報が流出した学生に対しては、報告と謝罪を行っている。

2014/10/17

個人情報含むファイルを学生 125 人にメール送信 - 兵庫医科大

兵庫医科大学は、6 年生 40 人の個人情報含むファイルを、1 年生 125 人に誤ってメール送信したことを明らかにした。

10 月 14 日、教務学生課の職員が、別の職員宛ての業務メールとして、6 年生 40 人の個人情報含む Excel ファイルを添付したメールを送信。その際に操作を誤り、1 年生への連絡用として使用している一斉送信用のアドレスにも送信した。ファイルにパスワードは設定していなかったという。

誤送信したファイルには、学生の氏名、電話番号、性別のほか、保護者の氏名、住所、電話番号、続柄などが含まれていた。

誤送信の発生後、送信先の 1 年生に対しメールや電話などで誤送信したメールの削除を依頼。また個人情報が流出した学生やその保護者に対して、電話で説明と謝罪を行っている。

2014/10/11 秋田さきがけ新報 掲載

学生情報漏えい 閲覧可能と指摘メール - 秋田大

秋田大（澤田賢一学長）は 10 日、教員がハードディスクをパソコンに接続した際、保存していた一部の学生の学籍番号や学習評価などの情報が一時、外部から閲覧できる状態になっていたと発表した。今のところ情報が悪用されたといった報告はなく、秋田大が原因を調べている。秋田大によると、保存していたのは、学生 10 人ほどの学籍番号と氏名、学習評価、外部講師の氏名や略歴など。教員はハードディスクを研究室内のパソコンに接続して使っており、外部から閲覧されないようパスワードを設定していたという。秋田大は教員や学生の所属学部を明らかにしていない。

9 日夕、「はじめまして。先生が管理している記録装置の内容が、学外に公表されたようです。」とのメールが外部からこの教員に届き、情報の漏えいが発覚。送信者のアドレスなどに見覚えはないという。

教員はすぐに大学に報告。別のパソコンでファイルを確認しようとしたが、ハードディスクが故障して読み取れなくなっていた。秋田大は、ハードディスクを修復してデータを復元する作業を進めている。

2014/10/03

マドリードのカフェで個人情報入り HDD が置き引き被害 - 大阪市立大

大阪市立大学の教員が、出張先のスペインで鞆の盗難に遭い、学生のべ 277 人分の個人情報を保存したハードディスクを盗まれたことがわかった。

盗難が発生したのは、工学研究科の講師が立ち寄ったマドリードのカフェ。現地時間の 9 月 20 日 22 時 30 分ごろに入り、15 分ほど経ったところで足元へ置いていた鞆がなくなっていることに気付いたという。現地警察への届出を行ったが見つからない。

鞆にはノート PC やハードディスク、カメラ、パスポートなどが入っていたが、そのうちハードディスクには、同教員が 2013 年から 2014 年に担当した 8 講義を受講した学生のべ 277 人の氏名や学籍番号、成績、レポート提出状況などを含むエクセルファイルが保存されていた。また、過去 4 年間に送受信したメールも含む。エクセルファイルには、パスワードが設定されているという。

同大学では、9 月 30 日に同教員より個人情報の紛失について報告を受けた。対象となる学生や関係者には、説明と謝罪を進めている。

2014/09/30

学生の個人情報含む PC が海外で盗難被害 - 上智大

上智大学は、学生の氏名や成績などが保存されたパソコンが、海外で盗難被害に遭っていたことを明らかにした。

被害に遭ったパソコンには、同大学の教員が 2000 年から 2013 年の間に担当した 3 科目の受講者に関する氏名や成績などの情報が保存されていた。対象ファイルにはパスワードを設定しているほか、ハードディスクの暗号化などセキュリティ対策を講じていたという。

同大学では、対象となる受講者に書面を送付し、説明と謝罪を行うとしている。

2014/09/05

国際会議の発表中にパソコンを置き引き被害 - 九大

九州大学大学院システム情報科学研究院の教授が、学生や卒業生、研究者などの個人情報を含むパソコンを、出張先のスウェーデンで紛失したことがわかった。

8 月 25 日にスウェーデンで開催された国際会議において、同教授の発表中、付近に置いていた鞆が持ち去られたもの。鞆の中には大学が貸与したパソコンが入っており、事務局や現地警察に盗難を届けたが見つからない。

紛失したパソコンには、同教授が担当する 3 科目の講義を過去 3 年間に履修した学生、および卒業生約 400 人の氏名と点数、さらに国内外の大学、研究所、企業の研究者約 300 人の氏名と連絡先、送受信メールなどの個人情報が保存されていた。パソコンのハードディスクは暗号化を行っていたという。

同大学では今回の盗難を受け、対象となる学生や卒業生、研究者に対し、書面で状況を報告、謝罪する。

2014/08/27

出張先の海外で個人情報含むノート PC が盗難被害 - 東大

東京大学大学院の教員が、海外出張中に盗難被害に遭い、関係者の個人情報が保存されたノートパソコンを盗まれたことがわかった。

同大学院教育学研究科の教員が、出張先の海外でノートパソコンを入れた鞆ごと何者かに持ち去られた。盗まれたパソコンには、関係者の氏名やメールアドレスなどの個人情報が保存されていた。

同大によれば、今回の盗難と関連した個人情報の不正利用などは確認されていないという。

2014/08/12

教員免許更新講習システムに不具合、受講者情報が閲覧可能に - 放送大学

放送大学学園の教員免許更新講習システムにおいて、受講者の個人情報がほかの受講者から一時閲覧できる状態だったことがわかった。

教員免許更新講習システムの設定にミスがあり、本来アクセスできない個人情報が閲覧可能となったもの。閲覧可能となったのは、同システムに登録されている受講者の氏名とメールアドレス。

閲覧可能だった 7 月 14 日から 8 月 6 日までで 78 件の情報閲覧が確認されたという。8 月 6 日に受講者からの指摘を受け、問題が判明した。同大では、システムの設定変更を実施。設定の変更後、問題は解消されたという。

2014/07/15

教員が置き引き被害、学生の個人情報含む USB メモリを紛失 - 大阪市立大

大阪市立大学の教員が、帰宅途中に路上で置き引き被害に遭い、学生の個人情報含む USB メモリ 2 個などが盗まれていたことがわかった。

同大学の発表によれば、7 月 8 日 2 時過ぎごろ、工学研究科の准教授が置き引きに遭い、鞆がなくなったもの。

懇親会の終了後の 1 時 30 分ごろ、帰宅途中で、一緒に帰宅に向かっていた大学院生の気分が悪くなり、路上で介抱していたところ、その間に鞆を持ち去られたという。院生の回復を待って警察へ届け出た。

被害に遭った鞆にはノート PC や USB メモリ 3 個が入っていたが、そのうち 1 個の USB メモリに卒業生 111 人の氏名、住所、在学時の学籍番号を保存していた。パスワードは設定されているという。また別の 1 個には、在校生および卒業生 284 人の氏名、学籍番号、レポートの提出状況、試験の成績が含まれていた。

パスワードなどセキュリティ対策は講じていなかった。

同大学では、対象となる在校生と卒業生に対し、口頭や文書による説明と謝罪を進める。また情報媒体の持ち出しルールの徹底や、不必要な個人情報の削除を実施し、再発防止を目指す。

2014/07/10

誤送信で学生ボランティアのメールアドレス流出、同様事故過去にも - 北海道

北海道教育庁においてメール誤送信が発生し、学生ボランティア 73 人のメールアドレスが流出したことがわかった。

オホーツク教育局の担当者が、「学校サポーター派遣事業」の学生ボランティアバンクに登録している学生ボランティア 73 人に対し、研修会の案内メールを送信。その際、担当者の操作ミスにより送信先の全アドレスを表示した状態で送られたという。

また、今回の誤送信を受けて過去のメールについて確認したところ、2013 年度までの間に学生ボランティアに登録した 79 人についても、同様の誤送信でアドレスを流出した可能性が判明した。今後は、複数の職員による宛先確認を徹底するとしている。

2014/06/23

患者情報保存した USB メモリが所在不明 - 東京女子医科大

東京女子医科大学東医療センターにおいて、123 人分の患者情報を保存していた USB メモリが所在不明となっている。

同センターによれば、問題の USB メモリには、2009 年から 2012 年までに同センターへ入院した患者の氏名や ID、検査データなど 103 人分のほか、2007 年から 2012 年までの患者 20 人に関する氏名、ID、病名などが記載されていた。

今回の紛失は、5 月 19 日に判明したもので、同センターではその後も探索を続けているという。個人情報の不正利用などは確認されていない。

2014/06/13

奨学金支給対象者の個人情報や口座情報含むファイルを誤送信 - 横浜市立大

横浜市立大学が日本学生支援機構奨学金の申請者 181 人にメール送信した際、誤って支給対象者 172 人の個人情報含むファイルを添付していたことがわかった。

同大学によれば、6 月 9 日 15 時 45 分ごろ、職員が日本学生支援機構奨学金の申請者 181 人に対して、学生専用のポータルサイトを通じてメールを送信。本来は学籍番号のみ記載した PDF ファイルを添付するはずが、誤って 6 月から奨学金の支給が開始される 172 人分の個人情報含むエクセルファイルを添付、送信したという。

ファイルには、学生の氏名や生年月日、学年、学籍番号、奨学生番号のほか、振込先の金融機関名や口座番号、奨学金貸与月額、入学時特別増額貸与額、保証料月額などが記載されていた。同日 17 時 15 分ごろ、メールを受信した学生から連絡があり判明したもので、19 時 10 分に誤送信先の 181 人へメールで謝罪し、添付ファイルの削除を要請。また対象学生の保証人に対し、経緯説明と謝罪を行った。

本来送付するはずだったファイルと誤送信したファイルは、いずれも同じファイル名で、送信前に添付ファイルの内容を確認せずに送ったのが原因だったとし、同大では、再発防止策として、職員間におけるチェックの強化など対策を講じていく。

2014/06/16

学生や卒業生の個人情報含む HDD が盗難 - 大阪府立大工業高専

大阪府立大学工業高等専門学校において、教員が研究室で使用する外付けハードディスクが盗難に遭ったことがわかった。学生の個人情報が記録されていたという。

同大によれば、教員が 6 月 6 日 15 時ごろ、研究室のパソコンへハードディスクを接続した状態で部屋を離れ、17 時 30 分ごろ研究室に戻ったところ、ハードディスクがなくなっていることに気付いたという。パソコンの画面上には、ハードディスクを不適切に接続解除したことを示す警告画面が残っていた。

盗まれたハードディスクには、同教員が 1999 年以降に担当した科目に関する学生の氏名と成績のべ 4835 人分のほか、2008 年度および 2011 から 2014 年度の同校在学生のべ 4028 人分の氏名と集合写真、同教員が担当した体験入学への参加者のべ 211 人の氏名と住所、同教員と交流のある学外の研究者のべ 476 人の氏名と住所など、個人情報が保存されていた。

同大では、10 日に警察へ盗難届を提出。対象となる卒業生や学外の関係者には説明と謝罪の文書を送付するほか、在校生に対し、校内掲示板やホームページを通じて謝罪している。

2014/05/12

患者の個人情報含む USB メモリを医師が紛失 - 東京医科歯科大病院

東京医科歯科大学医学部付属病院の医師が、患者の個人情報が保存された USB メモリを紛失していたことがわかった。

紛失が発生した東京医科歯科大学 4 月 26 日 9 時ごろ、同医師が JR 武蔵野線の車内に USB メモリ 2 本が入った鞆を置き忘れたもので、紛失した USB メモリには、あわせて患者 225 人分の手術症例リストや画像データが保存されていた。

保存されていた患者情報のうち、「氏名」「ID」「年齢」「性別」など 215 人分の症例リストについては、パスワードで保護されていたが、患者 16 人分のデータについては、氏名、生年月日、画像データ、所見など含まれるものの、パスワードが設定されていなかった。

一部重複しているため、対象となる患者は 225 人で、同大学では、文書による謝罪を行っている。個人情報の不正利用は確認されていない。

2014/05/09

アカウント登録の作業ファイルが外部よりアクセス可能に - 大阪工業大学

大阪工業大学は、大学内において新システム導入する際、アカウント情報の登録に利用した一部作業ファイルが外部へ流出したことを明らかにした。

外部からアクセス可能となっていたのは、アカウント登録に用いたファイルで、学生や教職員の個人情報が含まれるという。また一時検索サイト上にも登録されていた。

同大は、今回の問題についてシステム導入業者の認識不足や作業ミスが重なったことが原因と説明。管理体制の強化を実施し、再発防止に努めたいとしている。

2014/05/07

個人情報含む USB メモリが所在不明に - 広島市立大

広島市立大学は、学生や教員など 58 人の個人情報が保存された USB メモリが所在不明になっていることを公表した。

同大学の保健管理室において USB メモリが所在不明となったもの。3 月下旬まで事務機の引き出しに保管されていたが、4 月 18 日に紛失が判明。警察へ紛失届を提出した。紛失時期については特定できないという。

保健管理室へ相談に訪れた学生や教員など 58 人の氏名や性別、学部、学籍番号、相談区分などが記録されていた。対象となる学生および教員には、謝罪の文書を送付している。

2014/04/27

ハードディスクに保存した個人情報インターネットで閲覧可能に - 千葉大

千葉大学は、教授が持ち帰ったハードディスクに保存されていた学生の個人情報が、インターネット経由で一時的に閲覧できる状態だったことを明らかにした。

同大教授が、大学からネットワーク接続に対応したハードディスクを自宅に持ち帰り、使用していたところ、セキュリティ設定に問題があり、インターネット経由でアクセス可能な状態だったという。

ハードディスクに保存されていた個人情報は、在校生および他大学の学生などあわせて約 4 万 7000 人分にのぼると見られ、検索エンジンなどにも登録されていた。

同大学では、情報流出の判明後、ハードディスクの設定を変更。検索サイトに情報の削除を要請するなど対応を行っている。

2014/04/01

休退学者の個人情報ファイルを学生 1824 人に誤送信 - 明治薬科大

明治薬科大学は、学生 1824 人に誤って学生 20 人分の休学・退学情報をメールに添付し送信していたことを明らかにした。

3 月 11 日 18 時、同大学の学生支援部学生支援課が「サークル棟・体育館の清掃」に関する案内メールを、薬学科の学生 1603 人、生命創薬科学科の学生 221 人に送信。その際、担当者の確認不足により、学生 20 人の休退学情報が添付ファイルとして送信されたという。

同日中に送信先の学生に連絡し、添付ファイルの削除を依頼した。また情報が流出した学生には、電話または文書で謝罪を行ったとしている。

情報セキュリティ事故事例

参考：Security NEXT

2018 年 12 月

2018/12/11

学生がフィッシング被害、迷惑メール約 29 万件の踏み台に - 新潟大

新潟大学において、学生のメールアカウントがフィッシングにより乗っ取られたことがわかった。迷惑メール送信の踏み台に悪用されたほか、メールに含まれる個人情報が閲覧された可能性がある。

同大によれば、8 月 24 日に同大の学生が支払通知を装ったフィッシングメールを受信。誘導先のフィッシングサイトでメールアカウントのパスワードを入力したため、同日より同アカウントが不正アクセスを受けていたという。

同月 28 日には、問題のアカウントより約 29 万 6000 件の迷惑メールが送信された。またメールアカウントに保存されていた個人情報が第三者によって閲覧された可能性がある。

閲覧された可能性があるのは、学外関係者 17 人の氏名とメールアドレスで、一部住所や電話番号も含む。さらに、学内関係者 93 人の氏名とメールアドレスおよび一部の住所と電話番号、2 人のメールアドレスなども保存されていた。

同大では、対象となるアカウントを停止。学生や教職員に対して注意喚起を行った。個人情報流出の可能性がある関係者には、個別に対応を進めている。

また発表までに 3 カ月以上がかかっているが、確認と調査に時間を要したと釈明。今後は迅速に発表できるよう努めるとしている。

2018/12/18

職員が自動転送していたフリーメールに不正アクセス、個人情報が流出 - 兵庫教育大

兵庫教育大学は、事務員個人のメールアカウントが不正アクセスを受け、同アカウントへ転送していた個人情報含む業務メールが第三者に漏洩した可能性があることを明らかにした。同大によれば、職員が大学のメールアカウントに届くメールを、学外でも確認できるよう自身のフリーのメールアカウントに自動転送させていたところ、同アカウントが不正アクセスを受けたという。

2016 年 4 月 1 日から 2018 年 10 月 26 日までに転送されたメールが、第三者によって閲覧された可能性があり、これらメールには、学外および学内関係者 1 万 1322 人の個人情報が保存されていた。一部メールには、障害や病歴など含む個人情報が 11 件、パスポートの写しや金融機関の情報など含む個人情報が 23 件あった。

転送先のフリーメールで不正アクセスを知らせるアラート通知があり、ログイン履歴を確認したところ、不正ログインされたことが判明。今回の問題を受け、同大では対象となる関係者に謝罪している。

2018/12/21

恥ずかし画像で不安煽る詐欺メール、送信元を情セ大に偽装

受信者の端末にマルウェアを感染させ、不都合な画像を撮影したなどとだまし、金銭を要求する詐欺メールが出回っているが、送信元として「情報セキュリティ大学院大学」を名乗るケースが確認された。

同大によれば、同大を送信元に偽装した詐欺メールが送信されたとの報告を 12 月 18 日に多数受けたという。

問題のメールでは、「数カ月前にメールのデバイスをクラックしたハッカー」などと名乗り、あたかも受信者の端末へトロイの木馬に感染させたかのように主張。アダルトサイトを閲覧している姿をカメラで撮影したなどと脅し、データやマルウェアを削除するなどとして、555 米ドル相当の Bitcoin を送金するよう求めている。

インターネット上に流出したと見られるパスワードを記載することで実際に端末を侵害したかのように見せかけ、受信者を信じ込ませるソーシャルエンジニアリングのテクニックを用いていた。

同大が示した詐欺メールのサンプルに記載された振込先の Bitcoin アドレスには、12 月 21 日の時点で 3 件のトランザクションが記録されており、0.316 ビットコインが送金された形跡が見られた。

同大を名乗るケースに限らず、類似した詐欺メールは多数確認されているが、最近は証拠画像などと称してファイルをダウンロードさせ、ランサムウェアに感染させる手口も確認されており、注意が必要だ。

2018/12/25

学生情報含む USB メモリが所在不明 - 札幌学院大

札幌学院大学は、学生の個人情報が入った USB メモリが、同大学構内で所在不明になっていることを明らかにした。

同大によれば、教員が 11 月 20 日に講師室で USB メモリを使用した後、その後の所在がわからなくなっているもの。同月 26 日に授業の準備のため講師室へ訪れた際、USB メモリを紛失していることに気が付いたという。

問題の USB メモリには、同教員が担当した 2016 年から 2018 年までの講義を受講した学生 210 人分の氏名や学籍番号、提出課題が含まれる。

2017 年、翌 18 年の学生に関しては成績や出席状況についてもあわせて保存していたが、これらデータに関しては暗号化されているという。

同大では、対象となる学生に対し説明と謝罪を実施。学生の保証人に対しては書面を通じて説明と謝罪を行っている。

2018/12/27

メール誤送信で卒業生などのメールアドレス流出 - 上越教育大

上越教育大学は、卒業生や修了生にメールを送った際にミスがあり、メールアドレスが流出したことを公表した。

同大によれば、12月13日13時半過ぎ、日本学生支援機構の奨学生だった卒業生および修了生へ連絡を取るためにメール116件を送信したが、送信先を誤って宛先に入力。受信者間でメールアドレスが閲覧できる状態となった。

同大では、関係者へ謝罪するとともに、誤送信したメールの削除を依頼している。

情報セキュリティ事故事例

参考：Security NEXT

2018 年 12 月

2018/12/11

学生がフィッシング被害、迷惑メール約 29 万件の踏み台に - 新潟大

新潟大学において、学生のメールアカウントがフィッシングにより乗っ取られたことがわかった。迷惑メール送信の踏み台に悪用されたほか、メールに含まれる個人情報が閲覧された可能性がある。

同大によれば、8 月 24 日に同大の学生が支払通知を装ったフィッシングメールを受信。誘導先のフィッシングサイトでメールアカウントのパスワードを入力したため、同日より同アカウントが不正アクセスを受けていたという。

同月 28 日には、問題のアカウントより約 29 万 6000 件の迷惑メールが送信された。またメールアカウントに保存されていた個人情報が第三者によって閲覧された可能性がある。

閲覧された可能性があるのは、学外関係者 17 人の氏名とメールアドレスで、一部住所や電話番号も含む。さらに、学内関係者 93 人の氏名とメールアドレスおよび一部の住所と電話番号、2 人のメールアドレスなども保存されていた。

同大では、対象となるアカウントを停止。学生や教職員に対して注意喚起を行った。個人情報流出の可能性がある関係者には、個別に対応を進めている。

また発表までに 3 カ月以上がかかっているが、確認と調査に時間を要したと釈明。今後は迅速に発表できるよう努めるとしている。

2018/12/18

職員が自動転送していたフリーメールに不正アクセス、個人情報が流出 - 兵庫教育大

兵庫教育大学は、事務員個人のメールアカウントが不正アクセスを受け、同アカウントへ転送していた個人情報含む業務メールが第三者に漏洩した可能性があることを明らかにした。同大によれば、職員が大学のメールアカウントに届くメールを、学外でも確認できるよう自身のフリーのメールアカウントに自動転送させていたところ、同アカウントが不正アクセスを受けたという。

2016 年 4 月 1 日から 2018 年 10 月 26 日までに転送されたメールが、第三者によって閲覧された可能性があり、これらメールには、学外および学内関係者 1 万 1322 人の個人情報が保存されていた。一部メールには、障害や病歴など含む個人情報が 11 件、パスポートの写しや金融機関の情報など含む個人情報が 23 件あった。

転送先のフリーメールで不正アクセスを知らせるアラート通知があり、ログイン履歴を確認したところ、不正ログインされたことが判明。今回の問題を受け、同大では対象となる関係者に謝罪している。

2018/12/21

恥ずかし画像で不安煽る詐欺メール、送信元を情セ大に偽装

受信者の端末にマルウェアを感染させ、不都合な画像を撮影したなどとだまし、金銭を要求する詐欺メールが出回っているが、送信元として「情報セキュリティ大学院大学」を名乗るケースが確認された。

同大によれば、同大を送信元に偽装した詐欺メールが送信されたとの報告を 12 月 18 日に多数受けたという。

問題のメールでは、「数カ月前にメールのデバイスをクラックしたハッカー」などと名乗り、あたかも受信者の端末へトロイの木馬に感染させたかのように主張。アダルトサイトを閲覧している姿をカメラで撮影したなどと脅し、データやマルウェアを削除するなどとして、555 米ドル相当の Bitcoin を送金するよう求めている。

インターネット上に流出したと見られるパスワードを記載することで実際に端末を侵害したかのように見せかけ、受信者を信じ込ませるソーシャルエンジニアリングのテクニックを用いていた。

同大が示した詐欺メールのサンプルに記載された振込先の Bitcoin アドレスには、12 月 21 日の時点で 3 件のトランザクションが記録されており、0.316 ビットコインが送金された形跡が見られた。

同大を名乗るケースに限らず、類似した詐欺メールは多数確認されているが、最近は証拠画像などと称してファイルをダウンロードさせ、ランサムウェアに感染させる手口も確認されており、注意が必要だ。

2018/12/25

学生情報含む USB メモリが所在不明 - 札幌学院大

札幌学院大学は、学生の個人情報が入った USB メモリが、同大学構内で所在不明になっていることを明らかにした。

同大によれば、教員が 11 月 20 日に講師室で USB メモリを使用した後、その後の所在がわからなくなっているもの。同月 26 日に授業の準備のため講師室へ訪れた際、USB メモリを紛失していることに気が付いたという。

問題の USB メモリには、同教員が担当した 2016 年から 2018 年までの講義を受講した学生 210 人分の氏名や学籍番号、提出課題が含まれる。

2017 年、翌 18 年の学生に関しては成績や出席状況についてもあわせて保存していたが、これらデータに関しては暗号化されているという。

同大では、対象となる学生に対し説明と謝罪を実施。学生の保証人に対しては書面を通じて説明と謝罪を行っている。

2018/12/27

メール誤送信で卒業生などのメールアドレス流出 - 上越教育大

上越教育大学は、卒業生や修了生にメールを送った際にミスがあり、メールアドレスが流出したことを公表した。

同大によれば、12月13日13時半過ぎ、日本学生支援機構の奨学生だった卒業生および修了生へ連絡を取るためにメール116件を送信したが、送信先を誤って宛先に入力。受信者間でメールアドレスが閲覧できる状態となった。

同大では、関係者へ謝罪するとともに、誤送信したメールの削除を依頼している。

情報セキュリティ事故事例

参考：Security NEXT

2018 年 11 月

2018/11/12

偽大学サイトが 1 年間で 961 件、16 カ国 131 大学が標的に - 国立大の偽ウェブメールも

大学関係者を狙うフィッシング攻撃があとを絶たない。露 Kaspersky Lab によれば、同社が確認しただけで 16 カ国 131 大学が標的となっていた。同調査には含まれないが、日本の国立大学を狙った攻撃も 10 月末に確認されたという。

同調査は、2017 年 9 月から 1 年間、同社製品で検出されたフィッシングサイトの状況について取りまとめたもの。ブラウザやメールにおいて検出されたフィッシングサイトの URL は 961 件、少なくとも 16 カ国 131 の大学が標的となっていた。

攻撃対象となった教育機関は、米国が 83 大学、英国が 21 大学でおもに英語圏が中心。今回の報告に日本国内の大学は含まれていないという。

しかし油断は大敵だ。同調査の対象外だが、10 月末に日本の国立大学を偽装したウェブメールのフィッシングサイトを、同社リサーチャーがパトロール中に確認している。

また 10 月にはイランの攻撃グループ「COBALT DICKENS」により、14 カ国 76 大学を狙った攻撃が報告されており、件数は少ないが、国内の大学も標的とされていた。

またフィッシング攻撃により、教職員がメールアカウント情報を詐取され、フィッシング攻撃の踏み台として悪用されたり、メール情報が流出する事件も相次いでいる。

Kaspersky Lab は、「サイバー犯罪者は教育機関に注目しており、教職員や生徒の 1 人 1 人が標的となっている」と指摘。

大学では、経済学から原子物理学まで幅広く、未公開かつ影響力が大きい情報を扱っていることにくわえ、大手企業との共同研究に取り組むケースも多く、企業の機密情報が狙われるおそれもあるとして警鐘を鳴らしている。

2018/11/19

職員メールアドレスに不正アクセス、PW を類推か - 早大

早稲田大学商学学術院において、職員のメールアドレスが不正アクセスを受け、同アカウントで送受信した一部メールが、外部に流出した可能性があることがわかった。

同大によれば、職員のメールアドレス 1 件が不正アクセスを受けたもの。同アカウントで 7 月 25 日から 8 月 31 日にかけて送受信されたメールが外部へ流出した可能性があるという。メールによって内容は異なるが、氏名や住所、電話番号、生年月日、メールアドレスのほか、国籍、本籍地、学歴、職歴、研究業績などの個人情報が含まれる。

8 月ごろから同職員のアカウントでメール送信がブロックされることが複数回あったことから、通信記録を調べたところ、不正アクセスを受けていることへ気が付いた。

本誌の取材に対し同大は、同期間以外に送受信したメールについては、あらためて流出を否

定。設定変更による不正転送などの被害なども生じていないとしている。

またメール送信がブロックされる状況が生じたが、スパムメールの踏み台に悪用された被害も確認されていないという。

同大は、不正アクセスを受けた原因について「安易なパスワードを用いており、類推された可能性がある」とし、問題発覚後、不正アクセスを受けたメールアカウントのパスワードを変更した。

同職員が利用する端末に関してはマルウェアに感染した可能性は低いとする一方、感染の疑いも否定できないとして、同職員 PC のローカルデータをリセットした。

不正アクセスを行った攻撃者の動機について、同大では「調査の結果から愉快犯による不正ハッキング目的と考えられる」との見方を示した。

愉快犯とした根拠について説明を求めたところ、「対象者からの具体的な被害報告がない」ことからこのような表現になったと説明。

「しかしながら、状況の変化も考えられるため、今後の推移を見守っていききたい(同大広報)」とコメントしている。

2018/11/19

造血幹細胞移植患者などの個人情報紛失 - 秋田大病院

秋田大学医学部付属病院の医師が、患者の個人情報を保存した USB メモリを 9 月に紛失していたことがわかった。

同大によれば、9 月 6 日に同院医師が、研究目的で患者の個人情報を保存していた USB メモリを紛失したものの。

問題の USB メモリには、同院で過去 20 年間に造血幹細胞移植を行った患者 500 人の氏名や生年月日、コードを用いた移植様式、患者識別番号、存命状況などの情報が保存されていた。

あわせて呼吸器内科の患者 1 人の氏名や検査データ、画像データ、所見なども含まれる。

警察に紛失届を提出したが、見つかっていない。同院では対象となる患者に書面による謝罪を行っている。

情報セキュリティ事故事例

参考：Security NEXT

2018 年 10 月

2018/10/03

神戸大、業務 PC でアダルトサイト閲覧した職員処分 - 2 年で約 1220 時間

神戸大学は、業務用パソコンでアダルトサイトを閲覧していた職員に対し、停職 6 カ月の懲戒処分を行った。

同大によれば、事務職員が業務用に貸与されているパソコンとネットワークを私的に使用。断続的にアダルトサイトを閲覧していたという。内部から通報があり、本人と関係者から聞き取り調査を行ったところ、問題が判明した。

同職員が業務用のシステムを利用してアダルトサイトを閲覧していた時間は、調査対象となった約 2 年間で労働時間の内外あわせて約 1220 時間。そのうち約 730 時間は勤務時間内だったという。

同大では、職員として不適切な行為であり、同大の就業規則で定められている勤務怠慢や備品の私的利用など違反行為にあたるとして、同職員に対し、停職 6 カ月の懲戒処分を実施した。

2018/10/09

「恥ずかし動画公開」詐欺メール、9 月中旬以降に大量送信 7 回 - 被害額は約 250 万円超か

「アダルトサイトの閲覧姿を盗撮した」などとして金銭をだまし取る日本語の詐欺メールが出回っている問題で、少なくとも約 250 万円の被害が発生していることがわかった。

トレンドマイクロによれば、9 月に同様の手口を用いた詐欺メールが同月 19 日以降、7 回にわたり配信されたことを同社クラウド基盤で確認した。送信されたメールは、少なくとも 3 万件にのぼるという。

メールには 11 種類の件名が用いられていた。なかでも「緊急対応!」「AV アラート」「あなたの心の安らぎの問題」「すぐにお読みください!」との件名で 7 割近くを占めている。

一連のメールでは、受信者の環境があたかも攻撃を受けたことを印象付けようとするソーシャルエンジニアリングの手法が見られた。

攻撃者は、詐欺メールの受信者のメールアドレスを乗っ取ったなどと説明。送信者のメールアドレスを、受信者のメールアドレスに偽装することで信じ込ませようとしていた。

さらに実際に受信者が利用するパスワードをメール上に記載。不正アクセスやマルウェア感染による攻撃が成功したかのように見せかけていた。

今回発生した詐欺メールのキャンペーンにおいて、攻撃者がパスワードを入手した詳しい経緯はわかっていないが、インターネット上へ大量に流出しているアカウント情報を用いた可能性がある。

同社では被害状況を把握するため、一連の攻撃で支払先として指定されていた 8 件の Bitcoin アドレスにおける入金状況について調査。

最初に詐欺メールが送信された 9 月 19 日以降、46 件のトランザクションがあり、日本円で約 250 万円にあたる約 3.4BTC が入金されていたという。

同社では 10 月に入ってから同様の攻撃を確認しているとし、引き続き注意するよう求めている。

件名	割合
緊急対応！	17.8%
AVアラート	17.6%
あなたの心の安らぎの問題。	16.8%
すぐにお読みください！	16.6%
セキュリティ警告	6.2%
読んだ後に電子メールを削除！	5.8%
アカウントの問題	5.7%
あなたの秘密の生活	5.7%
あなたのアカウントは亀裂です	2.7%
私はあなたのアカウントをハックしている	2.6%
緊急のメッセージ	2.6%

詐欺メールの件名と送信された割合(表:トレンドマイクロ)

2018/10/23

入試受験予定者への案内メール誤送信でメアド流出 - 兵庫大

兵庫大学、兵庫大学短期大学部は、2019 年度の公募推薦入試の一部出願者に対するメールで誤送信が発生し、メールアドレスが流出したことを明らかにした。

同大によれば、10 月 19 日 20 時前に送信した試験会場の案内メールにおいて、誤送信が発生したものの。送信先を誤って「CC」に記載したため、メールアドレス 28 件が受信者間で閲覧できる状態となった。

受信者からの指摘があり問題が判明。同大では翌 20 日に対象となる出願者に謝罪し、誤送信したメールの削除を依頼している。

2018/10/24

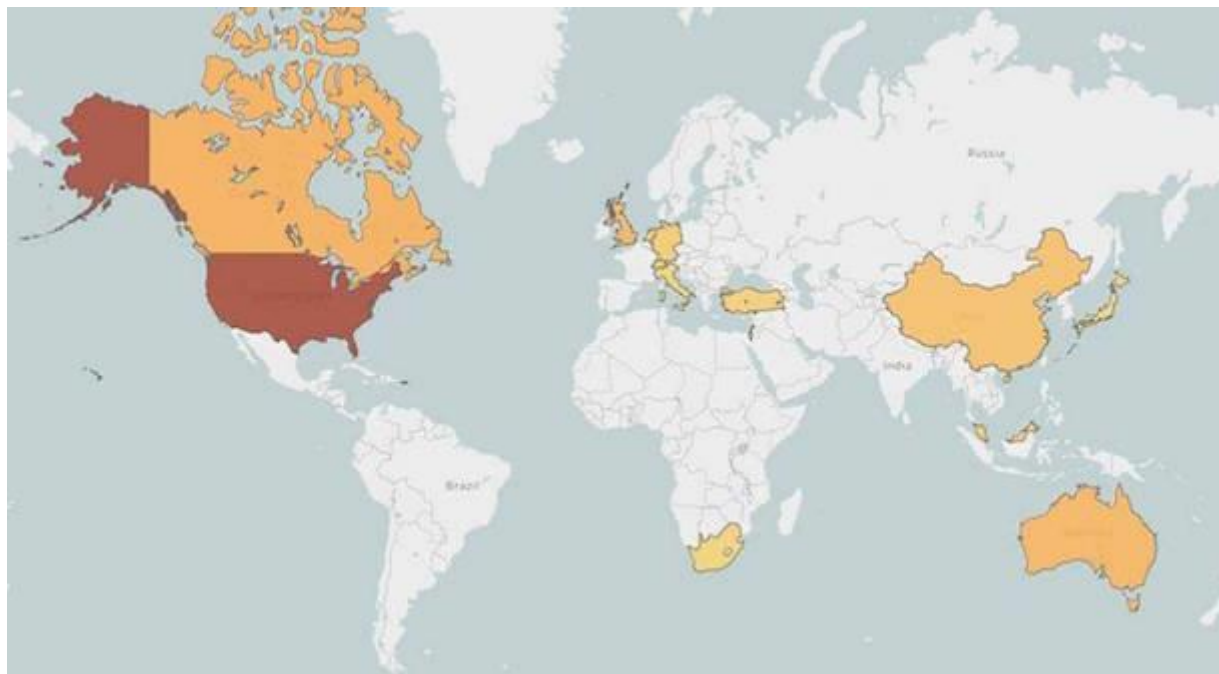
日本など 14 カ国の大学を狙う大規模攻撃 - 論文 DB 装うフィッシングで知的財産を標的に

イランに関わるとされる攻撃グループ「COBALT DICKENS」が、日本をはじめ、複数国の教育機関に対してフィッシング攻撃を展開していることがわかった。

Secureworks が、大学のログインページを装うフィッシングサイトを確認したことを契機に、攻撃に利用された IP アドレスについて調査したところ、認証情報の窃取を目的とした大規模な攻撃キャンペーンが展開されていることが判明した。

問題の IP アドレスでは、16 件のドメインを悪用。日本をはじめ、米国、カナダ、イギリス、スイス、トルコ、イスラエル、オーストラリア、中国など、少なくとも 14 カ国の 76 大学、300 以上のなりすましサイトを設置していた。

同社によると、標的となった国内の大学は少数だが、いずれもおもに英語で作成されており、各大学につき複数のフィッシングサイトが設置されていたという。



攻撃対象となった地域のヒートマップ（図：Secureworks）

これらフィッシングサイトでは、ログインページに見せかけてアカウント情報を狙っており、詐取後はフィッシング攻撃であったことへ気が付かせないよう、正規ページに遷移するしくみだった。

一部は論文検索システムなどを偽装。取得したアカウント情報などを用いて知的財産などにアクセスしていたと見られる。

これらフィッシングサイトへの誘導経路はわかっていないが、過去の攻撃傾向から、大学のライブラリシステムなどを装ったフィッシングメールにより誘導された可能性がある。

大学など学術機関に対するフィッシング攻撃では、メールシステムなどを装う手口も少なくないが、今回のキャンペーンに関しては、確認されていないとしている。

攻撃者は、2018 年 5 月から 8 月にかけてこれらドメインを登録。また 2018 年 5 月に登録したドメインには、ターゲットとした大学のサブドメインの文字列などを含めていた。

今回の攻撃について Secureworks は、利用するインフラや知的財産の窃取を狙う手口など、攻撃グループ「COBALT DICKENS」が過去に展開した攻撃と酷似すると指摘。

同グループは、イラン政府との関係が指摘されており、2018 年 3 月には米司法省が関係者と見られるイラン人 9 人を告発しているが、その後も攻撃を続けているものと同社は分析している。

大学では最先端の研究を行い、知的財産を保有する一方、セキュリティ対策への規制が厳しい金融機関やヘルスケア関連事業者に比べ、セキュリティ対策が甘く、攻撃対象になっていると指摘している。

2018/10/25

明大、複数メールアドレスに不正アクセス - 情報流出やスパム送信が発生

明治大学は、同大関係者のメールアドレスが不正アクセスを受け、情報流出や迷惑メールの踏み台に悪用されたことを明らかにした。

同大によれば、教員や客員研究員、付属高校教諭が不正アクセスを受け、7月から10月にかけてあわせて3件のメールアドレスが乗っ取られる被害が発生したものの。

送受信したメールを第三者に取得され、迷惑メールの送信に悪用されたという。

7月28日に教員のメールアドレスが不正アクセスを受け、同アカウントで以前に送受信したメールや添付ファイルなど1540件をダウンロードされた。

これらデータには、教職員や学生、卒業生、学外関係者あわせて771人の氏名やメールアドレスなどが含まれる。また同アカウントを通じて、5677件におよぶ迷惑メールが送信された。

また5日後の8月2日には、客員研究員のメールアドレスが不正アクセスを受け、迷惑メール927件が送信され、送受信したメールや添付書類394件が流出。

客員研究員がパスワードを変更し、一時不正アクセスは収まったが、再び10月13日に不正アクセスを受けてメール292件が流出。143件の迷惑メールが送信されたという。

さらに、付属高校教諭のメールアドレスでも8月28日に被害が発生。不正アクセスにより、送受信したメールや添付ファイル578件がダウンロードされ、さらに迷惑メール225件が発信された。

ダウンロードされたメールには、生徒303人のほか、教職員や保護者、学外関係者などあわせて374人の個人情報が含まれる。

今回の問題を受け、同大では関係者に対し、事情の説明や謝罪を行っている。

2018/10/30

メール誤送信でオープンキャンパス申込者のメールアドレス流出 - 岐阜保健大

岐阜保健大学は、メールの誤送信により、オープンキャンパス申込者のメールアドレスが流出したことを公表した。

同大によれば、10月23日11時前に、オープンキャンパス参加申込者51人に対して送信したメールにおいて誤送信が発生したものの。送信先を宛先として送信したため、受信者間でメールアドレスが確認できる状態となった。

送信の翌日に受信者からの連絡があり判明。同大では対象者に謝罪するとともに、誤送信したメールアドレスの削除を依頼している。

情報セキュリティ事故事例

2018 年 9 月

2018/09/03

シンポジウム案内メールで誤送信 - 大阪市立大

大阪市立大学は、シンポジウムの案内メールで誤送信が発生し、メールアドレスが流出したことを公表した。

同大によれば、8 月 31 日 16 時前に送信した「平成 30 年度ダイバーシティ研究環境実現シンポジウム」の案内メールにおいて誤送信が発生したもの。前回シンポジウムの参加者 75 人に対し、誤って送信先を「CC」に設定して送信。受信者間でメールアドレスが閲覧できる状態となった。25 人に関しては学内関係者としており、5 人は配信不能だったという。メールを誤送信した職員とは別の職員が誤送信に気付き、同日中に対象者にメールで謝罪。あわせて誤送信したメールの削除を依頼している。

2018/09/18

メールアカウントがフィッシングメール送信の踏み台に - 京都教育大

京都教育大学において、一部ウェブメールのアカウントが乗っ取られ、フィッシングメールを送信する際の踏み台に悪用されたことがわかった。

同大によれば、7 月 30 日と 8 月 2 日に米国を発信元とする 3 件の IP アドレスよりメールシステムに対する不正アクセスを受けたもの。教職員のアカウント 1 件が踏み台として悪用され、学外のメールアドレス約 1 万件に対し、フィッシングメールが送信された。

同大の複数関係者にフィッシングメールが届いており、誘導先のウェブサイトでアカウント情報が詐取されたものと見られる。

フィッシングメールは、特定製品の警告メッセージに見せかけ、メールボックスの保存容量を超えてメールの送受信ができなくなるなどと不安を煽る内容だった。踏み台として外部に送信されたフィッシングメールも、同様の内容だったという。

同大では、ウェブメールにおける操作ログを取得しており、不正アクセス元の IP アドレスよりメールの受信ボックスを開く操作などは行われていなかったことから、同アカウント経由の情報流出については否定した。

また同大では 4 月にも類似したフィッシング攻撃を受け、アカウントの乗っ取り被害が発生している。

同大では予算の確保が難しく、費用をかけずに導入できる対策として、パスワードを用いた二段階認証の準備を進めてきたと説明。今回の問題を受け、導入予定時期を繰り上げ、9 月より導入を開始するとしている。

2018/09/21

慶大、A0 入試出願者の関連書類を誤表示 - システム不具合で

慶応義塾大学は、A0 入試のウェブエントリーシステムに不具合があり、関係ない他出願者の出願関係書類を閲覧できる状態だったことを明らかにした。

同大によれば、総合政策学部および環境情報学部のアドミッションズオフィス（A0）入試において、8月3日8時半から10時半ごろにかけて、関係ない別の出願者に関する出願関係書類を閲覧できる状態となったもの。出願者5人から問い合わせがあり、問題が発覚した。2019年4月入学Ⅰ期に出願した出願者最大72人の出願関係書類が、流出した可能性がある。一方、自分以外の出願関係書類を閲覧した可能性があるのは最大94人としており、そのなかには情報が漏洩した72人中35人が重複しているという。

今回の不具合について同大は、8月2日23時から3日8時半ごろまでサーバがダウンし、復旧後にアクセスが集中したことと、プログラム上の問題が重なったことに起因すると説明。対象となる出願者に説明と謝罪を行っている。

2018/09/28

フィッシングで複数職員がアカウントが乗っ取り被害 - 新潟大

新潟大学において、複数の教職員のメールアカウントがフィッシングにより乗っ取られたことがわかった。迷惑メールを送信するための踏み台に悪用されたほか、個人情報も閲覧された可能性がある。

同大によれば、4月17日から5月14日にかけて、複数の教職員が同大のメール管理者を装ったフィッシングメールを受信。そのうち6人が、フィッシングサイトにパスワードを入力したため、アカウントが不正アクセスを受けたという。

不正アクセスを受けた教職員2人のメールアカウントが悪用され、5月10日と同月15日に、約36万件の迷惑メールが送信された。

また3人のメールアカウントには、個人情報を保存。学内関係者の氏名、役職、学年など32件、学内関係者の送信者名とメールアドレス、一部電話番号など47件、学外関係者の送信者名とメールアドレス、一部電話番号など29件が含まれ、これら情報が第三者に閲覧された可能性がある。

同大では対象となるメールアカウントを停止。教職員に対して注意喚起を行った。個人情報が流出した可能性がある関係者には個別に対応を進めている。

また発表のタイミングについて個人情報の有無、流出内容の特定など綿密な調査で時間を要したと説明、謝罪している。

情報セキュリティ事故事例

2018 年 8 月

2018/08/03

教員が関係者情報含む PC をスペインで盗難被害 - 九大

九州大学は、同大教員が出張先の海外において、学生や同大資料館の利用者情報などを保存していたパソコンを盗まれたと発表した。

同大付属図書館付設記録資料館の教員が、6 月 23 日に資料の調査のために訪れたスペインで、食事をしていた際にパソコンを入れた鞆が置き引き被害に遭ったという。

持ち去られたパソコンには、教員がアルバイトとして採用した学生 15 人分の氏名や生年月日、所属ゼミ、出勤状況、送受信したメールなどのデータを保存。

また氏名や電話番号、メールアドレスなど同館利用者 55 人分の情報や同教員が非常勤講師を務める他大学の学生情報なども含まれるとしている。

現地の警察へ被害を届けたが見つかっておらず、同大では、連絡先が判明した同大関係者に対して文書で事情を説明、謝罪している。

2018/08/06

誤送信でオープンキャンパス申込者のメールアドレス流出 - 順天堂大

順天堂大学は、オープンキャンパスの受付完了を知らせるメールにおいて送信ミスがあり、メールアドレスが流出したことを明らかにした。

同大によれば、7 月 30 日 17 時過ぎに、保健医療学部開設準備室よりオープンキャンパスの事前申込者 57 人へ送信したメールにおいて、誤送信が発生したもの。送信先を誤って宛先に設定したため、受信者間にメールアドレスが流出した。

送信直後に誤送信に気づき、同日中に対象となる申込者に謝罪。誤送信したメールの削除を依頼している。

2018/08/10

退職医師が患者の個人情報を不正に持ち出し - 東京女子医科大

東京女子医科大学東医療センターにおいて、退職した医師が患者の個人情報を不正に持ち出していたことがわかった。

一部週刊誌が報じたことから明らかになったもので、退職した医師が、在籍中に担当していた患者の個人情報を不正に持ち出していたことが判明したもの。持ち出した個人情報には、氏名や電話番号などが含まれていたとし、同院では対象となる患者へ書面で謝罪している。

同院は、同医師がデータを持ち出した経緯や件数、内容などは明らかにしていない。本誌の取材に対し、同院では「警察に相談し、捜査中の案件であるため、現時点での回答は控える」としてコメントを避けている。

2018/08/10

教員免許更新講習の連絡メールで誤送信、メアド流出 - 山形大

山形大学は、教員免許状の更新講習に参加する受講者宛てメールにおいて誤送信が発生し、メールアドレスが流出したことを明らかにした。

同大によれば、7月31日19時半過ぎに送信した教員免許状更新の講習に関する連絡メールにおいて誤送信が発生したもの。送信先を誤って宛先に設定したため、受講者185人のメールアドレスが受信者間で閲覧できる状態となった。

同大では翌8月1日に、対象となる受講者へ謝罪のメールを送信。あわせて誤送信したメールの削除を依頼した。また講習会場でもあらためて謝罪したとしている。

2018/08/24

不正アクセスで不祥事対応の内部情報が流出 - 高知県立大

高知県立大学が不正アクセスを受けたことがわかった。内部情報が漏洩し、不祥事対応に関する資料が職員に一斉送信されたほか、システムが変更されるといった被害も生じたという。同大によれば、8月20日4時過ぎ、同大職員のメールアドレスから、全教職員228人宛てに、本来送信されることのない内部情報が一斉送信されたことから不正アクセスが発覚したもの。

同大が調査したところ、同大大学院が学外で利用するメールサービスが不正アクセスを受け、同サービスへ転送された学内のメールが外部に流出したほか、管理者パスワードが変更され、約20人のユーザー登録が削除されていることが判明した。

さらに大学院のウェブサイトにおいて、関連するページが削除されていたという。

一斉送信されたメールには、永国寺図書館の蔵書処分に関する問題に対しての同大コメント案や同問題に対する情報開示請求書などが添付。

さらに酒気帯び運転で検挙された同大職員への対応を協議した内容や職員のネット購入履歴なども含まれるという。

同大では、問題のメールが送信された同日20日6時半ごろ、事態を把握。同メールを削除するよう教職員へ通知するとともに、学内の教職員用メールサーバを停止。

翌21日、同メールサーバを復旧し、外部に対するメールの自動転送について登録制へ変更するとともに、高知県警に捜査を依頼したという。

情報セキュリティ事故事例

2018 年 7 月

2018/07/02

フィッシング攻撃でアカウント乗っ取り、メールが不正転送 - 弘前大

弘前大学は、教職員 12 人がフィッシング攻撃を受けてメールアカウントを不正に操作され、受信したメールが外部へ流出したことを明らかにした。

同大によれば、フィッシング攻撃により教職員 12 人が利用しているメールサービスのアカウント情報が奪われ、不正に操作された。

5 月 23 日に同大システム管理者がフィッシングメールの受信を把握。翌 24 日にフィッシングサイトへのアクセスをブロックしたが、同一の差出人を名乗るフィッシングメールが 6 月 1 日に届き、別のサイトへ誘導するなど、繰り返し攻撃を受けたという。

問題のメールは、「Office365 team」を名乗っており、メールの送信が失敗したとして再送信を促す内容を英文で記載。HTML メールで本文中のリンクをクリックさせるものだった。

教職員 242 人へ送信され、そのうち 12 人が誘導先の偽サイトに誤ってパスワードを入力。

メールの転送先が不正に設定され、受信メールあわせて 3151 件が外部へ転送された。

外部へ流出したメールに含まれる情報で、現時点で判明しているのは、送受信者の氏名とメールアドレスが 2457 件、氏名、住所、電話番号、性別など 2517 件。

同大では転送されたメールにさらなる情報が含まれていないか確認するとともに、メールボックスに保存された送受信メールから個人情報や機密情報などを取得されていないかログを調べている。

同大では、不正に転送されたメールの差出人に対し、報告と謝罪を行った。また今後は、2 要素認証を含めた総合的な対策を検討するとしている。

2018/07/23

症例要約含む USB メモリを医学部で紛失 - 群馬大

群馬大学は、医学部において個人情報を含む USB メモリが、所在不明になっていることを公表した。

同大によれば、症例の要約を記録した USB メモリを紛失したもの。2 月以降の実習時に医学部の学生によって作成されたデータが保存されていたもので、学生が、学外で紛失した可能性があるという。

個人が特定できるデータは 1 件のみとしており、氏名や年齢、性別、病歴、診断内容などが含まれる。また別に 7 件の要約も保存されていたが、個人は特定できないとしている。

同大では、個人が特定可能なデータの関係者に対し、説明と謝罪を行っている。

2018/07/27

職員と部署のメールアドレスに不正アクセス、メール漏洩やスパム送信など - 明大

明治大学は、職員や部署のメールアドレスが不正アクセスを受け、送受信したメールが窃取されたほか、迷惑メール送信の踏み台に悪用されたことを明らかにした。

同大によれば、職員、部署それぞれ1件のメールアドレスが不正アクセスを受けたもの。職員のメールアドレスは、6月30日に不正アクセスを受け、同アカウントを通じて迷惑メール415件が送信された。

また、同アカウントで送受信されたメールおよび添付書類332件をダウンロードされていたという。

これらメールには、学生と卒業生31人分の氏名や学生番号、勤務先での役職名などが含まれる。さらにメールアドレス69件も流出した。

さらに7月12日には、同大所属機関のメールアドレスが不正アクセスを受け、迷惑メール30件が送信された。同アカウントにおいて送受信したメールおよび添付ファイル1168件を窃取されたという。

送受信したメールには、教職員や学生、学外関係者など81人分の氏名、所属、勤務先、メールアドレスなどが含まれていたほか、201件のメールアドレスが流出した。

同大では対象者に説明と謝罪を行うとともに、文部科学省と個人情報保護委員会へ報告を行っている。

	(1) 職員メールアドレスへの不正アクセス	(2) 部署メールアドレスへの不正アクセス
① SPAMメール送信件数	415件	30件
② 漏えいメール件数	332件	1168件
③ 個人情報that漏えいした方	31名 ・本学学生 6名（所属，氏名，学生番号） ・卒業生 25名（氏名，卒年，勤務先等における役職名）	81名 ・本学教職員：13名（氏名，所属，メールアドレス等） ・本学学生：2名（所属，氏名） ・学外者：66名（氏名，勤務先，メールアドレス等）
④ メールアドレスの漏えいした方	69名	201名

被害状況(表:明治大学)

2018/07/30

職員採用説明会の案内メールを編集中に誤送信 - 北陸先端大

北陸先端科学技術大学院大学（JAIST）は、職員採用説明会の開催案内メールにおいて誤送信が発生し、メールアドレスが流出したことを明らかにした。

同大によれば、7月25日14時半ごろ、メールを編集していたところ誤って送信してしまったという。送信先のメールアドレス90件が、受信者間で閲覧できる状態で送信されたという。

同日19時過ぎに、対象者へ謝罪するとともに、誤送信したメールの削除を依頼している。

2018/07/31

個人情報含む教員の私物パソコンが学内で盗難 - 東大

東京大学は、教員が所有するパソコンが、学内で盗難被害に遭ったことを明らかにした。学生や非常勤講師の個人情報が保存されていたという。

同大によれば、同大総合文化研究科の教員が、7月9日に学内のイベント参加中、パソコンを鞆ごと盗まれたもの。

問題の端末には、同教員が2016年度から2018年度まで担当した一部科目の受講生384人分の個人情報を保存。氏名、学生証番号、成績が含まれる。また非常勤講師7人分の氏名や住所、連絡先、生年月日を含むファイルが保存されていた。

端末内部のデータは、暗号化されていなかったという。同大では、対象者に文書による説明と謝罪を行っている。

情報セキュリティ事故事例

2018 年 6 月

2018/06/07

教職員 29 アカウントが乗っ取り被害、メール 3500 件を攻撃者へ転送 - 横浜市立大

横浜市立大学は、教職員が利用しているクラウドサービスの ID とパスワードがフィッシング攻撃により詐取され、受信したメールが外部へ意図せず転送され、外部へ流出していたことを明らかにした。

同大で利用するクラウドメールサービスの ID とパスワードが、フィッシング攻撃により詐取されたもの。これらアカウントでは受信したメールが外部へ転送されるよう設定されていた。

同大によれば、メールの管理者を装って「送信サーバの障害によりメールの送信ができません」などとだまし、クラウドメールサービスのログイン画面を模した偽サイトへ誘導するフィッシングメールが、4 月 24 日から 5 月 23 日にかけて 1037 件のメールアカウントへ届いたという。そのうち 29 件のアカウントで、誤って ID やパスワードを入力、詐取されていた。5 月 28 日に同大教員から転送設定しているメールアドレスへメールが届かないとの連絡があり、外部への不正なメール転送が発覚。他教職員や学生に対してメール転送の設定状況を確認するよう求めたところ、29 件のメールアカウントで意図せず転送されていることが判明した。

不正に転送されたメールは 3512 件にのぼり、メール送信者の氏名とメールアドレス 3512 件のほか、本文や添付ファイルに記載された氏名や住所、電話番号 2266 件、学生情報 16 件のあわせて 5794 件の個人情報が含まれる。

同大では、5 月 23 日の時点でフィッシングメールを検知しており、同日にシステム管理者からすべての教職員と学生に注意喚起を行っていたという。

同大では、全教職員と学生に対し、パスワードを変更しメールの転送設定を停止するよう通知。パスワードの有効期限を設定し、一定期間変更しないと無効になり、メールサービスにログインできないよう措置を講じた。

また、転送されたメールの送信者に対しメールで謝罪を行い、問い合わせ窓口を設置するなど対応を進めている。

2018/06/11

学生の個人情報含む USB メモリを紛失 - 関西大

関西大学は、非常勤講師が学生の個人情報が保存された USB メモリを紛失したことを明らかにした。

同大によれば、外国語科目の担当講師が、学生の個人情報が保存された USB メモリを紛失したもの。問題の USB メモリには、講師が 2014 年度から 2018 年度に担当した中国語の履修者

555 人分の氏名、学籍番号が記録されていた。そのうちのべ 189 人については、成績情報も含まれる。

今回の問題を受け、同大では対象となる学生に対し、個別に連絡して説明と謝罪を行うとしている。

2018/06/11

誤送信で学生のメールアドレスが流出 - 東京音大

東京音楽大学は、3 年生および 4 年生の一部に送信した案内メールにおいて誤送信が発生し、メールアドレスが流出したことを明らかにした。

同大によれば、6 月 8 日 11 時半から 12 時にかけて大学院課が送信した「修士課程 平成 31 年度入試説明会」の開催案内メールにおいて、誤送信が発生したもの。送信先を誤って宛先に設定したため、メールアドレス 512 件が受信者間で閲覧可能な状態となった。

受信者からの指摘で誤送信が判明。同大では同日中に対象となる学生に謝罪し、誤送信したメールの削除を依頼している。

2018/06/13

USB メモリを紛失、成績など学生の個人情報を保存 - 大阪産業大

大阪産業大学は、学生の個人情報が保存された USB メモリが所在不明となっていることを明らかにした。

同大によれば、中国語を担当する非常勤講師が USB メモリを紛失したもの。問題の USB メモリには、2017 年度後期に担当した学生 106 人の氏名、学籍番号、成績情報などが保存されていたという。

同大では、対象となる学生へ連絡を取り、謝罪した。紛失した個人情報の悪用などは確認されていないという。

2018/06/14

学生の個人情報を記録した USB メモリが所在不明 - 神戸市外国語大

神戸市外国語大学は、学生の個人情報含む USB メモリを非常勤講師が紛失したと発表した。同大によれば、非常勤講師が USB メモリを紛失したことが 6 月 7 日に判明したもの。紛失した USB メモリには、2016 年度後期から 2017 年度後期までの講義を履修した学生のうち 9 人の氏名や学籍番号、提出した作文などが保存されていた。

警察へ届け出るとともに、利用した交通機関にも問い合わせを行っているが、見つからない。同大では対象となる学生に説明と謝罪を行っている。

2018/06/15

学生の個人情報含む USB メモリを紛失、一部にテスト結果も - 大阪電通大

大阪電気通信大学は、学生の個人情報が保存された USB メモリの紛失が発生したことを明らかにした。

同大によれば、中国語担当の非常勤講師が USB メモリを紛失したもの。問題の USB メモリには、2016 年度から 2017 年度に同講師が担当した科目の履修者 113 人の氏名と学籍番号が記録されていた。そのうち 23 人は、小テストの結果も含まれる。

同大では対象となる学生に対し、説明と謝罪を行うとしている。

2018/06/22

学生や教職員の個人情報含む PC を紛失 - 北海道科学大

北海道科学大学は、学生や卒業生、教員などの個人情報含むノートパソコンを、教員が紛失したことを明らかにした。

同大によれば、6 月 8 日に薬学部の教員がノートパソコンを紛失したもの。

紛失したパソコンには、同大薬学部の学生、北海道薬科大学卒業生の氏名と学生番号、および教職員の氏名とメールアドレスなど、約 2000 人の個人情報に比べ、同教員が加入している学会や会議などの関係者約 1000 人の氏名などが保存されていた。

利用した交通機関や警察への届け出を行ったが、発見されていない。同大では、対象となる学生や関係者に対し、書面による報告と謝罪を行ったとしている。

2018/06/26

個人情報入り PC がドイツで盗難、発生は 4 カ月前 - 久留米大

久留米大学は、教員が海外の研修先であるドイツで盗難に遭い、学生の個人情報を保存したパソコンが盗まれたことを明らかにした。

同大によれば、同教員が 2 月 27 日に学生の海外研修の引率で訪れたドイツのホテルで、パソコンの盗難被害に遭ったもの。持ち出すためのパソコンが研修に出発する直前に故障したため、別のパソコンを持参したところ、個人情報の削除が不十分だったという。

問題のパソコンには、レポートの提出状況やレポート、出欠確認、海外研修の手続き書類など、学生や大学院生のべ 679 人分の個人情報が保存されていた。氏名や学籍番号、メールアドレスなどが含まれる。

またこれ以外に、同教員が非常勤講師を務める他大学の学生の情報も含まれる。海外研修の手続き書類や授業のメモなど一部は暗号化していたが、それら以外のデータは、暗号化していない可能性が高いとしている。

今回の盗難は 2 月末に発生しており、公表まで 4 カ月近くを要したが、同大では公表が遅れたことについて、盗まれたパソコンにどのような情報が保存されていたかの精査に時間がかかったと説明。対象となる学生には、事情を説明し、謝罪する書面をすでに送付している。

2018/06/28

教職員アカウントに不正アクセス、メールが外部へ転送 - 沖縄県立看護大

沖縄県立看護大学は、フィッシング攻撃によって教職員 1 人のメールアカウントが乗っ取られ、メールが意図せず外部へ転送されていたことを明らかにした。

同大によれば、教職員 1 人が学内で利用しているクラウドサービスの ID とパスワードが、フィッシング攻撃により詐取されたもの。5 月 15 日に同サイトを装ったフィッシングメールが届き、誘導先のフィッシングサイトで誤って ID とパスワードを入力してしまったという。

アカウントを詐取されたことで、攻撃者によってメールの設定が不正に変更され、5 月 15 日から 6 月 6 日にかけて同教職員へ送信されたメール 313 件のうち 210 件が、意図せず外部へ転送されていたことが判明した。

転送されたメールには、学内関係者 295 人、沖縄県の職員 24 人、学外関係者 11 人の氏名が含まれる、メールアドレス 140 件や個人の電話番号 50 件、学籍番号 159 件なども含まれ、重複分を除いた個人情報 は 330 件。

同大では、メールの不正な転送が行われないよう設定を変更し、全教職員への注意喚起を行った。また、警察に届け出を行い、個人情報 が漏洩した関係者には説明と謝罪を行ったとしている。

情報セキュリティ事故事例

2018 年 5 月

2018/05/01

複数アカウントが迷惑メール送信の踏み台に - 東北工業大

東北工業大学の一部メールアカウントが何者かに乗っ取られ、不特定多数に対して、迷惑メールの送信に悪用されたことがわかった。

同大によれば、教職員のメールアカウント 3 件に対し不正アクセスがあり、そのうち 2 件が迷惑メールの踏み台に悪用された。

3 月 6 日から 4 月 16 日にかけて、米国やナイジェリアなどの IP アドレス 11 件を発信元とする不正アクセスを受けたという。

1 件のアカウントから約 57 万件、もう 1 件のアカウントから約 14 万件のメールが送信され、送信された迷惑メールは、フィッシングメール、宝くじの当選を装って連絡を求める詐欺メールなど、10 種類におよんだ。

乗っ取り被害に遭ったメールアカウントの利用者は、「電子メール保守サービス」を名乗り、メールの保存容量の上限を超え、メールの送受信ができなくなるなどとだますフィッシングメールを受信。誤って誘導先のフィッシングサイトで ID とパスワードを入力してしまったという。

今回の不正アクセスに関して同大では、ウェブメールのログから攻撃者の操作を追跡。受信ボックスのメール一覧が表示されたり、メールの送信テストを行ったと見られるアクセスを確認したが、特定のメールや本部の検索、表示、ファイルのダウンロードなどの操作を行った痕跡はなく、個人情報や機密情報の漏洩はなかったと結論付けている。

同大では今回の問題を受け、対象アカウントのパスワードを変更。教職員と学生に対し、フィッシングメールやパスワードの管理について注意喚起を行っている。

2018/05/16

プレスリリースを誤送信、報道機関のメアド流出 - 札幌医科大

札幌医科大学は、報道機関向けのリリース提供メールにおいて誤送信が発生し、メールアドレスが流出したことを明らかにした。

同大によれば、5 月 14 日 16 時ごろに報道機関向けのプレスリリースをメール送信した際、誤送信が発生したもの。報道機関 15 社に対し、送信先を誤って「CC」に設定して送信したため、受信者間でメールアドレス 30 件が閲覧できる状態となった。

担当職員が送信後に気づき、上長へ報告。同日 19 時ごろ、同大から対象となる報道各社へメールで謝罪するとともに、誤送信したメールの削除を依頼した。

2018/05/18

攻撃者がメール転送設定を変更、受信した個人情報外部に - 立命館大

立命館大学が主催する国際研修の応募者に関する個人情報が外部に流出した。フィッシングメールによりアカウント情報が奪われ、受信メールが外部に転送されるよう設定が変更されたという。

歴史都市防災研究所が主催する 2018 年ユネスコチェア国際研修「文化遺産と危機管理」に、海外から応募した 264 人分の個人情報が外部へ流出したもの。氏名や所属組織の住所、電話番号、生年月日、性別、現職、学歴、職務経験、国籍などが含まれる。

同大によれば、研修への申し込みを受け付けるために用意したメールアカウントにおいて、4 月 24 日に「未読メールが 13 通残っている」などと記載されたマイクロソフトの通知を装うフィッシングメールを受信。

同研究所の職員が誤ってメールに記載された URL へアクセスし、誘導先の「Office365」を装ったページよりアカウント情報を入力してしまったという。

攻撃者は奪ったアカウント情報でログインし、同メールアカウントで受信したメールを外部に転送するよう設定を変更。期間中に、応募者の個人情報リストが添付されたメールや、応募者の参加申請書や履歴書などのメールを同アカウントで受信したことから外部へ不正に転送された。

さらに転送されたメールの一部には、参加申請書や履歴書を保管していたクラウドサービスにおける共有フォルダの URL を記載。パスワードなしに共有フォルダへアクセスできる状態だったため、応募者 264 人のうち、共有フォルダに保存されていた 261 人分の参加申請書や履歴書についても取得された可能性がある。

今回の問題を受け、同大では関係者に対して、メールで事情を説明し、謝罪を行った。

また問題のアカウントは、今回の研修用に用意したものであり、不正にログインされたものの、転送されたメール以外の情報漏洩はないと同大では説明。ログから不正なログインは 1 回のみであることも判明しており、スパムメールを送信するための踏み台などに悪用された形跡もなかったとしている。

2018/05/31

職員のメールアカウントが詐取、メールが外部へ転送 - 富山県立大

富山県立大学は、複数の教職員がフィッシング攻撃によってメールアカウントの ID とパスワードが詐取され、攻撃者により設定が変更されて受信したメールが外部へ意図せず転送されていたことを明らかにした。

フィッシングによる被害が発生した富山県立大

同大によれば、教職員 5 人のメールアカウントの ID とパスワードが、フィッシング攻撃により詐取されたもの。複数の教職員にフィッシングメールが届いたが、5 人が誤ってフィッシングサイトに ID とパスワードを送信してしまったという。

5月16日に1人が詐取され、さらに同月23日未明に4人が入力。同日9時過ぎに事務局が注意喚起を行い、詐取された5人のいずれも同日午前中にはパスワードの変更を済ませていた。

しかし同月28日、メールの転送を失敗したことを通知する身に覚えのないメールが教職員1人に届いたことから問題が発覚。調査を行ったところ、3人のメールアカウントで、メールが自動的に転送されるよう設定が変更されていたことが判明した。

転送設定が行われた5月16日から、アカウントを凍結した同月28日にかけて、これらアカウントで受信したメール275件が外部に流出した。受信したメールには、学生の個人情報や、学外関係者の情報も含まれるとしている。

またこれらアカウントの送受信フォルダに保存されていたメールが、攻撃者によって閲覧された可能性がある。

同大では、関係者に対して事情を説明して謝罪を行った。被害などの報告は受けていないという。また不正にメールの転送設定が行われないよう、システムの設定を変更している。

2018/05/31

客員教授のメールアカウントに不正アクセス、スパム送信の踏み台に - 京都薬科大

京都薬科大学は、客員教授のメールアカウントが乗っ取り被害に遭い、迷惑メール送信の踏み台に悪用されたことを明らかにした。

同大によれば、客員教授1人のメールアカウントが被害に遭い、4月19日から5月11日までにスパムメールやフィッシングメールなど少なくとも3699件のメールが意図せず不特定多数に対して送信されたという。4月19日以前についてはログが残っておらず、同アカウントが悪用された期間は不明。

第三者によってアカウント情報が奪われており、同大ではフィッシングなどの被害に遭ったものと見ているが、本人は身に覚えがないと話しており、詳しい原因はわかっていないという。

同メールアカウントにおいて、同教授が個人的に送受信したメールが攻撃者によって取得された可能性があるが、ログが残っておらず、確認できない状態となっている。

一方、同大では不正アクセスを受けた客員教授は、大学関連の個人情報に対するアクセス権限を持っておらず、大学としても提供していないため、メールアカウント上から情報が流出した可能性はないと説明。

同大情報システムへの不正アクセスや、システムの改ざん、情報流出についても否定している。

同大では対象となる教授のメールアカウントを停止。すべての職員および学生においてメールアカウントのパスワードを変更するなどの対策を講じている。

情報セキュリティ事故事例

2018 年 4 月

2018/04/05

播磨町教委の「校務支援システム」に不正アクセス - ランサム感染か

兵庫県播磨町は、同町教育委員会に設置されたサーバに対する不正アクセスや、マルウェア感染の被害が確認されたことを明らかにした。個人情報の流出については否定している。町立小学校と中学校で使用する「校務支援システム」の管理サーバが不正アクセスを受けたことが、3 月 15 日に判明したもの。同サーバがマルウェアに感染し、対応時に不正アクセスの被害を把握したという。

同町によれば、不正アクセスを受けた期間や回数、原因などは調査中としているが、感染したマルウェアは「ランサムウェア」だと見られている。

また「校務支援システム」では児童や生徒、教諭の情報を扱っているが、不正アクセスを受けた管理サーバとは別のサーバに保存されており、これらサーバからの情報流出は確認されなかったと説明している。

同町ではネットワークを切断してマルウェアの駆除を実施。原因や被害状況の調査を進めるとともに、保守体制の見直しを図るとしている。

2018/04/24

不正アクセスで迷惑メールの踏み台に - 京都教育大

京都教育大学において、ウェブメールのアカウントが乗っ取られ、フィッシングメールを送信する際の踏み台に悪用されたことがわかった。セキュリティ対策の強化を検討しているが、費用確保が難しい状況に置かれているという。

同大によれば、2 月 10 日から 11 日にかけて、メールシステムに対する不正アクセスがあり、アカウント 1 件が踏み台として悪用されたもの。デンマークの IP アドレスから不正アクセスが行われ、約 36 万件のメールアドレスに対してフィッシングメールが送信されたという。メールのアカウント情報は、フィッシングメールを通じて詐取されたものと見られている。問題のメールでは、メールシステムのヘルプデスクが発信したかのように見せかけており、「メールボックスの保存容量が上限に達した」などとだます内容だった。

同大では、個人情報や機密情報などの送信に同メールアカウントを利用したことはないとしているが、ウェブメールが不正アクセスを受けたため、送受信先の情報やメールの記載内容が閲覧された可能性は否定できないとしている。

同大では、従来より利用者に対する注意喚起など研修を実施してきたが、利用者個人の対策に限界を感じており、二要素認証について導入を検討しているところだったという。

一方で苦しい財政事情もあるようだ。「セキュリティ対策を強化するシステムの導入を検討しているが、費用の確保に苦慮している（同大）」と状況を説明する。

政府では、2004 年度の国立大学の法人化以降、運営費交付金の削減を推進。同大においても約 1 割が削減されている。国立大学においては、交付金の減少で経営状況の悪化などの指摘が出ている。

2018/04/25

体力測定参加者の個人情報含む USB メモリを紛失 - 京都橘大

京都橘大学は、滋賀県守山市が主催した体操教室および体力測定会参加者の個人情報含む USB メモリを紛失したことを明らかにした。

同大によれば、教員が代表者となっている共同研究のため、同市が主催した「健康のび体操教室」と体力測定会の参加者から収集したデータを保存した USB メモリを紛失したもの。問題の USB メモリには、参加者 48 人の氏名、年齢、体力測定値、問診内容などが保存されていた。

4 月 9 日、研究の補助をしていた学生が、自宅でデータ処理を行うため私物の USB メモリにデータを移して帰宅。翌日、USB メモリを紛失していることに気付いた。移動経路を調べたほか、警察へ届けているが見つからない。

今回の共同研究では学生がデータを扱うことは承認されておらず、データ匿名化のルールも守られていなかった。同大では、対象となる参加者への謝罪文を同市に提出。共同研究者に対しても謝罪を行っている。

2018/04/27

一部学費請求書を誤送付、前年データ流用後に作業ミス - 横浜市立大

横浜市立大学は、学費請求書の一部が誤った住所へ送付されたことを明らかにした。システムに追加するためにデータを作成した際、作業ミスがあったという。

同大によれば、4 月 16 日に新入生の保証人へ送付した学費請求書の一部において誤送付が発生したもの。郵便局から請求書が返送されたことから問題に気が付いた。学費請求書には、2018 年度の新入生と保証人の氏名と学籍番号が記載されている。

誤送付した件数は 70 件。そのうち 31 件が誤った宛先に届く可能性があり、2 件については誤った宛先に届いて同大へ連絡があった。また 37 件は宛先不明で返送されたとしている。誤送付が発生した原因は、データ作成時のミスによるものだった。同大では、教務電算システムへアップロードするデータについて、更新項目がずれないように前年度に利用したデータのコピーに上書きする方法を用いて作成していたが、請求先住所の項目を上書きしなかったため、2018 年度の新入生 70 人分の請求先住所が、前年度の新入生の住所として登録されてしまったという。

同大では誤送付先に電話で連絡し、説明と謝罪を実施。返信用封筒を発送し、誤送付した請求書の回収を進めている。また本来の送付先となる保証人に対しても謝罪し、あらたな学費請求書を発送している。

情報セキュリティ事故事例

2018 年 3 月

2018/03/09

個人情報含むファイルをメール誤送信 - 香川大

香川大学は、カンボジアで実施するプロジェクトの非常勤職員を採用する選考過程において、一部応募者へメールを送信する際にミスがあり、誤って他応募者の個人情報含むファイルを添付していたことを明らかにした。

同大によれば、2 月 13 日に事務職員が非常勤職員の採用選考の応募者 5 人へ送信したメールにおいて、個人情報含むファイルを誤って添付したという。同月 26 日に、受信者から大学のコンプライアンス相談窓口に通報があり、問題が発覚した。

問題のファイルには、全応募者 23 人の氏名や住所、性別、年齢、所属先、経歴、メールアドレスなどを記載。同日、メールの受信者から誤送信について指摘があり、事務職員は受信者へメールの削除を依頼したが、大学には報告していなかった。

同大では、受信者におけるファイルの削除を確認しており、関係者に対しては、あらためて報告と謝罪を行うとしている。

2018/03/14

学内から外部に不正通信、マルウェア感染端末を特定できず - 成蹊中高

成蹊中学・高校の教員が利用するパソコンが、マルウェアに感染したことがわかった。異常な通信が確認されたものの、感染端末の特定には至っていないという。

同校によれば、2 月 23 日 21 時ごろから約 8 時間にわたり、外部の特定サイトに対して大量のアクセスが発生したものの。同月 26 日に職員がネットワークやメール配信の異常に気が付き、問題が発覚した。

発覚後、ネットワーク内にあるすべてのパソコンを抜線してネットワークから隔離し、マルウェアの感染状況などを調べたという。

今回の不正通信について同校では、メールやウェブサイトの閲覧などを通じて、外部と通信を行うボットプログラムに感染したものと見ているが、3 月 14 日の時点で感染端末は特定できておらず、くわしい感染経路もわかっていない。個人情報の流出については確認されていないが、可能性も否定できないとしている。

感染端末を特定できていないことに対し、同校では「学内システムをモニタリングすることで、マルウェアによる異常が生じていないことを確認している」と説明。

今回の事態を受け、同校では監視にくわえ、異常通信を自動検知するシステムの導入などを検討するなど、組織的対策や技術的対策を進め、再発防止に取り組むたいとしている。

2018/03/20

中部大でランサムウェア被害 - 不正ログイン後にインストールか

中部大学において、パソコンやファイルサーバがランサムウェアに感染する被害が発生したことがわかった。

同大によれば、1月9日2時半ごろ、同大工学部情報工学科研究室のパソコンとファイルサーバが、不正にログインされ、セキュリティ対策ソフトがアンインストールされ、ランサムウェアがインストールされたという。同日14時ごろに問題を把握し、対象機器をネットワークから遮断した。

被害に遭った端末では、ランサムウェアによるデータの暗号化被害が発生。内部には受講者名簿と行事参加者名簿などの個人情報が保存されていた。

同大では、外部のセキュリティ事業者に調査を依頼。原因や端末内のファイルや内容について調査を進めている。現時点では、暗号化以外、個人情報の流出といった被害は確認されていないとしている。

不正ログインの発信元については、攻撃元が内部や外部であるかも含めて特定には至っていない。盗まれたパスワードが利用され、インターネット経由で攻撃された可能性もあるという。

また感染したランサムウェアも特定されいないが、今回の攻撃でマルウェアの「FAKEGLOBE」が利用された可能性があるという説明。「FAKEGLOBE」はトロイの木馬で、「Locky」の感染活動でも利用されたことがある。

2018/03/30

非常勤講師が持ち帰った答案用紙を紛失 - 金沢星稜大

金沢星稜大学女子短期大学部の非常勤講師が、学生の答案用紙を紛失したことがわかった。同大によれば、非常勤講師が学生87人分の答案用紙を紛失したもの。答案用紙には、学生の氏名と学籍番号、学年、学部、学科などの個人情報が記載されていた。

同講師は自宅で採点するため、2月26日に答案用紙を持ち出したが、帰宅途中に電車を下りた際、答案用紙がなくなっていることに気付いた。駅員に問い合わせたが見つからず、28日に大学へ報告。警察へ届けた。

同大では対象となる学生とその保護者に対し、書面による謝罪を行うとともに、保護者説明会であらためて謝罪した。また、管轄官庁への報告を行っている。

情報セキュリティ事故事例

2018 年 2 月

2018/02/06

学生情報含む教員の私有 USB メモリが所在不明に - 大阪工業大

大阪工業大学は、学生の個人情報が入った USB メモリを、教員が紛失したことを明らかにした。

同大によれば、教員が個人で所有する USB メモリが所在不明になっているもの。問題の USB メモリには、2016 年度から 2017 年度に同教員が担当した授業の履修者 1070 人分の氏名や学生番号、出欠情報のほか、一部科目の成績評価などが保存されていた。成績のみパスワードを設定していたという。

1 月 23 日に教員が出勤した際、紛失に気付いた。前日に大学のパソコンで資料を作成する際に USB メモリを接続したが、その後の所在がわかっていない。

同大では、対象となる学生に事情を説明し、謝罪。対象となる学生の保証人には、説明と謝罪の書面を送付した。また USB メモリへ個人情報を保存する行為を全面禁止し、学内のファイルサーバーを利用するよう周知徹底を図っている。

2018/02/22

ウェブサイト開設案内メールで誤送信、学生のメールアドレス流出 - 大阪市立大

大阪市立大学は、案内メールで誤送信が発生し、教育向上への調査協力に登録している学生や卒業生のメールアドレスが流出したことを明らかにした。

同大によれば、2 月 13 日 16 時半ごろに送信した学修支援推進室のウェブサイト開設を案内するメールにおいて誤送信が発生したもの。送信先のメールアドレスを誤って宛先に設定したため、卒業生 38 人と学生 20 人の氏名およびメールアドレスが、受信者間で閲覧できる状態となった。誤送信した 58 人のうち、15 人は宛先に届かなかったとしている。

送信の約 30 分後に担当者が気づき、対象となる卒業生と学生にメールで謝罪。あわせて、誤送信したメールの削除を依頼した。

2018/02/23

入学予定者への連絡メールで誤送信、メールアドレス流出 - 上智大

上智大学は、2018 年度の入学予定者へ送信した連絡メールにおいて誤送信が発生し、メールアドレスが流出したことを明らかにした。

同大によれば、2 月 20 日 15 時から 17 時にかけて、入学センターが入学予定者 1317 人へ送信した連絡メールにおいて誤送信が発生したもの。受信者からの指摘で判明した。

本来利用すべきメール配信システムを利用せず、宛先に指定して送信してしまったため、受信者間で互いのメールアドレスが閲覧できる状態となったという。

同大では、対象となる入学予定者に謝罪。誤送信したメールの削除を依頼している。

情報セキュリティ事故事例

2018 年 1 月

2018/01/18

メールアカウントに不正アクセス、迷惑メールの踏み台に - 新潟県立看護大

新潟県立看護大学は、教職員のメールアカウントが乗っ取られ、不特定多数に対する迷惑メール送信の踏み台に悪用されたことを明らかにした。

同大によれば、教職員 1 人のメールアカウントが乗っ取られ、同大のメールサーバから不特定多数のメールアドレスに対し迷惑メールが送信されたもの。1 月 15 日、情報ネットワークシステムの保守を担当する事業者から連絡があり問題が発覚。パスワードの変更など対応を講じた。

不正アクセスを受けた教職員のメールボックスに保管されたメールに含まれる個人情報などが漏洩した可能性がある。今回の不正アクセスによる他システムへの侵入は否定した。同大では詳細について調査するとともに、教職員に対しパスワード管理の徹底を指示としている。

2018/01/25

教員の私用メールアカウントに不正アクセス、情報流出の可能性 - 滋賀県立大

滋賀県立大学は、教員の私用メールアカウントが不正アクセスを受け、学生や関係者の個人情報含むメールが流出した可能性があることを明らかにした。

同大によれば、教員が私的に利用しているメールアカウントが海外から不正アクセスを受けていたことが 1 月 19 日に判明したもの。端末に不調があることから調査を行ったところ問題が判明した。

同アカウントには、大学の許可を得たうえで学内のメールが転送される設定になっており、2017 年 9 月 25 日から 1 月 19 日にかけて転送されたメール 430 件が流出した可能性がある。対象となるメールには、学生 106 人の氏名や学籍番号、メールアドレス、成績情報、進路先のほか、教職員 23 人のメールアドレスや職員番号、所属、学外関係者 39 人の住所とメールアドレスなどの個人情報が含まれていた。

同大では、1 月 22 日に学外へのメール転送システムを停止。同システムを利用する教職員の端末の状況を確認し、パスワードの管理に関する注意喚起を行った。

また対象となる学生や教職員には、大学のウェブサイトで説明と謝罪を行い、学外関係者には個別に説明と謝罪を行うとしている。

2018/01/31

イベント案内メール誤送信で学生のメールアドレス流出 - 京都教育大生協

京都教育大学生協同組合は、イベントの案内メールにおいて誤送信が発生し、イベント申込者のメールアドレスが流出したことを明らかにした。

同組合によれば、1月14日に送信した学生委員会企画「推薦合格者の集い」の案内メールにおいて誤送信が発生したもの。送信先を誤って「T0」に設定したため、メールアドレス74件が受信者間で閲覧できる状態となった。

同組合では、対象となる申込者へメールで謝罪するとともに、誤送信したメールの削除を依頼したとしている。

2018/1/16

ランサムウェアに感染、サイト改ざん被害も - 新潟大医歯学総合病院

新潟大学医歯学総合病院において、ランサムウェアの感染被害やウェブサイトの改ざんなどが相次いで発生していたことがわかった。

同院によれば、2017年12月8日、パソコンがマルウェアに感染している可能性があるとして職員から報告があり、調査を行ったところ、ファイルが暗号化されて使用できない状態となっていることが判明したという。

ランサムウェアに感染したパソコンには、治験に関する患者の氏名など個人情報が保存されていた。同大では調査を行っているが、個人情報の外部流出は確認されていない。

また同月18日には、心当たりがない記事が投稿されていることに職員が気づき、同院ウェブサイトが不正アクセスを受け、改ざんされていたことが判明した。同月25日に暫定サイトを公開。同大では復旧に向けて調査などを進めている。

情報セキュリティ事故事例

2017 年 12 月

017/12/13

システム管理者アカウントが奪われ、個人情報約 7 万件が流出 - 阪大

大阪大学は、教育用計算機システムが不正アクセスを受け、利用者の個人情報約 7 万件が外部へ流出した可能性があることを明らかにした。

同大によれば、5 月 18 日から 7 月 4 日にかけて、教育用計算機システムが不正アクセスを受けたもの。教員の ID とパスワードを用いて侵入され、システム内部に設置された不正プログラムにより、システム管理者のアカウントが盗まれたという。

管理者用アカウントが奪われたことで、同システムの利用者に関する氏名や ID、同大発行のメールアドレス、所属、学籍番号など約 7 万件が流出した可能性がある。

内訳を見ると、教職員に関する情報が 1 万 2451 件、学生が 2 万 4196 件、元教職員が 9435 件、元学生が 2 万 3467 件。元関係者の ID とメールアドレスについては、すでに無効化されている。

2017/12/14

メールサーバに不正アクセス、迷惑メールの踏み台に - 放送大

放送大学のメールアカウントが乗っ取られ、不特定多数に対する迷惑メール送信の踏み台に悪用されたことがわかった。

放送大学学園によれば、メールサーバが外部より不正アクセスを受けたもので、踏み台として悪用され、不特定多数のメールアドレスに対して迷惑メールが送信されていたという。

10 月 27 日 10 時過ぎから問題が判明した 11 月 9 日 0 時ごろにかけて、あわせて 14 万 3000 件のメールが送信された。今回の不正アクセスによる他サーバへの侵入や、情報漏洩については否定している。

同大では、問題のアカウントを停止。再発防止に向けて監視を強化するとともに、サーバやパスワードの脆弱性について調査を実施するとしている。

情報セキュリティ事故事例

2017 年 11 月

2017/11/01

教員が学生の個人情報含む USB メモリを紛失 - 明星大

明星大学において、学生の個人情報を保存した USB メモリが所在不明となっている。

同大によれば、問題の USB メモリには、学生 134 人分の氏名と学籍番号含む履修者名簿のほか、学生 9 人分の氏名や実習状況含む教育実習生指導報告書、学生 2 人分の氏名、性別、生年月日含む推薦書などが保存されていた。セキュリティ対策は講じられていない。

9 月 27 日に同大教員が非常勤講師を務める他大学で貸与されたパソコンで USB メモリを使用した、その後の所在がわからない状態だという。

警察や交通機関に届け出を行ったが見つかっておらず、同大では、対象となる学生に対し、報告と謝罪の書面を送付している。

2017/11/27

学生情報含む PC を空港に置き忘れて紛失 - 札幌医科大

札幌医科大学の教員が、学生の個人情報を保存したノート PC を空港に置き忘れ、紛失したことがわかった。

同大によれば、11 月 20 日に医学部の教員が出張で新千歳空港を利用した際、搭乗待合室のシートにノート PC を置き忘れたもの。

問題のパソコンには、1989 年から 2017 年までの担当科目における学生約 3000 人分の成績と顔写真、および医学研究科修了生 1 人の論文データが保存されていた。

11 月 20 日 20 時ごろ、宿泊先のホテルでパソコンの紛失に気付いた。同大では、大学で管理するパソコンを持ち出す際は、申告が義務付けられているが、同教員は手続きを行っていなかったという。

同大では対象となる学生とその保護者に対し、報告と謝罪を行うとしている。

情報セキュリティ事故事例

2017 年 10 月

2017/10/17

誤送信で講座受講者のメールアドレス流出 - 首都大学東京

首都大学東京は、委託先の近畿日本ツーリストにおいてメールの誤送信が発生し、講座受講者のメールアドレスが流出したことを明らかにした。

同大によれば、10 月 12 日 11 時半ごろ、同大と東京都が実施している観光人材育成講座の申込者に送信したメールにおいて誤送信が発生したもの。近畿日本ツーリストの担当者が送信先のメールアドレス 25 件を誤って「CC」に設定したため、受信者間でメールアドレスが閲覧できる状態となった。

同日に受信者から指摘があり誤送信が判明。近畿日本ツーリストでは対象となる申込者にメールと電話で謝罪し、誤送信したメールの削除を依頼した。また同大では、近畿日本ツーリストに対し再発防止の徹底を指示したとしている。

2017/10/23

図書館のウェブサーバから個人情報流出の可能性 - 島根大

島根大学は、付属図書館のウェブサイトを開いているサーバにおいて、利用者の個人情報が外部に流出した可能性があることを明らかにした。

同大によれば、図書館が利用者向けのアンケート調査や主催イベントの申し込みを受け付けるために公開していたシステムに問題があり、アンケートフォームやイベント申込フォームより入力された個人情報が外部へ流出した可能性があることが判明したもの。氏名や電話番号、メールアドレス、所属機関名などが含まれる。

8 月下旬、図書館のウェブサーバ上で管理していた同システムにおいて、不正アクセスの痕跡を確認。ネットワークから切断して調査を行ったところ、特定の操作を行うことでアンケートの管理画面が外部から閲覧可能な状態だったことが判明した。

同大では、対象となる利用者に郵送やメールで説明と謝罪を行う。またアンケートについては、外部のサービスを利用し、図書館のサーバには個人情報を保存しない運用に変更している。

2017/10/23

入試情報サイトで個人情報が閲覧可能に - 京都精華大

京都精華大学は、入試情報サイトにおいて、登録会員の個人情報がインターネット経由で閲覧可能な状態にあったことを明らかにした。

同大によれば、9月5日から10月19日にかけて、入試情報サイトに登録している会員の個人情報を含む会員一覧ページや、各会員のプロフィールページが閲覧できる状態となっていたもの。会員468人分の氏名のほか、学生または保護者などの属性情報が含まれる。

10月18日に会員からの指摘を受けて調査を行い、翌19日に問題が判明した。対象ページのほか、検索サイトでの検索結果からも閲覧可能だったという。同サイトの運営委託先における人為的なミスが原因と説明している。

同大では問題のページを非公開にするとともに、対象となる会員にメールで報告と謝罪を実施。影響などを調査するとともに、再発防止策を検討するとしている。

2017/10/26

教員がレポートを回収後に紛失 - 首都大学東京

首都大学東京において、学生が提出したレポートが所在不明となっている。

同大によれば、システムデザイン学部の授業において、学生から提出されたレポートを担当教員が紛失したもの。学生の氏名と学籍番号が記載されていた。対象授業の履修登録者は59人だが、レポートの提出数は不明だという。

10月9日にレポートを回収後、帰宅。同月19日にレポートの採点を行おうとした際、紛失に気付いたという。キャンパス内を搜索したが見つからず、対象となる学生に説明と謝罪を行っている。

情報セキュリティ事故事例

2017 年 9 月

2017/09/08

入試出願者の個人情報含む USB メモリが所在不明 - 静岡県立大

静岡県立大学は、入試出願者の個人情報が保存された USB メモリが同大内で所在不明となっていることを明らかにした。ファイルにはパスワードが設定されていたという。

同大によれば、教員が 8 月 31 日に、USB メモリ 1 個を学内で紛失したものの。

問題の USB メモリには、大学院食品栄養科学専攻の入試出願者 17 人の氏名、性別、生年月日、出身校、受験番号、志望研究室などの個人情報が保存されていた。個人情報を保存したファイルには、パスワードが設定されているとしている。

紛失した教員は、9 月 6 日に警察へ届け出るとともに、大学へ報告。出願者に対しても事情を説明して謝罪した。個人情報の外部流出や不正利用は確認されていないという。

2017/09/27

講習受講者への連絡メールを誤送信 - 佛教大

佛教大学は、教員免許状更新講習の受講申込者に対する連絡メールで誤送信が発生し、メールアドレスが流出したことを明らかにした。

同大によれば、9 月 20 日に受講申込者へ送信した受講手続きに関する連絡メールにおいて、誤送信が発生したという。

メールアドレス 502 件を誤って「CC」に設定したため、受信者間でメールアドレスと一部申込者の氏名を閲覧できる状態となった。同大では事態を報告、謝罪している。

情報セキュリティ事故事例

2017 年 7 月

今月は大学関連の情報セキュリティ事故事例はありません。
情報セキュリティ関連ニュースを掲載します。

2017/07/03

「LINE」装うフィッシング攻撃に注意 - 複数サイトが確認される

SNS サービス「LINE」を装ったフィッシング攻撃が発生している。誘導先のフィッシングサイトは7月3日の時点で稼働が確認されており、フィッシング対策協議会では注意を呼びかけている。

今回確認された攻撃では、「LINE 変更」といった件名のメールを送信。本文で「アカウントの変更申請のメールを受け取った」などと不安を煽り、申請していない場合は解除が必要として偽サイトへ誘導、アカウント情報をだまし取ろうとする。

メールの本文には「LINE Corporation」をそのまま訳したと見られる「ライン会社」といった記載や、「リンクはずっと無応答です」など、一部不自然な言い回しも見られた。

誘導先としてすでに6件のURLが報告されており、7月3日の時点でフィッシングサイトは稼働していることが確認されていることから同協議会は閉鎖に向けてJPCERT コーディネーションセンターへ調査を依頼した。

同協議会では、誤ってメールアドレスやパスワードといったアカウント情報を送信しないよう注意を呼びかけている。

情報セキュリティ事故事例

2017 年 6 月

2017/06/16

香川県立保健医療大のサイトに不正アクセス - 一部が改ざん

香川県立保健医療大学のウェブサイトが、不正アクセスにより改ざんされたことがわかった。マルウェアの配布などに悪用された形跡はないという。

同県の発表によると、6 月 15 日 16 時半ごろ、同大のウェブサイトが改ざんされていることを大学職員が確認したもの。サイトの新着情報欄に犯行声明の文字列が表示され、クリックすると政治的なメッセージ画像が表示される状態だった。

同大では、ウェブサイト作成を委託した事業者に連絡してサイトを停止。改ざんについて調査しているが、6 月 15 日の時点では、マルウェアの感染や情報流出などの痕跡は確認されていないという。

2017/06/29

学生の個人情報含む USB メモリが所在不明に - 大阪工業大

大阪工業大学は、学生の個人情報含む USB メモリが所在不明になっていることを明らかにした。

同大によれば、6 月 20 日に非常勤講師が他大学の図書館に設置されているパソコンで USB メモリを使用後、所在がわからなくなっているもの。

問題の USB メモリは私物で、同講師が担当している授業の履修者 129 人の氏名、学生番号、小テストの評価などが保存されていた。メモリにパスワードや暗号化は講じられていないという。

帰宅後 USB メモリの紛失に気づき、メモリを使用していた図書館や利用した交通機関に連絡したほか、自身でも捜索を行い警察への届出も行ったが発見されていない。

対象となる学生には、授業内で説明と謝罪を行った。また保護者には書面による説明と謝罪を行っている。

情報セキュリティ事故事例

2017 年 5 月

2017/05/11

業務 PC でアダルトサイト閲覧、職員を懲戒処分 - 神戸大

神戸大学は、業務用の端末で 1 年間に約 150 時間アダルトサイトを私的に閲覧していたとして、事務職員を懲戒処分した。

同大によれば、問題の事務職員は業務で使用しているパソコンを使ってアダルトサイトを閲覧。2016 年 12 月上旬に学内の関係者から報告があり、調査員会を設置して本人や関係者から聞き取り調査を実施したところ、問題が判明した。

調査対象の 1 年間でアダルトサイトを閲覧した時間は合計で約 150 時間にのぼり、そのうち約 120 時間は勤務時間内の閲覧だったという。

アクセスには、学内のパソコンやネットワークを私用に利用しており、同大では就業規則に違反しているとして同職員に対し、停職 2 カ月の懲戒処分とした。

2017/05/12

講師が学生の個人情報含むノート PC を紛失 - 共立女子大

共立女子大学のキャンパス内で、学生の個人情報を含む PC が所在不明となっている。同 PC には、同大のほか、教員が兼任講師を務める立教大学の学生情報も保存されていたという。同大の教員が、4 月 21 日に学外授業を行うため教室を出た際、パソコンを教室内に置き忘れ、紛失したものの。同日置き忘れに気が付き、探索を行ったがその後の所在がわからない状態だという。

同端末には、2013 年度から 2015 年度にかけて、同教員が担当した授業の履修者が提出した課題のデータ 376 人分が保存されていた。また 2016 年度の履修者 150 人が提出した課題が含まれる可能性がある。いずれも学籍番号や氏名などが記載されていた。

また同教員は、立教大で社会学部の兼任講師を務めており、同大において 2014 年度春学期の専門科目履修者 469 人の氏名、学生番号、レポート評価、筆記試験評価、出席データなどについても保存されていた。

2017/05/25

法政大、不正アクセスに関する調査結果を公表

法政大学は、同大のサーバが不正アクセスを受けた問題で、当初発表していたアカウント情報の外部流出は確認されなかったとする調査結果を公表した。

同問題は、2016 年 12 月 8 日に同大のサーバが不正アクセスを受けたもの。3 月 10 日に公表した時点では、サーバを経由してアカウント管理サーバにアクセスされ、学生や教職員、委

託業者などのアカウント情報 4 万 3103 件が流出した可能性があるとしていた。
同大では、外部事業者によるネットワークの解析およびログの調査を実施。同調査の報告を踏まえ、同大の情報セキュリティ委員会で検討を行い、アカウント管理サーバへのアカウント情報の要求を行った痕跡は認められたが、それにともなう情報流出は確認されなかったと結論付けたという。

情報セキュリティ事故事例

2017 年 4 月

2017/04/05

学生の個人情報含む書類を海外研修先で紛失 - 中部大

中部大学は、学生の個人情報含む書類を、教員が研修先の海外で紛失したことを明らかにした。

同大によれば、3 月 11 日、現代教育学部の海外研修中に、引率の教員が現地の路線バス車内に鞆を置き忘れて紛失したという。

所在不明となっている鞆には、パソコンと書類が入っていた。パソコンには個人情報は保存されていなかったが、書類には研修に参加した学生の氏名や性別、生年月日、国籍、学籍番号、学年や学部などが記載されていた。

2017/04/21

車上荒らしで学生の個人情報が被害に - 梅光学院大

梅光学院大学は、公用車が車上荒らしに遭い、在学生や受験生の個人情報が記載された書類が盗まれたことを明らかにした。

同大によれば、4 月 17 日夜、山口県下関市内で同大の自動車が車上荒らしに遭い、在学生と受験生の個人情報含む書類が盗まれたもの。被害に遭った書類には、在学生の氏名や学籍番号、性別、学年と学科、出身校、および受験生の氏名や受験番号、性別、高校名、合否などが記載されていた。

同大では説明会を実施して対象となる学生に謝罪。事故対策本部を学内に設置して再発防止に向けた体制の構築を進めている。

情報セキュリティ事故事例

2017 年 3 月

2017/03/06

課外講座の出席簿が教室内で所在不明に - 近畿大

近畿大学は、課外講座の出席簿が、学内で所在不明になっていることを明らかにした。受講生の個人情報も含まれるという。

同学によれば、課外講座「公務員試験対策講座」の出席簿を、教室内で紛失したもの。同出席簿には、受講生 270 人の氏名、学年、学籍番号が記載されていた。

同学では、清掃業者が廃棄した可能性が高いとの見解を示しており、紛失した個人情報の不正利用に関する報告は確認されていないとしている。

2017/03/10

学生や職員などアカウント情報 4.3 万件が漏洩 - 法政大

法政大学は、同大のサーバが不正アクセスを受け、教員や学生などのアカウント情報が外部へ漏洩したと発表した。

同大によれば、2016 年 12 月 8 日に同大のアカウント管理サーバから学生や教職員、委託業者など、全アカウント情報を取得されたことが判明したもの。

攻撃者が 1 月 10 日、2 月 7 日に VPN で同大ネットワークへ接続。内部ネットワークに対するポートスキャンが行われたことへ気が付き、調査を実施したところ、2 月 21 日に情報が取得された際のログを確認した。

同大内部のサーバを経由してアカウント管理サーバにアクセスされ、学生証番号や教務員番号のほか、氏名、メールアドレス、種別、所属、暗号化されたパスワードなど、4 万 3103 件のアカウント情報が、攻撃者によって取得された可能性がある。

同大では、攻撃の踏み台となったサーバを隔離。対象となる関係者へ連絡を取り、パスワードの変更を依頼した。窃取された情報の悪用は確認されていないという。

同大では、詳細について調査を進め、調査結果や再発防止策について、あらためて公表する予定。

2017/03/21

10 分ほどの駐車中に車上荒らし、学生情報など被害 - 名大

名古屋大学大学院の教員が車上荒らしの被害に遭い、学生の個人情報を保存していたパソコンが盗難に遭ったことがわかった。

同大によれば、大学院生命農学研究科の教員が、学生の個人情報含むパソコンを盗まれたもの。2 月 22 日 18 時半ごろ、駐車していた約 10 分ほどの間に車の窓ガラスが割られ、パソ

コンを鞆ごと持ち去られた。

被害に遭ったパソコンには、農学部 1 年生と 3 年生 666 人分の氏名と学生番号などが保存されていた。個人情報を含むファイルには、パスワードを設定していたと同大では説明している。

発覚後に警察へ被害届を提出。対象となる学生に書面で事情を説明し、謝罪した。紛失した情報の不正利用などは確認されていないという。

2017/03/27

入試結果など個人情報含む書類を紛失 - 大手前大

大手前大学および大手前短期大学は、受験生や在学生に関する個人情報が記載された書類を紛失したことを明らかにした。

同大によれば、職員が参考資料として携帯していた高校 2 校に関する書類が所在不明となっているもの。3 月 8 日に判明した。紛失した書類には、受験生の氏名と入試結果のほか、在学生の氏名や成績など、あわせて 54 人分の個人情報が記載されていたという。

同大では、対象となる受験生が在学する高校 2 校を訪問して謝罪するほか、受験生にも個別に連絡して説明と謝罪を行うとしている。

情報セキュリティ事故事例

2017 年 2 月

2017/02/01

学生の個人情報含む成績原簿が所在不明 - 奈良先端大

奈良先端科学技術大学院大学において、学生の個人情報が記載された「成績原簿」が所在不明になっている。

同大学によれば、常時施錠した倉庫に保管されている成績原簿が紛失していることが、2016 年 12 月 12 日に実施した点検作業によって判明したもの。

同年 6 月 22 日の点検時には、倉庫に収納されていることを確認していることから、その後 7 月から 8 月にかけて倉庫内を整理した際に、不要文書とともに誤って廃棄した可能性が高いという。

紛失したのは 2014 年度に情報科学研究科で開講された授業の成績原簿で、同科に在籍し 2014 年度に成績評価を受けた学生 354 人分の氏名や学生番号、研究室名、授業科目名、授業担当教員名、評価などが記載されていた。

同大学では、対象となる学生に謝罪の書面を送付している。

2017/02/06

PC から内蔵 HDD が抜き取られ盗難 - 神奈川大

神奈川大学は、同大研究室のパソコンから内蔵ハードディスクが盗まれたことを明らかにした。盗難に遭ったハードディスクには研究情報や個人情報が保存されていた。

同大によれば、2016 年 12 月末に工学部機械工学科の研究室内に設置してあった教員の私有パソコンから内蔵ハードディスクが抜き取られ、持ち去られたという。

被害に遭ったハードディスクには、研究に関する情報のほか、学生 631 人分の氏名、学生番号、成績情報が保存されていた。データにはそれぞれパスワードを設定していたとしており、個人情報の不正利用は確認されていない。

同大学では、対象となる学生に対し書面による説明と謝罪を行っている。

2017/02/28

転送ミスで学生の個人情報を第三者へメール送信 - 兵庫教育大

兵庫教育大学は、教員が学生の個人情報含むファイルを誤って外部へメールで送信する事故が発生したと公表した。

同学によれば、2 月 19 日深夜に教員が学生 31 人分の個人情報含むファイルをメールに添付し、誤って学外へ送信したもの。同教員が所有する別のメールアドレスに転送しようとしたところ、誤って第三者のメールアドレスに送信してしまったという。

誤送信したファイルは、授業科目を同教員と共同で担当する非常勤講師が作成したもので、パスワードを設定していたが、パスワードの設定や取り扱いに不備があったとしている。同教員は翌 20 日に誤送信に気づき、送信先に連絡して誤送信したファイルの削除を依頼。22 日に対象となる学生に説明と謝罪を行っている。

情報セキュリティ事故事例

2017 年 1 月

2017/01/27

成績情報含むファイルを学外に誤送信 - 千葉工業大

千葉工業大学は、学生の成績情報含むファイルを、教員が外部の関係者に誤ってメール送信したことを公表した。

同大学によれば、1 月 10 日に教員が送信したメールにおいて、学生の個人情報含むファイルを誤って添付していたもの。ファイルには、教員が担当している科目の受講生の氏名や学生番号、成績、出席状況などが記載されていた。

学会誌の原稿を学外の編集委員 10 人にメール送信した際、誤って添付したという。送信直後に気づき、送信先に誤送信したメールの削除を依頼。電話で削除の確認を行った。

2017/01/30

迷惑メールの踏み台に、4000 通を配信 - 京都女子大

京都女子大学のメールアカウントが乗っ取られ、迷惑メールを送信する際の踏み台に悪用されたことがわかった。

同大学によれば、メールサーバに対する不正アクセスがあり、職員のアカウントを踏み台として悪用され、不特定多数のメールアドレスに対し、迷惑メールが送信されたもの。

1 月 26 日 3 時半過ぎから問題が判明した 13 時過ぎまでの 9 時間半に配信された迷惑メールは、約 4000 件にのぼるという。今回の不正アクセスによる他システムへの侵入や情報漏洩については否定している。

同大では、対象のアカウントを停止。教職員や学生に対し、適切なパスワード管理を行うよう注意を喚起した。

情報セキュリティ事故事例

2016 年 11 月

2016/11/09

患者の個人情報含む論文を誤って投稿、閲覧可能に - 杏林大

杏林大学の医師が、米国のオンライン学術誌に投稿した論文に、個人を特定できないよう処理が行われていない患者の個人情報を誤って添付していたことがわかった。投稿先のサイト上で一時公開されたという。

同大によれば、医学部付属病院呼吸器内科の医師が、米国のオンライン学術誌「PLOS ONE」に投稿した論文において、患者の個人情報を添付したもの。患者 158 人の氏名や住所、性別、年齢、病名、検査結果、治療内容などが含まれる。

10 月 24 日に論文が日本語の原文で掲載され、投稿した医師が 28 日に個人情報の掲載に気付いた。学術誌の編集部には個人情報の削除を依頼したが連絡が取れず、個人情報が削除された 11 月 8 日まで、16 日間にわたり、サイト上で閲覧できる状態だった。

同医師は、論文に添付するデータについて個人を特定できないよう処理したが、処理前のデータも同じ文書ファイルに含まれた状態で誤って投稿してしまったという。また論文の点検をした指導教授もデータの誤添付を見落とした。

同院では対象となる患者に謝罪の書面を送付したとしている。

2016/11/11

企業から返送されたアンケート調査票を誤廃棄 - 岩手県立大

岩手県立大学は、企業から返送された「就職先企業アンケート」の調査票を、誤って廃棄したことを公表した。

同大によると、卒業生の就職先企業から返送されたアンケート調査票を、誤って廃棄したもの。同調査票では、雇用した卒業生の評価や就職支援活動の評価など、11 の調査項目に対する回答が含まれる。

同大では 10 月 11 日から 13 日に受理した調査票 35 件の管理に問題があり、誤って廃棄物として焼却処分されたという。

調査票に記載された回答内容の外部流出は否定している。同大では対象となる企業に説明と謝罪を行ったうえで、アンケート調査への協力をあらためて要請している。

2016/11/17

学生名簿を配送会社が紛失 - 近畿大

近畿大学は、配送を委託した業者が在学生の名簿を運搬中に紛失したことを公表した。

同大の通信教育部が配送を委託した在学生名簿を、配送会社が運搬中に紛失したもの。名簿には学生 98 人分の個人情報が記載されていた。

同大では対象となる学生に対し連絡。外部への流出に関する報告は受けていないという。

2016/11/25

個人情報含む進路状況調査表が所在不明、盗難か - 東洋大

東洋大学において、学生の個人情報を含む進路状況調査表が所在不明になっていることがわかった。

同大によれば、9 月 12 日に、個人情報が記載された進路状況調査表 230 件の紛失が明らかになったもの。板倉キャンパス内のキャリア形成、就職支援室において保管していたという。

同大では、調査表は厳重な管理のもと保管されていたと説明。盗難の可能性もあるとして警察に被害届を提出した。対象となる学生には、書面により報告を行ったとしている。

情報セキュリティ事故事例

2016 年 10 月

2016/10/07

フィッシング被害で個人情報漏洩 - 関西学院大

関西学院大学において、学生や卒業生の個人情報が外部に漏洩したことがわかった。

同大によれば、職員がメールにより誘導されたフィッシングサイトで誤って ID とパスワードを詐取されたことから、学生や卒業生の個人情報 1466 人分が外部へ漏洩したという。

同大では、関係者に謝罪。学内への注意喚起を再度実施するなど再発防止に向けて対策を講じるとしている。

2016/10/11

メール経由でマルウェア感染、外部と通信 - 富山大

富山大学水素同位体科学研究センターのパソコンがマルウェアに感染し、外部と不正な通信を行っていたことがわかった。機密情報は含まれていないという。

同センターは、核融合炉の燃料として使われる水素同位体の研究施設。一部メディアの報道を受けてマルウェアへの感染について認めたもの。2015 年 11 月に研究者に送られたメールをきっかけにマルウェアへ感染し、外部と大量の通信が行われていたという。

同大では、感染した端末内部のデータについて、すでに発表済みであったり、公開を前提としているデータであるとし、機密情報の漏洩を否定。今回の問題を受け、同大ではセキュリティ対策の強化など進めるとしている。

2016/10/12

図書館の利用者情報 19 万件含む PC が所在不明 - 秋田市

秋田市の市立図書館において、利用者の個人情報が保存されたノートパソコンが所在不明になっている。予約、貸出状況などの情報も含まれるという。

所在がわからなくなっているのは、中央図書館明徳館が移動図書館で利用しているノートパソコン。同館で「図書館利用カード」を作成した利用者の個人情報 19 万 3844 件が保存されていた。氏名や電話番号、生年月日、登録者番号、10 月 7 日時点の予約、貸出状況などが含まれる。

同館では今回の問題を受け、不審な電話などがあった場合は、連絡するよう利用者に対してアナウンスを行っている。

2016/10/14

学生の個人情報添付メールを誤送信 - 東京都市大

東京都市大学は、学生の個人情報含むファイルを添付したメールの誤送信について公表した。ファイルにはパスワードが設定されていたという。

同大によれば、知識工学部情報通信工学科の教員が、9月21日に同学科の学生の氏名や学籍番号、所属研究室などを含むファイルをメールに添付し、誤ってほかの学生に送信したものの。ファイルには、パスワードが設定されていたとしている。

同大学では、対象となる学生に説明会を行って説明と謝罪を実施。メールを受信した学生には、添付ファイルの削除を依頼した。1カ月後に、削除が完了しているか確認を行うとしている。

情報セキュリティ事故事例

2016 年 9 月

2016/09/01

教員が個人情報や試験問題を SNS に掲載 - 名古屋大

名古屋大学は、同大教員が個人情報をはじめ、不適切な情報を自身の SNS に投稿していたと発表した。問題とされる投稿はすでに削除されているという。

同大によれば、2 月に同教員が SNS へ不適切な投稿を行っているとの指摘を受け、調査を行ったところ判明したもの。

同教員や関係者に対する聴き取り調査を実施した結果、出題予定の定期試験問題や採点中の答案、審査中の修士論文の画像のほか、自身が立ち会った医学部付属病院における手術中の写真、患者の MRI 画像の写真などを掲載していた。

また大学入試センター試験の監督者や同大の推薦入試や大学院入試の面接委員を務めていることがわかる投稿が存在。さらに修士論文発表者 1 人の個人情報や、奨学金返還免除者に選ばれた学生と、学術奨励賞の面接を受けた学生の氏名などの個人情報を掲載していたという。

いずれも閲覧状況などは特定できていない。すでに投稿は削除されており、同大では、対象となる関係者に報告と謝罪を行っている。

2016/09/09

複数端末がマルウェア感染、ランサムウェア被害も - 神戸大

神戸大学の業務用パソコン 2 台が、マルウェアに感染したことがわかった。そのうち 1 台はランサムウェアに感染しており、端末やネットワークストレージ上のファイルが暗号化されたという。

同大によれば、7 月から 8 月にかけて同大卒業生課や連携推進課において、マルウェアの感染被害が発生したもの。

卒業生課では、7 月 28 日 8 時 10 分ごろにパソコンがマルウェアに感染。8 月 18 日まで不正な通信が行われていた。

8 月 18 日 12 時ごろ、外部サーバと不正な通信が行われているとの指摘が外部より寄せられ問題が判明したという。感染端末においてマルウェアと見られる添付ファイルを開いた形跡

はないとしており、感染経路はわかっていない。

端末内には卒業生の個人情報が入っていたが、ファイルを外部に送信した記録は残っておらず、被害の報告なども確認されていないという。

また同大学の連携推進課では、8月22日10時ごろに使用しているネットワークストレージに保存されたファイルの拡張子が「zepto」に書き換えられ、暗号化されていることへ気が付いた。

同課のパソコンを隔離し、調査を行ったところ、同課の端末1台が外部と不正な通信を行っており、メールの受信記録からランサムウェアが添付されたメールを開封した可能性があることが判明。NASにくわえ、PC内部のファイルについても暗号化されていた。

同端末からファイルが外部に送信された記録は残っていなかったが、暗号化されたファイルは、現在も操作できない状態だという。

同大学ではこれら問題について、外部の事業者へ調査を依頼。原因の特定や情報漏洩の有無などを調べている。

情報セキュリティ事故事例

2016 年 8 月

2016/08/03

成績など記録した USB メモリを紛失 - 大阪体育大

大阪体育大学の非常勤講師が、在学生や卒業生の個人情報記録された USB メモリを紛失したことがわかった。

同大健康福祉学部の非常勤講師が、個人で所有する USB メモリを 7 月 5 日に紛失したもの。同 USB メモリには、同講師が 2014 年から 2016 年まで担当した科目を受講した在学生と卒業生 451 人分の氏名や学籍番号、出席状況、成績などが保存されている可能性があるという。

同大学では、対象となる学生とその保護者に対し、説明と謝罪の書面を送付した。紛失にともなう被害などは報告されていないという。

2016/08/22

学生の個人情報がネット上で閲覧可能な状態に - 名古屋大

名古屋大学は、学生の個人情報含むファイルを教員が誤ってウェブサーバにアップロードしたことから、約 3 カ月にわたってインターネットよりファイルの内容を閲覧できる状態だったことを明らかにした。

同大宇宙地球環境研究所の教員が、5 月 2 日に個人情報を含むファイルを誤ってサーバにアップロードしたことから、ファイルの内容をインターネットより参照できる状態となっていたもの。

アップロードしたサーバに関しては、5 月 30 日に問題のファイルを削除したが、キャッシュが検索サイトに残存。7 月 30 日にウェブサーバの管理者がサーバへのアクセス履歴を調査したことから問題へ気が付いた。

閲覧可能な状態となっていたのは、氏名、性別、身分、学修状況など、同大理学部と大学院環境学研究所の学生 335 人分の個人情報。また 2014 年度に年代測定総合研究センターが開催した体験学習の参加者および保護者 24 人分の氏名、性別、連絡先、学校名、学年なども含まれる。

同大では 8 月 1 日に検索エンジンへキャッシュの削除を依頼し、翌 2 日に削除を確認した。流出した個人情報の不正利用に関する報告は確認されていない。同大学では、対象となる学生や関係者に対し、説明と謝罪の書面を送付している。

2016/08/22

個人情報含む USB メモリを紛失、判明は 2 月 - 大谷大

大谷大学は、寮生などの個人情報を保存した USB メモリが所在不明となっていることを公表した。

2013 年度から 2015 年度の寮生活のしおりを保存していた USB メモリの所在がわからなくなっているもの。2 月 22 日に紛失へ気が付き、以降も探索しているが発見できていないという。

USB メモリには、寮生 60 人の氏名、出身都道府県、所属学科、および寮監と学生委員 10 人の氏名、携帯電話番号、メールアドレス、出身都道府県、所属学科などが含まれる。

同大学では、対象となる寮生や関係者に書面による報告と謝罪を行っている。

情報セキュリティ事故事例

2016 年 7 月

2016/07/05

メール誤送信でオープンキャンパス申込者のメアド流出 - 京都府立医科大

京都府立医科大学は、オープンキャンパスの申込者に受付確認のメールを送信した際、送信ミスがあり、一部でメールアドレスが流出したことを明らかにした。

夏のオープンキャンパスの申込者に対し、6 月 30 日 19 時 44 分に受付確認のメールを送信した際に発生したもの。7 グループに分けて送信したが、そのうち 1 グループ 27 件については送信先アドレス「宛先に誤って設定。受信者のメールアドレスを受信者間で閲覧できる状態となった。

7 月 1 日に受信者の保護者から指摘があり発覚。同大学では同日中にメールで謝罪し、誤送信したメールの削除を依頼している。引き続き調査を継続するとしている。

2016/07/22

個人情報含むファイルが外部から閲覧可能に - 慶大

慶應義塾大学において、関係者の連絡用として作成された個人情報を含むファイルが、一時サイト上で外部から閲覧可能な状態だったことがわかった。

同大学院経営管理研究科において、学生や教員など関係者の事務連絡用として作成されたファイルが、ウェブサイト上で 2015 年 4 月から 2016 年 6 月中旬にかけて、外部から閲覧できる状態だったことが判明したもの。

ファイルには 2009 年度から 2014 年度に同研究科へ入学した学生、修了生のほか、教員、その他関係者の氏名などが含まれており、対象となる学生や関係者には、報告と謝罪の書面を送付した。また問題のファイルについてパスワードを設定。検索サイトのキャッシュについて削除を依頼するなどの対応を講じたという。

2016/07/26

車上荒らしで個人情報含む PC などが被害 - 筑波大

筑波大学は、教員が車上荒らし被害に遭い、個人情報や企業情報、7 機関の情報が保存されたノートパソコンなどが盗まれたことを明らかにした。

同大のシステム情報系に所属の教員が、7月6日に帰宅途中、車上荒らしに遭い、鞆が持ち去られたもの。被害に遭った鞆のなかには、同大が保有する関係者の個人情報 2562 件をはじめ、企業 32 社、および 7 機関の情報を保存したノートパソコンのほか、期末試験の答案用紙などが入っていた。

盗難の発覚後、警察へ被害を届けた。盗難に起因した個人情報の外部流出や、不正利用については確認されていないという。

情報セキュリティ事故事例

2016 年 6 月

2016/06/03

福島高専の就職支援システムに不正アクセス - 求人票情報 5000 件流出か

福島工業高等専門学校¹の就職支援システムが不正アクセスを受け、求人票情報が外部へ流出した可能性があることがわかった。

同システムに対する不正アクセスの痕跡を確認したことから調査を実施したところ、情報が流出している可能性があることが判明したものの、

流出したおそれがあるのは、サーバ内に保存されていた 2009 年度以降の求人票情報約 5000 件。求人票情報を提供した事業者の名称、住所、採用担当者の氏名、電話番号、ファックス番号、メールアドレス、採用予定数、採用希望学科などが含まれる。

同校では、対象となる事業者へ書面による説明と謝罪を行っているが、情報が悪用されたといった報告は受けていないという。

2016/06/06

研究室 PC が踏み台に、詐欺メールをメアド約 280 万件へ送信 - 電通大

電気通信大学²のパソコンが不正アクセスを受け、フィッシングメールを送信するための踏み台に悪用されていたことがわかった。

被害に遭ったのは、同大レーザー新世代研究センター³の研究室が管理する端末。5 月 3 日から翌 4 日にかけて、メール送信の踏み台に利用されたもので、同大メールアドレスを送信元とし、同大外部のメールアドレス約 280 万件に対して、銀行を装ったフィッシングメールが送信されていたという。

問題のメールでは、銀行の認証システムが変更されたなどと説明。顧客情報の確認などとだまして本文内の URL よりフィッシングサイトへ誘導していた。同大では、5 月 4 日に同端末によるメール送信を停止。また誘導先の偽サイトは、5 月 9 日以降、閉鎖された状態だという。

同大では、不正アクセスを受けた原因について、端末で安易なパスワードを使用していたほか、アクセス制限も適切に設定されていなかったことを挙げた。また今回不正アクセスを受けた端末は、個人情報情報を保存しておらず、個人情報情報の流出については否定している。

2016/06/17

学生 1600 人分のレポート含む USB メモリを紛失 - 茨城大

茨城大学において、学生のレポートを保存していた USB メモリが、所在不明となっていることがわかった。

紛失したのは、学生のレポートを保存していた USB メモリ。4 月 26 日に教員が研究室で紛失に気が付いた。同日の講義に USB メモリを用いたが、その後の所在がわからないという。

保存されていたレポートのデータは、同教員が 2015 年度に担当した科目の受講生によるもので、手書きで記入、提出したレポート約 1600 人分をスキャンニングし、PDF ファイルとして保存していた。

USB メモリの暗号化など対策は講じていなかったという。同大学では、対象となる学生にメールで事情を説明し、謝罪している。

2016/06/20

サーバ設定ミスで個人情報を誤公開 - 宮崎大

宮崎大学のウェブサイトにおいて、学生や退職した教員 16 人の個人情報が 1 カ月以上にわたって外部に公開されていたことがわかった。

同大によれば、学部のウェブサイトにおいて、4 月 15 日から 5 月 26 日までの間、個人情報が含まれたファイルが学外から閲覧可能な状況だったもの。サーバにおけるアクセス制限の設定ミスが原因としている。問題発覚後、同ファイルを置いたディレクトリを閲覧できないよう修正した。

外部から閲覧可能だったのは、学生や卒業生、退職した教員あわせて 16 人分の個人情報。氏名や生年月日、入学年度、認定科目名と単位数、出身校、学生の身分異動内容などが含まれる。

同大学では関係者に説明し、謝罪。被害などの報告は受けていないという。

2016/06/22

学生 1651 人分の個人情報含む USB メモリを紛失 - 宮崎大

宮崎大学は、在学生や卒業生の個人情報が保存された USB メモリを、教員が学内で紛失したことを明らかにした。

教育学部の教員が、所有する USB メモリを 6 月 7 日に学内で紛失したもの。同教員が 2010 年度から 2015 年度まで担当した 4 科目を受講した在学生と卒業生 1651 人の個人情報が保存されていた可能性があるという。氏名や学籍番号、出席状況、一部学生の成績などが含まれる。

同大学では、対象となる在学生と卒業生に順次事情を説明して謝罪する方針で、相談窓口なども開設し、対応を進めている。

2016/06/24

個人情報入り PC がマルウェア感染、外部と不正通信 - 山口大

山口大学において業務用端末がマルウェアに感染し、外部と不審な通信を行っていたことがわかった。パソコンにはのべ約 2 万人分の個人情報が保存されており、同大では調査を進めている。

同大によれば、6 月 6 日 8 時半ごろに、不審な外部サイトへアクセスした疑いがあるパソコンを発見したもの。ネットワークから遮断し、通信記録を調査したところ、マルウェアの感染が原因と見られる通信を確認した。

マルウェアに感染したパソコンには、のべ 2 万 998 人分の個人情報を保存。学生の氏名や住所、電話番号、生年月日、メールアドレス、在籍内容や入学に関する情報、銀行口座などの情報が含まれる。そのほか学生指導や職員人事、学外研修講師の銀行口座なども保存されていた。被害の報告などは受けていないという。

6 月 1 日に受信したメールの添付ファイルを職員が開封したことから、マルウェアへ感染したと見られている。他端末におけるマルウェアの感染や不正通信は確認されていない。同大学は警察に相談するとともに、引き続き調査を継続するとしている。

情報セキュリティ事故事例

2016 年 5 月

2016/05/24

マルウェア感染端末から学生や保護者の個人情報が流出 - 中大

中央大学は、パソコン 1 台がマルウェアに感染し、学生や保護者、教職員などの個人情報が流出していたことを明らかにした。

4 月 9 日に同大多摩キャンパスで事務に使用している端末 1 台がマルウェアに感染し、その後の調査で情報流出が判明した。流出したデータには、学生や保護者、教職員など 20 人の氏名や住所、生年月日などが含まれる。

同大では、対象となる学生や関係者には個別に謝罪。また詳細や再発防止策などを検討したうえで、再度書面で説明と謝罪を行っている。

2016/04/21

学生健康診断受診票が一時所在不明に - 北海道教育大

北海道教育大学において、学生健康診断受診票が一時所在不明となっていたことがわかった。2 週間後に学内で発見、回収されたという。

委託先の北海道対がん協会が 4 月 6 日に実施した学生健康診断において、15 人分の受診票を一時紛失したもの。受診票には氏名や性別、生年月日のほか、健康診断の結果などが記載されている。

同大学では委託業者からの報告を受けて明らかとなり、委託事業者が 4 月 8 日に同大内を搜索。その際に発見できなかったが、20 日に学内において教員が発見、回収したという。

問題の受診票は、回収場所から 120 メートルほど離れた渡り廊下の脇に設置された棚の上に、廃棄用段ボール箱のふたに挟まるような形で見つかったという。

個人情報不正に利用されるなど被害は確認されていない。同大学では、対象となる学生とその保護者に説明を行うとしている。

2016/03/29

学生 8 人の個人情報を誤って 192 人に配信 - 摂南大学

摂南大学において、就職部が配信した履歴書の添削指導メールに、誤って学生 8 人の個人情報含む文書を添付していたことがわかった。

3 月 10 日、学生が不適切な内容の文書を所有していると教員から指摘があり、問題が判明したもの。就職部が学生向けポータルサイトで配信した履歴書の添削指導メールに、本来添付すべき「履歴書見本」ではなく、異なる文書ファイルを誤って添付していた。

問題のファイルは内部資料で、学生 8 人の氏名や学生番号、進級状況などの個人情報が含まれる。同メールは 2 月 10 日に学生 192 人に対し配信され、掲載期間中に 64 人が閲覧していたという。

同大学では個人情報が流出した学生に対し、個別に説明と謝罪を実施。またメールを参照した学生には、ファイルの削除を要請など行っている。

2016/03/16

学生の個人情報入り PC が出張先のドイツで盗難 - 東京大学

東京大学 産学連携本部は、職員がドイツ出張中に、学生の個人情報含むノートパソコンの盗難に遭ったことを明らかにした。

同大によれば、2 月 9 日から 13 日にかけてのドイツ出張中、鞆の盗難に遭ったもの。鞆の中には、起業家教育受講生の氏名や住所、電話番号、メールアドレスなどを保存したノートパソコンが入っていた。

同大学では、対象となる受講生に書面による報告と謝罪を行っている。

2016/03/03

個人情報持ち出しと不正アクセスで職員を懲戒免職 - 岐阜県

岐阜県は、職場から私的な目的で個人情報を持ち出すとともに、他人の ID を使ってコンピュータへ不正アクセスを行った職員に対し、3 月 2 日付けで懲戒処分を実施した。

同県によれば、同職員が最初に個人情報を持ち出したのは 2013 年 8 月 22 日ごろ。岐阜県総合医療センターにおいて、同センター職員の個人情報を業務以外の目的で収集。さらに翌 2014 年 8 月 12 日および 9 月 12 日に、総務事務センターで県職員の個人情報を持ち出していた。

また同職員は、類推した ID やパスワードを用い、2014 年 9 月 12 日から 2015 年 11 月 18 日までの間、57 回にわたり不正アクセスを行っていたという。

同県では同職員を懲戒免職とし、管理監督する立場にあった 3 人に対し、管理監督責任に基づく戒告処分を行った。

2016/02/19

入試出願登録情報が外部から閲覧可能な状態に - 学習院大学

学習院大学は、入試ウェブ出願システムに不具合があり、出願登録情報を出願者以外が一時閲覧できる状態だったことを明らかにした。一部情報が閲覧された可能性があるという。

ウェブ出願確認画面の不具合により、出願登録情報が第三者から閲覧できる状態だったもので、1月14日に受験生から指摘があり判明した。すでに不具合は修正されているという。

ウェブ経由の出願を受け付け開始した1月5日から、システムの修正が完了した14日22時過ぎまで閲覧可能となり、期間中に登録者 86 人分の情報が閲覧された可能性がある。氏名や住所、電話番号、生年月日、メールアドレス、出身高校、出願情報などが含まれる。

同大学では入学試験への影響を避けるため、同事案の公表を入試実施後に行ったと説明。閲覧された可能性のある86人に謝罪している。

2016/02/19

小学校教職員のマイナンバー含む書類が所在不明 - 横浜市

横浜市の小学校において、事務職員がマイナンバー含む書類を、電車での移動中に紛失したことがわかった。

1月26日、神奈川県教育委員会事務局へ教職員の扶養状況を記した書類を提出しようとした際、紛失したもの。職員が同校を出発して30分ほど経過した同日15時半ごろ、東横線横浜駅で下車する直前に、書類を入れた鞆がないことに気が付いた。

所在がわからなくなっている書類には、同校の教職員およびその配偶者、扶養家族など 54 人分の氏名、マイナンバーが記載されていた。そのほか、教職員5人の氏名や住所、勤務状況、給与支給額や、最大37人分の氏名と最寄り駅も含まれているという。

2016/02/18

学生の個人情報含むタブレット端末を紛失 - 文京学院大学

文京学院大学は、学生310人分の個人情報が保存されたタブレット端末を紛失したことを明らかにした。

同大によれば、1月13日18時20分ごろにタブレット端末が所在不明となっていることへ教員が気付いたもの。端末は、同日16時30分から18時までの演習で使用しており、同室内で紛失したものと見られている。

所在不明となっているタブレット端末には、同教員が2015年度前期に担当した科目の履修者160人の氏名、学籍番号、成績と、同年度後期に担当している科目の履修者150人の氏名および学籍番号が保存されていた。

同教員は警察に盗難届を提出。同端末にはパスワードと暗号化などのセキュリティ対策が講じられているという。

2016/01/13

サーバが外部と不正通信・情報流出の可能性 - 北海道大学

北海道大学のサーバが外部と不正通信を行っていたことがわかった。サーバ内部には関係者の個人情報や企業情報などが保存されていたという。

同大によれば、同大キャリアセンターのファイルサーバが外部のサーバと不正な通信を行っていたことが、1 月 4 日に判明したもの。同日サーバをネットワークから隔離した。

問題のサーバは、2015 年 12 月 27 日にスパムメールの大量送信に悪用され、翌 28 日に送信を自動遮断していることへ気が付き、ログなどを調査したところ不正通信が判明した。

サーバ内には、同大へ在学する学生約 1 万 8000 人や卒業生約 9 万 5000 人の個人情報、企業情報約 2000 社分が保存されており、外部へ流出した可能性がある。

同大では、情報漏洩の被害状況について調査を進めている。調査結果については判明次第公表する予定。また関係者に対しては、書面で事情を説明、謝罪する。

2016/01/07

中学校教諭が緊急連絡網を財布ごと紛失 - さいたま市

さいたま市は、市立中学校の教諭が、温泉施設の付近で生徒や職員の個人情報が記載された名簿などを紛失したことを公表した。

同市によれば、1 月 5 日未明、教諭がコンビニエンスストアで個人情報を記載した緊急連絡網を入れていた財布を紛失していることに気付いたもの。同教諭は前日 20 時ごろに温泉施設へ行き、5 日 1 時ごろに支払いを行っているが、その後、施設の向かいにあるコンビニエンスストアを訪れた時には、財布がなくなっていたという。

所在不明となっている財布には、担任学級の生徒 35 人の氏名と電話番号含む緊急連絡網と、顧問をしているクラブの部員 81 人の氏名や住所、電話番号、性別など含む名簿のほか、職員 67 人の氏名と電話番号含む緊急連絡網などが入っていた。

同校では臨時保護者会を開催して事情を説明し、謝罪。不審な連絡に注意するよう注意喚起を行っている。

2016/01/05

小学校児童の個人情報含む USB メモリを紛失 - 長野市

長野市は、市内小学校の教諭が児童の個人情報を保存した USB メモリを紛失したと公表した。氏名は含まれないが、所見などを記載していたという。

同市によれば、2015 年 12 月 17 日に教諭が学級通信を作成するため USB メモリを使用しようとしたところ、紛失が判明したもの。教諭は自宅などを捜索したが見つからず、21 日に校長に報告した。

紛失したのは業務用の USB メモリで、児童 14 人分の通知表所見の下書きを保存。氏名は含まれておらず、児童 2 人の学習や生活の様子などが記載されたメモも保存されていた。1 人は氏名、1 人はイニシャルが記載されていたという。

2015/12/18

学生の成績情報含むファイルを誤送信 - 福岡女学院大

福岡女学院大学人間関係学部の教員が、学生 234 人分の個人情報含むファイルを誤って学生 14 人に送信していたことがわかった。

12 月 10 日、教員が担当科目の履修者 14 人に指導日程調整表をメールで送信。その際、卒業生 2 人を含む学生 234 人分の氏名や学籍番号、2013 年度の成績評価など含むファイルを誤って添付した。受信した学生からの連絡により判明した。

同大学では受信した 14 人に対し、添付ファイルの削除を要請。教職員立ち会いのもとでファイルの削除を確認した。また外部に流出していないことを確認したという。

2015/12/15

学生の個人情報含む PC が講義室から盗難 - 愛知工業大

愛知工業大学は、情報科学部准教授のノートパソコン 3 台が講義室で盗難に遭ったと発表した。パソコン内部には、同大にくわえ、同准教授が非常勤講師として勤める名古屋市立大学と中部大学の学生に関する情報も含まれていた。

同大によれば、12 月 10 日に 12 時 50 分から 13 時までの間に、豊田市の八草キャンパス内にある講義室からパソコン 3 台を何者かに持ち去られたもの。

被害に遭ったパソコンには、同大の学生 225 人をはじめ、名古屋市立大の学生 54 人、中部大の学生 66 人の氏名や学籍番号、出席状況、課題提出状況などが保存されていた。

同大では、対象となる学生に対し、事情の説明や謝罪を行っている。

2015/12/11

約 6.2 万人分の個人情報入り USB メモリが所在不明に - 関西大

関西大学において、学生など約 6 万人分の個人情報を記録した USB メモリが所在不明となっている。

同大によれば、同大が業務を委託している情報処理業者と受け渡しを行った際に USB メモリを紛失したもの。問題の USB メモリには、同大の学生や留学生、大学院生および保証人の個人情報あわせて 6 万 2308 人分が保存されていたという。

学生に関しては氏名、住所、電話番号、生年月日のほか、所属や学籍情報などが含まれる。また保証人に関しては氏名、住所、電話番号などの個人情報が記録されていた。

同大では、誤って廃棄された可能性が高いと説明。二次被害などの報告は受けていないとしている。関係者に対しては、順次連絡を取り、事情の説明や謝罪を行っていく。

2015/11/26

シンポジウム案内メールを誤送信 - 専修大

専修大学社会知性開発研究センターは、シンポジウムの案内メールにおいて、送信先のメールアドレスが流出したことを公表した。

11 月 9 日、同センターが開催するシンポジウムの案内メールを送信した際、操作ミスにより宛先のメールアドレス 249 件が受信者間で確認できる状態となったもの。

同センターでは誤送信から 1 時間後、メールアドレスを登録していた 249 人にメールで謝罪。誤送信したメールの削除を依頼している。

2015/11/10

学生の個人情報含む USB メモリを紛失 - 関西大

関西大学の非常勤講師が、学生のべ 990 人分の個人情報が記録された USB メモリを紛失したことがわかった。

同大内において、外国語科の非常勤講師が USB メモリを紛失したもの。同講師が 2014 年と 2015 年春学期に担当した科目の履修者のべ 749 人の氏名、学籍番号、成績と、2015 年秋学期に担当している科目の履修者のべ 241 人の氏名と学籍番号が記録されていた。

同大学では、対象となる学生に説明と謝罪を進めている。

2015/10/30

国家試験模試の結果を教員で回覧中に紛失 - 新潟県立看護大

新潟県立看護大学は、国家試験模試の結果 182 件を紛失したと発表した。教員 5 人が回覧する過程で紛失したと見られている。

2015 年保健師国家試験模試の結果 91 人分や、2015 年看護師国家試験模試の結果 91 人分が所在不明となっているもの。学生の氏名や学籍番号、模試の得点率、評価などが記載されていた。

同大学によれば、模試の結果を今後の国家試験対策に活かすため、教員 5 人が 10 月 15 日から回覧していたが、23 日になって所在がわからないことへ気が付き、関係者への聴き取りで、最後に回覧した教員が最初の教員に返却する際に所在不明になったことが判明したという。

同大学では、対象となる学生と保護者に謝罪するとしている。

2015/10/26

学生の個人情報や入試問題など含む PC を英国で紛失 - 岩手大

岩手大学工学部の教員が、英国への出張中にタクシー内に個人情報含むノートパソコンを置き忘れ、紛失していたことがわかった。

国際会議に出席するため訪れていた英国において、タクシーの車内にノートパソコンの入った鞆を置き忘れ、そのまま紛失したもの。盗難の可能性が高いとして、現地の警察当局や日本大使館に被害届を提出した。

パソコンには学生のべ 1526 人の個人情報のほか、2016 年度入学試験の問題案などが保存されていた。個人情報については、一部パスワードが設定されているという。

同大学では、対象となる学生や関係者に説明と謝罪の書面を送付した。また、入試問題については問題を差し替えるなど、対応を行っている。

2015/10/20

関係ないメアドが CC に、不具合が原因と説明 - 京大生協

京都大学生生活協同組合は、メールを送信した際に、関係ないメールアドレスが流出したことを明らかにした。メールソフトの不具合が原因だとしている。

9 月 30 日 18 時過ぎに、同大学研究室へ見積りのメールを送信したが、45 件となった未着を含む PC 内に登録されていたメールアドレス 232 件が「CC」に設定され、送られたという。メールを受信した組合員より指摘があり問題が判明。10 月 1 日に関係者へメールで謝罪するとともに、誤って送信したメールの削除を依頼した。

同組合では、送信時にメールアドレスが CC へ挿入された原因について、操作ミスではなく、使用するメールソフトの不具合である可能性が高いと説明。

対策として、パソコン内に登録されているすべてのメールアドレスとメールソフトを削除したほか、使用するメールソフトの点検を実施。メールソフトの変更についても検討するという。

2015/10/13

学生の個人情報含む USB メモリを紛失 - 甲南女子大

甲南女子大学において、学生の個人情報を保存した USB メモリが所在不明となっている。

人間科学部総合子ども学科の准教授が9 月 25 日に紛失し、その後所在不明となっているもの。捜索が続いているが発見されていないという。

問題の USB メモリには、2013 年度から 2015 年度に在籍している学生 577 人の氏名や学籍番号、成績情報、出席状況などが保存されていた。同大学では、対象となる学生に個別に対応を行うとしている。

2015/09/28

病院事務担当者への通知メールで誤送信 - 山口県

山口県は、県内の 144 病院の事務担当者へメール送信した際、誤ってメールアドレスが漏洩したことを公表した。

誤送信されたのは、次年度の補助金要望調査の通知メール。9 月 17 日 16 時半過ぎに、対象となる県内 144 の病院における事務担当者へメールを送信したが、宛先にメールアドレスを記載して送信。受信者間でそれぞれのメールアドレスを確認できる状態となった。

送信 20 分後に同県担当者が問題へ気が付き、関係者へ謝罪のメールを送信。誤送信したメールの削除を依頼している。

2015/09/09

患者情報含む USB メモリを紛失 - 名大付属病院

名古屋大学医学部付属病院は、患者の個人情報が入った USB メモリが院内で所在不明になっていることを明らかにした。

8 月 11 日 16 時ごろ、看護師が USB メモリを使用しようとしたところ、保管場所に見当たらないことに気付いたもの。問題の USB メモリは同月 7 日に確認されており、外部に持ち出された形跡は確認されていないという。

紛失した USB メモリには、退院後に心臓リハビリテーションを実施している患者 217 人の氏名や年齢、性別、ID、入退院日などが記録されていた。対象となる患者には、電話と書面を通じて報告と謝罪を行っている。

2015/09/09

表計算ソフトのソートミスでメールに別人の個人情報 - 文化放送

文化放送は、イベントの当選通知メールを送信した際、操作ミスにより個人情報が漏洩したことを明らかにした。

10 月に後楽園で開催される声優イベントの当選者へメールで通知する際にミスが発生したもの。当選者 700 人のデータを作成する際、表計算ソフトのソート操作を誤り、メールアドレスと名前や住所が一致しない状況となったが、気が付かずに 9 月 7 日にメールを送信した。

送信作業を行っている際に、受信した当選者から連絡があり問題が判明。別の当選者の氏名や住所、年齢、性別などが記載された状態で 360 人に送信しており、43 件の問い合わせが寄せられたという。

同社ではすべての当選者にメールで謝罪。当選者リストの修正を行ったうえで当選メールを再度送信した。また漏洩の対象者には電話で連絡を取り、メールの削除を依頼している。

2015/08/21

個人情報含む書類を置き引きで一時紛失 - 一橋大

一橋大学において、講師が学生の個人情報を含む書類を帰宅途中に一時紛失していたことがわかった。警察から連絡があり、10 日後に回収したという。

8 月 1 日 23 時 30 分ごろ、講師が帰宅時の電車内で、足元に書類が入ったバッグを置いていたが、JR 赤羽駅に到着した際になくなっていくことに気付いたという。

紛失した書類は夏学期成績報告書と出席簿。講義を履修している学生 108 人の氏名や学籍番号、出欠状況などが記載されていた。

同大では、対象となる学生にメールで紛失を報告。紛失したバッグが発見されたと警察から連絡があり、11 日に回収した。書類はすべて揃っていたという。

2015/08/07

盗まれた患者情報含む外部記憶装置が発見 - 昭和大

昭和大学は、5 月に発生した車上荒らしによる外付けハードディスクの盗難事件に関し、別の事件で逮捕された容疑者の押収物から盗難物が発見されたことを明らかにした。

5 月 8 日から翌朝にかけて、横浜市内の駐車場に駐車していた同大医師の車が車上荒らしに遭い、横浜市北部病院の患者情報約 4 万 8000 人分の個人情報を保存したハードディスクが持ち去られたもの。

別の事件で逮捕された被疑者の押収物に被害に遭ったハードディスクが含まれていたという。内部の患者情報が不正に利用された事実は確認されていないとしている。

同大では、今回の問題を受けて盗難に遭った医師を減給処分とした。また個人情報管理体制の見直しや責任の明確化、個人情報管理マニュアルの周知徹底などにより、再発防止を目指す。

2015/08/05

職員や学生の個人情報含む USB メモリを紛失 - 横浜国立大

横浜国立大学の職員が、学生と職員の個人情報が保存された USB メモリを自宅に持ち帰り、紛失していたことがわかった。

自宅で資料を作成するため USB メモリにデータをコピーして、7 月 31 日に持ち帰ったが、8 月 2 日までに紛失したことが判明した。所在不明となっている USB メモリには「2015 年度教員免許状更新講習受付担当者一覧」が保存されており、職員 2 人や派遣職員 14 人、学生 6 人の氏名が含まれていた。

職員は内規を守っておらず、個人情報を持ち出す際の届出や USB メモリの暗号化などは実施していなかったという。

2015/07/24

学生らの個人情報流出 ロシア経由で不正アクセス - 秋田大学

秋田大（澤田賢一学長）は24日、学外からの不正アクセスにより学生や教職員らの個人情報1171人分が流出したと発表した。国際資源学部に所属する男性教員のメールのパスワードが不正に取得されたのが原因とみられる。県警は不正アクセス禁止法違反の疑いで捜査している。

秋田大によると、流出したのは学生、教職員、学外関係者の氏名や学籍番号、メールアドレス、電話番号など。55人分の成績情報も含まれるが、見るためには別にパスワードが必要。現在、これらの個人情報が悪用されたとの連絡はないという。

男性教員が16日、送信した覚えのないメール数万件が宛先不明で戻ってきたことを不審に思い、同大の情報管理担当に連絡し判明した。ロシア経由で不正にアクセスされたことは分かっているが、アクセスに必要なパスワードが取得された経緯は調査中。不正アクセスにより、男性職員のメールアドレスで約6万件のメールが送信された。送信済みメールから、違法薬物を売り込む英文などが確認されている。

2015/07/22

合否情報など個人情報入り USB メモリを紛失 - 大阪府立大学

大阪府立大学は、羽曳野キャンパスの事務所内において、入学志願者などの個人情報のべ828件を含む USB メモリが所在不明になっていることを明らかにした。

7月8日にUSBメモリを使用しようとしたところ、紛失に気付いたもの。7月6日に職員が事務所内でUSBメモリを使用し、デスクの引き出しに入れていたが、その後の所在がわからないという。デスクの引き出しは施錠されていなかった。

紛失したUSBメモリには、2012年度から2014年度に実施した入学試験の志願者のべ797人の氏名や住所、生年月日、出身校、合否情報のほか、大学院看護学研究科の出願資格認定審査の申請者のべ31人の氏名や出身校、勤務先、研究実績などが保存されていた。同大学では、対象となる関係者に書面で事情の説明や謝罪を行うとしている。

2015/07/22

サイトに不正アクセス、公開講座受講者のメアドなど流出 - 梅花女子大学

梅花女子大学のウェブサイトが不正アクセスを受け、公開講座受講者のメールアドレスや電話番号などが流出したことがわかった。

7月13日に、同大学のウェブサイトが不正アクセスを受けているとの連絡が外部機関から寄せられたもので、調査の結果、不正アクセスにより公開講座受講者のメールアドレス418件と電話番号5件が流出していたことが判明した。

同大学ではサイトを停止し、脆弱性を修正。また、対象となる受講者には報告と謝罪を行うとしている。

2015/07/16

ID や初期 PW 含む学生や教職員の個人情報が流出 - 東京大学

東京大学のパソコンがマルウェアに感染し、学生や教職員のアカウント情報をはじめとする個人情報あわせて最大 3 万 6300 件が流出した可能性があることがわかった。

同大において、業務に利用するパソコンがマルウェアに感染、内部に保存されていた学内向けサービスのアカウントが流出していることが判明したものの。

同大によれば、6 月 30 日に学内で使用するメールサーバにおいて、管理画面の設定が変更されていることへ気が付き、調査を行ったところ、マルウェアの感染が発覚した。

感染したパソコンや同サービスのサーバには、システムのアカウント情報や個人情報が保存されていた。

流出した可能性があるのは、2013 年度と 2014 年度の学部入学者、および 2012 年度と 2013 年度にシステムを利用した学生の氏名、学生証番号、利用者 ID、初期パスワードなど約 2 万 7000 件。

さらに 2012 年度以降にシステムを利用した教職員の氏名や ID、初期パスワードなど 4500 件、サーバ管理者の氏名、ID、初期パスワードなど 3800 件、現在システムを利用している学生と教職員の氏名、学生証番号、ID など 1000 件などが含まれる。

同大学では対象となるすべてのパスワードを変更。感染端末を隔離した。詳しい原因や影響の範囲など調査を進めており、関係者へ連絡を取っているが、二次被害などは確認されていないという。

2015/07/16

サイトに不正アクセス - メールアドレスが流出 - 愛媛大学

愛媛大学が不正アクセスを受け、「愛媛大学ミュージアム」の情報配信用に登録されていたメールアドレスが流出したことがわかった。

同大が業者に運用を委託しているウェブサーバが、同月 10 日に不正アクセスを受けたもので、外部機関から 7 月 13 日に連絡があり、判明したという。愛媛大学ミュージアムの情報配信メールサービスに登録されているメールアドレス 366 件が外部へ流出した。

同大学では、不正アクセスを受けたサーバを停止。アプリケーションの脆弱性を突かれたものと見られているが、詳細な調査を進めている。また、アドレスが流出した登録者には報告と謝罪を行う方針。

2015/06/22

学内便で送付した学生の「住所届」が所在不明 - 九州大

九州大学は、キャンパス間で配送を行う学内便を利用して送付した学生 183 人分の「住所届」が所在不明になっていることを明らかにした。

所在不明になっているのは、箱崎キャンパスの理学部等事務部から伊都キャンパスの学務部宛てに、4 月 6 日に学内便で発送した学生の住所届。5 月 29 日の判明後から搜索を続けているという。

住所届には、理学部の院生と学部生 183 人分の氏名や住所、電話番号、学籍番号、生年月日、性別、本籍地、メールアドレスのほか、保護者の氏名や住所、電話番号、勤務先などが記載されていた。

同大学では、対象となる学生とその保護者に対し、書面で事情を報告し、謝罪した。個人情報の外部流出は確認されていない。

2015/06/19

個人情報入り PC が盗難、見知らぬ人との会話中に - 名古屋大

名古屋大学太陽地球環境研究所の教員が、出張先のスウェーデンで盗難に遭い、個人情報を含むノートパソコンが被害に遭ったことがわかった。

現地時間 5 月 31 日 12 時 30 分、レストランで食事中に見知らぬ男性から声を掛けられて会話した間に、イスの上に置いていた鞆が持ち去られた。鞆にはノートパソコンが入っていた。パソコンには、教員が担当する講義を受講している学生の氏名や成績のほか、研究所の学生や教職員の氏名、メールアドレスなど含む研究所連絡一覧など、のべ 271 人分の個人情報が保存されていた。一部データにはパスワードを設定していたという。

現地警察や日本大使館に被害届を提出するなど対応を行うとともに、対象となる学生と教職員には謝罪の書面を送付している。

2015/06/01

標的型メールでマルウェア感染、個人情報約 125 万件が漏洩 - 日本年金機構

日本年金機構のパソコンがマルウェアへ感染し、外部へ個人情報が漏洩したことがわかった。同機構は、詳細について調査を進めるとともに、基礎年金番号の変更など対応を進めている。

同機構のパソコンがマルウェアへ感染し、個人情報が外部へ漏洩していることが 5 月 28 日に判明したもの。「氏名」「基礎年金番号」「生年月日」を含む約 116.7 万件や、それに住所をくわえた約 5.2 万件など、現在わかっているだけであわせて約 125 万件にのぼる。

マルウェアは、メールの添付ファイルを開封したことにより感染。外部より端末に対してアクセスが発生した。端末を隔離し、マルウェアの駆除などを行うとともに警察へ被害を届けた。基幹である社会保険オンラインシステムに対する不正アクセスは確認されていないが、同機構では詳細について調査を進めている。

同機構は、今回の漏洩を受けて、関係者の基礎年金番号を変更するほか、年金手続きの際、本人確認などを実施する。

2015/05/27

非公開処理のミスでパブコメ提出者の個人情報漏洩 - 文科省

文部科学省は、文書公開請求に対して文書を公開した際、非公開とすべき個人情報が読み取れる状態だったことを明らかにした。

同省によれば、開示請求で公開した資料から個人情報が取得できる状態だったもの。2014 年 7 月に実施した「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」への意見募集について、提出された全意見の開示を求める請求があったことから、個人情報については不開示とした上で、2 月 18 日付けで意見を記録した PDF ファイルを含む CD-ROM を開示請求者に送付したが、PDF ファイルから表計算ソフトなどヘデータをコピーすると個人情報を読み取れる状態だった。

意見データでは提出者の個人情報を非公開処理したが、担当者が処理手順を十分に理解していなかったという。公開されたデータには、445 件の意見が保存されており、ローマ字表記の氏名や、住所、電話番号、メールアドレスなど提出者 111 人分の個人情報が含まれる。

4 月 28 日に開示請求者から指摘があり判明。同省では CD-ROM の返還と複製したデータの消去を要請した。また対象となる意見提出者には謝罪を行った。今後同省では、不開示の処理にあたり、電子データを紙に出力し、再度スキャナーで電子化するといった対応を徹底するとしている。

2015/05/12

大学向けクラウドで設定ミス 個人情報閲覧可能に - 電翔

パッケージソフトやソリューションサービスを展開する電翔は、大学向けクラウドソリューションにおいて、個人情報閲覧可能となる事故が 2 件発生していたことを明らかにした。

同社が大学向けに提供しているクラウドソリューションにおいて、利用者が特定の操作を行うことで、本来は閲覧できない個人情報にアクセスできる状態になっていたもの。2 月 6 日に利用している大学の職員から連絡があり問題が判明した。

学生の氏名や住所、電話番号、生年月日、メールアドレスなどが閲覧できる状態で、共有フォルダにおけるアクセス権限の設定ミスが原因だったという。

また別の学校のケースでは、就職支援システムの権限変更作業を行った際、同社従業員が学生情報の閲覧権限を誤って設定してしまったため、教職員のみ利用できる検索機能が、約 6 時間にわたり学生が利用できる状態だった。

これにより、同システムに登録された氏名や住所、電話番号、学籍番号、メールアドレス、出身高校、帰省先住所などが閲覧可能だったという。大学職員からの指摘を受け、設定の修正を行った。いずれも、個人情報の不正利用は確認されていないとしている。

2015/05/08

個人情報をウェブ公開フォルダに誤ってコピー - 名古屋大

名古屋大学において、サーバ内に保存されていた個人情報が外部から閲覧可能な状態になっていたことがわかった。あやまって公開フォルダ上へコピーしてしまったという。

誤って情報を公開してしまったのは、名古屋大学大学院理学研究科生命理学専攻の研究室で管理するサーバ。4月23日に同大においてサーバ情報の調査を行った際、問題が発覚した。原因は、公開しているウェブサイトのフォルダに、個人情報の入ったファイルを誤ってコピーしてしまったためだという。

閲覧できた個人情報は、2007年度の理学部および大学院理学研究科の学生のべ261人分の個人情報で、氏名や受講教科の採点結果、成績など含まれる。また職員3人分の氏名やメールアドレスも含まれる。

同大では、情報漏洩の原因となったサーバのデータを移動。ネットワーク上のキャッシュを消去した。学生や関係者に対しては個別に事情を説明、謝罪しているが、不正使用などは確認されていないという。

2015/04/22

学生の個人情報外部から閲覧可能に、操作ミスで - 東京大学

東京大学は、学生 136 人の氏名や成績が外部から閲覧可能な状態にあったことを明らかにした。

同大学大学院情報理工学系研究科の教員が、4 月 6 日に行った研究室のローカルサーバのシステム変更において操作ミスがあり、同教員の講義を受講した学生の個人情報が外部から閲覧可能となっていたもの。

漏洩したのは、同教員が個人的に作成した成績関連のメモで、学生 136 人の氏名と学籍番号が記載されていた。そのうち 70 人は成績情報も含まれる。

13 日に学生からの連絡を受けて問題が判明。データを削除するとともに、検索エンジンへキャッシュの削除を依頼し、すでに削除されたとしている。

同大学では、対象となる学生に書面により報告と謝罪を実施。個人情報の不正利用などは報告されていないという。

2015/04/18 (秋田魁新報掲載)

医学部HP改ざん、一時閉鎖 ハッカー集団名など表示 - 秋田大

秋田大は 17 日、医学部のホームページ（HP）が何者かに改ざんされたと発表した。詳しい原因を調べ、対策を講じるため、同日夕に医学部の HP を閉鎖した。

同大広報課によると、医学部の職員が同日午後 4 時 10 分ごろ、医学部の 1 講座のトップページが書き換えられ、ハッカー集団とみられる名称とロゴマークだけが表示されているのを見つけた。約 20 分後、同大が医学部全体の HP を閉鎖した。

HP は 18 日午前 0 時ごろ復旧した。

2015/04/07

入学式で新入生の名簿を紛失・個人情報揭示を指摘受けて中止 - 横浜国立大

横浜国立大学は、全新生の個人情報が記載された名簿を紛失したことを明らかにした。

入学式の受付で使用していた新入生名簿を紛失したというもの。問題の名簿には、全学部の新入生の氏名や学籍番号、生年月日、所属学部、学科などが記載されていた。

同大学では、紛失の経緯など事実関係について調査を進めている。また今回の事態を受けて学籍番号を変更し、学生証を再発行した。

紛失した情報が悪用されるおそれもあるとして、パスワードに生年月日を用いない、身に覚えのない連絡には返信しないなど、学生に注意するよう呼びかけている。

また同大では 6 日に、学生の個人情報を学内に揭示する問題が発生したことを明らかにした。教育人間科学部の教育実習に関する揭示において、氏名や住所、電話番号、生年月日、性別、出身高校、最寄り駅、教育実習希望校など、学生 3 人の個人情報を揭示していたという。

揭示後 1 時間後に指摘を受け、揭示を中止した。

同大では、再発防止策を早急に取りまとめるとしている。

2015/03/20

就職説明会で学生情報を紛失 - クリーニング事業者

ロイヤルネットワークは、企業説明会で提出された企業訪問カードが所在不明になっていることを明らかにした。

3 月 3 日に宮城県で実施したマイナビ大卒新卒向け合同企業説明会において、回収した企業訪問カード 10 人分を紛失したもの。

氏名や住所、携帯電話番号、メールアドレス、学校、卒業年などが記載されていた。

不正使用などは確認されていないが、不審なダイレクトメールや勧誘の電話などに注意するよう呼びかけている。

2015/03/09

患者の個人情報記載の書類を紛失 - 東京歯科大市川総合病院

東京歯科大学市川総合病院において、同意書など患者の個人情報が記載された一部書類が所在不明となっている。

2 月 6 日、10 日、13 日に患者から預かった問診票や同意書、診療情報提供書など 126 人分が、電子データとして保存する手続きを行った後に所在不明となっていることが、2 月 18 日に判明した。

同院では、誤って廃棄した可能性が高いとし、すでに電子化が行われており、治療への影響はないとしている。対象となる患者と関係医療機関には個別に報告や謝罪を行う。

2015/02/26

患者情報を保存した PC が盗難被害 - 筑波大付属病院

筑波大学付属病院は、患者の個人情報が保存されたノートパソコンが盗難被害に遭ったことを明らかにした。

同大の大学院生が学外で盗難被害に遭ったもので、被害に遭ったパソコンには、患者など 165 人分の個人情報が保存されていたという。氏名や年齢、手術日、病名の略号、手術や術後経過に関する情報などが含まれる。

同院では、対象となる患者へ電話で事情を説明。また書面や訪問などにより謝罪を行っている。盗難に遭った情報の不正利用など、報告は受けていないという。

2015/02/18

患者情報含む PC を一時紛失、ファイルアクセスなし - 東大病院

東京大学医学部付属病院に関連する医師が、患者の個人情報含むノートパソコンなどを電車内に置き忘れ、一時紛失していたことがわかった。パソコンは 6 日後に回収されている。

同院によれば、紛失が発生したのは 2 月 10 日 20 時ごろ。専門研修プログラムに所属する医師が電車内に置き忘れたもので、検索を行ったところ、千葉県警が保管していることを 16 日に確認、回収した。パソコンは、紛失した翌 11 日 9 時ごろに拾得者より警察へ届けられていたという。

同パソコンには、2014 年 1 月から 12 月までのあいだに同院で診療を受けた患者 1027 人分の氏名や ID、年齢、診療情報が保存されており、そのうち 942 人については住所や生年月日も含まれる。同院が回収後にログを確認したところ、これらファイルに対して第三者がアクセスした記録は残っていなかったという。

今回の問題を受けて、同院では対象となる患者に事情を説明し、謝罪する書面を送付した。また、個人情報を持ち出す際は匿名化するルールが守られていなかったとして、全職員への指導を徹底するとしている。

2015/02/06

学生の個人情報入り USB メモリを出張先で紛失 - 大阪市立大

大阪市立大学は、教員が出張先のマレーシアにおいて、学生 39 人分の個人情報を保存した USB メモリを紛失したと発表した。

同大学によれば、現地時間の 1 月 27 日 21 時 45 分ごろ、USB メモリを入れていたポーチがなくなっていることに気付いたという。ポーチは、パスポートや航空機の搭乗券なども入れていたもので、ズボンのポケットに入れていた。

USB メモリには、教員が 2009 年に担当した講義を受講した学生 39 人の氏名や学籍番号、成績データなどのべ 62 件を保存。データにはパスワードが設定されているとしている。同大学では、対象となる学生に説明と謝罪を行う方針。

2015/01/21

学生のレントゲンフィルムを誤廃棄 - 慶応大

慶応義塾大学は、健康診断で撮影した学生のレントゲンフィルムが所在不明になっていることを明らかにした。誤って廃棄した可能性が高いとしている。

2013 年春の健康診断時に撮影した学生 9336 人分の胸部レントゲンフィルムが所定の場所に保管されていないことが 1 月 6 日に判明したもの。搜索したが発見できず、調査を行った結果、2014 年秋に誤って廃棄した可能性が高いという。

廃棄物として業者に渡した際、191 人分のフィルムについては氏名と学籍番号が特定できる状態だったという。対象となる 191 人には、謝罪の書面を送付する。健康診断票は別途管理されており、学生の健康管理上の不都合はないと説明している。

2015/01/20

NAS の個人情報 5 万件を誤って外部へ公開 - 首都大学東京

首都大学東京は、学内で利用していたネットワーク接続に対応したハードディスクの設定ミスにより、個人情報約 5 万 1000 件が外部へ公開されていたことを明らかにした。

外部からアクセス可能となっていたのは、同大南大沢キャンパスの教務課が管理している NAS。1 月 1 日に学外からメールで指摘があり、休み明けの 5 日に確認、問題が発覚した。

NAS 内に保存されていたのは、学生や教員の氏名、住所、電話番号、生年月日などで、一部メールアドレスや修得単位数、TOEIC のスコアも含まれる。入学手続予定者や教員免許状更新講習受講者など、学外の関係者の情報も記録されていた。

個人情報は、のべ人数で約 5 万 1000 件にのぼり、2014 年 8 月 22 日から FTP 共有を無効化した 2015 年 1 月 5 日まで外部からアクセスできる状態だった。

NAS では、初期設定で FTP 共有機能が有効となっており、そのまま設定を変更せずに利用したのが原因だという。FTP 接続時の ID やパスワードなども利用しておらず、保存しているデータの多くについても、パスワードによる保護は行っていなかった。

情報の不正利用は確認されていない。同大学では窓口を設置し、関係者からの問い合わせに対応する。

2015/01/06

母体や乳児の患者情報含む USB メモリがひったくり被害 - 九大病院

九州大学病院の医師がひったくりに遭い、患者の個人情報を保存した USB メモリが持ち去られたことがわかった。

2014 年 12 月 18 日 21 時ごろ、医師が帰宅後に再度自転車で外出した際、バイクに乗った 2 人組に鞆を強奪されたという。鞆の中には、医師が研究目的で収集した患者 91 人の情報を保存した USB メモリが入っていた。

奪われた USB メモリには、患者の氏名や年齢、使用した薬剤の名称、細菌検査の結果にくわえ、出産した乳児の体重や性別、発育状態、そのほか記号化したデータなどが含まれるという。USB メモリにセキュリティ対策は講じていなかった。

同大では警察へ被害届を提出。対象となる患者に、電話や文書で事情の説明と謝罪を行っている。

2014/12/24

教員選考応募者の個人情報含む USB メモリが所在不明 - 宮崎大

宮崎大学において、教員採用選考の応募者情報が保存された USB メモリが所在不明となっている。

同大教員が、校内で紛失したもので、12 月 18 日に教員が報告し、問題が判明した。所在がわからなくなっている USB メモリには、教員採用選考の応募者に関する氏名、住所、電話番号、生年月日など、17 人分の個人情報を保存していた。個人情報含むファイルに対しては、パスワードを設定していたと説明している。

紛失した情報の不正利用に関する報告は寄せられていないという。同大学では、対象となる応募者に連絡、説明と謝罪を行っている。

2014/12/22

請求受けて公開した行政文書に個人情報 - 新潟県立看護大

新潟県立看護大学は、公開した行政文書の中に、本来非公開とすべき個人情報が含まれていたことを明らかにした。

同大学によれば、行政文書の公開請求を受け、12 月 19 日に請求者に対し公開を行ったが、請求者より文書内に個人情報が含まれているとの指摘を受けたため、文書の公開を停止した。

請求を受けて公開したのは、実習委員会議事録や学生委員会議事録など。同文書内に、実習を終えた学生が行う継燈式の委員 5 人や卒業生成績優秀者 2 人、休学者 1 人、退学者 2 人に関する個人情報が含まれていた。同大学では、対象となる関係者に文書で謝罪する。

2014/12/18

テストメール誤送信で職業訓練生のアドレスが流出 - 帝京大

帝京大学は、東京都から受託している公共職業訓練において、訓練生 19 人へのテストメール送信の際、職員の誤操作により全員のメールアドレスが表示された状態で送ったと公表した。

12 月 12 日 13 時 39 分ごろ、緊急時連絡用として訓練生より提供されたメールアドレスのテストのためにメールを一斉送信した際、操作ミスが発生したものの。

19 人に対し一斉送信したが、宛先にメールアドレスを記載、送信したため、受信者間でメールアドレスを確認できる状態と成った。ただし、2 件はアドレスの誤入力で未着だったという。

同日中に訓練生から流出を指摘するメールがあったが、担当者はすでに帰宅しており、流出を把握したのは週明けの 15 日だった。同大学では対象となる訓練生に謝罪、誤送信したメールの削除を要請している。

2014/11/26

高校で裏面に誤って個人情報印字した案内書を送付 - 広島県

広島県教育委員会は、県立高校の教諭が学習会の案内文書を送付した際、生徒の個人情報が漏洩したことを公表した。

11 月 12 日、学習会の担当教諭が受講者確認のための担任用資料を作成した際、学習会の案内を印刷した紙の裏に、受講者 48 人の氏名や住所、生徒番号などを印刷。そのまま確認せず、誤って発送してしまったもの。

2014/11/13

メールングリストの設定ミスにより個人情報流出 - BCC 利用から切り替え直後に

島根県の業務委託先において、メールングリストの設定ミスにより個人情報が漏洩したことがわかった。配信方法を切り替えた直後の事故だったという。

同県によれば、「島根県 IT 人材確保促進事業」を委託している東京の事業者においてメールングリストの設定に問題があり、リターンやＩターンの希望者のメールが漏洩したもの。

担当者が 11 月 4 日に、登録者 135 人に対して、メールングリストを用いて求人情報などをメールで配信。そのメールに対して 5 人から返信があったが、メールングリストの設定にミスがあり、関係ない登録者全員へ同報配信されたという。

返信されたメールには、氏名やメールアドレス。携帯電話番号、顔写真付きの履歴書などが含まれていた。従来、登録者へメールを同報配信する際は、BCC を利用していたが、11 月からメールングリストに切り替えたばかりだった。

委託先では、メールングリストの設定を修正。登録者に報告と謝罪を行い、誤って配信されたメールの削除を要請した。また同県でも対象者への謝罪を行っている。

2014/11/12

患者の個人情報を第三者に誤送信 - 昭和大学病院付属東病院

昭和大学病院付属東病院は、患者情報を第三者に誤って送信する事故が発生したことを公表した。

11 月 2 日に、患者 53 人の個人情報を第三者に誤って送信したもの。個人情報の具体的な内容は明らかにされていない。不正利用の報告は確認していないという。

同病院では、東京都に報告するとともに、対象となる患者に説明と謝罪の文書を送付するなどの対応を行っている。

2014/11/05

一部学生への連絡メールに学生 2634 人分の個人情報が混入 - 龍谷大

龍谷大学は、学生アルバイトに事務連絡を行った際、誤って学生 2634 人分の個人情報を含むメールを送信したことを明らかにした。

同大学によれば、10 月 23 日 17 時ごろ、理工学部の実験室を公開する際のアルバイトとして運営補助を行う理工学部と大学院理工学研究科の学生 105 人に、事務連絡メールを送信したが、その際に送信ミスが発生したもの。誤って理工学部と大学院理工学研究科の学生 2634 人の氏名、住所、電話番号、メールアドレスなどを含んだ状態で送信したという。

同大学では、誤送信したメールの受信者である学生にメールの削除を依頼。26 日に全員と個別に直接会い、メールの削除を確認した。また個人情報が流出した学生に対しては、報告と謝罪を行っている。

2014/10/17

個人情報含むファイルを学生 125 人にメール送信 - 兵庫医科大

兵庫医科大学は、6 年生 40 人の個人情報含むファイルを、1 年生 125 人に誤ってメール送信したことを明らかにした。

10 月 14 日、教務学生課の職員が、別の職員宛ての業務メールとして、6 年生 40 人の個人情報含む Excel ファイルを添付したメールを送信。その際に操作を誤り、1 年生への連絡用として使用している一斉送信用のアドレスにも送信した。ファイルにパスワードは設定していなかったという。

誤送信したファイルには、学生の氏名、電話番号、性別のほか、保護者の氏名、住所、電話番号、続柄などが含まれていた。

誤送信の発生後、送信先の 1 年生に対しメールや電話などで誤送信したメールの削除を依頼。また個人情報が流出した学生やその保護者に対して、電話で説明と謝罪を行っている。

2014/10/11 秋田さきがけ新報 掲載

学生情報漏えい 閲覧可能と指摘メール - 秋田大

秋田大（澤田賢一学長）は 10 日、教員がハードディスクをパソコンに接続した際、保存していた一部の学生の学籍番号や学習評価などの情報が一時、外部から閲覧できる状態になっていたと発表した。今のところ情報が悪用されたといった報告はなく、秋田大が原因を調べている。秋田大によると、保存していたのは、学生 10 人ほどの学籍番号と氏名、学習評価、外部講師の氏名や略歴など。教員はハードディスクを研究室内のパソコンに接続して使っており、外部から閲覧されないようパスワードを設定していたという。秋田大は教員や学生の所属学部を明らかにしていない。

9 日夕、「はじめまして。先生が管理している記録装置の内容が、学外に公表されたようです。」とのメールが外部からこの教員に届き、情報の漏えいが発覚。送信者のアドレスなどに見覚えはないという。

教員はすぐに大学に報告。別のパソコンでファイルを確認しようとしたが、ハードディスクが故障して読み取れなくなっていた。秋田大は、ハードディスクを修復してデータを復元する作業を進めている。

2014/10/03

マドリードのカフェで個人情報入り HDD が置き引き被害 - 大阪市立大

大阪市立大学の教員が、出張先のスペインで鞆の盗難に遭い、学生のべ 277 人分の個人情報を保存したハードディスクを盗まれたことがわかった。

盗難が発生したのは、工学研究科の講師が立ち寄ったマドリードのカフェ。現地時間の 9 月 20 日 22 時 30 分ごろに入り、15 分ほど経ったところで足元へ置いていた鞆がなくなっていることに気付いたという。現地警察への届出を行ったが見つからない。

鞆にはノート PC やハードディスク、カメラ、パスポートなどが入っていたが、そのうちハードディスクには、同教員が 2013 年から 2014 年に担当した 8 講義を受講した学生のべ 277 人の氏名や学籍番号、成績、レポート提出状況などを含むエクセルファイルが保存されていた。また、過去 4 年間に送受信したメールも含む。エクセルファイルには、パスワードが設定されているという。

同大学では、9 月 30 日に同教員より個人情報の紛失について報告を受けた。対象となる学生や関係者には、説明と謝罪を進めている。

2014/09/30

学生の個人情報含む PC が海外で盗難被害 - 上智大

上智大学は、学生の氏名や成績などが保存されたパソコンが、海外で盗難被害に遭っていたことを明らかにした。

被害に遭ったパソコンには、同大学の教員が 2000 年から 2013 年の間に担当した 3 科目の受講者に関する氏名や成績などの情報が保存されていた。対象ファイルにはパスワードを設定しているほか、ハードディスクの暗号化などセキュリティ対策を講じていたという。

同大学では、対象となる受講者に書面を送付し、説明と謝罪を行うとしている。

2014/09/05

国際会議の発表中にパソコンを置き引き被害 - 九大

九州大学大学院システム情報科学研究院の教授が、学生や卒業生、研究者などの個人情報を含むパソコンを、出張先のスウェーデンで紛失したことがわかった。

8 月 25 日にスウェーデンで開催された国際会議において、同教授の発表中、付近に置いていた鞆が持ち去られたもの。鞆の中には大学が貸与したパソコンが入っており、事務局や現地警察に盗難を届けたが見つからない。

紛失したパソコンには、同教授が担当する 3 科目の講義を過去 3 年間に履修した学生、および卒業生約 400 人の氏名と点数、さらに国内外の大学、研究所、企業の研究者約 300 人の氏名と連絡先、送受信メールなどの個人情報が保存されていた。パソコンのハードディスクは暗号化を行っていたという。

同大学では今回の盗難を受け、対象となる学生や卒業生、研究者に対し、書面で状況を報告、謝罪する。

2014/08/27

出張先の海外で個人情報含むノート PC が盗難被害 - 東大

東京大学大学院の教員が、海外出張中に盗難被害に遭い、関係者の個人情報が保存されたノートパソコンを盗まれたことがわかった。

同大学院教育学研究科の教員が、出張先の海外でノートパソコンを入れた鞆ごと何者かに持ち去られた。盗まれたパソコンには、関係者の氏名やメールアドレスなどの個人情報が保存されていた。

同大によれば、今回の盗難と関連した個人情報の不正利用などは確認されていないという。

2014/08/12

教員免許更新講習システムに不具合、受講者情報が閲覧可能に - 放送大学

放送大学学園の教員免許更新講習システムにおいて、受講者の個人情報がほかの受講者から一時閲覧できる状態だったことがわかった。

教員免許更新講習システムの設定にミスがあり、本来アクセスできない個人情報が閲覧可能となったもの。閲覧可能となったのは、同システムに登録されている受講者の氏名とメールアドレス。

閲覧可能だった 7 月 14 日から 8 月 6 日までで 78 件の情報閲覧が確認されたという。8 月 6 日に受講者からの指摘を受け、問題が判明した。同大では、システムの設定変更を実施。設定の変更後、問題は解消されたという。

2014/07/15

教員が置き引き被害、学生の個人情報含む USB メモリを紛失 - 大阪市立大

大阪市立大学の教員が、帰宅途中に路上で置き引き被害に遭い、学生の個人情報含む USB メモリ 2 個などが盗まれていたことがわかった。

同大学の発表によれば、7 月 8 日 2 時過ぎごろ、工学研究科の准教授が置き引きに遭い、鞆がなくなったもの。

懇親会の終了後の 1 時 30 分ごろ、帰宅途中で、一緒に帰宅に向かっていた大学院生の気分が悪くなり、路上で介抱していたところ、その間に鞆を持ち去られたという。院生の回復を待って警察へ届け出た。

被害に遭った鞆にはノート PC や USB メモリ 3 個が入っていたが、そのうち 1 個の USB メモリに卒業生 111 人の氏名、住所、在学時の学籍番号を保存していた。パスワードは設定されているという。また別の 1 個には、在校生および卒業生 284 人の氏名、学籍番号、レポートの提出状況、試験の成績が含まれていた。

パスワードなどセキュリティ対策は講じていなかった。

同大学では、対象となる在校生と卒業生に対し、口頭や文書による説明と謝罪を進める。また情報媒体の持ち出しルールの徹底や、不必要な個人情報の削除を実施し、再発防止を目指す。

2014/07/10

誤送信で学生ボランティアのメールアドレス流出、同様事故過去にも - 北海道

北海道教育庁においてメール誤送信が発生し、学生ボランティア 73 人のメールアドレスが流出したことがわかった。

オホーツク教育局の担当者が、「学校サポーター派遣事業」の学生ボランティアバンクに登録している学生ボランティア 73 人に対し、研修会の案内メールを送信。その際、担当者の操作ミスにより送信先の全アドレスを表示した状態で送られたという。

また、今回の誤送信を受けて過去のメールについて確認したところ、2013 年度までの間に学生ボランティアに登録した 79 人についても、同様の誤送信でアドレスを流出した可能性が判明した。今後は、複数の職員による宛先確認を徹底するとしている。

2014/06/23

患者情報保存した USB メモリが所在不明 - 東京女子医科大

東京女子医科大学東医療センターにおいて、123 人分の患者情報を保存していた USB メモリが所在不明となっている。

同センターによれば、問題の USB メモリには、2009 年から 2012 年までに同センターへ入院した患者の氏名や ID、検査データなど 103 人分のほか、2007 年から 2012 年までの患者 20 人に関する氏名、ID、病名などが記載されていた。

今回の紛失は、5 月 19 日に判明したもので、同センターではその後も探索を続けているという。個人情報の不正利用などは確認されていない。

2014/06/13

奨学金支給対象者の個人情報や口座情報含むファイルを誤送信 - 横浜市立大

横浜市立大学が日本学生支援機構奨学金の申請者 181 人にメール送信した際、誤って支給対象者 172 人の個人情報含むファイルを添付していたことがわかった。

同大学によれば、6 月 9 日 15 時 45 分ごろ、職員が日本学生支援機構奨学金の申請者 181 人に対して、学生専用のポータルサイトを通じてメールを送信。本来は学籍番号のみ記載した PDF ファイルを添付するはずが、誤って 6 月から奨学金の支給が開始される 172 人分の個人情報含むエクセルファイルを添付、送信したという。

ファイルには、学生の氏名や生年月日、学年、学籍番号、奨学生番号のほか、振込先の金融機関名や口座番号、奨学金貸与月額、入学時特別増額貸与額、保証料月額などが記載されていた。同日 17 時 15 分ごろ、メールを受信した学生から連絡があり判明したもので、19 時 10 分に誤送信先の 181 人へメールで謝罪し、添付ファイルの削除を要請。また対象学生の保証人に対し、経緯説明と謝罪を行った。

本来送付するはずだったファイルと誤送信したファイルは、いずれも同じファイル名で、送信前に添付ファイルの内容を確認せずに送ったのが原因だったとし、同大では、再発防止策として、職員間におけるチェックの強化など対策を講じていく。

2014/06/16

学生や卒業生の個人情報含む HDD が盗難 - 大阪府立大工業高専

大阪府立大学工業高等専門学校において、教員が研究室で使用する外付けハードディスクが盗難に遭ったことがわかった。学生の個人情報が記録されていたという。

同大によれば、教員が 6 月 6 日 15 時ごろ、研究室のパソコンへハードディスクを接続した状態で部屋を離れ、17 時 30 分ごろ研究室に戻ったところ、ハードディスクがなくなっていることに気付いたという。パソコンの画面上には、ハードディスクを不適切に接続解除したことを示す警告画面が残っていた。

盗まれたハードディスクには、同教員が 1999 年以降に担当した科目に関する学生の氏名と成績のべ 4835 人分のほか、2008 年度および 2011 から 2014 年度の同校在学生のべ 4028 人分の氏名と集合写真、同教員が担当した体験入学への参加者のべ 211 人の氏名と住所、同教員と交流のある学外の研究者のべ 476 人の氏名と住所など、個人情報が保存されていた。

同大では、10 日に警察へ盗難届を提出。対象となる卒業生や学外の関係者には説明と謝罪の文書を送付するほか、在校生に対し、校内掲示板やホームページを通じて謝罪している。

2014/05/12

患者の個人情報含む USB メモリを医師が紛失 - 東京医科歯科大病院

東京医科歯科大学医学部付属病院の医師が、患者の個人情報が保存された USB メモリを紛失していたことがわかった。

紛失が発生した東京医科歯科大学 4 月 26 日 9 時ごろ、同医師が JR 武蔵野線の車内に USB メモリ 2 本が入った鞆を置き忘れたもので、紛失した USB メモリには、あわせて患者 225 人分の手術症例リストや画像データが保存されていた。

保存されていた患者情報のうち、「氏名」「ID」「年齢」「性別」など 215 人分の症例リストについては、パスワードで保護されていたが、患者 16 人分のデータについては、氏名、生年月日、画像データ、所見など含まれるものの、パスワードが設定されていなかった。

一部重複しているため、対象となる患者は 225 人で、同大学では、文書による謝罪を行っている。個人情報の不正利用は確認されていない。

2014/05/09

アカウント登録の作業ファイルが外部よりアクセス可能に - 大阪工業大学

大阪工業大学は、大学内において新システム導入する際、アカウント情報の登録に利用した一部作業ファイルが外部へ流出したことを明らかにした。

外部からアクセス可能となっていたのは、アカウント登録に用いたファイルで、学生や教職員の個人情報が含まれるという。また一時検索サイト上にも登録されていた。

同大は、今回の問題についてシステム導入業者の認識不足や作業ミスが重なったことが原因と説明。管理体制の強化を実施し、再発防止に努めたいとしている。

2014/05/07

個人情報含む USB メモリが所在不明に - 広島市立大

広島市立大学は、学生や教員など 58 人の個人情報が保存された USB メモリが所在不明になっていることを公表した。

同大学の保健管理室において USB メモリが所在不明となったもの。3 月下旬まで事務機の引き出しに保管されていたが、4 月 18 日に紛失が判明。警察へ紛失届を提出した。紛失時期については特定できないという。

保健管理室へ相談に訪れた学生や教員など 58 人の氏名や性別、学部、学籍番号、相談区分などが記録されていた。対象となる学生および教員には、謝罪の文書を送付している。

2014/04/27

ハードディスクに保存した個人情報インターネットで閲覧可能に - 千葉大

千葉大学は、教授が持ち帰ったハードディスクに保存されていた学生の個人情報が、インターネット経由で一時的に閲覧できる状態だったことを明らかにした。

同大教授が、大学からネットワーク接続に対応したハードディスクを自宅に持ち帰り、使用していたところ、セキュリティ設定に問題があり、インターネット経由でアクセス可能な状態だったという。

ハードディスクに保存されていた個人情報は、在校生および他大学の学生などあわせて約 4 万 7000 人分にのぼると見られ、検索エンジンなどにも登録されていた。

同大学では、情報流出の判明後、ハードディスクの設定を変更。検索サイトに情報の削除を要請するなど対応を行っている。

2014/04/01

休退学者の個人情報ファイルを学生 1824 人に誤送信 - 明治薬科大

明治薬科大学は、学生 1824 人に誤って学生 20 人分の休学・退学情報をメールに添付し送信していたことを明らかにした。

3 月 11 日 18 時、同大学の学生支援部学生支援課が「サークル棟・体育館の清掃」に関する案内メールを、薬学科の学生 1603 人、生命創薬科学科の学生 221 人に送信。その際、担当者の確認不足により、学生 20 人の休退学情報が添付ファイルとして送信されたという。

同日中に送信先の学生に連絡し、添付ファイルの削除を依頼した。また情報が流出した学生には、電話または文書で謝罪を行ったとしている。